

平成 30 年 度

学 習 要 項

修 士 課 程

医科学専攻

看護学専攻

佐賀大学大学院医学系研究科

佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します

魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

修士課程学習要項 目 次

医 科 学 専 攻

〈頁〉

i ～ ii	医科学専攻授業科目開設表
iii	平成30年度大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目） 開講予定表
iv	医科学専攻のカリキュラムマップ
v	医科学専攻履修モデル

I 医科学専攻の理念，目的・目標，教育方針

〈頁〉

1 ～ 4

II 履修案内

〈頁〉

5	履修について
6	講義・演習・実習等について 成績評価について
7	研究計画と学位論文の審査について
9	オフィスアワーについて 諸規程について その他，留意事項
10	研究指導計画書（研究実施経過報告書）
11～12	研究指導計画書（研究実施経過報告書）【記載例】
13	コースナンバリングについて

Ⅲ 授業科目の学習指針等（シラバス）

共通必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
16	人体構造機能学概論	2	前 水曜 1・2	倉岡 晃夫
19	病因病態学概論	2	後 火曜 1・2	吉田 裕樹
23	社会・予防医学概論	2	前 木曜 1・2	田中恵太郎
27	生命科学倫理概論	1	後 月曜 5	坂本麻衣子

系必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
29	分子生命科学概論	2	前 集中	出原 賢治
31	臨床医学概論	2	前 木曜・金曜 4	松尾 宗明
33	総合ケア科学概論	2	前 集中	堀川 悦夫
35	臨床腫瘍学概論	2	前 集中	小島 研介
36	各コース研究法	2	通年	各指導教員
37	各コース研究実習	8	通年	各指導教員

専門選択科目Ⅰ

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
38	人体構造実習	1	前 木曜 3・4	倉岡 晃夫
40	病院実習	1	前 金曜 1・2	山下 秀一
42	医用統計学特論	1	前 水曜・木曜 3・4	川口 淳
44	医用情報処理特論	1	前 月曜 2・3	富永 広貴

46	実験動物学特論	1	前	月曜	1	北嶋 修司
48	実験・検査機器特論	1				未 定
	(平成30年度未開講)					
50	バイオテクノロジー特論	1		通年		副島 英伸
52	解剖学特論	1	後	月曜	1	倉岡 晃夫
54	生理学特論	1	前	木曜	1・2	藤田 亜美
56	分子生化学特論	1	後	集中		出原 賢治
58	微生物学・免疫学特論	1	前	集中		吉田 裕樹
60	薬物作用学特論	1	後	月曜	2	野出 孝一
61	病理学特論	1	後	集中		戸田 修二
63	法医学特論	1	前	月曜	4	小山 宏義
65	環境・衛生・疫学特論	1	前	火曜	4	市場 正良
67	精神・心理学特論	1	後	木曜	2	門司 晃
69	遺伝子医学特論	1	後	集中		副島 英伸
71	周産期医学特論	1	後	月曜	4	松尾 宗明
73	障害者・高齢者支援にみる差別と 偏見 (平成 30 年度未開講)	1				小田 康友
74	高齢者・障害者の生活環境 (道具と住宅) 特論	1	前	水曜	3	松尾 清美
76	リハビリテーション医学特論	1	前	月曜	4	浅見 豊子
78	健康スポーツ医学特論	1	前	集中		田中恵太郎
80	緩和ケア特論 (平成 30 年度未開講)	1				未 定
81	心理学的社会生活行動支援特論	1	前	集中		堀川 悦夫
83	高齢者・障害者生活支援特論	1	前	月曜	3	松尾 清美
85	対人支援技術特論Ⅰ (平成 30 年度未開講)	1				小田 康友
86	対人支援技術特論Ⅱ (平成 30 年度未開講)	1				坂本麻衣子
87	地域医療科学特論	1	前	火曜	4	杉岡 隆
89	アカデミックリーディング	1	後	木曜	3・4	高野 吾朗
91	臨床腫瘍学	1	前	集中		小島 研介

専門選択科目Ⅱ

(統合的地域がん医療人育成コース 必修科目)

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
93	臨床腫瘍治療実習Ⅰ	1	通年	小島 研介
	臨床腫瘍治療実習Ⅱ	1	通年	小島 研介
	臨床腫瘍治療実習Ⅲ	1	通年	小島 研介
	臨床腫瘍治療実習Ⅳ	1	通年	小島 研介
	臨床腫瘍治療実習Ⅴ	1	通年	小島 研介
	臨床腫瘍治療実習Ⅵ	1	通年	小島 研介
	がんゲノム医療実習	3	通年	小島 研介
	小児・希少がん医療講義	3	通年	小島 研介
	ライフステージに応じた医療	3	通年	小島 研介

各科目教科主任の連絡先

〈教科主任〉 〈メールアドレス〉 電話番号(内線番号)
(外線からは頭に34をつける)

田中恵太郎	tanakake@cc.saga-u.ac.jp	2280
市場 正良	ichiba@cc.saga-u.ac.jp	2283
杉岡 隆	sugioka@cc.saga-u.ac.jp	3565
出原 賢治	kizuhara@cc.saga-u.ac.jp	2261
堀川 悦夫	ethori@cc.saga-u.ac.jp	2141
倉岡 晃夫	kura@cc.saga-u.ac.jp	2220
山下 秀一	syama@cc.saga-u.ac.jp	2390
北嶋 修司	kitajims@cc.saga-u.ac.jp	2430
副島 英伸	soejimah@cc.saga-u.ac.jp	2260
戸田 修二	todas@cc.saga-u.ac.jp	2233

小山 宏義	koyama@cc.saga-u.ac.jp	2242
吉田 裕樹	yoshidah@cc.saga-u.ac.jp	2290
松尾 宗明	matsuo@cc.saga-u.ac.jp	2311
松尾 清美	matsuoki@cc.saga-u.ac.jp	2187
浅見 豊子	asamit@cc.saga-u.ac.jp	3630
高野 吾朗	takanog@cc.saga-u.ac.jp	2185
川口 淳	akawa@cc.saga-u.ac.jp	2202
小田 康友	oday@cc.saga-u.ac.jp	2247
門司 晃	amonji@cc.saga-u.ac.jp	2300
野出 孝一	node@cc.saga-u.ac.jp	2354
小島 研介	kkojima@cc.saga-u.ac.jp	3571
富永 広貴	hirotaka@cc.saga-u.ac.jp	2193
坂本麻衣子	masaka@cc.saga-u.ac.jp	2204
藤田 亜美	fujitat@cc.saga-u.ac.jp	2276

看護学専攻

〈頁〉

- i 看護学専攻授業科目開設表【研究・教育者コース】
- ii 看護学専攻授業科目開設表【専門看護師コース】
- iii 平成30年度大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目）
開講予定表
- iv 看護学専攻のカリキュラムマップ

I 看護学専攻の理念，目的・目標，教育方針

〈頁〉

99～101

II 履修案内

〈頁〉

- 102 履修について
- 103 講義・演習・実習等について
成績評価について
- 104 研究計画と学位論文の審査について（研究・教育者コース）
- 106 課題研究の審査について（専門看護師コース）
- 107 オフィスアワーについて
諸規程について
その他，留意事項
- 109 研究指導計画書（研究実施経過報告書）【記載例】
- 113 コースナンバリングについて

Ⅲ 授業科目の学習指針等（シラバス）

〈研究・教育者コース〉

必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
116	看護学研究法演習	2	通年	各指導教員
118	看護学特別研究	12	通年	各指導教員

共通選択必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
119	看護理論	2	前 月曜 1・2	長家 智子
121	看護倫理	2	後 火曜 3～5	藤野 成美
124	看護研究概論	2	前 木曜 2～4	佐藤 珠美
126	看護教育論	2	後 月曜 1・2	長家 智子
128	看護管理	2	後 木曜 1・2	村田 尚恵
130	コンサルテーション論	2	前 月曜 2～5	中野 理佳

専門選択必修科目Ⅰ

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
132	看護援助学特論	1	後 月曜 1・2	長家 智子
134	看護機能形態学特論	1	後 金曜 3・4	河野 史
136	急性期看護学特論 (平成30年度未開講)	1		古賀 明美
138	慢性看護論	2	前 火曜 1・2	田渕 康子
140	母性看護学特論	1	前 木曜 4・5	佐藤 珠美
142	小児看護学特論	1	前 木曜 4・5	鈴木智恵子
143	母子看護展開論	1	前 集中	佐藤 珠美
145	老年看護学特論	1	後 火曜 3・4	田渕 康子
147	地域看護学特論	1	後 月曜 3・4	有吉 浩美
149	在宅看護学特論	1	後 月曜 3・4	福山 由美
151	国際看護学特論	1	前 集中	新地 浩一
153	精神看護学特論	1	後 木曜 3・4	藤野 成美
154	看護統計学演習	1	前 金曜 3・4	川口 淳
156	看護教育方法論	1	前 月曜 1・2	村田 尚恵
157	がん看護学特論	1	前 火曜 3	熊谷 有記
159	生体構造観察法	2	通年	河野 史
160	実践課題実習	2	通年	各指導教員

< 専門看護師コース > 【慢性看護】

必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
117	課題研究	4	通年	各指導教員

共通選択必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
119	看護理論	2	前 月曜 1・2	長家 智子
121	看護倫理	2	後 火曜 3～5	藤野 成美
124	看護研究概論	2	前 木曜 2～4	佐藤 珠美
126	看護教育論	2	後 月曜 1・2	長家 智子
128	看護管理	2	後 木曜 1・2	村田 尚恵
130	コンサルテーション論	2	前 月曜 2～5	中野 理佳

専門選択必修科目 I

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
132	看護援助学特論	1	後 月曜 1・2	長家 智子
134	看護機能形態学特論	1	後 金曜 3・4	河野 史
136	急性期看護学特論 (平成30年度未開講)	1		古賀 明美
138	慢性看護論	2	前 火曜 1・2	田渕 康子
140	母性看護学特論	1	前 木曜 4・5	佐藤 珠美
142	小児看護学特論	1	前 木曜 4・5	鈴木智恵子
143	母子看護展開論	1	前 集中	佐藤 珠美
145	老年看護学特論	1	後 火曜 3・4	田渕 康子
147	地域看護学特論	1	後 月曜 3・4	有吉 浩美
149	在宅看護学特論	1	後 月曜 3・4	福山 由美
151	国際看護学特論	1	前 集中	新地 浩一
153	精神看護学特論	1	後 木曜 3・4	藤野 成美
154	看護統計学演習	1	前 金曜 3・4	川口 淳
156	看護教育方法論	1	前 月曜 1・2	村田 尚恵
157	がん看護学特論	1	前 火曜 3	熊谷 有記
159	生体構造観察法	2	通年	河野 史
160	実践課題実習	2	通年	各指導教員

専門選択必修科目Ⅱ 分野専門科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
161	慢性看護対象論	2	前 火曜 3・4	古賀 明美
163	慢性看護方法論Ⅰ	1	前 火曜 1	熊谷 有記
165	慢性看護方法論Ⅱ	1	前 火曜 2	田渕 康子
167	慢性看護展開論	2	前 木曜 1・2	古賀 明美
169	慢性看護援助論Ⅰ	2	後 火曜 1・2	田渕 康子
171	慢性看護援助論Ⅱ	2	後 火曜 1・2	古賀 明美

分野実習科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
173	慢性看護学実習Ⅰ	2	通年	古賀 明美
174	慢性看護学実習Ⅱ	2	通年	古賀 明美

各 科 目 教 科 主 任 の 連 絡 先 *****

〈教科主任〉	〈メールアドレス〉	電話番号(内線番号) (外線からは頭に34をつける)
河野 史	kawanoh@cc.saga-u.ac.jp	2531
長家 智子	tomoshs@cc.saga-u.ac.jp	2532
有吉 浩美	ariyoshi@cc.saga-u.ac.jp	2563
新地 浩一	shinchik@cc.saga-u.ac.jp	2564
佐藤 珠美	tsatoh@cc.saga-u.ac.jp	2550
藤野 成美	fujinon@cc.saga-u.ac.jp	2560
田渕 康子	ytabuchi@cc.saga-u.ac.jp	2543
古賀 明美	kogaake@cc.saga-u.ac.jp	2561
鈴木智恵子	chiekosu@cc.saga-u.ac.jp	2555
村田 尚恵	murana@cc.saga-u.ac.jp	2533
熊谷 有記	kumagaiy@cc.saga-u.ac.jp	2544
福山 由美	yumifuku@cc.saga-u.ac.jp	2562
中野 理佳	nakanor@cc.saga-u.ac.jp	2552

IV 講座等研究室概要(基礎医学系)

〈頁〉

分子生命科学講座

175 分子遺伝学・エピジェネティクス分野

176 分子医化学分野

177 細胞生物学分野

178 免疫学分野

生体構造機能学講座

179 解剖学・人類学分野

180 組織・神経解剖学分野

181 器官・細胞生理学分野

182 神経生理学分野

183 薬理学分野

病因病態科学講座

184 臨床病態病理学分野

185 診断病理学分野

186 微生物学分野

社会医学講座

187 環境医学分野

188 予防医学分野

地域包括医療教育部門

189 認知神経心理学分野

190 健康行動学分野

191 医療教育学分野

192 生物統計学・生物情報学分野

193 医用統計物理学分野

V 講座等研究室概要(臨床医学系)

〈頁〉

- 194 内科学講座 膠原病・リウマチ内科学分野
- 195 内科学講座 呼吸器内科学分野
- 196 内科学講座 神経内科学分野
- 197 内科学講座 血液・腫瘍内科学分野
- 198 内科学講座 皮膚科学分野
- 199 内科学講座 消化器内科学分野
- 200 内科学講座 肝臓・糖尿病・内分泌内科分野
- 201 内科学講座 循環器内科学分野
- 202 内科学講座 腎臓内科学分野
- 203 一般・消化器外科学講座
- 204 泌尿器科学講座
- 205 脳神経外科学講座
- 206 胸部・心臓血管外科学講座
- 207 整形外科学講座
- 209 形成外科
- 210 リハビリテーション科
- 211 放射線医学講座
- 212 精神医学講座
- 213 産科婦人科学講座
- 214 小児科学講座
- 215 眼科学講座
- 217 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座
- 219 歯科口腔外科学講座
- 220 麻酔・蘇生学講座
- 222 救急医学講座・先進外傷医療学講座（寄附講座）
- 223 国際医療学講座 国際医療・臨床感染症学分野

附属病院・施設等

- 224 総合分析実験センター 生物資源開発部門（実験動物学，発生工学分野）
- 225 総合診療部・地域医療支援学講座（寄附講座）

VI 講座等研究室概要（看護学専攻）

〈頁〉

統合基礎看護学講座

227 看護機能形態学領域，基礎看護学領域

228 国際保健看護学領域，精神看護学領域，在宅看護学領域，臨床心理学領域

生涯発達看護学講座

229 急性期看護学領域，慢性期看護学領域，老年看護学領域

230 母性看護学・助産学分野

231 小児看護学領域

232 公衆衛生看護学領域

VII 佐賀大学医学部建物配置図

234 院生棟，臨床研究棟，基礎研究棟平面図

239 看護学科棟平面図

242 講義棟平面図

244 臨床講堂平面図

245 附属図書館医学分館平面図

医科学専攻

医科学専攻 授業科目開設表

区 分	授 業 科 目	開講 時期	必修選択 の 区 分	授 業 を 行 う 年 次	単 位 数			備 考
					講 義	演 習	実 習	
必修 科目 通	人体構造機能学概論	前	必修	1	2			7 単位を修得すること。
	病因病態学概論	後	必修	1	2			
	社会・予防医学概論	前	必修	1	2			
	生命科学倫理概論	後	必修	1	1			
系 必修 科目	基礎生命科学 系コース	分子生命科学概論	前	必修	1	2		いずれか1つの系区分12単位を修得すること。 (ただし、統合的地域がん医療人育成コースについては、「がん地域医療系コース」を修得すること。) ※修士論文研究指導を通じて履修する。
		基礎生命科学研究法※		必修	1～2	2		
		基礎生命科学研究実習※		必修	1～2		8	
	医療科学系 コース	臨床医学概論	前	必修	1	2		
		医療科学研究法※		必修	1～2		2	
		医療科学研究実習※		必修	1～2		8	
	総合ケア科学 系コース	総合ケア科学概論	前	必修	1	2		
		総合ケア科学研究法※		必修	1～2		2	
		総合ケア科学研究実習※		必修	1～2		8	
	がん地域医療 系コース	臨床腫瘍学概論	前	必修	1	2		
		がん地域医療研究法※		必修	1～2		2	
		がん地域医療研究実習※		必修	1～2		8	
必修 科目 選択	大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目) *注	通年	選択必修	1・2	*注			2 単位以上を修得すること。
専 門 選 択 科 目 I	人体構造実習	前	選択	1・2			1	9 単位以上をコースワークに沿って選択修得すること。(ただし、統合的地域がん医療人育成コースについては、「医用統計学特論」「臨床腫瘍学」を含め3 単位以上を修得すること。)
	病院実習	前	選択	1・2			1	
	医用統計学特論	前	選択	1・2	1			
	医用情報処理特論	前	選択	1・2	1			
	実験動物学特論	前	選択	1・2	1			
	実験・検査機器特論	前	選択	1・2	1			
	バイオテクノロジー特論	通年	選択	1・2	1			
	解剖学特論	後	選択	1・2	1			
	生理学特論	前	選択	1・2	1			
	分子生化学特論	後	選択	1・2	1			
	微生物学・免疫学特論	前	選択	1・2	1			
	薬物作用学特論	後	選択	1・2	1			
	病理学特論	後	選択	1・2	1			
	法医学特論	前	選択	1・2	1			
	環境・衛生・疫学特論	前	選択	1・2	1			
	精神・心理学特論	後	選択	1・2	1			
	遺伝子医学特論	後	選択	1・2	1			

	周産期医学特論	後	選択	1・2	1			
	障害者・高齢者支援にみる差別と偏見	後	選択	1・2	1			
	高齢者・障害者の生活環境（道具と住宅）特論	前	選択	1・2	1			
	リハビリテーション医学特論	前	選択	1・2	1			
	健康スポーツ医学特論	前	選択	1・2	1			
	緩和ケア特論	前	選択	1・2	1			
	心理学的社会生活行動支援特論	前	選択	1・2	1			
	高齢者・障害者生活支援特論	前	選択	1・2	1			
	対人支援技術特論Ⅰ	後	選択	1・2	1			
	対人支援技術特論Ⅱ	後	選択	1・2	1			
	地域医療科学特論	前	選択	1・2	1			
	アカデミックリーディング	後	選択	1・2	1			
	臨床腫瘍学	前	選択	1・2	1			
専門選択科目Ⅱ (統合的地域がん医療人育成コース選択必修科目) ※	臨床腫瘍治療実習Ⅰ	通	選択	1・2			1	統合的地域がん医療人育成コースについては、全6単位を修得すること。
	臨床腫瘍治療実習Ⅱ	通	選択	1・2			1	
	臨床腫瘍治療実習Ⅲ	通	選択	1・2			1	
	臨床腫瘍治療実習Ⅳ	通	選択	1・2			1	
	臨床腫瘍治療実習Ⅴ	通	選択	1・2			1	
	臨床腫瘍治療実習Ⅵ	通	選択	1・2			1	
	がんゲノム医療実習	通	選択	1・2			3	統合的地域がん医療人育成コースについては、3単位を修得すること。
	小児・希少がん医療講義	通	選択	1・2			3	
	ライフステージに応じた医療	通	選択	1・2			3	

必修科目を含め合計30単位以上を修得すること。

統合的地域がん医療人育成コースは、合計33単位以上を修得すること。

*注 大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目）については、iii頁の開講予定表を参照すること。

平成30年度大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目）開講予定表

科 目 名	単位数	詳 細 等
研究・職業倫理特論	1 単位	平成30年度入学者履修科目 ※学期の始めに配付する大学院教養教育 プログラム履修希望調査票により申込むこと (左記科目より2単位以上を修得すること)
情報セキュリティ特論	1 単位	
データサイエンス特論	1 単位	
学術英語特論	1 単位	
ダイバーシティ・人権教育特論	1 単位	
キャリアデザイン特論	1 単位	
多文化共生理解	1 単位	
日本語・日本文化理解 *注	2 単位	
数値計算法特論	4 単位	平成29年度以前入学者履修科目 ※学期の始めに配付する研究科間共通 科目履修希望調査票により申込むこと
産学連携特論	2 単位	
ビジネスマネジメント特論	2 単位	

*注 留学生対象科目

※ 集中講義については、後日、メールにて日程をお知らせします。

※「数値計算法特論」は通年扱い科目なので、成績が出るのは後期になります。

※ 授業科目の内容をご覧になる場合は、

佐賀大学ホームページ (<http://www.saga-u.ac.jp/>) の上の「在学生の方へ」をクリック

↓

一番左の列「シラバス」をクリック

↓

「オンラインシラバス」をクリック

↓

「科目名」に授業科目名を入力して検索をクリック

↓

いくつか表示されるが、「タイトル」が「2018年度」の行の「和」をクリックして、内容を確認する。

医科学専攻のカリキュラムマップ

学位授与の方針		授業科目名			
		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
1	(1)	人体構造機能学概論	病因病態学概論		
		社会・予防医学概論			
		分子生命科学概論 臨床医学概論 総合ケア科学概論 臨床腫瘍学概論			
2	(1)	基礎生命科学研究法 医療科学研究法 総合ケア科学研究法 がん地域医療研究法			
		基礎生命科学研究実習 医療科学研究実習 総合ケア科学研究実習 がん地域医療研究実習			
3	(1)	医用統計学特論	生命科学倫理学概論		
		医用情報処理特論			
	(2)	大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目)	大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目)	大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目)	大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目)
		専門選択科目Ⅰ	専門選択科目Ⅰ	専門選択科目Ⅰ	専門選択科目Ⅰ
標準修得 単位数		11	6	3	12

医科学専攻 履修モデル

区分	基礎生命科学系 コース	医療科学系 コース	総合ケア科学系 コース	がん地域医療系 コース	単位数	必修選択 (履修年次)	備考
共通必修科目	人体構造機能学概論	人体構造機能学概論	人体構造機能学概論	人体構造機能学概論	2	必修(1)	7単位を修得
	病因病態学概論	病因病態学概論	病因病態学概論	病因病態学概論	2	必修(1)	
	社会・予防医学概論	社会・予防医学概論	社会・予防医学概論	社会・予防医学概論	2	必修(1)	
	生命科学倫理概論	生命科学倫理概論	生命科学倫理概論	生命科学倫理概論	1	必修(1)	
系必修科目	分子生命科学概論	臨床医学概論	総合ケア科学概論	臨床腫瘍学概論	2	必修(1)	12単位を修得 ※修士論文研究指導を通じて履修
	基礎生命科学研究法※	医療科学研究法※	総合ケア科学研究法※	がん地域医療研究法※	2	必修	
	基礎生命科学研究実習※	医療科学研究実習※	総合ケア科学研究実習※	がん地域医療研究実習※	8	必修	
必修科目	大学院教養教育プログラム(研究科間共通科目)					選択必修	2単位以上を修得
専門選択科目Ⅰ	人体構造実習	人体構造実習			1	選択	9単位以上をコースワークに沿って選択修得(ただし、統合的地域がん医療人育成コースについては、「医用統計学特論」「臨床腫瘍学」を含め3単位以上を修得すること。)
		病院実習	病院実習	臨床腫瘍学	1	選択	
	医用統計学特論	医用統計学特論	医用統計学特論	医用統計学特論	1	選択	
	医用情報処理特論	医用情報処理特論	医用情報処理特論	医用情報処理特論	1	選択	
	実験動物学特論	実験動物学特論			1	選択	
	バイオテクノロジー特論				1	選択	
	解剖学特論				1	選択	
	生理学特論				1	選択	
	分子生化学特論				1	選択	
	微生物学・免疫学特論	微生物学・免疫学特論			1	選択	
	薬物作用学特論	薬物作用学特論			1	選択	
	病理学特論	病理学特論			1	選択	
	遺伝子医学特論	遺伝子医学特論			1	選択	

		周産期医学特論			1	選択	
		法医学特論			1	選択	
		環境・衛生・疫学特論	環境・衛生・疫学特論		1	選択	
		精神・心理学特論	精神・心理学特論		1	選択	
		リハビリテーション 医学特論	リハビリテーション 医学特論	リハビリテーション 医学特論	1	選択	
			健康スポーツ医学特論		1	選択	
			高齢者・障害者生活 支援特論		1	選択	
			高齢者・障害者の生活 環境(道具と住宅)特論		1	選択	
			心理学的社会生活行動 支援特論		1	選択	
		地域医療科学特論	地域医療科学特論		1	選択	
	アカデミックリーディング	アカデミックリーディング	アカデミックリーディング		1	選択	
専 門 選 択 科 目 Ⅱ				臨床腫瘍治療実習 Ⅰ～Ⅵ	6	必修(1)	6単位を 修得
				がんゲノム医療実習	3	選択	3単位を 修得
				小児・希少がん医療 講義	3	選択	
				ライフステージに 応じた医療	3	選択	

I 医科学専攻の理念，目的・目標，教育方針

【医学系研究科の基本理念】

医学系研究科の基本理念「医学・医療の専門分野において，社会の要請に応えうる研究者および高度専門職者を育成し，学術研究を遂行することにより，医学・医療の発展と地域包括医療（地域社会及び各種の医療関係者が連携し，一丸となって実践する医療）の向上に寄与することを目指す」に基づき，次のような目的・目標と方針によって教育研究を行います。

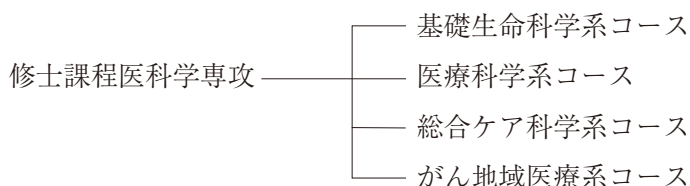
【修士課程医科学専攻の教育目的】

医学部医学科以外の理系・文系4年制大学学部出身の多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れ，医学の基礎およびその応用法を体系的・集中的に修得させることにより，医学，生命科学，ヒューマンケアなど包括医療の諸分野において活躍する多彩な専門家を育成します。

そのために，次のコースを設けます。

各コースとその概要

医学，生命科学，ヒューマンケアなど包括医療の諸分野において活躍する多彩な専門職者を育成するために，次の4つのコースが設定されています。その1つを選択し，それぞれの目的と専門性に応じた履修カリキュラム（コースワーク）を学生ごとに設計し，履修していくことになっています。



〔基礎生命科学系コース〕

生命科学・基礎医学等の領域で研究者・指導者として活躍する人材を育成することを目的とし，そのための幅広い専門的知識と研究に必要な技術や研究遂行能力を修得します。

〔医療科学系コース〕

医療関連の諸分野で活躍する専門職者や研究者を育成することを目的とし，そのための幅広い専門的知識と医療科学研究に必要な技術や研究遂行能力を修得します。

〔総合ケア科学系コース〕

ヒューマンケアなど包括医療のなかで活躍する専門職者や研究者を育成することを目的とし，そのための幅広い専門的知識と技術ならびに研究・実践遂行能力を修得します。

〔がん地域医療系コース〕

地域基幹病院などを中心とする地域がん医療のネットワーク形成にあたり，中核的医師のサポートをする看護師，医療ソーシャルワーカー，理学療法士など医療スタッフを養成します。

【学位授与の方針】

各コースの目的に照らして、学生が身につけるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とします。学位審査は研究科委員会が選出した3人の審査員による学位論文の審査ならびに最終試験によって審議され、研究科委員会の議を経て決定されます。

1. 知識と技術

- (1) 各コースワークに沿った授業科目を履修・修得し、生命科学・医科学研究の遂行に必要な基本的知識・技術や医療科学及び総合ケア科学分野など高度な専門職者に必要な知識・技法を身につけ、研究及び専門分野で活用・発展できる。

2. 研究手法や研究遂行能力

- (1) 各コースの研究法授業及び研究実習や研究・実践活動を通して、研究を行うために必要な研究計画・実験デザインの立案などの研究手法や研究遂行能力を修得し、科学的・論理的思考に基づいて研究を実行することができる。

3. 研究者あるいは高度専門職者としての資質・能力

- (1) 生命科学倫理、科学リテラシー関連等の授業科目や研究室等での研究活動を通して、研究者あるいは高度専門職者に求められる高い倫理観とともに生命科学・包括医療の諸分野でリーダーシップを発揮する資質・能力を身につけている。
- (2) 研究の計画・遂行や論文作成に必要な情報収集ならびに学会・研究会等への参加を通して、日本語や英語を用いたコミュニケーション・スキルを身につけ、研究・活動等の成果の発信など、国内外の研究者あるいは専門職者と専門領域を通じた交流ができる。

【修士課程医科学専攻の教育目標】

教育成果として、次のことを達成目標とします。

1. 高い倫理観と豊かな人間性を育み、包括医療の諸分野でリーダーシップを発揮できる。
2. 医学の基礎とともに志す分野の専門的知識・技術を修得し、それを自らが発展させていく能力を身につける。
3. 科学的・論理的に思考し、問題解決方法のデザインと研究を遂行する能力を身につける。
4. 国内外に対し幅広い視野を持ち、研究・活動等の成果を発信する能力を身につける。

【修士課程医科学専攻の教育方針】

目的・目標の達成に向けて、次の方針のもとに教育の実施、カリキュラムの編成をしています。

1. 共通必修科目で医学の基礎とともに生命科学倫理を学び、医学・医療の分野で必要な基本的な素養と人間性を育てる。
2. 「基礎生命科学系」、「医療科学系」、「総合ケア科学系」、「がん地域医療系」の履修コースにより、それぞれの専門的知識・技術と研究・実践能力の教育を行う。
3. 多彩な専門選択科目により、履修コースに応じた幅広い専門知識を修得させる。
4. 国内外の学会・研究会等に積極的に参加させ、幅広い視野と成果を発信する能力を育てる。

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施します。

1. 教育課程の編成

- (1) 医学の基礎を学ぶ共通の教育科目と、〔基礎生命科学系コース〕、〔医療科学系コース〕、〔総合ケア科学系コース〕、〔がん地域医療系コース〕の目的に応じたコースワーク（履修カリキュラム）を学生ごとに設計することが可能な教育科目を体系的に配置した教育課程を編成する。
- (2) 多様なバックグラウンドを持つ学生に医学の基礎的素養を涵養することを目的とした科目（人体構造機能学概論、病因病態学概論、社会・予防医学概論、生命科学倫理概論）を〔共通必修科目〕として配置する。
- (3) コースの目的に沿って、研究を行うために必要な研究デザインや研究戦略の理論を学ぶ「研究法」と、研究技術や遂行能力を修練する「研究実習」などの科目を、〔系必修科目〕として配置し、研究手法や研究遂行能力の修得を図る。
- (4) 研究者あるいは高度専門職者としての資質・能力を養う科目や専門分野の理解を深め、幅広い知識を修得するための科目（アカデミックリーディング、人体構造実習、医用統計学特論、医用情報処理特論、実験動物学特論、実験・検査機器特論、バイオテクノロジー特論、解剖学特論、生理学特論、分子生化学特論、微生物学・免疫学特論、薬物作用学特論、病理学特論、遺伝子医学特論、病院実習、周産期医学特論、法医学特論、環境・衛生・疫学特論、精神・心理学特論、リハビリテーション医学特論、地域医療科学特論、健康スポーツ医学特論、緩和ケア特論、高齢者・障害者生活支援特論、心理学的社会生活行動支援特論、対人支援技術特論、臨床腫瘍学など）を〔専門選択科目〕として配置し、各コースの目的及び学生のニーズに沿った科目を選択することにより、個々の学生ごとにコースワークを設計する。

2. 教育の実施体制

- (1) 研究指導及び授業科目の教育内容毎に、その専門的分野の教育を行うのに適した専門性を有する教員が、コース区分に囚われずに研究指導および講義・実習等を担当するように、本研究科における研究指導教員及び授業担当教員の適格審査基準に基づき研究指導教員及び研究指導補助教員を配置する。
- (2) 学生ごとに1人の主指導教員、1人以上の副指導教員を置き、個別の学習及び研究指導を行う。
- (3) 各授業科目に教科主任を置き、授業内容に応じて複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保し、授業科目を統括する。
- (4) 各コースにコースチェアパーソンを置き、コース関連授業科目の編成・開講等のコーディネイト、コース所属学生の修業状況の把握や研究論文進捗状況の点検など、当該コースワークを統括する。

3. 教育・指導の方法

- (1) 入学時に指導教員と学生が相談の上、個別の履修計画及び研究指導計画（コースワーク）を策定し、学生のニーズに即した学習及び研究指導を行う。
- (2) 講義による知識の学習と実験・実習による実証的学習や研究グループ内でのグループダイナミクスによる自己学習と問題解決法の獲得などをバランスよく組み合わせて、少人数の対話・討論型教育及び個別指導に重点を置いた教育を行う。
- (3) 国内外の学会・研究会等への参加を研究指導計画に盛り込み、積極的に参加させ、幅広い視野と専門領域における交流能力を育てる。
- (4) 学生ごとに研究指導計画に基づいた研究実施経過報告書を毎年度提出させ、研究指導及びその成果の進捗状況を研究科運営委員会及びコースチェアパーソン等により、組織的に点検する。
- (5) 社会人学生に対しては、教育方法の特例を適用した柔軟な授業形態による履修とともに、授業ビデオやeラーニングを活用した学習など、教育指導の工夫を行う。

4. 成績の評価

- (1) 各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）等により学生に周知し、それに則した厳格な成績評価により秀，優，良，可，不可の判定を行う。
- (2) 「研究法」授業の学習成果については、コースごとに関連教員と全学生が一堂に会した2年次学生の学位論文予備審査会を開催し、研究の進捗状況の確認・助言指導とともに、研究遂行能力の修得状況について評価を行う。
- (3) 学位論文審査は、1) 研究科委員会が選出した3人の審査員による学位論文の審査ならびに最終試験によって行い、2) 公開の論文発表審査会を開催し、3) 最終試験は、学位論文を中心として、これに関連のある科目について口述により行う。その審査（評価）基準は、①本専攻の目的に照らして学術的あるいは社会的に価値を有するものとし、②最終試験の結果は、可または不可で評価し、審査員3人による評定が全て可であることをもって合格とする。

Ⅱ 履修案内

履修について

(1) 履修計画

入学後1週間以内に、修士課程2年間の履修計画を立てる必要があります。計画にあたっては、研究指導教員の助言の下に、各自の希望する進路および修学目的に適合した履修コースを決め、それに基づいて各自の学習目標や研究テーマ等に即した履修計画を立ててください。

修士課程2年間の履修計画は「履修届」として、学生課大学院教育担当に提出してください。

(2) 授業科目

授業科目は、「共通必修科目」、「系必修科目」、「共通選択必修科目」および「専門選択科目」から成り、次の区分で構成されています。

[共通必修科目]: 医科学の基本的教育を行い、基礎的素養を涵養することを目的とした科目群で、全てのコースで必修。

[系必修科目]: 希望するコースを学び研究を行う上で必要な科目で、これに含まれている系別「研究法」および「研究実習」では、研究を行うために必要な研究デザイン（課題の抽出・設定、仮説・立証計略の立案、方策・方法の考案、手順・計画設計など）の理論と研究実践の技術等を学ぶ。

[共通選択必修科目]: 大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目）で、2単位以上を修得する。

[専門選択科目]: コースおよび各自の目的に沿って専門分野の理解を深め、あるいは幅広い知識を修得するための科目群で、9科目以上を選択履修する。

(3) 修了要件

修士課程を修了するためには、2年以上在学し、下記の所要科目30単位以上を修得し、修士論文又は特定の課題についての研究の成果（以下「学位論文」という。）の審査に合格することが必要です。

共通必修科目:	4科目, 7単位
系必修科目:	「研究法」および「研究実習」を含む3科目, 12単位
共通選択必修科目:	大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目）から2単位以上
専門選択科目:	コースワークに沿って36科目から9科目, 9単位以上
合 計:	30単位以上

(4) 履修届, 履修科目変更届, 再履修届

授業科目の履修にあたっては、原則として「医科学専攻授業科目開設表」の年次および学期別区分にしたがって履修します。

- ・当該年次の共通必修科目の履修にあたっては履修届を提出する必要はありません。
- ・系必修科目および専門選択科目の履修にあたっては、入学後1週間以内に、「履修届」を学生課大学院教育担当に提出してください。
- ・履修届の提出期限後に、履修科目の変更（追加又は取消）をする場合には、「履修科目変更届」を

学生課大学院教育担当に提出してください。

- ・当該年次以後に再履修を必要とする場合には、次年度開始から1週間以内に、「再履修届」を学生課大学院教育担当に提出してください。

講義・演習・実習等について

(1) 授業時間

講義・演習・実習等の時間は1コマ90分で行います。

- ・ 1コマ目 8：50～10：20
- ・ 2コマ目 10：30～12：00
- ・ 3コマ目 13：00～14：30
- ・ 4コマ目 14：40～16：10
- ・ 5コマ目 16：20～17：50
- ・ 6コマ目 18：00～19：30

講義・演習・実習の日程は、授業日程表により実施しますが、変更することがあります。メールあるいは教員の指示に注意してください。

なお、社会人学生で、授業日程表による授業を受けられない場合は、各教科主任と相談の上、別途に履修時間・方法を定めてください。

(2) 講義・実習室

- ・ 講義は主に基礎・臨床研究棟中間部4階の大学院講義室1で行いますが、講義内容によっては教員の研究室で行うこともあります。
- ・ 実習は、内容により実習場所が異なります。集合場所については、メールでの連絡あるいは教員の指示に注意してください。
- ・ 講義室・実習室等の場所については、建物配置図を参照してください。
- ・ 諸事情により、授業を欠席する場合は、事前に担当教員に連絡をしてください。

成績評価について

授業科目の成績評価は、記述試験、口答試験、レポート、その他担当教員が必要と認めた方法により、秀、優、良、可と不可の判定により行い、秀、優、良、可を合格とし、その授業科目の単位が与えられます。（個人の成績評価の結果については、Live Campusでの閲覧が可能です。）

試験の成績評価は、次の基準により行います。

- | | |
|----|----------|
| 秀 | 100点～90点 |
| 優 | 89点～80点 |
| 良 | 79点～70点 |
| 可 | 69点～60点 |
| 不可 | 59点以下 |

(1) 本 試 験

試験は、授業科目の担当教員が必要と認めたときに適宜実施します。方法は、記述あるいは口答試験により行いますが、授業科目によっては、レポートあるいはその他の方法を試験に代えることがありますので、各授業担当教員の指示に従ってください。

(2) 追 試 験

追試験は、傷病その他やむを得ない理由により本試験を欠席した者で、あらかじめ試験欠席届（医師の診断書又は理由書を添付）を提出し、当該授業科目の担当教員が認めた者に限り受験することができます。

(3) 再 試 験

- ・再試験は、本試験又は追試験の不合格者のうち、あらかじめ再試験受験願を提出し、当該授業科目の担当教員が認めた場合に限り行います。
- ・再試験における合格の評価は「可」とします。ただし、次年度以降に当該授業科目を再履修した場合には、「可」より上位の評価を与えることができます。

研究計画と学位論文の審査について

(1) 研究計画

入学後2週間以内に、修士課程で行う研究の方向性、計画、方針等について指導教員とよく相談のうえ、研究の方向性を示すテーマ（研究課題）と研究計画を自ら設定し、「研究課題届」と「研究指導計画書」を学生課大学院教育担当に提出してください。

(2) 日 程

学位論文の審査までの日程は次のようになっておりますので、これに留意のうえ研究計画を立ててください。（日程は、医学系研究科HPに掲載しています。）

（4月入学3月修了者の例）

1年次の4月中旬：研究課題届と研究指導計画書の提出（学生課大学院教育担当に提出）

2年次の11月上旬：学位論文題目の提出締切（指導教員を経て学生課大学院教育担当に提出）

*学位論文の予備審査会（進捗状況の確認と助言指導等）

1月初旬：学位論文の提出締切（学生課大学院教育担当に提出）

論文提出資格の認定（履修単位の認定）

1月中旬：研究科委員会にて学位論文審査員を決定

2月上旬：公開審査会（論文発表会）、最終試験（口頭試問）

2月中旬：論文概要の提出締切（学生課大学院教育担当に提出）

3月上旬：研究科委員会にて学位授与の判定

3月下旬：学位記授与式

*学位論文の予備審査会は、コースごとに関連教員と学生（全学年）が一堂に会し、2年次学生による論文研究の予備審査発表とそれに対する様々な観点による討論・助言を行うもので、各コース「研究法」の授業ならびに成績評価の一環として行われます。

（*がん地域医療系コースは「医療科学系コース」と合同で行われます。）

(3) 学位論文審査の方法および審査基準

提出資格

- 1) 修士課程に1年以上在学し所定の単位を修得又は修得見込の者で、かつ必要な研究指導を受けた者とする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者については、在学期間が1年未満であっても提出することができる。

方 法

- 1) 学位論文の審査は、研究科委員会が選出した3人の審査員による学位論文の審査ならびに最終試験によって行います。
- 2) 学位論文審査に当たっては公開の論文発表審査会を開催します。
- 3) 最終試験は、学位論文を中心として、これに関連のある科目について口述により行います。

審査基準

- 1) 学位論文は、本専攻の目的に照らして学術的あるいは社会的に価値を有するものとします。
- 2) 最終試験の結果は、可または不可で評価し、審査員3人による評定が全て可であることをもって合格とします。

(4) 学位論文審査手続き

1) 学位申請の書類

修士の学位を申請する場合は、次の書類を提出期限までに学生課大学院教育担当に提出してください。

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 学位申請書 | 1部 |
| 2. 学位論文 | 4部（併せて電子媒体での提出もお願いします。） |
| 3. 論文要旨 | 4部（併せて電子媒体での提出もお願いします。） |
| 4. 参考論文（有る場合） | 4部 |
| 5. 研究指導計画書（完成版） | 1部（併せて電子媒体での提出もお願いします。） |

(5) 修士学位論文作成要領

- 1) 「学位論文」は次の様式により作成してください。

規 格：A4縦置き，横書き，上下左右余白 各25mm
文 字 数：1行40文字，40行程度
フ ォ ン ト：和文 明朝体，11ポイント
英 文：Times，12ポイント
図 表：A4に納まる範囲内で，大きさは指定しません
論 文 の 枚 数：20ページ程度を目安とします
基本的スタイル：以下の項目，順序で作成してください

○論文題名，著者名，所属，指導教員名→表紙に記入する。

・目 次（省略可）

・要 約

・論文が和文の場合には英文要約

○序 論

○方 法

○結 果

○考 察
○結 語
・文 献

(6) 論文概要について

上記○印の内容を図表を含めて4ページ以内にまとめたもの（表紙は不要）を電子媒体にて作成してください。1ページ目の冒頭部分に論文題名，学籍番号，氏名を書いてください。

詳細は論文提出締切後に改めて連絡します。

雑誌に掲載された論文別冊を学位論文として提出することも可能です。ただし，その場合にも「論文概要」を添えて提出してください。

オフィスアワーについて

「オフィスアワー」とは，各教員が学生からの個別相談に応じるために設定している時間のことです。授業や学習に関する質問や学生生活・進路相談などについての相談があれば，教員は随時相談に応じますが，他の授業や会議，診療などで部屋を離れるため，常に教員室や研究室に居るとは限りません。

そこで，学生の来訪に備えて教員室や研究室で待機し，相談に応じるのに都合の良い時間帯を「オフィスアワー」として，教員ごとに設定しており，その詳細は，ホームページから参照できます。

（オフィスアワー <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/officehour-3.html>）

諸規程について

規程については，医学系研究科ホームページに掲載していますので，そちらを参照してください。

その他，留意事項

(1) メールについて

学生課からの連絡事項は，学生用のメールアドレスへメールを送信しますので，1日1回はメールを確認してください。※学生用のメールアドレスは，学籍番号@edu.cc.saga-u.ac.jpです。

(2) 授業料免除と奨学金について

授業料免除・奨学金を希望する場合は，学生課総務担当にて申請の手続きを行ってください。

また，授業料免除・奨学金に関する情報は，学生課前の掲示板に掲示しますので，必ず確認してください。

(3) 住所届について

「住所届」は，大学院オリエンテーション終了後に，大学院教育担当へ提出してください。なお，住所届提出後に，住所が変更した場合も，「住所変更届」を学生課大学院教育担当に提出してください。

(4) 駐車許可証の交付について

自家用車により通学する場合は，学生課総務担当で「駐車許可証」の交付手続きを行ってください。（原則として大学までの距離が2km以上の場合に限る）

(5) 学籍異動について

在学中，様々な事情により学籍の異動（休学・復学・退学・改姓等）が生じる場合は，異動希望日の1か月前までに学生課大学院教育担当に届け出てください。

研究指導計画書 (研究実施経過報告書)

平成 年 月 日

医学系研究科・修士課程 専攻

学籍番号

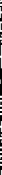
氏 名 印 主指導教員名 印 副指導教員名 印

研 究 指 導 計 画		実 施 経 過 ・ 実 績 報 告	
年次	履修予定授業科目 (時間)	研 究 指 導 * 計 画	指導教員のコメント (学生の取り組み状況, 指導内容, 指導計画の変更等を記載)
1 年 次	前 期		
	後 期		
2 年 次	前 期		
	後 期		

*研究指導は主指導教員の指揮と研究グループ等教員の役割分担により, 組織的に行う。

実施経過・実績報告は、
各年次終了時(3月中旬～3月下旬)
に担当係にて回収・確認を行います(電
子版)ので、指導教員と相談の上、随時作
成してください。

畫過·畫過·畫過



医科学

111

11

11

1) 将来研究

コースナンバリング

【修士課程医科学専攻】

区分	授業科目	コースナンバリング	区分	授業科目	コースナンバリング
必修 共通 科目 選択	人体構造機能学概論	4 491 x 511	専門 選択 科目 I	病理学特論	4 491 x 511
	病因病態学概論	4 491 x 511		法医学特論	4 491 x 511
	社会・予防医学概論	4 498 x 511		環境・衛生・疫学特論	4 498 x 511
	生命科学倫理概論	4 491 x 511		精神・心理学特論	4 492 x 511
学基 系生 命科 学	分子生命科学概論	4 491 x 511		遺伝子医学特論	4 491 x 511
	基礎生命科学研究法	4 491 x 511		周産期医学特論	4 492 x 511
	基礎生命科学研究実習	4 491 x 511		障害者・高齢者支援にみる差別と偏見	4 491 b 511
学医 療科 学系	臨床医学概論	4 492 x 511		高齢者・障害者の生活環境(道具と住宅)特論	4 491 b 511
	医療科学研究法	4 492 x 511		リハビリテーション医学特論	4 492 x 511
	医療科学研究実習	4 492 x 511		健康スポーツ医学特論	4 498 x 511
学総 系合 ケア 学科	総合ケア科学概論	4 491 b 511		緩和ケア特論	4 492 x 511
	総合ケア科学研究法	4 491 b 511		心理学的社会生活行動支援特論	4 492 x 511
	総合ケア科学研究実習	4 491 b 511		高齢者・障害者生活支援特論	4 491 b 511
がん 系地 域医 療	臨床腫瘍学概論	4 492 c 511		対人支援技術特論 I	4 491 b 511
	がん地域医療研究法	4 492 c 511		対人支援技術特論 II	4 491 b 511
	がん地域医療研究実習	4 492 c 511		地域医療科学特論	4 492 x 511
専門 選択 科目 I	人体構造実習	4 491 x 511		アカデミックリーディング	4 491 a 511
	病院実習	4 492 x 511		臨床腫瘍学	4 492 x 511
	医用統計学特論	4 491 x 511	専門 選択 科目 II	臨床腫瘍治療実習 I	4 492 c 511
	医用情報処理特論	4 491 x 511		臨床腫瘍治療実習 II	4 492 c 511
	実験動物学特論	4 491 x 511		臨床腫瘍治療実習 III	4 492 c 511
	実験・検査機器特論	4 491 x 511		臨床腫瘍治療実習 IV	4 492 c 511
	バイオテクノロジー特論	4 491 x 511		臨床腫瘍治療実習 V	4 492 c 511
	解剖学特論	4 491 x 511		臨床腫瘍治療実習 VI	4 492 c 511
	生理学特論	4 491 x 511		がんゲノム医療実習	4 492 c 511
	分子生化学特論	4 491 x 511		小児・希少がん医療講義	4 492 c 511
	微生物学・免疫学特論	4 491 x 511		ライフステージに応じた医療	4 492 c 511
	薬物作用学特論	4 491 x 511			

1. 統合的地域がん医療人育成コースの科目は、「cancer professional」の頭文字「c」を附番する。
2. 「491 基礎医学」のうち、英語に関する科目は「a」、総合ケアに関する科目は「b」を附番する。

Ⅲ 授業科目の学習指針等

(シラバス)

シラバスとは

シラバス[syllabus]は、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定など授業の概要を書き示したもので、この学習要項では「授業科目の学習指針等」として掲載してあります。

各授業科目は、医学系研究科の教育目的・目標に沿って年次ごとに開講、配置されていますが、その教育課程における個々の授業科目の位置付け（開講目的）や学習内容・到達目標等をシラバスで明示することにより、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達すべきかを知る学習指針として、重要な役割を果たすものです。

シラバスに記載されている項目の説明

- 【教 科 主 任】 各授業科目の担当責任者で、教科主任の下に講義・実習等の編成、担当者の配置ならびに試験の実施と成績判定が行われます。
- 【G. I. O. (General Instructional Objective) : 一般学習目標】 各学科の教育課程における当該授業科目の位置付け（開講目的）を示すとともに、この授業により何ができるようになるか、（すなわち、この授業の学習がなぜ重要なのか、それによって学習者のニーズがどのように満たされるか）の総括的な目標が掲げられています。
- 【講義・実習項目】 授業科目を構成する講義・実習等の項目と、それぞれを担当する教員名が示されています。
- 【S. B. O. (Specific Behavioral Objective) : 個別行動目標】 当該授業科目の一般学習目標（G. I. O.）を達成するためには、どのようなことができればよいのか、具体的な行動の表現で個別の学習目標が示されています。
- 【評価の方法と基準】 当該授業科目の成績評価の方法と、成績判定の基準が示されています。
- 【履修上の注意】 各授業科目を履修する上での心構え、注意等が示されています。
- 【テキスト等】 当該授業に必要な参考書を、次の区分に分けて紹介してあります。
- (1) テキスト：教科書として用いるもので、必ず手に入れておく必要があるもの。
 - (2) 指定図書：重要な参考書として利用頻度が高く、手に入れておくことが望ましいもの。これについては、原則的に附属図書館医学分館に配架されています。
 - (3) 参考書：上記以外の参考書として挙げられています。
- 【日 程 表】 当該授業科目の講義・実習等および試験の日程、担当者とともに、講義項目のキーワードが示されています。講義を受ける際の準備や自己学習などに活用してください。

注：医学系研究科のシラバスは、ホームページにも掲載してあるので、利用してください。

人 体 構 造 機 能 学 概 論 (必修2単位)

教科主任：倉 岡 晃 夫

開講期間：1年次，前学期 4月13日～6月6日 水曜 1・2時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

人体を構成する細胞，組織，器官の構造と生理機能ならびに制御機構について，系統的な学習をおこない，人体で営まれている生命現象の仕組みを総合的に理解する。

2. 講義項目

		(担当者)
(1) 人体の構成と細胞，組織	生体構造機能学	城戸 瑞穂
(2) 神経系	〃	藤田 亜美
(3) 骨・筋および運動器系	〃	倉岡 晃夫
(4) 血液および心臓，循環系	〃	塩谷 孝夫
(5) 感覚器系および内分泌系	〃	村田 祐造
(6) 呼吸器系および泌尿器系	〃	塩谷 孝夫
(7) 消化器系	〃	藤田 亜美
(8) 生殖器系および人体の発生	統合基礎看護学	河野 史

3. 個別行動目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) 人体の構成と細胞，組織
 - 1) 細胞を構成する各要素の構造と働きを，細胞の生命現象と結び付けて説明できる。
 - 2) 上皮・腺組織，支持組織，筋組織，神経組織の特性と，これらの組み合わせにより人体の構成を説明できる。
- (2) 神経系
 - 1) 神経細胞，支持細胞の構造と伝導，伝達機構を説明できる。
 - 2) 中枢および末梢神経系の構成と神経回路網による情報処理機構を説明できる。
- (3) 骨・筋および運動器系
 - 1) 骨の構造と代謝，関節の構造と運動，骨格筋の構造と収縮機構を説明できる。
 - 2) 身体の部位に応じた骨格と骨格筋の構成を説明できる。
- (4) 血液および心臓，循環系
 - 1) 血液の組成，性状，働き，凝固機序，造血組織およびリンパ組織の構造と機能について説明できる。
 - 2) 心臓と循環系の構成，構造，心臓のポンプ作用，血圧，血流の調節機構，物質交換の仕組みを説明できる。
- (5) 感覚器系および内分泌系
 - 1) 皮膚および特殊感覚器の構造と感覚刺激の受容，伝達機構を説明できる。
 - 2) 内分泌細胞とホルモン，ホルモン受容細胞の反応，および内分泌調節機構を説明できる。
- (6) 呼吸器系および泌尿器系
 - 1) 気道と肺の構造，外呼吸，内呼吸の仕組み，血液ガス運搬，呼吸の調節機構を説明できる。
 - 2) 腎および尿路の構造，尿の産生，水と電解質の調節，酸塩基平衡について説明できる。

(7) 消化器系

- 1) 消化管，消化腺の構成と構造ならびに各構成要素の働き，調節系を説明できる。
- 2) 栄養素の消化，吸収機構を説明できる。

(8) 生殖器系および人体の発生

- 1) 内・外生殖器の構造と生殖細胞の産生ならびに性ホルモンによる調節機構を説明できる。
- 2) 受精の仕組みと，ヒト発生過程の概略を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業内容に関するレポートの提出を求め，その内容と出席状況等を総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は，個別行動目標の到達状況を指標として次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポートの採点結果等の解説と個別指導を行う。希望者は，結果発表後1月程度の期間内に，オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的注意

本授業では教科書は指定しないが，紹介した参考書等を利用し，各講義内容に沿った自主的学習により学習目標を達成すること。

(2) 社会人学生に対する注意

各講義は下記の日程表の日時に実施する。止むを得ない事情で出席できない場合には，各講義担当者に事前連絡・相談を行い，代替の学習手段（講義ビデオの視聴，学習課題レポートの指示，自己学習法，学習内容に関する質問等の方法など）について指示と指導を受けること。

(3) 準備学習等

講義項目・キーワード（日程表参照）について，下記参考書等で予習しておくこと。

6. 参考書等

(1) 指定教科書

なし。

(2) 参考書

- 1) 系統看護学講座・専門基礎分野「人体の構造と機能1 解剖生理学（第9版）」，坂井建雄他著，医学書院，2014，¥4,104
- 2) 「トートラ人体解剖生理学（原書10版）」佐伯由香他編訳，丸善出版，2017，¥7,452
- 3) 「からだの構造と機能」A. シェフラー，S. シュミット著，三木明德，井上貴央監訳，西村書店，1998，¥5,184

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1, 2	4 月 13 日 (金) 1, 2	人体の構成と細胞, 組織	城 戸	細胞膜, 核, 細胞内小器官, 細胞骨格, 細胞増殖, 細胞間物質, 細胞接着, 上皮・腺組織, 支持組織, 筋組織, 神経組織
3, 4	4 月 18 日 (水) 1, 2	神経系	藤 田	神経細胞, 支持細胞, 伝導, 伝達, 中枢神経系, 末梢神経系, 神経回路網と情報処理
5, 6	4 月 25 日 (水) 1, 2	骨・筋および運動器系	倉 岡	身体の区分, 骨の構造と代謝, 関節の構造と運動, 骨格筋の構造と収縮, 体幹部, 上下肢, 頭部の骨と筋
7, 8	5 月 9 日 (水) 1, 2	血液および心臓, 循環系	塩 谷	赤血球, 白血球, 血小板, 血漿, 血液凝固, 造血組織, リンパ組織 心臓, 動脈, 毛細血管, 静脈, リンパ系, 物質交換, 血圧・血流の調節
9, 10	5 月 16 日 (水) 1, 2	感覚器系 内分泌系	村 田	感覚刺激と受容器, 感覚刺激の伝達, 皮膚および特殊感覚器 内分泌細胞, ホルモン, 受容細胞, 内分泌調節系
11, 12	5 月 23 日 (水) 1, 2	呼吸器系および泌尿器系	塩 谷	気道, 肺, 換気, ガス交換, 血液ガス, 呼吸の調節 腎臓, ネフロン, 糸球体濾過, 尿細管再吸収・分泌, 尿濃縮希釈, 尿酸性化, 排尿, 酸塩基平衡
13, 14	5 月 30 日 (水) 1, 2	消化器系	藤 田	口腔, 唾液腺, 咽頭, 食道, 胃, 小腸, 大腸, 直腸, 肝, 膵, 腹膜腔, 栄養素の消化と吸収
15, 16	6 月 6 日 (水) 1, 2	生殖器系 人体の発生	河 野	精巣, 卵巣, 生殖細胞, 内生殖器, 外生殖器, 性ホルモン, 性成熟, 性周期 受精, 着床, 胚子期, 胎児期, 胎盤, 出生と周産期

病因病態学概論（必修2単位）

教科主任：吉田裕樹

開講期間：後学期 12月18日～2月19日 火曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

病気とは、生体の営みが正常範囲を逸脱して生体にとって不利益な状態となることである。炎症、変性、腫瘍は奇形とともに病気を構成する4つの要素である。この概論ではさまざまな病的因子（病因）とそれに対する生体の反応（病態）の基礎を学習する。

2. 講義・実習項目

（担当者）

(1) 自然免疫	鹿児島大学	原 博満
(2) 獲得免疫	分子生命科学	吉田 裕樹
(3) 免疫関連分子	〃	三宅 靖延
(4) 病原体と特異的代謝機構	〃	三田村文香
(5) 造血とサイトカイン	病因病態科学	久木田明子
(6) 食細胞	〃	〃
(7) 感染症と生物的・社会的環境	〃	宮本比呂志
(8) 病原因子ならびに内因性殺菌物質	〃	〃
(9) 内毒素と外毒素	〃	菖蒲池健夫
(10) 細胞病理学	〃	戸田 修二
(11) 腫瘍病理学	〃	相島 慎一
(12) 腸管免疫とその異常	鹿児島大学	原 博満
(13) 病原体に対する生体防御	琉球大学	松崎 吾朗

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 自然免疫
 - 1) 自然免疫機構について述べることができる。
 - 2) 自然免疫に関与する細胞について説明できる。
 - 3) 自然免疫に関与する生体分子について説明できる。
- (2) 免疫関連分子
 - 1) 代表的な免疫関連分子の構造と機能について説明できる。
- (3) 獲得免疫
 - 1) 獲得免疫機構について述べることができる。
 - 2) 獲得免疫に関与する細胞について説明できる。
 - 3) 獲得免疫に関与する生体分子について説明できる。
- (4) 病原体と特異的代謝機構
 - 1) 病原体の感染成立のストラテジーを説明できる。
 - 2) 真核病原体に特有の代謝経路・創薬の標的を説明出来る。
- (5) 感染症と生物的・社会的環境
 - 1) 感染症と生物的環境のかかわりを説明できる。

- 2) 感染症と社会的環境のかかわりを説明できる。
- 3) 病原寄生生物の進化についての考え方を説明できる。
- (6) 病原因子ならびに内因性殺菌物質
 - 1) 病原微生物の病原因子の種類、構造、機能について述べることができる。
 - 2) 宿主側の内因性殺菌物質の種類、構造、機能について述べることができる。
 - 3) 病原因子と自然免疫とのかかわりについての基本的事項を述べることができる。
- (7) 内毒素と外毒素
 - 1) 内毒素の構造・機能について述べることができる。
 - 2) 外毒素の構造・機能について述べることができる。
- (8) 造血とサイトカイン
 - 1) 造血系細胞の由来について述べることができる。
 - 2) 造血系サイトカインの役割について述べることができる。
- (9) 食細胞
 - 1) 食細胞の種類と働きについて述べることができる。
 - 2) 食細胞の貪食機構について述べることができる。
 - 3) 食細胞の殺菌機構について述べることができる。
- (10) 細胞病理学：細胞の局所環境と細胞障害および細胞死
 - 1) 生体内の細胞環境を説明できる。
 - 2) 細胞障害の原因とそのメカニズムを説明できる。
 - 3) 細胞死の種類とそのメカニズムを説明できる。
 - 4) 細胞の増殖・分化を伴う細胞の環境適応様式を説明できる。
 - 5) 細胞変性の定義とその種類を説明できる。
 - 6) 細胞老化の仮説とそのメカニズムを説明できる。
- (11) 腫瘍病理学：癌細胞はどのような細胞か
 - 1) 正常細胞と癌細胞の違いを説明できる。
 - 2) 癌細胞が際限なく増殖する機序を説明できる。
 - 3) 癌細胞が浸潤・転移する機序を説明できる。
 - 4) 悪性腫瘍と良性腫瘍の違いを説明できる。
 - 5) 胃粘膜上皮からの癌腫の発生過程を説明できる。
 - 6) 癌の診断法を説明できる。
 - 7) 癌の告知について自分の考えを述べる事ができる。
- (12) 腸管免疫とその異常
 - 1) 腸管粘膜免疫について説明出来る。
 - 2) 炎症性腸疾患の病態病理を説明出来る。
- (13) 病原体に対する生体防御
 - 1) 病原体に対する防御因子・防御反応を説明出来る。
 - 2) 病原体側の免疫回避機構を説明出来る。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
「レポート」 (100%)

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義の出席を毎回確認する。出席できない場合は、あらかじめ教科主任に連絡を取ることが望ましい。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業のビデオ（あるいはそれに相当する電子ファイル）を出席できなかった学生に視聴させ、授業内容に沿った課題レポートの提出を求め、その内容について評価を行う。

6. 参考書等

(1) 教科書

指定無し。

(2) 参考書

- 1) 「免疫学コア講義」（改訂4版）熊ノ郷淳・阪口薫雄・竹田潔・吉田裕樹編，南山堂：¥5,000
- 2) 「Janeway's Immunobiology」Kenneth Murphy 著，ペーパーバックGarland Science; 8版，¥9,456（参考価格）
- 3) 「細胞の分子生物学」，アルバート著，中村訳，教育社，第三版，¥20,600
- 4) 「Robbins Pathologic Basis of Disease」Cotran RS, Kumar V, Collins T (eds), WB Saunders Company, 7th Edition, ¥12,600
- 5) 「Anderson's Pathology」Damjanov and Linder著，Mosby, 2002
- 6) 「Gastrointestinal pathology」Fenoglio-Preiser著，Lippincott-Raven, 2nd Edition, Lippincott-Raven, 1999
- 7) 「戸田新細菌学」第34版 吉田眞一・柳 雄介・吉開泰信編，南山堂 2013 ¥16,000

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	12 月 18 日 (火) 1	自然免疫	原	病原体認識, 貪食, マクロファージ, 樹状細胞, 受容体
2	// 2	獲得免疫	吉 田	B リンパ球, T リンパ球, 分化
3	1 月 8 日 (火) 1	内毒素と外毒素	菖蒲池	グラム陰性菌, LPS, リピドA, スーパー抗原
4	// 2	細胞病理学	戸 田	微小環境, サイトカイン, 細胞外基質, 情報伝達, 壊死, アポトーシス, 虚血, 低酸素, フリーラディカル, ミトコンドリア, 細胞骨格
5	1 月 15 日 (火) 1	造血とサイトカイン	久木田	骨芽細胞, 破骨細胞, 骨髄細胞, CFS 分化, サイトカイン
6	// 2	食細胞	久木田	マクロファージ, 好中球, 破骨細胞, 貪食, 骨吸収
7	1 月 22 日 (火) 1	感染症と生物的・社会的環境	宮 本	寄生生物, 宿主, 媒介動物, 生物的環境, 社会的環境, 進化, 共生
8	// 2	病原因子ならびに内因性殺菌物質	宮 本	きょう膜, マクロファージ, 細胞内寄生, デイフェンシン
9	1 月 29 日 (火) 1	免疫関連分子	三 宅	MHC, 免疫寛容, アレルギー, 自己免疫
10	// 2	病原体特異的代謝機構	三田村	寄生虫, 代謝経路, 創薬
11	2 月 5 日 (火) 1	細胞病理学	戸 田	増殖, 分化, 過形成, 肥大, 萎縮, 仮生 (分化転換), 脂肪変性, 蛋白質変性, 糖質変性, 色素変性, 石灰変性, 老化, 時計遺伝子, デロメ
12	// 2	腫瘍病理学	相 島	癌細胞, 増殖, 浸潤, 転移, 分化, アポトーシス, 発癌因子
13	2 月 12 日 (火) 1	腫瘍病理学	相 島	腫瘍, 肉腫, 肺癌, 胃癌, 乳癌, 良性腫瘍, 癌の組織診断, 癌の告知
14	// 2	腫瘍免疫	吉 田	腫瘍に対する免疫, 免疫抑制, 免疫療法
15	2 月 19 日 (火) 1	病原体に対する生体防御	松 崎	自然免疫, 物理的バリア, 化学的バリア, 獲得免疫, 免疫回避
16	// 2	自然免疫・腸管免疫と炎症	原	粘膜, 腸内細菌, 腸管における自然免疫, 炎症性腸疾患

社会・予防医学概論（必修2単位）

教科主任：田中恵太郎

開講期間：前学期 4月12日～6月7日 木曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

社会と密接に関連する医学である予防医学、環境医学および法医学に関する基礎知識を習得し、人間総合医学としての社会医学の重要性を認識すると共に、国民の衛生水準の向上を図るための問題解決能力を身につける。

2. 講義項目 (担当者)

(1) 予防医学概論		
1) 予防医学総論	社会医学	田中恵太郎
2) 感染症予防	〃	〃
3) 集団の健康指標	〃	原 めぐみ
4) 生活習慣病予防	〃	西田裕一郎
5) メンタルヘルス	〃	島ノ江千里
6) 健康支援	〃	〃
(2) 環境医学概論		
7) 生活環境と健康	〃	市場 正良
8) 労働環境と健康	〃	松本 明子
(3) 法医学概論		
9) 人体の外的・内的侵襲	〃	小山 宏義
10) 異状死と臨床法医学	〃	〃

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 予防医学総論
 - 1) 予防医学の意義・役割について説明できる。
 - 2) 健康の定義と公衆衛生の意義・役割について説明できる。
- (2) 感染症予防
 - 1) 感染症成立の要因を理解し、その予防の原理と発生時の社会的対応について説明できる。
 - 2) わが国における主な感染症・食中毒の発生状況と予防対策を説明できる。
- (3) 集団の健康指標
 - 1) 国勢調査から得られる人口静態統計の推移と問題点について説明できる。
 - 2) 人口動態統計、有病統計の諸比率を理解し、それらの推移と現状について述べることができる。
 - 3) 生命表の作成法と平均余命・平均寿命について説明できる。
 - 4) 政府統計データを活用できる。

(4) 生活習慣病予防

- 1) 生活習慣病の種類と特徴を理解し、危険因子を説明できる。
- 2) 生活習慣病による死亡や罹患状況について説明できる。
- 3) 日本人の健康状態や生活習慣の現状を説明できる。
- 4) メタボリックシンドローム対策について説明できる。
- 5) 生活習慣病、運動と遺伝子の関連について説明できる。

(5) メンタルヘルス

- 1) ストレス反応を理解し、ストレスコーピングやソーシャルサポートの意義について説明できる。

(6) 健康支援

- 1) 健康格差、健康寿命を理解し、行動変容プロセスやステージによる健康教育の意義を説明できる。

(7) 生活環境と健康

- 1) 環境マネジメントシステムを説明できる。
- 2) 地球温暖化の現状と問題を説明できる。

(8) 労働環境と健康

- 1) 産業保健活動の現状と問題点を説明できる。
- 2) 職業性健康障害の発生機序と予防を説明できる。
- 3) 生物学的モニタリングの手法と意義を説明できる。

(9) 人体の内的・外的侵襲

- 1) 損傷の種類・成因と人体に及ぼす影響を説明できる。
- 2) 異常環境下の障害、窒息、中毒の人体に及ぼす影響と予防対策を説明できる。
- 3) 交通事故損傷の数量化理論と交通安全教育の手法を説明できる。
- 4) 家庭内事故、労災事故、過労死、自殺の成因と予防対策を説明できる。
- 5) 成人と乳幼児において突然死の原因となる疾患とその予防対策を説明できる。

(10) 異状死と臨床法医学

- 1) 人の死と異状死の概念を理解し説明できる。
- 2) 生体の法医学的見方の必要性を理解し、患者の権利と医療の義務を説明できる。
- 3) 患者と医療従事者の関係を理解し、患者の権利と医療の義務を説明できる。
- 4) 医療に関する法律を理解し、その意義を説明できる。

4. 参考書等

(1) 教科書

なし。

(2) 参考書

- 1) 「シンプル衛生公衆衛生学」鈴木庄亮・久道 茂編，南江堂，2017，¥2,400
- 2) 「公衆衛生マニュアル」柳川 洋・中村好一編，南山堂，2017，¥5,500
- 3) 「国民衛生の動向（厚生の指標，臨時増刊）」厚生統計協会，2017/2018，¥2,500
- 4) 「学生のための法医学」田中宜幸ほか著，南山堂，改訂6版 2006，¥5,565

5. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

担当教員毎にレポートの課題を呈示し、それぞれのレポートの評価結果に基づいて行う。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

6. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義では毎回出席をとり、無断で1/3を超える回数の講義を欠席した場合は不合格とする。社会人学生で日程表による講義を受けられない場合は、ビデオなどを視聴することによって出席できなかった講義の内容の要約（400字以内）を作成し、教科主任に提出することをもって出席とみなす。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

講義については日程表の時間通りに行うが、出席できない場合はそれを撮影したビデオを貸し出すので、それを視聴して学習すること。なお、各講義において使用する配付資料については、適宜担当教員から受け取ること。

7. 日程表

No.	月 日(曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	4 月 12 日(木) 1	予防医学総論	田 中	予防医学の意義, 健康の概念, 公衆衛生の概念
2	" 2	感染症予防	"	感染源, 感染経路, 感受性, 消毒, 感染症法, 予防接種法, 発生動向調査(サーベイランス), 主な感染症・食中毒の発生状況, 毒素型食中毒, 感染型食中毒
3	4 月 19 日(木) 1	集団の健康指標	原	人口静態統計, 人口動態統計, 再生産率, 年齢調整死亡率, SMR
4	" 2	"	"	主要死因の動向, 母子保健関連指標, 罹患率, 有病率, 有病統計, 生命表, 平均余命, 平均寿命, 平均自立期間, 区間死亡確率, 標準早死損失年, 障害調整生存率, QOL 指標
5	4 月 26 日(木) 1	生活習慣病予防	西 田	生活習慣病の種類と特徴, 死亡および罹患状況, 生活習慣病と体力の関連
6	" 2	"	"	一次予防, 運動習慣, 食習慣, メタボリックシンドローム対策, 生活習慣病と遺伝子, 運動と遺伝子
7	5 月 10 日(木) 1	生活環境と健康	市 場	循環型社会, 環境報告書, 環境マネジメントシステム
8	" 2	"	"	地球温暖化, 気候変動枠組条約, IPCC, 京都議定書, 酸性雨, オゾン層破壊
9	5 月 17 日(木) 1	メンタルヘルス	島ノ江	ストレス反応, ストレスコーピング, ソーシャルサポート
10	" 2	健康支援	"	健康格差, 健康寿命, 健康教育, 行動変容プロセス, 行動変容ステージモデル(トランスセオレティカルモデル)
11	5 月 24 日(木) 1	労働環境と健康	松 本	産業保健活動, 労働衛生の 3 管理, 労働災害, 衛生管理者, 労働安全衛生法, 健康診断, 職業性健康障害と予防(化学的因子, 物理的因子, 作業態様), 生物学的モニタリング, メンタルヘルス
12	" 2	"	"	
13	5 月 31 日(木) 1	人体の外的・内的侵襲	小 山	損傷, 受傷機転解析, 異常温度, 窒息, 中毒, 薬物乱用, 児童虐待, 交通事故損傷の数量化
14	" 2	異状死と臨床法医学	"	家庭内事故, 労災事故, 過労死, 自殺, 賠償医学, 心臓突然死, 乳幼児突然死症候群
15	6 月 7 日(木) 1	"	"	心臓死と脳死, 異状死, 生体検査, 被害者対策, 患者と医療従事者の関係, 医事法
16	" 2	予備		レポート作成など

レポートに関しては, 授業時に連絡する。

生命科学倫理概論（必修1単位）

教科主任：坂 本 麻衣子

開講期間：後学期 10月15日～12月3日 月曜 5時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

生命科学と医療に関する倫理的課題について、基礎知識や考え方を習得し、研究者と医療従事者が遵守すべき倫理規範と対応法を理解する。また、将来の生命科学・医療の進歩と社会の変遷によって新たに生じ得る倫理的課題に対して適切に判断し、行動する能力を養う。

2. 講義項目

（担当者）

- (1) 生命科学倫理総論・臨床研究と倫理
- (2) 基礎医学・社会医学と倫理
- (3) 医療と倫理

相島 慎一，副島 英伸
坂本麻衣子
坂本麻衣子

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 生命科学倫理総論
 - 1) 西洋と非西洋間の文化，宗教，哲学の異同を理解し，生命倫理を理解する上で基本となる人間の尊厳や死の受容に対する日本人の道徳観と価値観を説明できる。
 - 2) 医療従事者の職業倫理綱領を習得し，生命科学と医療における倫理教育の必要性を説明できる。
 - 3) 生命倫理に関する国の審議会や施設の倫理委員会の役割とその活動，生命・医療倫理の諸問題の現状を説明できる。
- (2) 基礎医学・社会医学と倫理
 - 1) 医学研究に関し，ヒトゲノム・遺伝子解析，疫学研究，臨床研究，臓器・体液等の研究への利用，臓器バンク，クローン技術に伴う倫理について習得し，生命科学の進歩に伴う研究上の倫理的課題への対応法を説明できる。
 - 2) 人の死に関し，死の概念，死の判定，死者の人権，脳死と臓器移植，死と法律について習得し，倫理的原則や医療従事者の法的義務を説明できる。
- (3) 医療と倫理
 - 1) 診療場面における患者の自己決定権やインフォームド・コンセントなど，臨床医の直面する倫理的課題，患者やその家族と医療従事者の関係を説明できる。
 - 2) がん末期の緩和医療や病名告知，延命治療，リビング・ウィル，尊厳死，安楽死の是非等について討論できる。
 - 3) 研究的・先端的治療，新薬や新医療技術の臨床治験，体外受精，遺伝子治療，出生前診断にまつわる倫理的諸問題への具体的対応法を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

授業への参加状況＊（20％）と講義終了後のレポート（80％）を基に総合評価をする。

（＊欠席の場合は後日DVDを視聴しレポートを提出）
- (2) 評価基準

成績の評価は，個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

佐賀大学医学部ホームページ→学部内関連情報→医学部規則・関連法規を開き、各種倫理指針等を予め閲覧しておくこと。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業を撮影したビデオを視聴し、講義終了後、レポートを提出してもよい。その際は必ず事前に連絡をすること。

6. 参考書等

(1)「よく生き、よく死ぬ、ための生命倫理学」篠原俊一郎・石橋孝明編，ナカニシヤ出版，2010，¥2,500

(2)「医療倫理学の方法：原則・手順・ナラティヴ」第2版 宮坂道夫著，医学書院，2015，¥2,800

(3)「延命医療と臨床現場」会田薫子著，東京大学出版会，2014，¥4,800

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	10月15日(月) 5	生命科学倫理総論(1)	相 島	倫理委員会，厚生科学審議会，文部科学省生命倫理・安全部会
2	10月22日(月) 5	生命科学倫理総論(2)	坂 本	医療従事者の職業倫理綱要，ヒポクラテスの誓い，ニュルンベルク倫理綱要，医の倫理のジュネーブ会議綱要，ヘルシンキ宣言
3	10月29日(月) 5	基礎医学・社会医学と倫理(1)	副 島	ヒトゲノム・遺伝子解析，疫学研究，臨床研究，ヒト由来試料の研究利用
4	11月 5日(月) 5	基礎医学・社会医学と倫理(2)	坂 本	死の概念，安楽死，尊厳死
5	11月12日(月) 5	基礎医学・社会医学と倫理(3)	坂 本	脳死と臓器移植，医療従事者の法的義務
6	11月19日(月) 5	医療と倫理(1)	坂 本	自己決定権，インフォームド・コンセント，患者と医療従事者の関係
7	11月26日(月) 5	医療と倫理(2)	坂 本	緩和医療，告知，延命治療，リビング・ウィル
8	12月 3日(月) 5	生命科学倫理総論(3)	坂 本	総括

分子生命科学概論（必修2単位）

教科主任：出 原 賢 治

開講期間：前学期 集中

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

生命現象を分子の観点でみると、その基礎には遺伝子がある。その遺伝子の機能に基づき、たんぱく質を代表とする生体高分子が合成され、酵素機能により進行する代謝過程が実際の生命活動を進行させている。そして、これらが機能的に統合されたシステムである細胞が生まれる。本講義は、このような分子機能から見た生命現象を理解するために必要な知識および考え方を習得してもらうことを目的とする。

2. 講義項目

(担当者)

(1) 遺伝子とその機能	分子生命科学	出原 賢治
(2) 生体高分子	〃	布村 聡
(3) 生体の代謝調節	〃	出原 賢治
	〃	布村 聡
(4) 細胞の構造と機能	〃	池田 義孝

3. 個別行動目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) 遺伝子とその機能
 - 1) DNA, RNAの構造, 発現, 翻訳, 複製, 組み換えと修復などの概要を説明できる。
 - 2) ミクロソームと染色体の構造を理解し説明できる。
 - 3) 高等真核生物のゲノムに特徴的な構造について理解し説明できる。
- (2) 生体高分子
 - 1) 生体高分子の基本構造を正しく述べることができる。
 - 2) 生体高分子の機能発現の上で基本構造の多様性が重要なことを例を挙げて示すことができる。
 - 3) 生体触媒としての酵素反応の特徴を示すことができる。
 - 4) タンパク質と核酸の構造・性質・機能を説明できる。
 - 5) 糖と脂質の構造・性質・機能を説明できる。
- (3) 生体の代謝調節
 - 1) 細胞が環境からエネルギーを獲得する機構を説明できる。
 - 2) 生体が高分子構成材料を合成する方法を説明できる。
- (4) 細胞の構造と機能
 - 1) 細胞の基本構造や細胞内小器官の機能について理解し説明できる。
 - 2) タンパク質の選択輸送について説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

レポートの結果を基に総合的に判断する。
- (2) 評価基準 成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示

試験答案の成績等に関して、希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
履修を希望する学生は予め教科主任に連絡すること。

6. 参考書等

- (1) 教科書
なし。
- (2) 参考書
- 1) 「Molecular Biology of the Cell」Alberts B. 他著, 第5版, Garland Science
 - 2) 「遺伝子」Lewin B. 著, 菊池韻彦他訳, 第7版, 東京科学同人
 - 3) 「ゲノム」Brown T.A. 著, 村松正實監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル
 - 4) 「Essential細胞生物学」Alberts B. 他著, 中村桂子他訳, 南光堂
 - 5) 「ハーパー・生化学」上代善叔人訳, 第28版, 丸善

7. 日程表

No.	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	核酸と遺伝子	出 原	ゲノム, 遺伝子, DNA, RNA
2	転写	〃	mRNA, オペロン, RNA プロセッシング
3	タンパク質	出 原	タンパク質合成(翻訳), リボソーム, tRNA 化学修飾, タンパク質の局在
4	遺伝情報の維持と伝達	〃	DNA 複製, 組換え, 修復
5	高等真核生物のゲノム	布 村	ヒストン,ヌクレオソーム, 染色体, 繰り返し配列, 遺伝子ファミリー
6	真核生物の遺伝子発現調節	〃	トランスポゾン, DNA のメチル化, 転写因子, 転写調節領域, エンハンサー
7	生体高分子(1) タンパク質と核酸	布 村	DNA の2重らせん, 塩基対, クローバーリーフモデル, 核タンパク質, 反応機構
8	生体高分子(2) 酵素	〃	酵素単位, ミカエリス, メンテンの式, 阻害, アロステリック効果
9	代謝総論	出 原	代謝, 自由エネルギー, 電子伝達
10	糖代謝	〃	解糖, 糖新生, グリコーゲン, クエン酸回路
11	脂質代謝	出 原	脂肪酸, ケトン体, エイコサノイド, コレステロール, ステロイド
12	アミノ酸代謝, 核酸代謝	〃	アミノ酸, 尿素, 必須アミノ酸, プリン, ピリミジン
13	細胞(1)	池 田	細胞の構造, オルガネラ
14	細胞(2)	〃	選別輸送, 局在化シグナル
15	生体高分子(3) 糖と脂質	布 村	糖と脂質の構造・性質・機能, 立体化学

※日程については後日連絡する。

臨床医学概論（必修2単位）

教科主任：松 尾 宗 明

開講期間：前学期 木曜・金曜 4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

- (1) 臨床医学全般について疾患との関連を中心に系統的に学ぶ。
- (2) 大学において学習してきた項目と臨床医学の接点を理解する。
- (3) 今後の修士課程における研究項目に応用可能な知識を習得する。

2. 講義項目

（担当者）

(1) 臨床医学とは？	小 児 科 学	松尾 宗明
(2) 内科学概説	循 環 器 内 科 学	野出 孝一
(3) 臨床医学と基礎医学の接点	〃	〃
(4) 皮膚科学概説	内科学（皮膚科）	成澤 寛
(5) 麻酔蘇生科学・救急医学概説	麻 酔 ・ 蘇 生 学	坂口 嘉郎
(6) 消化器学概説	消化器外科学	能城 浩和
(7) 脳外科学概説	脳神経外科学	阿部 竜也
(8) 泌尿器科学概説	泌 尿 器 科 学	野口 満
(9) 整形外科概説	整 形 外 科 学	園畑 素樹
(10) 産科婦人科学概説	産科婦人科学	横山 正俊
(11) 小児科学概説	小 児 科 学	松尾 宗明
(12) 眼科学概説	眼 科 学	江内田 寛
(13) 耳鼻咽喉科学概説	耳 鼻 咽 喉 科 学	倉富勇一郎
(14) 精神医学概説	精 神 医 学	門司 晃
(15) 歯科口腔外科学概説	歯科口腔外科学	山下 佳雄

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への参加状況，レポート提出により総合的に評価する（7月31日までに提出）。

教科主任と数人の教員でレポート内容と授業内容に関し面接試験を実施する場合がある。社会人学生にはビデオ内容に関するレポート提出や面接を実施する。

(2) 評価基準

成績の評価は，学習目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は，平成30年9月30日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

- ・ 初回講義は必ず出席すること。出席できない場合は教科主任（松尾宗明matsuo@cc.saga-u.ac.jp）まで必ず連絡すること。連絡がなく欠席の場合は不合格とする。
- ・ 2回目以後の講義も原則として定められた時間に受講すること。受講人数が少ないため、受講場所・受講方法はそれぞれの教員に連絡して場所を確認すること（学生課には問い合わせない）。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

下記授業のDVDを中心とする受講で対応可能である。初回講義に出席できない場合は教科主任（松尾宗明matsuo@cc.saga-u.ac.jp）まで必ず連絡すること。連絡なく欠席の場合は不合格とする。

5. 参考書等

特になし。

6. 日程表

	月 日 (曜) 時限	担当者	項 目
1	4月27日(金) 4	松尾 宗明	ガイダンス
2	5月10日(木) 4	坂口 嘉郎	「麻酔蘇生学概論」
3	5月17日(木) 4	野口 満	「泌尿器科診療 Update」
4	5月24日(木) 4	阿部 竜也	研究会への出席(参加できない方は別のセミナーを案内します。)
5	5月31日(木) 4	成澤 寛	「皮膚科学概説」
6	6月 7日(木) 4	園畑 素樹	「運動器疾患の疼痛」
7	—	野出 孝一	指定する講演会への出席
8	—	能城 浩和	日本消化器病学会ホームページの以下の URL をひらき、患者さんと家族のためのガイドブックの熟読をしてください。 http://www.jsge.or.jp/citizens/guidebook
9	—	横山 正俊	レポート：子宮頸がんにおける最近の問題点, 800 字程度
10	—	松尾 宗明	小児科カンファレンスへの出席1回とその内容についてのレポート（原則毎週火曜日18時半から）
11	—	江内田 寛	日本眼科学会ホームページの以下の URL をひらき、ビデオでの学習をお願いします。 http://www.nichigan.or.jp/youngdoctors/index.jsp
12	—	倉富勇一郎	日本耳鼻咽喉科学会ホームページの以下のURLをひらき、「一般の皆さん」の内容について学習してください。 http://www.jibika.or.jp/index.html
13	—	門司 晃	「精神医学概説」(精神医学講座 前教授 山田茂人) 「精神・心理学特論」(精神医学講座 教授 門司晃) 以上のDVDをみること。
14	—	山下 佳雄	レポート：口腔管理と全身疾患との関わりについて 1,000 字程度

総合ケア科学概論（必修2単位）

教科主任：堀川悦夫

開講期間：前学期 集中

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

人間が健康で暮らす、あるいは何らかの疾病や障害を持つ中においても質の高い生活をしていくには、医学以外にも関連する諸分野の知見を総合したアプローチが必要である。

高齢者や障害を有する人々のための最新のアプローチを紹介する中で、問題点を整理して総合ケアのあり方を示し、さらには今後の展開および地域との共同研究のあり方について理解を深める。

2. 講義項目

（担当者）

- (1) 総合ケア科学の概要
- (2) 学際的アプローチ
- (3) 総合ケア科学における研究の概要
- (4) 研究方法のあらまし
- (5) 先行研究のレビュー
- (6) まとめ

認知神経心理学分野 堀川 悦夫
教育学部・学校教育課程 山津 幸司

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 健常者・患者を問わず、人間がよりよく暮らすためのチームアプローチの手法を学ぶ。
- (2) 関係諸領域の主な手法や問題点を理解する。
- (3) 基礎医学・臨床医学との関連からケア科学を学ぶ。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

出席とレポートなどにより総合的に評価する。

- (2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

講義を基にして自主的に先行研究やその測定法などについて調べることが求められる。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

厳しいスケジュールの中でどのようにして学ぶ時間を得るかを工夫することも、今後の生活に生かせる貴重な体験である。とはいえ、履修への配慮をできるだけするので、遠慮なく相談して欲しい。

6. 参考書等

講義中に紹介する。

7. 授業日程

集中講義形式で行う。

職を有する大学院生のスケジュールを優先して日程を組むため、受講生の勤務状況、可能な曜日の選択、その他を堀川までメールして下さい。 ethori@med.saga-u.ac.jp

臨床腫瘍学概論（系必修2単位）

教科主任：小 島 研 介

開講期間：前学期 集中

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

悪性腫瘍の病態および管理方法についての基礎的な事項を系統的に学習することにより，修士課程における研究，実習に応用可能な基礎知識を習得する。

2. 授業の項目と概要

（担当者）

(1) 悪性腫瘍の病態	内科学	小島 研介, 荒金 尚子
(2) 外科的侵襲と機能の保全	内科学	小島 研介
(3) 薬物治療概説	内科学	荒金 尚子
(4) 緩和ケア概説	ペインクリニック・緩和ケア科	平川奈緒美
(5) 悪性腫瘍リハビリテーション概説	先進総合機能回復センター	浅見 豊子
(6) 患者管理とチームアプローチ	内科学	小島 研介

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 悪性腫瘍の病態と治療の概略について説明できる。
- (2) 悪性腫瘍外科的治療の患者に及ぼす影響について理解し，その対策について説明できる。
- (3) 悪性腫瘍薬物療法が患者に及ぼす影響および対策について説明できる。
- (4) 緩和ケア療法の概念を理解し，用いる治療法の概略を説明できる。
- (5) 悪性腫瘍患者に対するリハビリテーションの意義を理解し，方法の概略を説明することができる。
- (6) 悪性腫瘍患者に対する包括的なアプローチについて理解し，患者管理についての適切な方策を立案することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
成績評価は授業への参加状況，レポートの結果を基に，総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は，個別行動目標の習得状況に着目して，次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は，電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
履修を希望する学生はあらかじめ教科主任に連絡すること
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
本講義は集中講義形式で行われるが，当日受講できない場合はe-Learningを活用することができる

6. 参考書

特になし。

7. 授業日程

集中講義形式で行うが，日程については後日連絡する。

(基礎生命科学系コース, 医療科学系コース, 総合ケア科学系コース, がん地域医療系コース)
(基礎生命科学, 医療科学, 総合ケア科学, がん地域医療) 研究法
(必修2単位)

教科主任: 各指導教員

開講期間: 1・2年次 通年

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

各コースの目的に沿って, 自立して研究を行うのに必要な研究デザインや研究戦略(課題の抽出・設定, 仮説・立証計略の立案, 方策・方法の考案, 手順・計画設計など)の理論を学び, 自らが立案する素養を身につける。

2. 授業項目

(担当者)

- (1) 論文読解演習 (40時間) (主指導教員および当該研究グループ教員)
主指導教員の研究グループごとに論文読解演習を行い, 読解を担当し発表する。
- (2) 研究設計演習 (20時間) (主指導教員および当該研究グループ教員)
主指導教員の研究グループごとに研究の設計, 遂行等に関する検討会(セミナー)を行い, 各自の研究について討論する。

3. 個別行動目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) 論文読解演習
 - 1) 欧文論文を読解し, 論文内容の要旨を説明できる。
 - 2) 論文著者の立場になって, 論旨の展開を説明できる。
- (2) 研究設計演習
 - 1) 各自の研究テーマに沿って, 研究デザインや研究戦略を立案できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
論文読解演習や検討会(セミナー)の学習状況等で評価する。
- (2) 評価基準
上記の授業あるいは相当する学習内容を修めていること。
- (3) 評価結果の開示
上記評価結果を開示する。
希望者は各指導教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

特になし。

6. 参考書等

特になし。

7. 授業日程

論文読解演習日程および研究設計演習日程

主指導教員の研究グループごとに開催されます。主指導教員と日程を打合せてください。

(基礎生命科学系コース, 医療科学系コース, 総合ケア科学系コース, がん地域医療系コース)
(基礎生命科学, 医療科学, 総合ケア科学, がん地域医療) 研究実習
 (必修8単位)

教科主任: 各指導教員

開講期間: 1・2年次 通年

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

各自の研究テーマに沿って, 研究を遂行するために必要な能力, 方法等を研究の実践を通して学び, 自立して研究を行う素養を身につける。

2. 授業項目

(担当者)

- (1) 研究実習 (360時間) (主指導教員および当該研究グループ教員)
各自が研究を実践する過程で直面する様々な問題に対して, 解決方法を見出すための助言・指導等を毎週4時間程度行う。
- (2) 学会等実習 (適宜) (主指導教員および当該研究グループ教員)
関連学会や研究会等に参加させ, 研究に対する広い視野と深い見識を養うとともに, プレゼンテーション等の技量を訓練する。

3. 個別行動目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) 研究実習
 - 1) 各自がデザインした研究を開始するための実験, 調査等の準備ができる。
 - 2) 計画した実験, 調査等を遂行し, 必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。
 - 3) 実験, 調査等データの解析と解釈が適切にできる。
 - 4) 学会発表あるいは論文としてデータをまとめることができる。
 - 5) 論文の原稿作成, 投稿, 発表までの過程を遂行できる。
- (2) 学会等実習
 - 1) 関連分野の様々な研究動向を理解し, 各自の研究に活用できる。
 - 2) 他者の研究発表を理解し, 適切に質疑討論できる。
 - 3) 自己の研究を明快に発表し, 質問等に対して適切に応答できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
研究実習等の学習状況にて評価する。
- (2) 評価基準
上記の授業あるいは相当する学習内容を修めていること。研究指導計画書 (研究実施経過報告書) を主指導教員に提出。
- (3) 評価結果の開示
希望者は主指導教員へ問合せをすること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

研究実習 (360時間) は, 各自の論文研究を具体的に実行するための時間ではなく, 研究遂行に必要な能力を養うためのもので, 各自の積極的な取り組みが必要です。

6. 参考書等

特になし。

7. 授業日程

主指導教員と相談の上, 研究実習時間を設定してください。

人 体 構 造 実 習 （選択 1 単位）

教科主任：倉 岡 晃 夫

開講期間：前学期 7月19日～8月2日 木曜 3・4時限

後学期 医学科解剖実習（10月2日～12月20日）の実施期間内

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

人体の構成について，細胞から，組織，器官の各レベルで系統的に理解し，それらの知識を個体へと還元できる能力を身につける。

2. 実習項目

		(担当者)
(1) 肉眼解剖学	生体構造機能学	倉岡 晃夫
	〃	菊池 泰弘
	〃	川久保善智
(2) 顕微鏡解剖学	生体構造機能学	城戸 瑞穂
	〃	村田 祐造
	統合基礎看護学	河野 史

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 肉眼解剖学
 - 1) 人体の正常な構造，各器官の位置関係を説明することができる。
 - 2) 各器官の相互関係とその形態的・機能的意義を学習し，個体レベルで統一的に理解する。
- (2) 顕微鏡解剖学
 - 1) 細胞内小器官の構造を理解し，その機能を述べることができる。
 - 2) 組織を構成する細胞とその形態学的，機能学的特異性を理解し，説明できる。
 - 3) 各器官がどのような組織で構成されているかを理解し，その機能的意義を認識する。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への参加状況，態度，口頭試験（またはレポート）の結果を基に総合的に評価する。口答試験およびレポートに関しては，実習時に連絡する。
- (2) 評価基準
成績の評価は，個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
口頭試験又はレポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は，電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
実習に出席し，各回のレポートを提出すること。なお，肉眼解剖学は，医学科解剖実習に合計5回（5日間）参加して見学実習を行う。（10月に入って配付する解剖実習予定表を参考にし，興味・関

心のある領域を選択して参加すること)

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

止むを得ない事情で出席できない場合には、各授業担当者に事前連絡・相談を行うこと。なお、実習の代替の学習はできない。

6. 参考書等

(1) 教科書

「からだの構造と機能」 A.シェフラー, S.シュミット著, 三木明德・井上貴央監訳, 西村書店, 1998, ¥5,184

(2) 参考書

肉眼解剖学

- 1) 「分担解剖学1・2・3」, 金原出版
- 2) 「日本人体解剖学 上・下」金子丑之助著, 南山堂
- 3) 「末梢神経解剖学」佐藤達夫監修, SCI
- 4) 「解剖学講義」伊藤隆著, 南山堂

顕微鏡解剖学

- 1) 「標準組織学総論・各論」藤田恒夫・藤田尚男共著, 医学書院
- 2) 「組織学」伊藤隆著, 南山堂
- 3) Ross組織学 Michael Ross著, 内山安男監訳, 南江堂
- 4) 「組織学Ⅰ・Ⅱ」ブルーム・フォーセット共著, 山田英智他監訳, 広川書店

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1, 2	7 月 19 日(木) 3, 4	組織学 (細胞の形態)	城戸他	上皮・腺細胞, 筋細胞, 神経細胞
3, 4	7 月 26 日(木) 3, 4	組織学 (組織の構成)	城戸他	上皮・腺組織, 支持組織, 筋組織, 神経組織
5, 6	8 月 2 日(木) 3, 4	組織学 (器官・臓器の構造)	城戸他	各種器官・臓器
7~16		肉眼解剖学	倉岡他	医学科解剖実習期間内に, 合計5回 (5日間) 参加して見学実習を行う

病 院 実 習 （選択1単位）

教科主任：山 下 秀 一

開講期間：前学期 6月8日～7月27日 金曜 1・2時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

臨床医学概論で得た知識を病院現場で認識し、個々の問題意識を明確にしてその問題解明への理論的思考法と研究態度を学ぶ。

2. 実習項目

(担当者)

(1) 総合診療部における診断と治療の実際	総 合 診 療 部	山下 秀一
(2) 手術部・集中治療部の業務と特殊性	麻 酔 ・ 蘇 生 学	坂口 嘉郎
(3) 放射線部の業務と特殊性	放 射 線 医 学	入江 裕之
(4) 救急部の業務と特殊性	救 急 医 学	阪本雄一郎
(5) 内科学における診断と治療の実際	内 科 学	木村 晋也
(6) 眼科学における診断と治療の実際	眼 科 学	江内田 寛
(7) 耳鼻咽喉科学における診断と治療の実際	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	倉富勇一郎
(8) 歯科口腔外科における診断と治療の実際	歯科口腔外科学	山下 佳雄
(9) 外科学における診断と治療の実際	一般・消化器外科学	能城 浩和

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

実習参加状況と実習態度およびレポートを基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、学習目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

- ・患者さんと接する場合は、言動に十分注意する。
- ・医師やコメディカルの人たちの通常業務の妨げにならないように注意する。
- ・清潔な服装、身なりを心がけ、原則として白衣を着用する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

- ・時間割が日程上無理な場合は、その担当教員と相談の上、新たな授業時間を決定する。

5. 参考書等

特になし。

6. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1, 2	6 月 8 日(金) 1, 2	総合診療部における診断と治療の実際	山 下	総合診療, 専門医との連携
3, 4	6 月 15 日(金) 1, 2	手術部・集中治療部の業務と特殊性	坂 口	手術部, 集中治療部の業務と特殊性
5, 6	6 月 22 日(金) 1, 2	放射線部の業務と特殊性	入 江	放射線部における検査と治療, 放射線障害
7, 8	6 月 29 日(金) 1, 2	救急部の業務と特殊性	阪 本	重症患者管理
9, 10	7 月 6 日(金) 1, 2	内科学における診断と治療の実際	木 村	診察, 診療, 薬物療法
11	7 月 13 日(金) 1	眼科学における診断と治療の実際	江内田	診察, 診療, 眼科的療法
12	7 月 13 日(金) 2	耳鼻咽喉科学における診断と治療の実際	倉 富	診察, 診療, 耳鼻科的療法
13, 14	7 月 20 日(金) 1, 2	歯科口腔外科における診断と治療の実際	山下佳	診断, 治療
15, 16	7 月 27 日(金) 1, 2	外科学における診断と治療の実際	能 城	診察, 診療, 外科的療法

※日程は予定であり, 変更になる場合がある。

医用統計学特論（選択1単位）

教科主任：川 口 淳

開講期間：前学期 水・木曜 3～4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

医学領域においてよく用いられる統計学的手法の基礎知識を理解し、具体的なサンプルデータと統計解析ソフトウェアを用いたコンピュータ演習により医学領域における研究に必要な統計解析の実践的技術を修得することを目標とする。

2. 講義・演習項目

- (1) データの表示
- (2) 推定と検定
- (3) 連続量の群間比較
- (4) 分割表解析
- (5) 相関と回帰
- (6) 回帰分析
- (7) 生存時間解析
- (8) データ解析

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) データの適切な要約及び表示ができる。
- (2) 研究の目的及び変数の分類に応じた統計学的解析法を選択できる。
- (3) 医学データに対してソフトウェアなどにより統計学的解析を実行できる。
- (4) 統計学的解析結果を解釈できる。
- (5) 多変量解析を行う上での適切な検討をすることができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
出席状況，レポート提出，演習課題提出等によって総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は，個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポートの採点結果，配点，成績等の解説と個別指導を行う。希望者は，結果発表後1月程度の期間内に，オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
コンピュータ実習室を使用し，演習を主に行うので情報処理の基本的な知識を前提とする。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
授業は日程表どおりに行い，授業を撮影したビデオを出席できなかった学生に視聴させる。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし。

(2) 参考書

- 1) 「ここから学ぼう!図解医療統計」, 柳澤尚武, 西崎祐史 (著) 代田浩之 (監修), 総合医学社, ¥3,024
- 2) 「医療系のための統計入門」景山 三平, 藤井 良宜, など, 実教出版, ¥2,376
- 3) 「JMPによる医療系データ分析」内田 治, 平野 綾子, 石野 祐三子, 東京図書, ¥3,456
- 4) 「初心者でもすぐにできるフリー統計ソフトEZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析」神田善伸, 南江堂, ¥4,101

7. 日程表

No.	月 日 (曜)	時限	項 目	キ ー ワ ー ド
1	4 月 12 日 (木)	3	データの表示	ヒストグラム, 箱ひげ図, 平均値, 標準偏差
2		4	推定と検定	区間推定, 統計学的仮説検定
3	4 月 25 日 (水)	3	連続量の群間比較	t 検定, ウィルコクソン検定, 対応のある検定
4		4	分割表解析	割合, オッズ比, カイ二乗検定, フィッシャーの直接確率検定
5	5 月 9 日 (水)	3	相関と回帰	相関係数, 単回帰分析
6		4	回帰分析	重回帰分析, ロジスティック回帰, 共変量, 層別解析, 変数選択
7	5 月 30 日 (水)	3	生存時間解析	カプランマイヤー曲線, ログランク検定, コックスの比例ザードモデル
8		4	データ解析	解析結果の表作成, 解釈

医 用 情 報 処 理 特 論 (選択1単位)

教科主任：富 永 広 貴

開講期間：前学期 6月4日～7月2日 月曜 2・3時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

まず、情報処理技術の基本としてデータサイエンス、ゲノム解析において使用されることの多いプログラム言語Pythonの初歩を学ぶ。その後、応用として時系列解析に関する基礎理論を学んだ上で、Pythonや統計処理言語Rを用い実践する。更に、昨今、医学分野でも使用される事が増えてきたAI（人工知能）の基盤技術である機械学習、ニューラルネットワーク、Deep learningなどの基礎を学習する。

2. 講義項目

(担当者)

(1) プログラム言語解説と演習	地域医療科学教育研究センター	富永 広貴
(2) フーリエ解析・ウェーブレット解析		〃
(3) カオス理論		〃
(4) 時系列解析演習		〃
(5) AI（人工知能）の基礎と演習		〃

3. 個別行動目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) 医用情報処理の基礎
 - 1) 情報処理技術の基礎としてProgram言語を使えるようになる。
- (2) 医用情報処理の応用
 - 1) 時系列解析手法の基礎であるフーリエ解析、その拡張としてのウェーブレット変換による解析などを理解し、説明することができる。
 - 2) カオス現象とその非線形データ解析への応用を理解し、説明することができる。
 - 3) AI（人工知能）の基盤となる技術を説明することができる。
 - 4) これらの基礎理論を実データに対して適用し解析することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

出席状況（50%；欠席の場合は後日DVDを視聴しレポート提出），講義終了後のレポート提出（50%）による評価。
- (2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示

希望者は、評価発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

なし。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業は日程表どおりに行い、出席できなかった学生には授業を撮影したビデオを視聴させる。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし。

(2) 参考書

- 1) 「みんなのPython」柴田淳著，SBクリエイティブ株式会社
- 2) 「カオス時系列解析の基礎と応用」合原一幸編，産業図書
- 3) 「スペクトル解析」日野幹雄著，朝倉書店

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6 月 4 日(月) 2	プログラム言語解説と 演習(1)	富 永	プログラム言語Python
2	6 月 11 日(月) 2	プログラム言語解説と 演習(2)	〃	Python, R
3	6 月 18 日(月) 2	プログラム言語解説と 演習(3)	〃	〃
4	6 月 18 日(月) 3	フーリエ解析・ ウェーブレット解析	〃	フーリエ解析，ウェーブレット解析
5	6 月 25 日(月) 2	カオス理論	〃	カオス，フラクタル，非線形系
6	6 月 25 日(月) 3	時系列解析演習	〃	Python, Rを用いた演習
7	7 月 2 日(月) 2	AI(人工知能)の基礎と 演習	〃	機械学習，ニューラルネットワーク， Deep learning
8	7 月 2 日(月) 3	〃	〃	〃

実験動物学特論（選択1単位）

教科主任：北 嶋 修 司

開講期間：前学期 6月4日～7月30日 月曜 1時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

なぜ動物実験を行うのか、再現性の高い動物実験を実施するためには何が必要なのかを理解するとともに、実験動物の福祉および動物実験の法的規制を理解する。また、総合分析実験センターで行っている発生工学手法を用いた新たな実験動物技術についても理解する。

2. 講義項目

		(担当者)
(1) 実験動物学とは—総論—	総合分析実験センター	北嶋 修司
(2) 動物実験に係る法律—国内・国外—	〃	〃
(3) 実験動物の種類	〃	〃
(4) 実験動物の飼養環境	〃	〃
(5) 実験動物に関する人獣共通感染症と微生物	〃	松久 葉一
(6) 実験動物の麻酔	〃	北嶋 修司
(7) 実験動物の安楽死法	〃	〃
(8) 発生工学的手法を用いた新たな実験動物学	〃	松久 葉一

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 実験動物学とは—総論—
 - 1) 適正な動物実験を説明できる。
 - 2) 実験動物の育種および遺伝的モニタリングについて説明できる。
- (2) 動物実験に係る法律—国内・国外—
 - 1) 国内における動物実験に関する法律および基準・指針について説明できる。
 - 2) 国外における動物実験に関する法律および基準・指針について、国内法と比較して説明できる。
- (3) 実験動物の種類
 - 1) 哺乳類に分類される実験動物について説明できる。
 - 2) 哺乳類以外の実験動物について説明できる。
- (4) 実験動物の飼養環境
 - 1) 実験動物に影響を与える環境要因を説明できる。
 - 2) 実験動物を使用するのに最適な飼育環境を説明できる。
- (5) 実験動物に関する人獣共通感染症と微生物
 - 1) 実験動物からヒトに感染する人獣共通感染症と微生物とその原因となる微生物について説明できる。
 - 2) 実験動物を飼育するにあたり、注意すべき感染症を挙げ、原因となる微生物とそのモニタリングについて説明できる。
- (6) 実験動物の麻酔
 - 1) 実験動物の適正な麻酔について説明できる。
 - 2) 実験動物の術後鎮痛について説明できる。
- (7) 実験動物の安楽死法
 - 1) 動物福祉に基づいた適正な安楽死方法について説明できる。
- (8) 発生工学的手法を用いた新たな実験動物学
 - 1) 遺伝子組換え動物の作製法について説明できる。

2) 精子および胚の凍結保存について説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

講義終了後のレポートによる評価。課題等については授業時に連絡する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

特になし。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は下記の日程表の日時どおりに実施されます。止むを得ない事情で出席できない場合には、教科主任者に事前連絡・相談を行い、代替の学習手段（講義ビデオの視聴、集中講義、自己学習法、学習内容に関する質問等の方法など）について指示と指導を受けること。

6. 参考書等

(1) 教科書

特に選定しない。

(2) 参考書

- 1) 「実験動物学」田嶋嘉雄監修，朝倉書店
- 2) 「実験動物技術体系」日本実験動物技術者協会編，アドスリー
- 3) 「ラボラトリーアニマルの麻酔」倉林 譲監修，学窓社
- 4) 「Laboratory animal medicine」Fox et al, 2nd edt, Academic Press

7. 日程表

No.	月日(曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6 月 4 日(月) 1	実験動物学とは—総論—	北 嶋	適正な動物実験，育種，遺伝的モニタリング
2	6 月 11 日(月) 1	動物実験に関係する法律 —国内・国外—	〃	動物の愛護と管理に関する法律，国内の基準，国外の法律
3	6 月 18 日(月) 1	実験動物の種類	〃	哺乳類，非哺乳類
4	6 月 25 日(月) 1	実験動物の飼養環境	〃	温度，湿度，照度，騒音
5	7 月 2 日(月) 1	実験動物に関する人獣共通感染症と微生物	松 久	人獣共通感染症，微生物モニタリング
6	7 月 9 日(月) 1	実験動物の麻酔	北 嶋	吸入麻酔，注射麻酔，術後鎮痛
7	7 月 23 日(月) 1	実験動物の安楽死	〃	動物実験の倫理，適正な安楽死法
8	7 月 30 日(月) 1	発生工学的手法を用いた新たな実験動物学	松 久	マイクロインジェクション，精子および胚の凍結保存

実験・検査機器特論（選択1単位）

教科主任：未 定

開講期間：※平成30年度未開講

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

医学実験において使用する分析機器の取り扱いの概要を学ぶ。試料の分離やその物理量の測定、病態の診断などの目的に様々な分析機器を使用するが、その動作原理と使用法を正しく把握しておく必要がある。組織、細胞、生体構成分子といった研究対象について、どの機器を使用して、どのような情報が取得できるか、さらにその使用限界や有効性を知る必要がある。

2. 講義項目

- (1) 生体成分分析
- (2) 細胞・組織解析
- (3) 光学的測定
- (4) 電氣的測定
- (5) 放射線測定

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 生体成分解析
 - 1) 核酸、タンパク質など生体成分の化学構造を把握し、その単離法ならびに解析法を説明できる。
 - 2) それらによって行われる生体反応ならびに生理活性の分析法について説明できる。
- (2) 細胞・組織解析
 - 1) 光学顕微鏡や電子顕微鏡の試料作製、観察を通して生体の基本構造と異常構造を説明できる。
 - 2) 生細胞集団の分離法の原理と解析法について説明できる。
- (3) 光学的測定
 - 1) 吸光、蛍光、化学発光等を用いた生体成分の分析に用いられる機器の原理と操作法について説明できる。
- (4) 電氣的測定
 - 1) 細胞の電氣的生理学的研究に用いられる機器の原理と操作法について説明できる。
- (5) 放射線測定
 - 1) 放射線ならびに放射性物質の概要を説明できる。
 - 2) 放射線の発生方法、測定法、応用方法を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
講義への参加状況（20%）、ならびに各講義で課される課題（80%）により5段階の評価を行う。
講義出席が60%に満たない場合は、不可とする（社会人学生の場合は要相談）。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目し、以下の基準により行う。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
成績開示期間に評価結果の開示を行う。閲覧を希望する者は、教科主任に問合せること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
遅刻、欠席があった場合には評価がなされない場合がある。また、課題の提出は期限を守ること。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
eラーニング等で社会人学生の履修に対応することが可能だが、その場合の履修方法等については、教科主任に事前相談すること。事前相談がない場合は特段の対応は行わない。
- (3) 講義に直接参加できる受講生が3名に満たない場合は開講しないことがある。
- (4) 留学生等外国人学生に対する履修上の注意 Notice for foreign student registration.
外国人学生等で日本語の理解が困難な場合は、履修方法等について、教科主任に事前相談すること。
If you are not familiar with Japanese as foreign student, ask the supervisor your registration.

6. 参考書等

- (1) 教科書
なし。
- (2) 参考書
なし。

7. 日程表

No.	項 目	キ ー ワ ー ド
1	生体成分分析(1)	DNA 解析（核酸塩基配列解析，SNPs 解析，次世代シーケンサー他）
2	生体成分分析(2)	RNA 解析・遺伝子発現解析（RT-PCR，マイクロアレイ他）
3	生体成分分析(3)	タンパク質構造解析，プロテオミクス，分子間相互作用
4	細胞・組織解析(1)	光学顕微鏡，共焦点レーザー顕微鏡，電子顕微鏡， in situ hybridization
5	細胞・組織解析(2)	生細胞解析装置，生細胞イメージング
6	光学的測定	吸光分析，蛍光分析，化学発光分析
7	電氣的測定	電気生理，膜電位，プラズマ
8	放射線測定	線量測定，放射性同位元素，放射線防護

バイオテクノロジー特論（選択1単位）

教科主任：副 島 英 伸

開講期間：1年次 通年

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

遺伝子操作技術は、生命現象における遺伝子機能の研究手段として発達した。しかし、今日ではこの技術が生化学、発生学、細胞学の技術と組み合わさったバイオテクノロジー技術が急速に進歩している。この技術は、基礎生物学、基礎医学、臨床医学の研究手段として有用なだけでなく、臨床医学での治療や農業、畜産などの産業での応用面でも非常に重要になっている。本科目では、医学・生物学に携わる人間に必要なバイオテクノロジーの基礎から応用までを習得することを目的とする。

2. 講義項目

（担当者）

(1) タンパク質工学	全学教育機構	福留 健司
(2) 遺伝子工学	分子生命科学	東元 健
(3) モノクローナル抗体	〃	吉田 裕樹
(4) ゲノム情報	〃	出原 賢治
(5) 発生工学	〃	副島 英伸
(6) 遺伝子治療	〃	東元 健
(7) 再生医療	〃	副島 英伸

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) タンパク質工学
 - 1) タンパク質の機能に関与する翻訳後修飾について説明できる。
 - 2) ペプチド・タンパク質の各種合成系と発現系の利点と欠点を説明できる。
 - 3) タンパク質の構造解析方法について説明できる。
- (2) 遺伝子工学
 - 1) 組換えDNAの作製原理を説明できる。
 - 2) PCR（遺伝子増幅）の原理を説明できる。
- (3) モノクローナル抗体
 - 1) モノクローナル抗体の作製法と利用法について説明できる。
- (4) ゲノム情報
 - 1) 疾患の遺伝様式を理解できるようにする。
- (5) 発生工学
 - 1) トランスジェニックマウス，ノックアウトマウス，クローンマウスについて，その作製法，利用について説明できる。
- (6) 遺伝子治療
 - 1) 遺伝子治療のベクター，その治療戦略について説明できる。
- (7) 再生医療
 - 1) 幹細胞の特徴ならびにそれによる治療法について概要を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

講義項目に関するレポートおよび指定セミナーへの出席を基に総合的に評価する。
指定セミナーに関しては学生課を通じて連絡する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、評価結果発表後1月程度の期間内にオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。事前にメールで予約を取ることが望ましい。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

履修希望者は必ず教科主任に連絡すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

同上。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし。

(2) 参考書

- 1) 「細胞の分子生物学」 Alberts B.他著 中村桂子他監訳 第5版 ニュートンプレス
- 2) 「遺伝子」 Lewin B 著 菊池韻彦他訳 第7版 東京科学同人
- 3) 「ゲノム」 Brown TA 著 村松正実監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- 4) 「Essential細胞生物学」 Alberts B 他著 中村桂子他監訳 南江堂
- 5) 「ヒトゲノムの分子遺伝学」 Gelehrter TD 他著 清水信義監訳 医学書院
- 6) 「免疫学コア講義」 木本雅夫, 阪口薫雄, 山下優毅編著 南山堂
- 7) 「Immunobiology; The Immune System in Health and Disease」 Janeway CA 著, Garland Pub.
- 8) 「ヒトの分子遺伝学」 Strachan T, Read A 著 村松正実, 木南凌監修監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 第3版
- 9) 「ヒトの分子生物学」 Richard J Epstein 著 村松正実監訳 丸善
- 10) 「絵とき再生医学入門」 朝比奈欣治, 立野知世, 吉里勝利著 羊土社

7. 日程表

日時、内容については、各担当教員の指示に注意してください。

解剖学特論（選択1単位）

教科主任：倉 岡 晃 夫

開講期間：後学期 10月15日～12月3日 月曜 1時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

人体の構造的脆弱性と恒常性を主題として、従前の講義とは異なる視点で人体構造を概観した上で、その精緻さ故に生じうる各種疾患のリスク・病態を学び、人体の包括的理解の一助とする。また、生体の恒常性（homeostasis）を司る自律神経系に関して、特定の調節系について深く学習し、生体の恒常性を支える構造・仕組みを総合的に理解する。

2. 講義項目

（担当者）

（1）ヒトの体の弱点—人体解剖学と疾患—

生体構造機能学

倉岡 晃夫

（2）生体恒常性の仕組み—神経系—

生体構造機能学

城戸 瑞穂

〃

村田 祐造

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- （1）器官系，区画化（コンパートメント化）をキーワードとして人体構築の概要について説明できる。
- （2）人体の構造的脆弱性に基づく各種疾患につき文献等により自己学習し，学習成果をパワーポイントによりプレゼンテーションできる。
- （3）中枢および末梢自律神経系の概要について説明できる。
- （4）自身の研究テーマと関連する神経系の調節機構について，過去の報告を踏まえた上で今後の研究を進めるための課題を明確化し，その過程と今後の取り組みについて，スライド等によりわかりやすくプレゼンテーションできる。

4. 成績評価の方法と基準

（1）評価方法

授業への参加状況，態度，自己学習への取組状況，プレゼンテーションおよびディスカッション（必要に応じてレポートを課すこともある）の状況を基に総合的に評価する。

（2）評価基準

成績の評価は，個別行動目標の到達状況を指標として次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

（3）評価結果の開示

評価結果，成績等の解説と個別指導を行う。希望者は，評価結果発表後1月程度の期間内に，オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

（1）一般的な履修上の注意

人体の仕組みに関する深い理解とともに形態学的な手法を用いた研究を志す積極的な学生の参加を求めます。自己学習成果の発表と討論による授業を行うので，高度の自主学習意欲が要求されます。

（2）社会人学生に対する履修上の注意

各講義は下記の日程で実施されます。止むを得ない事情で出席できない場合には，各講義担当者に

事前連絡・相談を行い、代替の学習手段（講義ビデオの視聴、学習課題レポートの指示、自己学習法、学習内容に関する質問等の方法など）について指示と指導を受けること。ただし、プレゼンテーションの回については、出席を原則とする。

(3) 準備学習等

前学期に開講の「人体構造機能学概論」を履修しておくこと。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし。

(2) 参考書

講義テーマに関連した論文等を、その都度提示する。

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	内 容 等
1	10 月 15 日(月) 1	人体解剖学と疾患(1)	倉 岡	人体の構造的脆弱性と疾患（講義）
2	10 月 22 日(月) 1	人体解剖学と疾患(2)	倉 岡	各自のテーマに沿った自己学習
3	10 月 29 日(月) 1	人体解剖学と疾患(3)	倉 岡	プレゼンテーション 1
4	11 月 5 日(月) 1	人体解剖学と疾患(4)	倉 岡	プレゼンテーション 2
5	11 月 12 日(月) 1	神経系(1)	城 戸 村 田	中枢・末梢神経系概説
6	11 月 19 日(月) 1	神経系(2)	城 戸 村 田	各自のテーマに沿った自己学習
7	11 月 26 日(月) 1	神経系(3)	城 戸 村 田	プレゼンテーション 1
8	12 月 3 日(月) 1	神経系(4)	城 戸 村 田	プレゼンテーション 2

生 理 学 特 論 （選択 1 単位）

教科主任：藤 田 亜 美

開講期間：前学期 6月14日～7月5日 木曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

人体の生理機能の中で、血液循環に働く心臓と、情報伝達に働く感覚・神経系の2つを取りあげ、それぞれの働きと、その制御の仕組みを細胞膜および受容体やイオンチャネルレベルで学習する。また、チャネルタンパク異常による機能異常も学ぶ。これらにより心臓および感覚・神経系の働きをチャネルレベルで理解できることを目指す。

2. 授業項目と概要

- (1) 神経と受容体・イオンチャネル（6月14日）（担当者）生体構造機能学 藤田 亜美
人体の生理機能の中で感覚・神経系の働きを取りあげ、感覚情報処理におけるイオンチャネルおよび受容体の役割を説明する。
- (2) イオンチャネルは心臓の拍動をもたらす（6月21日）（担当者）生体構造機能学 塩谷 孝夫
この講義は、心臓の正常拍動のメカニズムを取りあげる。心臓に存在するイオンチャネルや受容体と、それらの機能が心臓の自動能、興奮伝導、および興奮収縮連関にはたす役割について概説する。
- (3) 痛覚と受容体・イオンチャネル（6月28日）（担当者）生体構造機能学 藤田 亜美
人体の生理機能の中で痛覚情報伝達機構を取りあげ、神経系の受容体やイオンチャネルが痛覚情報伝達機構において果たす役割を説明する。
- (4) イオンチャネル病と遺伝性不整脈（7月5日）（担当者）生体構造機能学 塩谷 孝夫
この講義は、イオンチャネルの遺伝的変異で生じる不整脈を取りあげる。遺伝性QT延長症候群と遺伝性拡張型心筋症を例にとり、イオンチャネルや受容体の異常による心臓の機能破綻について概説する。

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 神経と受容体・イオンチャネル
 - 1) 体外および体内の環境情報を受容する感覚器の働きを、細胞膜やイオンチャネルレベルで説明できる。
 - 2) 感覚情報を中枢神経系（脳や脊髄）へ伝える仕組みや中枢神経回路の働きによる感覚情報処理の仕組みをシナプス伝達制御の観点から説明できる。
- (2) イオンチャネルは心臓の拍動をもたらす
 - 1) 心臓に存在する主なイオンチャネルと受容体の、種類と特性について説明できる。
 - 2) 心臓の自動能、興奮伝導、および興奮収縮連関を、イオンチャネルの機能から説明できる。
- (3) 痛覚と受容体・イオンチャネル
 - 1) 痛覚に関して、その定義や歴史的背景について説明できる。
 - 2) 痛覚を中枢神経系へ伝達する仕組みや痛覚情報処理の仕組みについて、受容体やイオンチャネルレベルで説明できる。

(4) イオンチャネル病と遺伝性不整脈

- 1) チャネロパチー（イオンチャネル病）の概念と、代表的な病態について説明できる。
- 2) イオンチャネルや受容体の遺伝的変異が、致死性の不整脈をもたらすメカニズムを説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業終了後に授業内容に関するレポートの提出を求め、レポート内容の評価結果と出席状況等を基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の修得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで各講義担当者に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

授業に出席することにより講義内容を理解し、その内容に関するレポートを書くことで自己学習を行い、学習目標を達成すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義に止むを得ない事情で出席できない場合には、事前に各講義担当者に連絡・相談を行い、代替の学習手段（講義ビデオの視聴、課題レポートの提出など）について指示を受けること。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし。

(2) 参考書

- 1) 「生理学テキスト」大地陸男著，文光堂，第8版，2017，¥5,400
- 2) 「標準生理学」小澤瀨司・福田康一郎監修，医学書院，第8版，2014，¥12,960
- 3) 「脳とニューロンの生理学 情報伝達・発生・意識」小島比呂志・大谷悟・熊本栄一・仲村春和・藤田亜美著，丸善出版，2014，¥5,880
- 4) Ion Channels of Excitable Membranes (3rd ed), Bertil Hille, Sinauer Associates Inc, 2001, ¥17,502

分子生化学特論（選択1単位）

教科主任：出 原 賢 治

開講期間：後学期 集中

1. 学習目標 (G.I.O., S.B.O.)

DNA, RNA, タンパク質の発現, 機能, 維持機構について解説を行い, 細胞あるいは生体が生命を維持している仕組みについて理解する。

2. 授業項目と概要

(1) 遺伝子発現機構 (担当者) 分子生命科学 副島 英伸

生物はそれが持つ多くの遺伝子を, 必要なとき, 必要な場所に応じてその発現のオンとオフを行い調和のとれた生命活動を営んでいる。この正常な生命活動に必須な遺伝子発現の調節を理解することは重要である。この発現調節は, 遺伝子発現の各過程: 転写, 転写産物のプロセッシング, 翻訳で行われている。この現象について, 具体例を紹介しながら, そのメカニズムを理解してもらう。

(2) エピジェネティクス (担当者) 分子生命科学 副島 英伸

近年, 高等真核生物のゲノムのエピジェネティックな修飾の遺伝子発現調節における重要性が理解されつつある。具体的には, DNAのシトシン塩基のメチル化, クロマチンタンパク質のヒストンのアセチル化, メチル化, リン酸化等である。これらは, 多くの遺伝子の発現調節だけでなく, ゲノムインプリンティングや細胞のがん化においても重要である。この現象に関する最新の知見について講義する。

(3) 制限酵素学 (担当者) 分子生命科学 出原 賢治

制限酵素は最もよく販売されている酵素標品である。DNAのいわゆるパリンドローム配列を厳密に認識する酵素群であるが, その作用機作について詳しく分かっていない。現在までに立体構造が判明している酵素はEcoRI, BamHIなど数種類しかない。だが, 蛋白工学的手法を用いて作用機作の統一的な説明をする努力がなされている。また, この手法で新規な制限酵素を作ろうという方向も芽生えている。さらに, 高崎, 渡邊らによって解明されたHindIIIの立体構造について説明する。

(4) ペプチド・タンパク質の構造—機能相関 (担当者) 分子生命科学 布村 聡

ペプチド・タンパク質は生体の形態形成や恒常性維持などに実質的に働く生体分子である。これらがどのようにして特異的機能を発現するのか, その機構の解明はポストゲノム時代の重要課題の一つである。ここではペプチド・タンパク質の構造—機能相関について, 以下の例をあげて説明する。

1) ペプチドホルモン, 2) タンパク質リン酸化酵素, 3) 細胞骨格タンパク質。

(5) 糖鎖生物学 (担当者) 分子生命科学 池田 義孝

糖鎖はタンパク質, 核酸と並ぶ生体高分子であり, 多種多様な構造をもち様々な生命現象に関与していることが近年明らかにされてきている。本講義では糖鎖の種類や分類, 構造について述べるとともに, 他の生体高分子とは異なる生合成の特徴やいくつかの生物学的機能について解説する。

- (6) 細胞内情報伝達機構 (担当者) 分子生命科学 出原 賢治

細胞は細胞外からの種々の刺激に反応して発現型を変化させることにより、多細胞より成る生体を維持するとともに、生体防御を行っている。種々の刺激を細胞内に伝達させる仕組みを情報伝達機構と呼んでおり、本講義ではこれについて説明を行う。さらに、情報伝達機構の異常によって引き起こされる疾患発症機序についても解説する。

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

レポートの結果を基に総合的に判断する。

- (2) 評価基準

成績の評価は、学習目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

試験答案の成績等に関して、希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

履修希望者は予め教科主任に連絡すること。

5. 参考書等

特になし。

6. 履修選択に関するアドバイス

授業の日時、内容については担当教員の指示に注意してください。

微生物学・免疫学特論（選択1単位）

教科主任：吉 田 裕 樹

開講期間：前学期 集中

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

G.I.O.

病原体とそれに対する生体反応について、より詳しく理解を深める。

S.B.O.

- (1) サイトカイン・ケモカインの役割やその機能について述べる事が出来る。
- (2) 病原体に対する免疫や病原体特有の免疫回避機構について述べる事が出来る。
- (3) 自然免疫の分子機構について述べる事が出来る。
- (4) ウイルス感染による発ガン機構について述べる事が出来る。
- (5) ウイルスの増殖機構，抗ウイルス薬の作用について述べる事が出来る。
- (6) 薬剤耐性菌の耐性発現機序について具体的に述べる事が出来る。
- (7) 細菌のクオラムセンシングについて述べる事が出来る。
- (8) 生物剤に使用される可能性の高い微生物による感染症の診断，治療，予防法について説明出来る。

2. 授業項目と概要

（担当者）

(1) サイトカインとケモカインの機能 サイトカインとケモカインの役割・シグナル伝達機構	分子生命科学	吉田 裕樹
(2) 宿主と病原体の攻防 病原体に対する免疫と，病原体による免疫回避機構	〃	三田村文香
(3) 自然免疫の認識分子と細胞内シグナル伝達 自然免疫の重要性と適応免疫との関連性	〃	三宅 靖延
(4) ウイルス感染による腫瘍発生機構	病因病態科学	菖蒲池健夫
(5) ウイルスの細胞内増殖機構	〃	久木田明子
(6) 抗菌薬耐性菌の薬剤耐性機構	〃	宮本比呂志
(7) 細菌のクオラムセンシング機構	〃	〃
(8) 生物テロに使用される可能性が高い生物剤	〃	〃

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
「レポート」（100%）
- (2) 評価基準
成績の評価は，個別学習目標の習得状況に着目して次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
希望者は結果発表後1ヵ月以内にオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員に直接問い合わせること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

授業の日時，内容については担当教員の指示に従うこと。

5. 参考書等

- (1) 教科書
なし。

(2) 参考書

- 1) 「ヒトの分子遺伝学」(第2版) 村松正實他監修・監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル
- 2) 「免疫学コア講義」(改訂4版) 熊ノ郷淳・阪口薫雄・竹田潔・吉田裕樹編, 南山堂, ¥5,000
- 3) 「Janeway's Immunobiology」Kenneth Murphy 著, ペーパーバックGarland Science; 8版, ¥9,456 (参考価格)
- 4) 「微生物感染学」光山正雄編, 南山堂, ¥4,800

6. 履修選択に関するアドバイス

この特論を学習することにより, 実験に直接関連する知識・技術の基礎が習得できる。

7. 日 程 表

No.	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	自然免疫	三 宅	病原体認識, 貧食, マクロファージ, 樹状細胞, 受容体, シグナル伝達
2	自然免疫	三 宅	病原体認識, 貧食, マクロファージ, 樹状細胞, 受容体, シグナル伝達
3	自然免疫と獲得免疫	三 宅	リンパ球, サイトカイン, 抗体
4	自然免疫と獲得免疫	三 宅	リンパ球, サイトカイン, 抗体
5	造血とサイトカイン	久木田	骨芽細胞, 破骨細胞, 骨髄細胞, CFS, 分化, サイトカイン
6	食細胞	久木田	マクロファージ, 好中球, 破骨細胞, 貧食, 骨吸収
7	感染症と生物的・社会的環境	宮 本	寄生物, 宿主, 媒介動物, 生物的環境, 社会的環境, 進化, 共生
8	病原因子ならびに内因性殺菌物質	宮 本	きょう膜, マクロファージ, 細胞内寄生, ディフェンシン
9	病原体特異的代謝機構	三田村	寄生虫, 代謝経路, 創薬
10	病原体特異的代謝機構	三田村	寄生虫, 代謝経路, 創薬
11	病原体による免疫回避	三田村	寄生虫, ウイルス, 細菌, 免疫不全, 免疫回避
12	病原体による免疫回避	三田村	寄生虫, ウイルス, 細菌, 免疫不全, 免疫回避
13	内毒素と外毒素	菖蒲池	グラム陰性菌, LPS, リピドA, スーパー抗原
14	腫瘍免疫	吉 田	腫瘍に対する免疫, 免疫抑制, 免疫療法
15	獲得免疫	吉 田	リンパ球, エフェクター細胞, メモリー細胞, 液性免疫, 細胞性免疫
16	サイトカイン・ケモカイン	吉 田	サイトカイン, 受容体, ケモカイン

薬物作用学特論（選択1単位）

教科主任：野 出 孝 一

開講期間：後学期 10月15日～12月3日 月曜 2時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

人体に投与された薬物がどのように吸収・代謝・排泄されるかを知り、薬物動態の基礎知識を得る。次に、神経系に働く薬物を取り挙げて効果を発揮する仕組みを知り、神経薬物作用を細胞膜レベルで理解できるようにする。最後に、中枢神経系、特に精神機能に働く薬物、また心血管作動薬の作用機序と治療への応用を取り挙げて臨床的に薬物がどのように使用されるかを知り、薬物臨床応用の一端が理解できるようにする。

2. 授業項目と概要

- (1) 薬物動態（10月15日・22日）（担当者）※前年度DVD視聴
病気治療のために投与された薬物は、体内に吸収された後、血流を介して作用器官に分布して薬効を表し、肝臓などで代謝されて腎臓などから排泄される。この薬物動態の一連の仕組みと、これに影響する因子、また、投与に際しての剤形の工夫などについて講義する。これを通して、臨床における疾病時の薬物療法の実際について理解する。
- (2) シナプス伝達と薬物（10月29日・11月5日）（担当者）生体構造機能学 藤田 亜美
神経情報伝達制御において重要な役割を果たすシナプスは様々な薬物のターゲットである。神経伝達物質放出が起こる神経終末と神経伝達物質を受容するシナプス後細胞のそれぞれに作用する薬物とその作用機構、そして、この作用によりシナプス伝達効率がどのように変化するかを講義する。これらを通して神経系に働く薬物が生理機能に影響を及ぼす仕組みを理解する。
- (3) 心血管作動薬の作用機序と治療への応用（11月12日・11月19日）（担当者）内科学 野出 孝一
※前年度DVD視聴
利尿薬、強心薬、血管拡張薬、ベータ遮断薬などの心血管作動薬の薬物動態、作用機序、併用効果、有害作用と各種疾患治療への応用法を学習することによって、合理的根拠を持った薬物治療の重要性を理解させる。
- (4) 精神機能と薬物（11月26日・12月3日）（担当者）精神医学 門司 晃
うつ・不安障害・統合失調症など精神機能に異常を示す患者に投与された薬物が血液脳関門を通して脳内にどのように取り込まれ、脳のどの領域に作用し、どのような仕組みでその作用を発揮するかを講義する。これを通して向精神薬の臨床応用の一端を理解する。

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業終了後に授業内容に関するレポートの提出を求め、その内容を基に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
授業に出席することにより講義内容を理解し、その内容に関するレポートを書くことで自己学習を行い、学習目標を達成すること。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
各講義は授業日程表の日時で実施されるが、止むを得ない事情で出席できない場合には各講義担当者に事前連絡・相談を行い、代替の学習手段（講義ビデオの視聴、課題レポートの提出など）について指示を受けること。

5. 参考書等

- (1) 教科書 なし。
- (2) 参考書
 - 1) 「医系薬理学」改訂2版 遠藤仁・橋本敬太郎・後藤勝年・金井好克編著、中外医学社、2005、¥10,500
 - 2) 「NEW薬理学」改訂5版 田中千賀子・加藤隆一編集、南江堂、2007、¥9,240
 - 3) 「脳とニューロンの生理学 情報伝達・発生・意識」小島比呂志・大谷悟・熊本栄一・仲村春和・藤田亜美著、丸善出版、2014、¥5,880

病 理 学 特 論 （選択 1 単位）

教科主任：戸 田 修 二

開講期間：後学期 集中

1. 学習目標 (G.I.O., S.B.O.)

近年の分子生物学の発達は目覚ましく、医学の分野においても遺伝子レベルで疾患の解明が進みつつある。しかし、疾病の原因、発生機序、病的変化、その経過および転帰を理解するためには先ず幅広い病態生理を理解することが大切である。病理学特論では、特に生体にとって重要な細胞や組織が障害された場合の生体の変化や再生・修復機構について理解する。

2. 授業項目と概要

(担当者)

- | | | |
|---|--------|-------|
| (1) 脂肪細胞 | 病因病態科学 | 戸田 修二 |
| 脂肪細胞の新しい生物学的特性について学ぶ。 | | |
| (2) 再生医学 I, II | 病因病態科学 | 戸田 修二 |
| 再生医学の基礎と基本概念、応用を学び未来医学を展望する。 | | |
| (3) 血管 I, II, III | 病因病態科学 | 相島 慎一 |
| 血管内皮細胞の形態と機能を中心に、内皮細胞が炎症、免疫、癌の血行性転移に関与する機構を学ぶ。また、近年の血管新生の概念と治療への可能性についても学ぶ。 | | |
| (4) 細胞診断学 I, II | 病因病態科学 | 青木 茂久 |
| 細胞診断学の基礎と実際の診断方法を学ぶ。特に子宮癌における細胞診断を例にして、がん検診における問題点も含め社会的展望を行う。 | | |

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
質疑応答、レポート、出席状況等による総合評価
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義内容によっては実習を途中で組み入れることがある。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
講義の振り替えとして研究室の研究発表会や臨床病理カンファレンスに参加することで履修と認める。

5. 参考書等

(1) 教科書

なし。

(2) 参考書

- 1) 「循環器疾患の成因3（肥満と循環器疾患）」今井・細田監修，ライフサイエンス社，2001，¥5,000
- 2) 「肥満・肥満症の指導マニュアル」日本肥満学会編，医歯薬出版，第2版 2001，¥3,200
- 3) 「再生医学と再生医療」室田誠逸編，現代化学増刊41，東京化学同人，2002
- 4) 「Cardiovascular Pathology」T. Silver et al., Churchill Livingstone, Third Edition
- 5) 「～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方」西国広，近代出版，第二版 2007，¥8,000

6. 履修選択に関するアドバイス

脂肪細胞を通した生活習慣病から，再生医学，血管内皮細胞，脳神経，大腸など幅広い分野の病態生理を学ぶことができる。

日本語の参考書からは日本語の正しい表現や発表の方法を，英語の参考書からは医学や生物学用語に慣れ，外国語の医学論文を自由に読みこなせる力をつけて欲しい。

7. 日程表

No.	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	脂肪細胞	戸 田	アジボサイトカイン，増殖，三次元培養
2	再生医学Ⅰ	〃	増殖，分化，サイトカイン，細胞外基質，情報伝達，組織再生，胚性幹細胞，組織幹細胞，微小環境
3	再生医学Ⅱ	〃	細胞移植，臓器再生，バイオマテリアル，ハイブリッド，人工臓器
4	血管Ⅰ（血管内皮細胞）	相 島	培養内皮，形態異常，機能異常
5	血管Ⅱ（血管障害）	〃	血栓症，心筋梗塞，血管炎，動脈瘤
6	血管Ⅲ（血管新生と癌）	〃	内皮増殖能，骨髄幹細胞，ES細胞，血管新生抑制
7	細胞診断学Ⅰ（総論）	青 木	細胞の基本構造と機能，細胞異型
8	細胞診断学Ⅱ（婦人科分野）	〃	子宮頸癌，子宮内膜癌，子宮がん検診

法医学特論（選択1単位）

教科主任：小 山 宏 義

開講期間：前学期 6月11日～7月30日 月曜 4時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

法医学の研究と実務の対象を学習し、医学に関する社会的・法律的諸問題への対応と解決の方法を修得する。臨床医学や法律と法医学の関係を理解し、医療従事者や法律関係者が必要な法医学の基礎知識を身につける。

2. 授業項目と概要

(1) 法医学総論

法医学の対象として死体、生体、物体、現場、書類を概説し、法医学の意義を説明する。

(2) 人の死

死の判定、心臓死、脳死、臓器移植など、人の死に関する諸問題を学ぶ。

(3) 内因死と外因死

人の死の内的・外的要因について、疾患や損傷の解析方法を学ぶ。

(4) 臨床法医学

生体損傷の法医学的見方について、性犯罪被害者や虐待児童への対応方法を学ぶ。

(5) 医事法学

賠償医学、労働災害、過労死、医療事故、親子鑑定、書類鑑定について、裁判における医学専門家や鑑定人の役割、法律と医学の関係を学ぶ。

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業では出席を確認する。また、課題についてレポートを課す。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

研究室で実習、見学、演習形式の学習を可能な範囲内で行う。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

別途の授業および課題についてのレポート作成を個別に調整して行う。

5. 参考書等

必要に応じて紹介する。

6. 履修選択に関するアドバイス

可能な範囲内で，研究室で実習，見学，演習形式の学習を行う。

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6 月 11 日(月) 4	法医学総論	小 山	法医学の対象と意義
2	6 月 18 日(月) 4	人の死	小 山	死の判定，心臓死，脳死，臓器移植
3	6 月 25 日(月) 4	内因死と外因死(1)	小 山	内因性急死，心臓突然死
4	7 月 2 日(月) 4	内因死と外因死(2)	小 山	損傷，異常環境，窒息，中毒，交通事故，家庭内事故，自殺
5	7 月 9 日(月) 4	臨床法医学(1)	小 山	生体検査，受傷機転解析，法医看護
6	7 月 23 日(月) 4	臨床法医学(2)	小 山	性犯罪被害者，虐待児童，乳幼児急死
7	7 月 30 日(月) 4	医事法制学(1)	小 山	賠償医学，労働災害，過労死，医療事故
8	7 月 30 日(月) 5	医事法制学(2)	小 山	親子鑑定，書類鑑定，裁判，鑑定人

環境・衛生・疫学特論（選択1単位）

教科主任：市場 正 良

開講期間：前学期 6月12日～7月31日 火曜 4時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

- (1) 我々にとって身近な環境である住環境や食べ物をめぐる食環境の実態とその問題点を明らかにするための基礎知識を学ぶと共に、それらの知識を健康問題と関連させて理解する。
- (2) 疫学研究手法の理論と実際、さらには倫理的問題などについて学ぶと共に、人間集団の特性を解析する手段としての疫学が如何に重要であるかを理解する。

2. 授業項目と概要

（担当者）

- | | | |
|------------------|---------|-------|
| (1) 衛生学特論 | 社 会 医 学 | 市場 正良 |
| 1) 食と健康 | | |
| 2) 住環境と健康 | | |
| (2) 疫学特論 | 社 会 医 学 | 田中恵太郎 |
| 1) 疫学研究手法の理論 | | |
| 2) 疫学研究の実際と倫理的問題 | | |

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
担当教員毎にレポートの課題を呈示し、それぞれのレポートの評価結果に基づいて行う。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行う。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義では毎回出席をとり、無断で1/3を超える回数の講義を欠席した場合は不合格とする。社会人学生で日程表による講義を受けられない場合は、ビデオ（後述）などを視聴することによって出席できなかった講義の要約（400字以内）を作成し、教科主任に提出することをもって出席とみなす。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
講義については日程表の時間通りに行うが、出席できない場合はそれを撮影したビデオを貸し出すので、それを視聴して学習すること。なお、各講義において使用する配付資料については、適宜担当教員から受け取ること。

5. 参考書等

- (1) 教科書
なし。

(2) 参考書

- 1) 「シンプル衛生公衆衛生学」鈴木庄亮・久道 茂編，南江堂 ￥2,400 + 税
- 2) 「疫学－基礎から学ぶために」日本疫学会編，南江堂，1996，￥2,800 + 税

6. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6月12日(火) 4	食と健康 1	市 場	食の安全性評価，食品添加物
2	6月19日(火) 4	食と健康 2	〃	遺伝子組み換え食品，リスクコミュニケーション
3	6月26日(火) 4	住環境と健康 1	〃	シックハウス，化学物質過敏症，電磁波
4	7月 3日(火) 4	住環境と健康 2	〃	住宅の温熱環境と健康
5	7月10日(火) 4	疫学研究手法 1	田 中	疫学の定義と概念，記述疫学，分析疫学，コホート研究，相対危険，寄与危険
6	7月17日(火) 4	疫学研究手法 2	〃	症例対照研究，オッズ比，介入研究
7	7月24日(火) 4	疫学研究の実際	〃	疫学研究の実例（がんの疫学など）
8	7月31日(火) 4	疫学研究の倫理的問題	〃	インフォームドコンセント，個人情報保護，倫理審査委員会，人を対象とする医学系研究に関する倫理指針

レポートに関しては，授業時に連絡する。

精神・心理学特論（選択1単位）

教科主任：門 司 晃

開講期間：後学期 木曜 2時限 10月11日～11月29日

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

G.I.O.

- (1) 精神障害の分類と病態，精神科医療の概略を理解する。
- (2) 児童青年精神医学の概要を理解する。
- (3) 今後増加が予想されるストレス関連疾患や生活習慣病に関する基本的知識や考え方を習得し，どのような生物心理社会的要因があるのかを理解し，その予防医学的見地からの知識や技術を身につけることを目的とする。
- (4) 心理療法ないし精神療法（含むカウンセリング）の領域における課題の一つである成功的な援助の条件について検討する。
- (5) 心理臨床の実践的基礎を理解し，心理臨床研究の理解を促進し，医療チームの一員として心理臨床について理解することを目指す。

S.B.O.

- (1) 精神疾患を生物学的な立場から理解し，向精神薬の作用機序を述べることができる。
- (2) 1) 小児の精神医学的評価法をどのように行うか説明できる。
2) 小児期に発症する精神障害の概略を説明できる。
- (3) 人間の情報処理や認知的処理の諸特性の概要について理解し，その応用としての認知機能検査について特に高齢者や患者を対象とした場合の問題点について学び，臨床実践に役立てる。
- (4) 生活習慣病の診断と治療
 - 1) 生活習慣病の成因について理解する。
 - 2) 生活習慣病の病態や診断基準などについて理解する。
 - 3) 生活習慣病の治療について，どのような方法があるか理解する。
- (5) ストレスに対する心理療法
 - 1) 心理療法とはどのような目的で，どのような方法を用いた治療法であるかを理解する。
 - 2) 心理療法を行う上での基本的な治療関係，特に転移と逆転移について理解する。
 - 3) 心理療法の中で，最近特に注目を集めている短期療法にはどのようなものがあり，どのような治療的操作であるかを説明できる。
- (6) 心理臨床の実践的目的および基本的態度を理解する。
- (7) 心理臨床の主たる理論を理解し，基本的技法が使用でき，効果について説明できる。

2. 授業項目

（担当者）

(1) 精神医学の成り立ち	精 神 医 学	門司 晃
(2) 児童青年精神医学の基礎	精 神 医 学	溝口 義人
(3) 認知神経心理学の基礎	地域医療科学教育研究センター	堀川 悦夫
(4) 認知機能測定の方法と問題点	〃	〃
(5) 生活習慣病の診断と治療	保健管理センター	佐藤 武
(6) ストレスに対する心理療法	〃	〃
(7) 心理臨床の原理	統合基礎看護学	村久保雅孝
(8) 心理臨床の理論・技法・効果	〃	〃

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

8コマの出席状況と各担当教員が提示した課題についてのレポート提出内容を基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、学習目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成30年11月30日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

授業に出席することにより講義内容を理解し、その内容に関するレポートを書くことで自己学習を行い、学習目標を達成すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は授業日程表の日時で実施されるが、止むを得ない事情で出席できない場合には各講義担当者に相談し、代替の学習手段（課題レポートの提出など）について指示を受けること。

5. 参考書等

(1) 参考書

- 1) 「精神薬理学エッセンシャルズ」Stephen M Stahl著、仙波純一訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル
- 2) 神田橋條治『発想の航跡（正・続）』岩崎学術出版社
- 3) 「迷う心の〔整理学〕」増井武士著、講談社
- 4) 「治療関係における〔間〕の活用」増井武士著、星和書店
- 5) 「小児・思春期の〔心の問題〕診療ガイド」Mina K.Dulcan, D.Richard Martini 著、松浦雅人訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル

6. 履修選択に関するアドバイス（村久保）

心理療法ないし精神療法（含むカウンセリング）に関する概論を習得していることが望ましい。そうでなければ、事前に学習しておくことが望ましい。また、できるだけ自身の関心を明確にしておくことが望まれる。

7. 日程表

No.	月 日	時 限	項 目	担当者
1	10 月 11 日	2	精神医学の成り立ち	門司 晃
2	10 月 18 日	2	児童青年精神医学の基礎	溝口 義人
3	10 月 25 日	2	認知神経心理学の基礎	堀川 悦夫
4	11 月 1 日	2	認知機能測定の方法と問題点	堀川 悦夫
5	11 月 8 日	2	生活習慣病の診断と治療	佐藤 武
6	11 月 15 日	2	ストレスに対する心理療法	佐藤 武
7	11 月 22 日	2	心理臨床の原理	村久保雅孝
8	11 月 29 日	2	心理臨床の理論・技法・効果	村久保雅孝

遺 伝 子 医 学 特 論 (選択1単位)

教科主任：副 島 英 伸

開講期間：後学期

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

ポストゲノムシーケンスを受けてのゲノム医科学とエピジェネティクス医科学の進展について取り上げる。さらに小児疾患発症と遺伝要因の問題、集団遺伝学的観点からの諸問題などを取り上げる。

2. 講義項目

(担当者)

(1) ゲノム医科学	分子生命科学	吉田 裕樹
(2) エピジェネティクス医科学	分子生命科学	副島 英伸
(3) 集団遺伝学	分子生命科学	副島 英伸

3. 個別行動目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) ゲノム医科学
 - 1) 染色体とゲノム情報, ゲノムとプロテオーム情報について説明できる。
 - 2) ゲノム医療, ゲノム倫理について説明できる。
 - 3) 疾患と遺伝子異常, SNPについて説明できる。
- (2) エピジェネティクス医科学
 - 1) 遺伝子発現とDNAメチル化およびヒストン修飾との関係について説明できる。
 - 2) 癌のエピジェネティクスについて説明できる。
 - 3) ゲノム刷り込みと関連疾患について説明できる。
- (3) 集団遺伝学
 - 1) 突然変異と淘汰, 進化, 遺伝的多型, 遺伝と環境, 近親婚について説明できる。
 - 2) ポリジーン, 易罹病性, common diseaseの遺伝について説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

レポートの提出とその内容および指定セミナーへの出席を基に総合的に評価する。

レポートの課題, 作成要領は教科主任に問い合わせること。指定セミナーに関しては学生課を通じて連絡する。
- (2) 評価基準

成績の評価は, 個別行動目標の習得状況に着目して以下の基準により行う。

秀 100点~90点 優 89点~80点 良 79点~70点 可 69点~60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示

レポートの採点結果, 配点, 成績等の解説と個別指導を行う。希望者は, 評価結果発表後1月程度の期間内に, オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

この科目は, 分子生物学, 特に遺伝子や遺伝学に関する基礎知識が必要とされるので, 講義前に教科書などで, これらの内容の再確認をしておくことが望まれる。履修方法に関する質問は, 個別に教科主任宛に行うこと。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
履修方法に関する質問は、個別に教科主任宛に行うこと。
- (3) 履修選択に関するアドバイス
この科目は分子生物学の基礎知識があることが望ましい。

6. 参考書等

- (1) 教科書
なし。
- (2) 参考書
- 1) トンプソン&トンプソン遺伝医学 第2版 福嶋義光監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2017 ¥10,000
 - 2) 診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学 渡邊淳著 羊土社 2017 ¥4,300
 - 3) 遺伝医学への招待 新川詔夫・太田亨著, 南江堂, 改訂第5版 2014, ¥1,800
 - 4) よくわかるゲノム医学 第2版 服部成介, 水島-菅野純子著 菅野純夫監修 羊土社 2016 ¥3,700
 - 5) 遺伝医学やさしい系統講義 福嶋義光監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2013 ¥4,500

7. 日程表

No.	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	ゲノム医科学	吉 田	染色体とゲノム情報, ゲノムとプロテオーム
2	ゲノム医科学	吉 田	ゲノム医療, ゲノム倫理
3	ゲノム医科学	吉 田	疾患と遺伝子異常, SNP
4	集団遺伝学	副 島	突然変異と淘汰, 進化, 遺伝的多型, 遺伝と環境, 近親婚
5	集団遺伝学	副 島	ポリジーン, 易罹病性, common disease の遺伝
6	エピジェネティクス医科学	副 島	エピジェネティクスの基礎, DNA メチル化, ヒストン修飾
7	エピジェネティクス医科学	副 島	癌のエピジェネティクス
8	エピジェネティクス医科学	副 島	ゲノム刷り込みと関連疾患

周産期医学特論（選択1単位）

教科主任：松 尾 宗 明

開講期間：後学期 10月15日～12月3日 月曜 4時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

G.I.O.

子宮内環境から子宮外環境への適応の機構を母体および児について生理学的、生化学的観点から理解し学ぶ。

S.B.O.

- (1) 胎児の発育と成熟の過程における生理的な子宮内環境を述べることができる。
- (2) 胎児の発育と成熟を計測する指標、その評価法について述べることができる。
- (3) 周産期の母体のホルモン環境とその調節の機構について述べることができる。
- (4) 出生直後におきる児の生理的な適応機構について述べることができる。
- (5) 新生児期の栄養と代謝について述べることができる。
- (6) 新生児期の免疫の特徴について述べることができる。
- (7) 新生児期の神経学的な特徴とその後の発達について評価法と指標について述べることができる。

2. 講義項目

（担当者）

- | | | |
|-----------------------|-----------------|-------|
| (1) 新生児期の神経学的評価と精神発達 | (10月15日) 小児科学 | 松尾 宗明 |
| (2) 新生児期の適応の機構（呼吸・循環） | (10月22日) 小児科学 | 松尾 宗明 |
| (3) 新生児期の栄養と代謝 | (10月29日) 小児科学 | 松尾 宗明 |
| (4) 胎児環境の評価 | (11月 5日) 産科婦人科学 | 横山 正俊 |
| (5) 新生児の免疫と感染 | (11月12日) 小児科学 | 松尾 宗明 |
| (6) 分娩の生理と病理 | (11月19日) 産科婦人科学 | 横山 正俊 |
| (7) 新生児期の疾患 | (11月26日) 小児科学 | 松尾 宗明 |
| (8) 周産期のホルモン環境 | (12月 3日) 産科婦人科学 | 横山 正俊 |

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への参加状況と講義に関連した内容のレポートの提出をもとに総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、学習目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験問題、解答および配点を開示する。閲覧を希望する者は結果発表後1週間以内の9:00～17:00の時間帯に担当教員の所属する科の事務室に申し出ること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

無断欠席をしないこと、必ず授業担当教員に直接連絡をする。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

時間の制約等で講義に出席できない場合は、授業担当教員と相談の上、代替の講義、セミナー等を受講し評価を受ける。

5. 参考書等

(1) 教科書

なし。

(2) 参考書

- 1) 「小児科学」五十嵐隆編，文光堂，（10版）
- 2) 「新生児学入門 第4版」仁志田博司著，医学書院
- 3) 「最新産科学 正常編」真柄正直著，荒木勤改訂，文光堂

6. 履修選択に関するアドバイス

周産期の胎児と母体の環境を維持するためのダイナミックな調節機構について学ぶことができる。

障害者・高齢者支援にみる差別と偏見（選択1単位）

—社会生活支障とその支援基軸の構成—

教科主任：小 田 康 友

開講期間：※平成30年度未開講

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

進展するバリアフリー社会といわれながら、生活しづらくなるという新しい差別や偏見が次々と生み出されている現実もある。高齢社会を迎え、介護の対象とする考えばかりが強調され、自立（律）性が阻害されるという傾向も高まっている。虐待も後をたたず、縛りの介護・看護すら未解決でもある。福祉・医療産業化と競争社会・自己責任社会の狭間の中で、新世紀における差別と偏見の萌芽に対して、差別・偏見の歴史を含め、その基本を学び、その駆除について、日常的活動や研究場面に生かし、他の人にも説明できるようにする。

2. 講義項目

(1) 障害・高齢者と差別

- 1) 障害者差別と偏見の背景
- 2) 障害者と高齢者虐待と法
- 3) 北欧福祉に学ぶ
- 4) 障害者差別禁止法と差別解消法

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

評価に関しては、授業参加状況、試験、レポート、研究姿勢の熱心さなどを基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、学習目標の習得状況に着目して、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

授業に参加すること。差別や偏見の起こる社会の根源を理解するよう自己学習をすること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

差別や偏見の起こる社会の根源を理解するよう自己学習をすること。

5. 参考書等

(1) テキスト

授業時に知らせる。

(2) 参考書

授業時に知らせる。

6. 履修選択に関するアドバイス

差別と偏見はなぜなくなるのか。医療・福祉の現場ではあってはならないのに、強い影響がサービス現場に影を落としている。この本質を見極める。医療・福祉の現場では役立つものと思われる。

高齢者・障害者の生活環境（道具と住宅）特論（選択1単位）

教科主任：松 尾 清 美

開講期間：前学期 6月13日～8月1日 水曜 3時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

高齢者・障害者の生活環境（道具と住宅）特論では、高齢となって身体機能が低下することや何らかの事故や病気で身体に障害を持つことが誰にとっても他人事ではないこと、身体障害が有る場合の人間としての生き方やライフステージ毎の考え方、人生などと生活環境について探究する。その方法は、高齢者や障害者（児）のバリアフリーデザインや社会環境のユニバーサルデザインの設計経験や支援事例を基に構築した講義内容で、高齢者や障害者（児）などの自立（律）動作や行為を増やし、自信を持って生活する方法や支援方法および介助を必要とする方の介助負担を軽減する支援方法などに関して、生活道具と住宅などの物理的環境の改善方法と支援システムの現状を伝達し、生活環境の改善方法に関する様々な支援研究例を学習する方法で学習する。

2. 授業項目と概要

- (1) 歩行できなくなっても生活する方法（住環境と補助器具や道具との関係から）
- (2) 誰もがいつの日か身体に障害を持つ可能性と自立（律）生活のための準備方法
- (3) 住宅内での移乗・移動方法および機器の開発と活用事例
- (4) 身体機能の違いによる自立（律）生活方法（道具と住宅の改善方法）
- (5) 車いす開発のための設計研究例（住宅や社会環境での使用を考慮した開発）
- (6) ベッド開発のための設計研究例（移乗・寝心地・圧分散等を考慮した開発）
- (7) 排泄や入浴、社会参加のための機器と環境設計研究例（住宅から社会環境まで）
- (8) 身体障害者や高齢者の自立（律）補助器具の開発のための設計研究例

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

実験室内での機器使用法に関する修得状況を実際に説明させたり、移乗動作などの動きを評価する。講義内容の理解度は、レポートや出席状況、実習時の設備取扱い状況などを総合的に評価する。

- (2) 評価基準

成績の評価は、学習目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールなどで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

座学と実習を織り交ぜて行うので、筆記用具と動きやすい服装を準備すること。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

受講する場合は、事務へ届けると共に教員へも連絡し、連絡先などを知らせること。

授業日程表とは別に集中授業あるいは課題を出し、それに対するレポートの提出などの方法をとることもある。

5. 参考書等

社会参加のための福祉用具，市川冽監修，財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団，2004，¥3,000（本体価格）

テクニカルエイド～生活の視点で役立つ選び方・使い方～，三輪書店，作業療法ジャーナル6月増刊号，VOL.46 NO.7，2012年出版，¥3,570（税込価格）

福祉用具支援論～自分らしい生活を作るために～，財団法人テクノエイド協会，市川冽，他著，2006，4,200円（本体価格）

「障害受容はいのちの受容」，頸髄損傷からの社会復帰，ヒポ・サイエンス出版株式会社，丸山梶子，松尾清美著，2016，1,300円（本体価格）

6. 履修選択に関するアドバイス

高齢者・障害者・障害児の住宅での生活や施設などでの支援現場の状況を想定して，実習室を中心に講義を進めて行くので，具体的なテクニカルエイド論理および技術を習得し，新しい視点での支援技術を習得できるように構築しており，現場で役に立つと考えている。

7. 日程表

No.	月 日（曜） 時限	項 目	担 当 者
1	6 月 13 日(水) 3	歩行できなくなっても生活する方法（住環境と補助器具や道具との関係から）	松 尾
2	6 月 20 日(水) 3	誰もがいつの日か身体に障害を持つ可能性と自立（律）生活のための準備方法	〃
3	6 月 27 日(水) 3	住宅内での移乗・移動方法および機器の開発と活用事例	〃
4	7 月 4 日(水) 3	身体機能の違いによる自立（律）生活方法（道具と住宅の改善方法）	〃
5	7 月 11 日(水) 3	車いす開発のための設計研究例（住宅や社会環境での使用を考慮した開発）	〃
6	7 月 18 日(水) 3	ベッド開発のための設計研究例（移乗・寝心地・圧分散等を考慮した開発）	〃
7	7 月 25 日(水) 3	排泄や入浴，社会参加のための機器と環境設計研究例（住宅から社会環境まで）	〃
8	8 月 1 日(水) 3	身体障害者や高齢者の自立（律）補助器具の開発のための設計研究例	〃

リハビリテーション医学特論（選択1単位）

教科主任：浅見 豊子

開講期間：前学期 4月9日～6月4日 月曜 4時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

G.I.O.

身心機能の低下に対するリハビリテーション医療を行う上で必要な診断あるいは障害評価の方法，治療などの確立・開発に必要な知識や技術，あるいは動作の分析や解析，機械工学技術などの手法を理解する。

S.B.O.

(1) リハビリテーション医学総論

- 1) リハビリテーション医学の理念（定義，障害のレベル，チームアプローチ，評価会議）を述べることができる。
- 2) リハビリテーションに必用な評価法（関節可動域テスト，徒手筋力テスト，日常生活動作テスト，言語聴覚テスト，意識障害の評価法など）の基本的考え方を述べることができる。
- 3) リハビリテーション医学の各治療法（理学療法，作業療法，言語聴覚療法，義肢装具療法など）について概略を述べ，それぞれの適応について説明できる。
- 4) リハビリテーション医学の診断法（画像診断，筋電図，呼吸機能検査）などについて説明することができる。
- 5) リハビリテーションに関わる技術（義肢装具・歩行補助具・自助具などの作製および操作技術，コンピューター画像処理，解析法など）を習得する。
- 6) リハビリテーションに関わる諸制度（身体障害者福祉法，児童福祉法，介護保険法など）について述べることができる。

(2) リハビリテーション医学各論

各疾患の特徴および診断法，評価法，治療法（特にリハビリテーションの適応）などについて説明することができる。

2. 授業項目と概要

（担当者）

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| (1) リハビリテーション医学Ⅰ:リハビリテーション医学の理念 | |
| (4月9日) リハビリテーション科 | 浅見 豊子 |
| (2) リハビリテーション医学Ⅱ:リハビリテーションに必用な評価法 | |
| (4月16日) 福祉健康科学部門 | 堀川 悦夫 |
| (3) リハビリテーション医学Ⅲ:リハビリテーション医学の診断法 | |
| (4月23日) リハビリテーション科 | 浅見 豊子 |
| (4) リハビリテーション医学Ⅳ:リハビリテーション医学の各治療法 | |
| (5月7日) リハビリテーション科 | 浅見 豊子 |
| (5) リハビリテーション医学Ⅴ:リハビリテーションに関わる技術 | |
| (5月14日) リハビリテーション科 | 浅見 豊子 |
| (6) リハビリテーション医学Ⅵ:リハビリテーションに関わる諸制度 | |
| (5月21日) リハビリテーション科 | 浅見 豊子 |

- (7) リハビリテーション医学Ⅶ:各疾患の特徴およびリハビリテーションの適応①

(5月28日) リハビリテーション科 浅見 豊子

- (8) リハビリテーション医学Ⅷ:各疾患の特徴およびリハビリテーションの適応②

(6月4日) リハビリテーション科 浅見 豊子

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

授業への参加状況および態度（満点80%）＜授業欠席の場合は欠席授業に関するレポートの提出状況および内容（満点70%）＞，講義終了後の試験の結果など（満点20%）

- (2) 評価基準

成績の評価は，学習目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は，平成30年6月30日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

欠席する際は，事前に教科主任に連絡すること。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

同上。

5. 参考書等

- (1) 教科書

1) 「入門リハビリテーション医学」中村隆一監修，医歯薬出版，第3版

2) 「標準リハビリテーション医学」津山直一監修，医学書院

- (2) 参考書

1) 「診断と治療増刊号90巻」阿部好文・高橋信一・山崎 力編，診断と治療社

2) 「リハビリテーション技術全書」服部一郎・細川忠義・和才嘉昭，医学書院

3) 「理学診療マニュアル」日本整形外科学会・日本理学診療医学会監修，全日本病院出版

4) 「義肢装具学第4版」川村次郎編集，医学書院

5) 「筋力テスト」寺沢幸一・明石 謙共訳，日本肢体不自由児協会

6. 履修選択に関するアドバイス

- (1) 将来的にリハビリテーション医学の臨床研究を遂行・発展させるための基盤を身につけよう。

- (2) リハビリテーション医療で重要なチームアプローチの一環として，医師以外のリハビリテーション関係職種との係わり合いのなかで種々の技術を習得しよう。

健康スポーツ医学特論（選択1単位）

教科主任：田 中 恵太郎

開講期間：前学期 集中

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

健康スポーツ医学は医学と体育学の接点と言うべき分野であり，その対象は，有疾患者，健常者，競技者までさまざまである。従って，それぞれの目的に応じた運動療法，身体活動や運動トレーニングが必要となる。運動に対する反応や適応には法則性と同時に個別性が存在することも理解する。ここでは，運動という刺激が身体に及ぼす影響について多様な視点から学ぶ。

- (1) スポーツ医学の知識を活用して，如何に健康管理・競技力向上を図るかを中心的課題として，実践に即した立場から学ぶ。
- (2) 高齢者の認知機能低下の諸要因とその予防法，そして最近の認知機能回復訓練の成果について学ぶ。
- (3) 健康づくりを目的とした運動を自主的・継続的に行うための行動科学的な裏付けと方法の実際を学ぶ。
- (4) 身体活動による疫病予防・治療の効果を左右する遺伝素因について学ぶ。

2. 授業項目

（担当者）

- | | | |
|-----------------------------|---------|-------|
| (1) 生活習慣病の予防・治療のための健康スポーツ医学 | 医 学 部 | 西田裕一郎 |
| (2) 介護・認知症予防—認知機能改善と運動— | 医 学 部 | 堀川 悦夫 |
| (3) 身体活動促進のための行動科学的アプローチ | 教 育 学 部 | 山津 幸司 |
| (4) 身体活動と遺伝子 | 医 学 部 | 西田裕一郎 |

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

レポートと授業への参加状況を基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

各担当者が提示したレポート課題については，下記の項目を参考に評価を行う。

- 1) キーワードを整理し，的確に説明しているか。
- 2) 事実に基づき，論理的に展開しているか。
- 3) 先行研究と比較することにより自らの意見を端的に述べているか。

成績の評価は，学習目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果，配点，成績等の解説と個別指導を行う。希望者は，試験結果発表後1月程度の期間内に，オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

- 1) 授業毎にテーマに関する資料を配付する。
- 2) 公開授業であるため，学外からの聴講が可能である。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

夜間開講ということで、昼間開講の授業に比べると履修しやすいものと思われるが、仕事の関係上、開講時間の履修が難しい場合は担当教員と相談の上、別途の授業時間・方法などを定める。

5. 参考書等

- (1) 教科書
指定なし。
- (2) 参考書
 - 1) 「身体活動と生活習慣病」日本臨床, 2000
 - 2) 「運動療法と運動処方〔第2版〕」身体活動・運動支援を効果的に進めるための知識と技術文光堂, 2008
 - 3) 「最新スポーツ科学辞典」平凡社, 2006

6. 履修選択に関するアドバイス

公開授業であり、各大学の学生、中学や高校の教員、専門職（健康運動指導士、ヘルスケアトレーナー、糖尿病療養指導士、保健師、栄養士など）、それ以外にも健康スポーツ医学に興味のある人であれば制限はない。

7. 日程表

この公開授業は平日の夜間に開講予定であり、別途ポスターにより提示する。

No.	項 目	担 当 者	キ ー ワ ー ド
1	生活習慣病の予防・治療のための健康スポーツ医学	西田裕一郎	運動・トレーニングの原則・効果 運動・スポーツと栄養・休養 運動負荷試験と運動処方 健康づくりのための運動指針
2	身体活動促進のための行動科学的アプローチ	山津 幸司	行動変容 動機づけ、運動継続 通信介入、運動疫学
3	介護・認知症予防 —認知機能改善と運動—	堀川 悦夫	認知症、認知機能、 認知リハビリテーション、脳機能計測
4	身体活動と遺伝子	西田裕一郎	遺伝子発現、遺伝子多型 運動・身体活動によるメタボリックシンドローム の予防・治療

緩和ケア特論（選択1単位）

教科主任：未 定

開講期間：※平成30年度未開講

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

高齢化社会の到来とともに、がん罹患する患者数およびがんによる死亡者数が年々増加している。がん患者は、すべての病期において程度の差こそあれ、身体的苦痛・精神的苦痛・心理社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛などを伴っているため、患者個人だけでなく患者を取り巻く諸々の環境を含めた全人的なケアが必要である。本講座では、最近の潮流を踏まえた上で緩和ケアについて様々な角度から考えていく。

2. 講義項目

- (1) 緩和ケア概論①
- (2) 緩和ケア概論②
- (3) 命についてのワークショップ①
- (4) 命についてのワークショップ②
- (5) 緩和ケアとチーム医療
- (6) 死生観
- (7) 緩和ケアと音楽療法①
- (8) 緩和ケアと音楽療法②

3. 個別学習目標

- (1) 緩和ケアについて概説できる。
- (2) 緩和ケアチームについて概説できる。
- (3) 日本人の死生観や終末期のあり方について考察できる。
- (4) 緩和ケア領域における音楽療法やボランティアのあり方について考察できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への出席（欠席の場合は後日 DVD視聴しレポート提出）により評価します。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的注意
公開授業であり、緩和ケア一般に興味があれば制限はない。
- (2) 社会人学生に対する注意
止むを得ない事情で出席できない場合には、教科主任に事前連絡・相談を行い、代替学習手段（講義ビデオの視聴、課題レポート等）について指示と指導をうけること。

6. 参考書等

指定・推薦はない。

心理学的社会生活行動支援特論（選択1単位）

教科主任：堀 川 悦 夫

開講期間：前学期 集中

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

高齢者・障害者（児）の社会生活行動支援を考える場合、心理学的側面からのアプローチは多くの視点から行われる。社会生活行動支援の対象となる人々においては、行動の動機づけ、そして、社会生活行動支援の効果の評価という2つの部分が特に関わっている。また、社会生活行動支援を行う立場の人々においても支援の内容やその結果の評価に心理学的アプローチが有用である。

自立を目指し、生活の質（QOL）を高めていくための支援のあり方、支援の評価手法などに学び、実践場面での応用を目指す。

2. 授業項目と概要

（担当者）

(1) 社会生活行動支援における心理学的側面

認知神経心理学分野

堀川 悦夫

- 1) 認知機能およびその評価法
- 2) 認知症とモビリティ維持手法
- 3) 介護負担とポジティブゲイン
- 4) 疫学的研究による認知機能低下予防の可能性

(2) 社会生活行動支援の新展開

- 1) Assistive Technologyにおける主観的评价と数量化
- 2) 移動支援と主観的评价
- 3) 脳活動等の指標を用いた非言語的コミュニケーション支援研究

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席とレポートなどにより総合的に評価する。

(2) 評価基準

6割以上の評価を得たものを合格とする。

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義を基にして自主的に先行研究やその測定法などについて調べることが求められる。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

厳しいスケジュールの中でどのようにして学ぶ時間を得るかを工夫することも、今後の生活に生かせる貴重な体験である。とはいえ、履修への配慮をできるだけするので、遠慮なく相談して欲しい。

5. 参考書等

(1) テキスト

配付資料やスライドを用いる。

(2) 参考書

随時紹介する。

6. 履修選択に関するアドバイス

人間の意識活動や行動に関する研究成果や研究法について心理学に限定せずに取り上げていく。受講生においても実践経験からの問題提起がなされることが期待される。数量化の手法やデータ処理についても取り上げる事となる。

7. 日 程 表

No.	項 目	担当者
1	認知機能及びその評価法(1)	堀 川
2	認知機能及びその評価法(2)	堀 川
3	認知症とモビリティ維持手法	堀 川
4	疫学的研究による認知機能低下予防の可能性	堀 川
5	Assistive Technology における主観的評価と数量化	堀 川
6	移動支援と主観的評価	堀 川
7	脳活動等の指標を用いた非言語的コミュニケーション支援研究	堀 川
8	総括	堀 川

集中講義形式で行う。

職を有する大学院生のスケジュールを優先して日程を組むため、受講生の勤務状況、可能な曜日の選択、その他を堀川までメールして下さい。 ethori@med.saga-u.ac.jp

高 齢 者 ・ 障 害 者 生 活 支 援 特 論 （選択1単位）

教科主任：松 尾 清 美

開講期間：前学期 4月9日～6月4日 月曜 3時限

1. 学習目標 (G.I.O., S.B.O.)

団塊の世代が高齢者となっており、7年後の2025年には団塊の世代の方々が後期高齢者となるため、現在の人の手による支援方法だけでは社会保障費が莫大に増加するだけでなく、ヘルパーなどの支援者が不足し寝たきりを促進させることが予想される。その対策のため、障害者や高齢者の地域生活での方法や在宅ケアの方法に関することがクローズアップされている。厚生労働省も「在宅医療の充実、地域包括システムの構築」に取りかかっており、従来型の施設収容型から在宅や地域生活支援型に方向転換する方向で、在宅医療介護連携等の取り組みを本格化している。特に、「高齢者や障害者は、可哀想とか手助けしなければならない」というような一種の思い込みのある高齢者や障害者支援に関わる関係者や教育者の指導による介護が行われると、自立性が軽視され、介護性ばかりが重視される傾向も存在している。そのため、一人一人の自立（律）生活に向けたニーズとデマンドに対応した支援方法を構築することをこの特論や当部門の課題としており、自立（律）を目指した支援方法と本人と家族の生活方法について、生活実態調査や動作分析、そして実際の生活行動支援などを通して知って支援することが必要であると考えている。当部門では、自立（律）生活の実現のための研究を継続しており、その研究成果を基に、クライアントと家族や介護者のQOLの高い生活と介護を実現し、自己尊厳性が守られる支援方法を構築していくべく努力している。

この講義では、これまでの研究成果を基に講義内容を構築しており、受講者は具体的な障害・高齢者の生活行動支援方法の理解を進めながら、その支援技術と理論を明確にするための学習を進めている。また、受講者は、身体機能に合わせた自立（律）生活方法を説明する能力を養うことができる。

2. 授業項目と概要

		(担当者)
(1) 社会生活行動支援の考え方	福祉健康科学部門	松尾 清美
1) 自立（律）生活支援とテクニカルエイド		〃
2) 高齢者・障害者の生活動作の理解		〃
① 福祉用具を活用した自立（律）生活事例		〃
② 移動・移乗支援と環境整備の関係		〃
③ コミュニケーション支援	NPO 楠の木会	井手 将文
④ 住環境整備による自立（律）生活事例	福祉健康科学部門	松尾 清美
(2) 障害者・高齢者の社会参加の事例から		〃
生活行動支援は、住環境と社会環境を理解して、環境整備することが大切		〃

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

「授業への参加状況」と「講義の内容理解と福祉用具の取扱い修得状況および説明状況」などで評価する。講義の理解度はレポート、福祉用具の取扱いや説明状況は実習にて評価し総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、学習目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

座学と実習を織り交ぜて行うので、筆記用具と動きやすい服装とくつを準備すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

福祉用具の取扱いについては実習を行うので必ず受けること。

5. 参考書等

(1) 「テクニカルエイド～生活の視点で役立つ選び方・使い方～」三輪書店，作業療法ジャーナル6月増刊号，VOL.46 NO.7，2012年出版，¥3,570（税込価格）

(2) 「福祉用具支援論～自分らしい生活を作るために～」，財団法人テクノエイド協会，市川冽，他著，2006，4,200円

(3) 「障害受容はいのちの受容」，頸髄損傷からの社会復帰，ヒポ・サイエンス出版株式会社，丸山栞子，松尾清美 著，2016，本体1,300円＋税。

6. 履修選択に関するアドバイス

高齢者・障害者支援現場の状況，テクニカルエイドの具体的論理および技術を体感習得，新しい視点での支援技術を確立することを強く意識している。医療・福祉・生活など現場で役に立つと考えている。

7. 日程表

No.	月 日（曜） 時限	項 目	担 当 者
1	4 月 9 日(月) 3	高齢・障害者の社会生活行動支援の考え方	松 尾
2	4 月 16 日(月) 3	自立（律）生活支援とテクニカルエイド	〃
3	4 月 23 日(月) 3	高齢者・障害者の生活動作の理解（1） 移乗・移動支援	〃
4	5 月 7 日(月) 3	高齢者・障害者の生活動作の理解（2） コミュニケーションⅠ	井 手（非常勤講師）
5	5 月 14 日(月) 3	高齢者・障害者の生活動作の理解（3） コミュニケーションⅡ	〃
6	5 月 21 日(月) 3	高齢者・障害者の生活動作の理解（4） 住環境整備	松 尾
7	5 月 28 日(月) 3	障害者・高齢者の社会参加の事例から 1) 社会生活行動支援（住宅と社会での生活方法）	〃
8	6 月 4 日(月) 3	障害者・高齢者の社会参加の事例から 2) 社会環境の現状と将来への期待	〃

対人支援技術特論（Ⅰ）－医療福祉学－（選択1単位）

教科主任：小 田 康 友

開講期間：※平成30年度未開講

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

医療福祉のあり方を考えるとき、援助対象である「医療利用者（患者）」が社会的諸条件に規定され生活する存在であることから、患者理解に際して、歴史的・社会的な視点が不可欠であり、この視点を欠いた援助、例えば「対症療法」的な援助である限り、医療福祉の目的達成はおぼつかない。利用者主体とはなにか医療福祉論を基礎とし、ケアマネジメント論も含めて、その支援方法も学び、検証し、現場で活用することを学ぶ。

2. 学習科目と概要

- (1) 医療福祉の歩みとその基本
- (2) 対人支援の基本 ※講義が主体となるが、演習実習も検討していく。
- (3) 北欧の医療／福祉ケアを科学する
- (4) 医療福祉制度の改革と方向性

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 講義が主体となるが、テキストを各自紹介するので、自己他学習ができるようにする。しかも、医療福祉の技術について理解し、他に説明ができる。
- (2) 新時代の対人援助の基本を理解し、具体的に説明できる。
- (3) 医療福祉論を学び、社会学的視点から説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
評価に関しては、授業参加状況、試験、レポート、研究姿勢の熱心さなどを基に総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して、次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

5. 履修上の注意

- (1) 一般的な履修上の注意
講義を基にして自主的に先行研究やその測定法などについて調べることが求められる。
※引き続き対人支援技術特論Ⅱを履修する必要がある。
- (2) 社会人入学生に対する履修上の注意
厳しいスケジュールの中でどのようにして学ぶ時間を得るかを工夫することも、今後の生活に生かせる貴重な体験である。とはいえ、履修への配慮をできるだけするので、遠慮なく相談して欲しい。
※引き続き対人支援技術特論Ⅱを履修する必要がある。

6. 参考書等

授業の時に知らせる。

対人支援技術特論（Ⅱ）－ケアマネージメントと社会生活行動支援 （選択1単位）

教科主任：坂 本 麻衣子

開講期間：※平成30年度未開講

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

高齢者・障害者の支援においてケアマネージャの役割は重要であるが、その養成課程、職務内容、雇用契約、クライアントや家族との諸問題、他の関係医療専門職との相互理解、更にリカレント教育や研修の確保などの問題が見うけられる。ケアマネージメントとその関連法規、更に改正介護保険法の骨子について理解を深める。

2. 学習項目

- (1) ケアマネージメントと社会学的考察 1, 2
- (2) 社会生活行動支援と対人援助 1, 2, 3, 4
- (3) 医療・福祉と家族
- (4) 高次脳機能障害と認知機能検査・リハビリテーション

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 講義が主体となるが、テキストを各自紹介するので、自己他学習ができるようにする。しかも、ケアマネージメント技術について理解し、他に説明ができる。
- (2) 新時代の対人援助の基本を理解し、具体的に説明できる。
- (3) ケアマネージメント技術に社会生活行動支援の考えで新視点を理解し、説明ができる。
- (4) 疾病や怪我から起こる高次脳機能障害に対して行われる認知機能検査の内容・目的を理解し、認知リハビリテーションやケアマネージメントについて説明ができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

評価に関しては、授業参加状況、レポート、研究姿勢の熱心さなどを基に総合的に評価する。

- (2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して、次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

5. 履修上の注意

- (1) 一般的な履修上の注意

講義を基にして自主的に先行研究やその測定法などについて調べることが求められる。

※対人支援技術特論Ⅰを履修しておく必要がある。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

厳しいスケジュールの中でどのようにして学ぶ時間を得るかを工夫することも、今後の生活に生かせる貴重な体験である。とはいえ、履修への配慮をできるだけするので、遠慮なく相談して欲しい。

※対人支援技術特論Ⅰを履修しておく必要がある。

6. 参考書等

授業の時に知らせる。

地域医療科学特論（選択1単位）

教科主任：杉 岡 隆

開講期間：前学期 火曜 4時限 4月10日～6月5日

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

医療の高度化と情報技術の進歩，少子高齢化と社会のグローバル化による人々の意識の変化，医療費の高騰などを背景とする医療変革の世界的潮流が，医療現場を急速に様変わりさせている。

地域医療科学特論では，外来診療，在宅医療，高齢者介護，救急医療，健康教育（予防医学）など，地域の保健・医療・福祉システムを理解し，地域包括医療における円滑な連携を推進し，専門職者として現場の諸問題に適切に対処するための基本的考え方を身につける。

2. 授業項目と概要

（担当者）

- | | | |
|----------------------------|---------|------|
| (1) 地域包括医療総論・地域医療における研究方法論 | 地域医療支援学 | 杉岡 隆 |
| (2) 予防医学・健康増進特論 | 地域医療支援学 | 杉岡 隆 |

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への出席（欠席の場合は後日DVD視聴しレポート提出。その際は必ず事前に連絡すること）および講義終了後のレポートによる評価。

(2) 評価基準

成績の評価は，次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

希望者は，試験結果発表後1月程度の期間内に，オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

初回の講義は必ず出席すること。やむなく欠席する場合は必ず教科主任に連絡すること。連絡がなく欠席の場合は不合格とする。

授業の日時，内容については，担当教員の指示に従うこと。

履修希望者は，予め教科主任に連絡をすること。

5. 参考書等

(1) 教科書

- 1) 「総合医療論，社会保障制度の生活者の健康(1) 系統看護学講座—専門基礎7」小泉俊三著，医学書院，第2版，2001
- 2) 「予防医学のストラテジー:生活習慣病対策と健康増進」ジェフリー・ローズ著（水嶋他訳），医学書院，1998
- 3) 「救急医学」瀧 健治・西村謙一・十時忠秀著，新興医学出版社，2002

(2) 参考書

- 1) 「新たな医療連携の実践―その現状と方策―」武藤正樹編集, じほう, 2001
- 2) 「POS―医療と医学教育の革新のための新しいシステム―」日野原重明著, 医学書院, 1973
- 3) 「緊急被爆医療対策」原子力安全研究協会編, 2002
- 4) 「長崎救急医療白書」長崎救急医療協議会編, 2001
- 5) 「こころの110番―外来における対応のポイント―」瀧 健治監修, 佐藤 武・加藤博之著, 永井書店, 2000
- 6) 「この一冊で在宅患者の主治医になれる」飯島克巳著, 南山堂, 改訂2版 2002
- 7) 「21世紀プライマリ・ケア序説」伴信太郎著, プリメド社, 2001

アカデミックリーディング（選択必修1単位）

教科主任：高 野 吾 朗

開講期間：後学期 木曜 3・4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

医学・看護学の分野のみに決してとらわれることなく、様々な種類の英語の読み物を読みながら、語彙力および読解力を強化し、それによって英語での表現力を養っていくことを究極の目標とする。

2. 学習項目（演習15時間）

- (1) 語彙・表現方法を増やす。
- (2) 長文理解力のさらなる向上を目指す。
- (3) 各筆者の意見に対して、自分なりの説得力あるオリジナルな反応が即座にできるような発想力・想像力・論理力の養成を図る。

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- ・日常的に英語文献に触れるようにする。
- ・英語による発信力を身につける。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

講義への出席，および講義への「貢献度」のみで評価する。期末試験やレポートは行わない。

(2) 評価基準

欠席を3度した時点で，欠席の正当性の有無に関係なく，不合格とする。

教材の熟読を前提とし，（英語のみによる）発表，質問など授業への「貢献度」を最重要視する。

(3) 評価結果の開示

学生からの希望があれば開示する。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

特になし。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

特になし。

6. 参考書等

使用テキストは決まり次第，明示する。

7. その他

学生主体のディスカッション方式で授業を進めたいと考えている関係上、履修登録の届出がいったん締め切られた時点（「履修登録変更期間」の開始以前）で「5名またはそれ以上」の受講者がそろわない場合は、この授業は開講しない。

なお、この授業の選択を希望することにした学生は、高野へメールで直接その旨を伝えてもらいたい。
高野のメールアドレスは：takanog@cc.saga-u.ac.jpである。

臨床腫瘍学（選択1単位）

教科主任：小 島 研 介

開講期間：前学期 集中

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

- (1) 悪性腫瘍の概念・増殖，浸潤，転移について理解する。
- (2) 発癌と進展のメカニズムについて理解する。
- (3) 悪性腫瘍の診断について理解する。
- (4) 悪性腫瘍に対する集学的治療について理解する。
- (5) 緩和ケアについて理解する。

2. 授業の項目と概要

（担当者）

(1) 臨床腫瘍学総論	内科学	小島 研介
(2) 手術療法総論	一般・消化器外科学	能城 浩和
(3) 薬物療法総論	内科学	荒金 尚子
(4) 放射線治療総論	放射線科	今泉 猛
(5) 緩和治療総論	ペインクリニック・緩和ケア科	平川奈緒美
(6) 悪性腫瘍リハビリテーション学総論	先進総合機能回復センター	浅見 豊子
(7) 造血器領域	内科学	木村 晋也
(8) 消化器領域	一般・消化器外科学	能城 浩和
(9) 呼吸器領域	内科学	荒金 尚子
(10) 婦人科領域	産科婦人科学	横山 正俊
(11) 泌尿器領域	泌尿器科学	野口 満
(12) 頭頸部領域	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	倉富勇一郎
(13) 脳神経領域	脳神経外科学	阿部 竜也

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 悪性腫瘍の基本的概念・浸潤・増殖と転移について説明することができる。
- (2) 発癌と進展のメカニズムについて説明することができる。
- (3) 悪性腫瘍の診断について説明することができる。
- (4) 悪性腫瘍に対する集学的治療について説明することができる。
- (5) 緩和ケアについて説明することができる。
- (6) 悪性腫瘍リハビリテーションについて説明することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法：

成績評価は授業への参加状況，レポートの結果を基に，総合的に評価する。

- (2) 評価基準：

成績の評価は，個別行動目標の習得状況に着目して，次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

履修を希望する学生はあらかじめ教科主任に連絡すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

本講義は集中講義形式で行われるが、当日受講できない場合はe-Learningを活用することができる。

6. 参考書等

特になし。

7. 授業日程

集中講義形式で行うが、日程については後日連絡する。

統合的地域がん医療人育成コース必修科目 臨床腫瘍治療実習Ⅰ～Ⅵ（各1単位）

教科主任：小 島 研 介

開講期間：通年 集中

次の〔1〕～〔6〕の細科目で構成されており、各自の目的等に沿って選択履修する。

（細科目）

（細科目責任者*および担当者）

- 〔1〕 臨床腫瘍治療実習Ⅰ
- 〔2〕 臨床腫瘍治療実習Ⅱ
- 〔3〕 臨床腫瘍治療実習Ⅲ
- 〔4〕 臨床腫瘍治療実習Ⅳ
- 〔5〕 臨床腫瘍治療実習Ⅴ
- 〔6〕 臨床腫瘍治療実習Ⅵ

小島 研介*, 荒金 尚子, 平川奈緒美, 浅見 豊子

〔1〕～〔6〕 臨床腫瘍治療実習Ⅰ～Ⅵ

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

悪性腫瘍の治療方法の進歩は目覚ましく、それぞれの分野で適切な治療方法の選択を行い、安全に治療を実施する医師を養成する必要がある。このプログラムでは薬物療法、緩和療法、もしくはリハビリテーションの分野において、一定レベルの臨床経験と、エビデンスに基づいた診断・治療法の習得を行い、地域の基幹病院でがん診療の中核となる医療人の養成をめざすものである。

2. 学習項目（各実習90時間）

次の項目について演習、実習を行う。

- (1) EBM
- (2) 悪性腫瘍患者治療、管理の実践

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

それぞれの学生の必要性に応じ、以下の目標の少なくとも1つ以上を達成する。

- (1) 悪性腫瘍患者の薬物療法において適切な薬剤管理を実施することができる。
- (2) 悪性腫瘍患者の疼痛をはじめとするさまざまな苦痛症状に対して緩和ケアを実践できる。
- (3) 悪性腫瘍患者のリハビリテーションにおいて、適切な評価と処方を行うことができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

症例サマリーを含む履修内容の報告を基に、必要な研修が十分に達成されたことおよび技能が習得されていることをプログラム責任者が確認する。成績の評価は、授業への参加状況、レポートの結果を基に、総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して、学習目標の到達度等を5段階評価し、総合評点3以上を合格とする。

5. 履修上の注意

実習は佐賀大学医学部附属病院緩和ケア診療部に属し、該当する診療科等で実施する。実施時期、実施方法等をプログラム責任者と事前に打合せ、各診療科等の規律を遵守すること。

社会人学生で通学に制約がある場合は、プログラム責任者との事前相談を綿密に行っておくこと。

6. 参考書等

必要に応じて紹介する。

7. 授業日程

本プログラムの実施時期・日程は、履修希望者とプログラム責任者とで相談のうえ設定する。

がんゲノム医療実習

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

悪性腫瘍の治療方法の進歩は目覚ましく、それぞれの分野で適切な治療方法の選択を行い、安全にそれを遂行する医師を確保するための研修制度を確立する必要性が生じてきた。ことにゲノム医療に関する研究成果は国内外で急激に蓄積しつつあり、実用化が加速している。ゲノム医療を適切に臨床に適用することを学ぶ。

2. 学習項目 (各実習135時間)

次の項目について演習・実習を行う。

- (1) EBM
- (2) 治療実践
- (3) ゲノム医療をとりまく倫理・法律・社会的問題

3. 個別行動目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) がんゲノム医学の基礎を学び、分子生物学の成果をオーダーメイド医療へと生かす基盤を獲得する。
- (2) EBMの概念を理解し、適切な文献の検索・引用ができる。
- (3) ゲノム解析情報にもとづいた治療の選択ができる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

成績の評価は、実習への参加状況、技能が習得状況、症例サマリーを含む履修内容の報告をもとに、総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

面接日を設定し、症例サマリーの評価内容を口答で伝える。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

実習は研修希望臓器を担当する診療科等で実施する。実施時期、実施方法等をプログラム責任者と事前に打合せ、当該診療科等の規律を遵守すること。

6. 参考書等

必要に応じて紹介する。

7. 授業日程

本実習の実施時期・日程は、履修希望者とプログラム責任者とで相談の上、設定する。

小児・希少がん医療講義

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

悪性腫瘍の治療方法の進歩は目覚ましく、それぞれの分野で適切な治療方法の選択を行い、安全にそれを遂行する医師を確保するための研修制度を確立する必要性が生じてきた。小児・希少がん患者が安心して適切な医療・支援を受けられるよう、医療チームとして集学的医療に携わることを学ぶ。

2. 学習項目 (各実習135時間)

次の項目について演習・実習を行う。

- (1) EBM
- (2) 治療実践

3. 個別行動目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) 小児・AYA世代のがん、希少がんの治療環境 (小児がん拠点病院・日本小児がん研究グループ) や社会資源 (小児慢性特定疾患事業など) を利用できる。
- (2) EBMの概念を理解し、適切な文献の検索・引用ができる。
- (3) 晩期合併症と長期フォローアップの問題点、患者・家族支援について学ぶ。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

成績の評価は、実習への参加状況、技能が習得状況、症例サマリーを含む履修内容の報告をもとに、総合的に評価する。

- (2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

面接日を設定し、症例サマリーの評価内容を口答で伝える。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

実習は研修希望臓器を担当する診療科等で実施する。実施時期、実施方法等をプログラム責任者と事前に打合せ、当該診療科等の規律を遵守すること。

6. 参考書等

必要に応じて紹介する。

7. 授業日程

本実習の実施時期・日程は、履修希望者とプログラム責任者とで相談の上、設定する。

ライフステージに応じた医療

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

悪性腫瘍の治療方法の進歩は目覚ましく、それぞれの分野で適切な治療方法の選択を行い、安全にそれを遂行する医師を確保するための研修制度を確立する必要性が生じてきた。ライフステージによって異なる精神的苦痛、身体的苦痛、社会的苦痛といった全人的苦痛(トータルペイン)を理解し、これを和らげて、患者の社会復帰等を支援するためのチーム医療を学ぶ。

2. 学習項目 (各実習135時間)

次の項目について演習・実習を行う。

- (1) EBM
- (2) 治療実践

3. 個別行動目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) ライフステージに応じたがん予防医学知識を得る。
- (2) ライフステージに応じた包括的支援ができる。
- (3) 社会との関わりの中でライフステージに応じたがん医療を遂行できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

成績の評価は、実習への参加状況、技能が習得状況、症例サマリーを含む履修内容の報告をもとに、総合的に評価する。

- (2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

症例サマリーの評価内容を、面接日を設定し口答で伝える。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

実習は研修希望臓器を担当する診療科等で実施する。実施時期、実施方法等をプログラム責任者と事前に打合せ、当該診療科等の規律を遵守すること。

6. 参考書等

必要に応じて紹介する。

7. 授業日程

本実習の実施時期・日程は、履修希望者とプログラム責任者とで相談の上、設定する。

看護学専攻

看護学専攻 授業科目開設表

【研究・教育者コース】

区 分	授 業 科 目	開講 時期	授業を行う 年 次	単 位 数			備 考
				講義	演習	実習	
必修 科目	看護学研究法演習 看護学特別研究	通 通	1・2 1～2	2 12			14単位を修得すること。
共通 選択 必修 科目	看護理論 看護倫理 看護研究概論 看護教育論 看護管理 コンサルテーション論	前 後 前 後 後 前	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2	2 2 2 2 2 2			8単位以上を修得すること。
	大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目) *注	通	1・2	*注			2単位以上を修得すること
専門 選択 必修 科目 Ⅰ	看護援助学特論 看護機能形態学特論 急性期看護学特論 慢性看護論 母性看護学特論 小児看護学特論 母子看護展開論 老年看護学特論 地域看護学特論 在宅看護学特論 国際看護学特論 精神看護学特論 看護統計学演習 看護教育方法論 がん看護学特論 生体構造観察法 実践課題実習	後 後 前 前 前 前 通 後 後 後 前 後 前 前 前 通 通	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2		2	6単位以上を修得すること。 (専門選択必修科目Ⅱの慢性看護方法論Ⅰ及び修士課程医科学専攻の専門選択科目Ⅰのうち2単位以内を含めることができる。)

*注 大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目）については、iii頁の開講予定表を参照すること。

【専門看護師コース】

区 分			授 業 科 目	開講 時期	授業を 行う年 次	単 位 数			備 考
						講義	演習	実習	
科 必 目 修			課題研究	通	2	4			4単位を修得すること。
共 通 選 択 必 修 科 目			看護理論 看護倫理 看護研究概論 看護教育論 看護管理 コンサルテーション論	前 後 前 後 後 前	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2	2 2 2 2 2 2			8単位以上を修得すること。
専 門 選 択 必 修 科 目 I			看護援助学特論 看護機能形態学特論 急性期看護学特論 慢性看護論 母性看護学特論 小児看護学特論 母子看護展開論 老年看護学特論 地域看護学特論 在宅看護学特論 国際看護学特論 精神看護学特論 看護統計学演習 看護教育方法論 がん看護学特論 生体構造観察法 実践課題実習	後 後 前 前 前 前 通 後 後 後 前 後 前 前 前 通 通	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2		2	「慢性看護論」を含め2単位以上を修得すること。
専 門 選 択 必 修 科 目 II	慢性看護	分野 専門科目	慢性看護対象論 慢性看護方法論Ⅰ 慢性看護方法論Ⅱ 慢性看護展開論 慢性看護援助論Ⅰ 慢性看護援助論Ⅱ	前 前 前 前 後 後	1・2 1・2 1・2 1・2 1・2 1・2	2 1 1 2 2 2			10単位を修得すること。
		分野 実習科目	慢性看護学実習Ⅰ 慢性看護学実習Ⅱ	通 通	1・2 1・2			2 4	6単位を修得すること。

平成30年度大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目）開講予定表

科 目 名	単位数	詳 細 等
研究・職業倫理特論	1 単位	平成30年度入学者履修科目 ※学期の始めに配付する大学院教養教育プログラム履修希望調査票により申込むこと (左記科目より2単位以上を修得すること)
情報セキュリティ特論	1 単位	
データサイエンス特論	1 単位	
学術英語特論	1 単位	
ダイバーシティ・人権教育特論	1 単位	
キャリアデザイン特論	1 単位	
多文化共生理解	1 単位	
日本語・日本文化理解 *注	2 単位	
数値計算法特論	4 単位	平成29年度以前入学者履修科目 ※学期の始めに配付する研究科間共通科目履修希望調査票により申込むこと
産学連携特論	2 単位	
ビジネスマネジメント特論	2 単位	

*注 留学生対象科目

※ 集中講義については、後日、メールにて日程をお知らせします。

※「数値計算法特論」は通年扱い科目なので、成績が出るのは後期になります。

※ 授業科目の内容をご覧になる場合は、

佐賀大学ホームページ (<http://www.saga-u.ac.jp/>) の上の「在学生の方へ」をクリック

↓

一番左の列「シラバス」をクリック

↓

「オンラインシラバス」をクリック

↓

「科目名」に授業科目名を入力して検索をクリック

↓

いくつか表示されるが、「タイトル」が「2018年度」の行の「和」をクリックして、内容を確認する。

看護学専攻のカリキュラムマップ

学位授与の方針	コース	授業科目名			
		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期
1 (1)	研究・教育者コース	看護理論	看護教育論		
		看護研究概論			
		看護管理			
	専門看護師コース	看護理論	看護教育論		
		看護研究概論			
2	研究・教育者コース	看護管理			
		看護学研究法演習			
		看護学特別研究			
				課題研究	
			看護倫理		
3 (2)	専門看護師コース		看護倫理		
		大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目)	大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目)	大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目)	大学院教養教育プログラム (研究科間共通科目)
	専門看護師コース	専門選択必修科目Ⅰ	専門選択必修科目Ⅰ	専門選択必修科目Ⅰ	専門選択必修科目Ⅰ
		慢性看護論	慢性看護援助論Ⅰ	慢性看護展開論	
		慢性看護対象論	慢性看護援助論Ⅱ		
		慢性看護方法論Ⅰ			
		慢性看護方法論Ⅱ			
		慢性看護学実習Ⅰ		慢性看護学実習Ⅱ	
	研究・教育者コース	8	10	2	14
	専門看護師コース	12	10	2	8

I 看護学専攻の理念，目的・目標，教育方針

【医学系研究科の基本理念】

医学系研究科の基本理念「医学・医療の専門分野において，社会の要請に応えうる研究者および高度専門職者を育成し，学術研究を遂行することにより，医学・医療の発展と地域包括医療（地域社会及び各種の医療関係者が連携し，一丸となって実践する医療）の向上に寄与することを目指す」に基づき，次のような目的・目標と方針によって教育研究を行います。

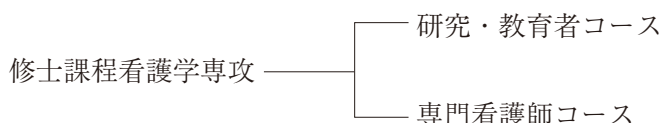
【修士課程看護学専攻の教育目的】

高度の専門性を有する看護職者にふさわしい広い視野に立った豊かな学識と優れた技能を有し，国内および国際的に看護学の教育，研究，実践の各分野で指導的役割を果たし，看護学の構築に寄与できる人材を育成します。

そのために，次のコースを設けます。

各コースとその概要

修士課程看護学専攻は，社会の要請に応え看護の各分野において活躍できる，優れた研究・教育および高度な看護実践能力を有する看護専門職者を育成するため，その育成する人材像に応じて，教育課程を整備し，平成23年度から「研究・教育者コース」，「専門看護師コース」の2つのカリキュラムコースで教育課程を編成しています。その1つを選択し，それぞれの目的と専門性に応じた履修カリキュラム（コースワーク）を学生ごとに設計し，履修していきます。



【研究・教育者コース】

研究・教育・実践の関連性に基づき，看護実践向上の基盤となる研究・教育について高度な知識と優れた遂行能力を有し，看護の各分野において優れたリーダーシップが発揮できる研究者・教育者・実践者として，看護を開発していくことができる人材を育成します。

【専門看護師コース】

質の高い医療へのニーズに応え，特定の専門看護分野における卓越した看護実践能力をもつスペシャリストとしての役割が発揮できる人間性豊かな人材を育成します。

本学では平成23年度から専門看護師「慢性看護」の資格取得に必要な履修科目を日本看護系大学協議会の基準に沿って設定し，認可されました。

本研究科が定める所定の単位を修得することにより，慢性看護専門看護師の取得を目指すことができます。

【学位授与の方針】

各コースの目的に照らして，学生が身につけるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とします。学位審査は研究科委員会が選出した3人の審査員による学位論文の審査ならびに最終試験によって審議され，研究科委員会の議を経て決定されます。

1. 知識と技術

- (1) 各コースワークに沿った授業科目を履修・修得し、看護学研究・看護学教育の遂行に必要な基本的知識・技術および専門看護師分野における高度な専門職者に必要な知識・技法を身につけ、研究及び専門分野で活用・発展できる。

2. 研究手法や研究遂行能力

- (2) 各コースの研究法授業及び研究実習や研究・実践活動を通して、研究を行うのに必要な研究計画・研究デザインの立案などの研究手法や研究遂行能力を修得し、科学的・論理的思考に基づいて研究を実行することができる。

3. 研究者あるいは高度専門職者としての資質・能力

- (1) 看護倫理、看護におけるコア・コンピテンシー関連等の授業科目や研究室等での研究活動を通して、研究者あるいは高度専門職者に求められる高い倫理観とともに看護学の諸分野でリーダーシップを発揮する資質・能力を身につけている。
- (2) 研究の計画・遂行や論文作成に必要な情報収集ならびに学会・研究会等への参加を通して、日本語や英語を用いたコミュニケーション・スキルを身につけ、研究・活動等の成果の発信など、国内外の研究者あるいは専門職者と専門領域を通じた交流ができる。

【修士課程看護学専攻の教育目標】

教育成果として、次のことを達成目標とします。

1. 高い倫理観と豊かな人間性を育み、看護学の分野での指導的役割を果たす能力を身につける。
2. 高度で幅広い専門的知識・技術を身につけ、看護学の分野での実践で発揮できる。
3. 自立して研究を行うのに必要な研究デザインなどの研究手法や研究遂行能力、あるいは研究能力を備えた高度専門職者としての技量を身につける。
4. 幅広い視野を持ち、国内外の研究者あるいは専門職者と専門領域を通じた交流ができる。

【修士課程看護学専攻の教育方針】

目的・目標の達成に向けて、次の方針のもとに教育の実施、カリキュラムの編成をしています。

1. 高い倫理観に基づき看護についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する研究能力を持った看護職者を育成する。
2. 教育、研究、実践を通して、看護の多様な問題に対処できるように自ら研究し解決する習慣を身につける。

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施します。

1. 教育課程の編成

- (1) 看護学の基礎を学ぶ共通の教育科目と、〔研究・教育者コース〕、〔専門看護師コース〕の目的に応じたコースワーク（履修カリキュラム）を学生ごとに設計することが可能な教育科目を体系的に配置した教育課程を編成する。
- (2) 多様なバックグラウンドを持つ学生に看護学の基礎的素養を涵養することを目的とした科目（看護理論、看護倫理、看護研究概論、看護教育論、看護管理、コンサルテーション論）を〔共通選択必修科目〕として配置する。
- (3) コースの目的に沿って、研究を行うために必要な研究デザインや研究戦略の理論を学ぶ「特別研究」「課題研究」と、研究技術や遂行能力を修練する「研究法演習」などの科目を、〔必修科目〕として配置し、研究手法や研究遂行能力の修得を図る。
- (4) 研究者あるいは高度専門職者としての資質・能力を養う科目や専門分野の理解を深め、幅広い知

識を修得するための科目（看護援助学特論，看護機能形態学特論，急性期看護学特論，慢性看護論，母性看護学特論，小児看護学特論，母子看護展開論，老年看護学特論，地域看護学特論，在宅看護学特論，国際看護学特論，精神看護学特論，看護統計学演習，看護教育方法論，がん看護学特論，生体構造観察法，実践課題実習）を〔専門選択科目〕として配置し，各コースの目的及び学生のニーズに沿った科目を選択することにより，個々の学生ごとにコースワークを設計する。

- (5) 慢性看護専門看護師としての専門分野における資質・能力を修得するための科目（慢性看護対象論，慢性看護方法論，慢性看護展開論，慢性看護援助論，慢性看護学実習）を〔分野専門科目〕・〔分野実習科目〕として配置する。

2. 教育の実施体制

- (1) 研究指導及び授業科目の教育内容毎に，その専門的分野の教育を行うのに適した専門性を有する教員が，コース区分に囚われずに研究指導および講義・実習等を担当するように，本研究科における研究指導教員及び授業担当教員の適格審査基準に基づき研究指導教員及び研究指導補助教員を配置する。
- (2) 学生ごとに1人の主指導教員，1人以上の副指導教員を置き，個別の学習及び研究指導を行う。
- (3) 各授業科目に教科主任を置き，授業内容に応じて複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保し，授業科目を統括する。

3. 教育・指導の方法

- (1) 入学時に指導教員と学生が相談の上，個別の履修計画及び研究指導計画（コースワーク）を策定し，学生のニーズに即した学習及び研究指導を行う。
- (2) 講義による知識の学習と実験・実習による実証的学習や研究グループ内でのグループダイナミクスによる自己学習と問題解決法の獲得などをバランスよく組み合わせて，少人数の対話・討論型教育及び個別指導に重点を置いた教育を行う。
- (3) 国内外の学会・研究会等への参加を研究指導計画に盛り込み，積極的に参加させ，幅広い視野と専門領域における交流能力を育てる。
- (4) 学生ごとに研究指導計画に基づいた研究実施経過報告書を毎年度提出させ，研究指導及びその成果の進捗状況を研究科運営委員会及びコースチェアパーソン等により，組織的に点検する。
- (5) 社会人学生に対しては，教育方法の特例を適用した柔軟な授業形態による履修とともに，授業ビデオやeラーニングを活用した学習など，教育指導の工夫を行う。

4. 成績の評価

- (1) 各授業科目の学修内容，到達目標，成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）等により学生に周知し，それに則した厳格な成績評価により秀，優，良，可，不可の判定を行う。
- (2) 「特別研究」授業の学習成果については，関連教員および学生により学位論文中間発表会を開催し，研究の進捗状況の確認・助言指導とともに，研究遂行能力の修得状況について評価を行う。
- (3) 学位論文審査は，1) 学位論文の審査は，研究科委員会が選出した3人の審査員による学位論文の審査ならびに最終試験によって行い，2) 論文審査に当たっては公開の論文発表審査会を開催し，3) 最終試験は，学位論文を中心として，これに関連のある科目について口述により行う。その審査（評価）基準は，①学位論文は，本専攻の目的に照らして学術的あるいは社会的に価値を有するものとし，②最終試験の結果は，可または不可で評価し，審査員3人による評価が全て可であることをもって合格とする。

Ⅱ 履修案内

履修について

(1) 履修計画

入学後1週間以内に、修士課程2年間の履修計画を立てる必要があります。計画にあたっては、看護学専攻においては、研究指導教員の助言の下に、各自の希望する履修コースを基本に進路および修学目的に適合した履修計画を立てて下さい。

修士課程2年間の履修計画は「履修届」として、学生課大学院教育担当に提出します。

(2) 授業科目

「必修科目」、「共通選択必修科目」および「専門選択必修科目Ⅰ」、「専門選択必修科目Ⅱ」から構成されています。

[必修科目]：希望するコースを学び研究遂行及び研究的取り組みを行う上で必要な科目で、研究・教育者コースは14単位、専門看護師コースは4単位を修得します。

[共通選択必修科目]：看護学の共通基礎として理解を深めることを目的としており、8単位以上を選択履修します。さらに、研究・教育者コースは、大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目）を2単位以上修得します。

[専門選択必修科目Ⅰ]：各自の目的に沿って専門分野の理解を深め、あるいは幅広い知識を修得するための科目群で、研究・教育者コースは6単位以上（専門選択必修科目Ⅱの慢性看護方法論Ⅰおよび修士課程医科学専攻の専門選択科目のうちから2単位以内を含めることができます。）を修得します。専門看護師コースは慢性看護論を含め2単位以上を修得します。

[専門選択必修科目Ⅱ]：「分野専門科目」と「分野実習科目」に区分されています。専門看護師コースにおいて開設する慢性看護分野について、「分野専門科目」は、専門的な理解を深め幅広い知識を修得するための科目群で、6科目10単位からなり、「分野実習科目」は、実習を通して共通選択必修科目・専門選択必修科目を基礎とした専門的実践を深めるための科目群で、2科目6単位からなり、いずれも専門看護師コースは必修です。

(3) 修了要件

修士課程看護学専攻の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、下記の所要科目につき30単位以上修得し、修士論文または特定の課題についての研究の成果（以下「学位論文」という。）の審査に合格することが必要です。

(研究・教育者コース)

必修科目：研究教育者コースの2科目、14単位

共通選択必修科目：4科目、8単位以上

大学院教養教育プログラム（研究科間共通科目）、2単位以上

専門選択必修科目Ⅰ：6単位以上（ただし、2単位までは専門選択必修科目Ⅱの慢性看護方法論Ⅰおよび修士課程医科学専攻の専門選択科目の単位を含めることができます。）

合 計： 30単位以上を修得する

(専門看護師コース)

必修科目：専門看護師コースの1科目，4単位

共通選択必修科目：4科目，8単位以上

専門選択必修科目Ⅰ：慢性看護論を含め2単位以上

専門選択必修科目Ⅱ：分野専門科目10単位と分野実習科目6単位

合計：30単位以上を修得する

(4) 履修届，履修科目変更届，再履修届

授業科目の履修にあたっては，原則として「看護学専攻授業科目開設表」の年次および学期別区分にしたがって履修します。

- ・科目の履修については，入学後1週間以内に，「履修届」を学生課大学院教育担当に提出してください。
- ・履修届の提出期限後に，履修科目の変更（追加又は取消）をするときは，「履修科目変更届」を学生課大学院教育担当に提出してください。
- ・当該年次以後に再履修を必要とする場合には，次年度開始から1週間以内に，「再履修届」を学生課大学院教育担当に提出してください。

講義・演習・実習等について

(1) 授業時間

講義・演習・実習等の時間は1コマ90分で行います。

- ・1コマ目 8：50～10：20
- ・2コマ目 10：30～12：00
- ・3コマ目 13：00～14：30
- ・4コマ目 14：40～16：10
- ・5コマ目 16：20～17：50

講義・演習・実習等の日程は，授業日程表により実施しますが，変更することがあります。掲示・メールでの連絡あるいは教員の指示に注意してください。

なお，社会人学生で，授業日程表による授業を受けられない場合は，各教科主任と相談の上，別途に履修時間・方法を定めてください。

(2) 講義室

- ・講義は主に看護学科棟カンファレンスルームで行いますが，講義内容によっては場所が異なります。掲示・メールでの連絡あるいは教員の指示に注意してください。
- ・講義室の場所については，建物配置図を参照してください。
- ・諸事情により，授業を欠席する場合は，事前に担当教員に連絡をしてください。

成績評価について

授業科目の成績評価は，記述試験，口答試験，レポート，その他担当教員が必要と認めた方法により，秀，優，良，可と不可の判定により行い，秀，優，良，可を合格とし，その授業科目の単位が与えられます。

成績の評価は，次の基準により行います。

秀 100点～90点

優 89点～80点

良	79点～70点
可	69点～60点
不可	59点以下

1) 本試験

試験は、授業科目の担当教員が必要と認めた方法で適宜実施します。各授業担当教員の指示に従ってください。

2) 追試験

追試験は、傷病その他やむを得ない理由により本試験を欠席した者で、あらかじめ試験欠席届（医師の診断書又は理由書を添付）を提出し、当該授業科目の担当教員が認めた者に限り受験することができます。

3) 再試験

再試験は、本試験又は追試験の不合格者のうち、あらかじめ再試験受験願を提出し、当該授業科目の担当教員が認めた場合に限り行います。再試験における合格の評価は「可」とします。ただし、次年度以降に当該授業科目を再履修した場合には、「可」より上位の評価を与えることができます。

研究計画と学位論文の審査について

（研究・教育者コース）

(1) 研究計画

入学後2週間以内に、修士課程で行う研究の方向性、計画、方針等について指導教員とよく相談のうえ、研究の方向性を示すテーマ（研究課題）と研究計画を自ら設定し、「研究課題届」と「研究指導計画書」を学生課大学院教育担当に提出してください。

(2) 日 程

学位論文の審査までの日程は以下のようになっておりますので、これを留意のうえ研究計画を立ててください。（日程は、医学研究科HPに掲載しています。）

（4月入学3月修了者の例）

1年次の4月中旬：研究課題届と研究指導計画書の提出（学生課大学院教育担当に提出）

2月下旬：中間発表審査会

2年次の12月上旬：学位論文題目の提出締切（指導教員を経て学生課大学院教育担当に提出）

学位論文の予備審査会（進捗状況の確認と助言指導等）

1月初旬：学位論文の提出締切（学生課大学院教育担当に提出）

1月中旬：論文提出資格の認定（履修単位の認定）

研究科委員会にて学位論文審査員の決定

2月上旬：公開審査会（論文発表会）、最終試験（口頭試問）

2月中旬：論文概要の提出締切（学生課大学院教育担当に提出）

3月上旬：研究科委員会にて学位授与の判定

3月下旬：学位記授与式

(3) 中間発表審査会

対 象

1年次学生を対象とする。長期履修学生については、2年次あるいは3年次でも可とする。

また、2月下旬（または9月初旬）に行い、倫理委員会への申請前に中間審査を受けることを原則

とする。

方 法

中間発表審査会は、主査・副査の2人の審査員により、主に研究の背景、研究目的・意義、具体的な研究計画を審査する。

(4) 学位論文審査の方法および審査基準

提出資格

- 1) 修士課程に1年以上在学し所定の単位を修得又は修得見込の者で、かつ必要な研究指導を受けた者とする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者については、在学期間が1年未満であっても提出することができる。

方 法

- 1) 学位論文の審査は、研究科委員会が選出した3人の審査員による学位論文の審査ならびに最終試験によって行う。
- 2) 学位論文審査に当たっては公開の論文発表審査会を開催する。
- 3) 最終試験は、学位論文を中心として、これに関連のある科目について口述により行う。

審査基準

- 1) 学位論文は、本専攻の目的に照らして学術的あるいは社会的に価値を有するものとする。
- 2) 最終試験の結果は、可または不可で評価し、審査員3人による評価が全て可であることをもって合格とする。

(5) 学位論文審査手続き

1) 学位申請の書類

修士の学位を申請する場合は、次の書類を提出期限までに学生課大学院教育担当に提出してください。

1. 学位申請書	1部
2. 学位論文	4部及び電子媒体で提出
3. 論文要旨(400字以内とする)	4部及び電子媒体で提出
4. 参考論文(有る場合)	4部
5. 研究指導計画書(完成版)	1部

(6) 修士学位論文作成要領

- 1) 「学位論文」は次の様式により作成してください。

学位論文

規 格：A4縦置き、横書き、上下左右余白 各25mm

文 字 数：1行35文字、30行程度

フ ォ ン ト：和文 明朝体、12ポイント

英文 該当者があった場合に検討する。

図 表：A4に納まる範囲内で、大きさは指定しません。

論 文 の 枚 数：10ページ程度(図表等は除く)を目安とします。

基本的スタイル：以下の項目、順序で作成してください。

○論文題名、著者名、所属、指導教員名→表紙に記入する。

・目 次

- 研究目的
- 研究枠組み，研究仮説
- 研究方法
- 研究結果
- 考 察
- 結語，今後の課題
 - ・文 献
 - ・資 料

(7) 「学位論文」の製本について

学位論文は各自表紙をつけて製本する。

なお，表紙は看護学専攻で一括購入し年度ごとに統一する。

(8) 論文概要について

上記○印の内容を図表を含めて4ページ以内にまとめたもの（表紙は不要）を電子媒体にて作成してください。1ページ目の冒頭部分に論文題名，学籍番号，氏名を書いてください。

詳細は論文提出締切後に改めて連絡します。

課題研究の審査について

（専門看護師コース）

(1) 研究計画

高度な実践能力の開発に向けた研究課題を探求する課題探求実習を通して，専門看護師コースにおいて実施する課題研究の計画や方針等について，指導教員とよく相談の上，研究課題を設定し，計画書を自ら作成する。

(2) 日 程（日程は，医学系研究科ホームページに掲載しています。）

（4月入学3月修了者の例）

1年次の4月上旬：指導計画書の提出締切（学生課大学院教育担当に提出）

2月下旬：中間発表審査会

2年次の6月上旬：研究課題届の提出

6月中旬～12月：課題研究実施

12月上旬：課題研究論文題目の提出締切

学位論文の予備審査会（進捗状況の確認と助言指導等）

1月上旬：論文提出資格の認定（履修単位の認定）

研究科委員会にて論文審査員の決定

2月上旬：最終試験（口答試問）

2月中旬：論文概要の提出締切

3月上旬：研究科委員会にて学位授与の判定

3月下旬：学位記授与式

(3) 中間発表審査会

対 象

1年次学生を対象とする。長期履修学生については，2年次あるいは3年次でも可とする。

また，2月下旬に行い，倫理委員会への申請前に中間審査を受けることを原則とする。

方 法

中間発表審査会は、主査・副査の2人の審査員により、主に研究の背景、研究目的・意義、具体的な研究計画を審査する。

(4) 課題研究論文の審査方法および審査基準

1) 審査方法

課題研究論文の審査は、研究科委員会が選出した3人の審査員による最終試験によって行う。

2) 審査基準

課題研究論文は、本専攻専門看護師コースの目的に照らして、高度な実践能力の開発に向けたものであり、学術的あるいは社会的に価値を有するものとする。最終試験の結果は、審査員3人による合議の結果、可であることをもって合格とする。

専門看護師認定試験の受験要件

専門看護師（CNS）は、日本看護協会が設けている認定制度です。修士課程看護学専攻では、専門看護師「慢性看護」の認定試験の受験資格の取得に必要な履修科目を「日本看護系大学協議会専門看護師教育課程基準」に準拠して設定し、平成24年度に日本看護系大学協議会に専門看護師教育課程として設置認可されました（平成23年度に遡り課程認定）

なお、専門看護師への申請は、経験年数等が要件となるので留意下さい。

オフィスアワーについて

「オフィスアワー」とは、各教員が学生の方々からの個別相談に応じるために設定している時間のことです。授業や学習に関する質問や学生生活・進路相談などについての相談があれば、教員は随時相談に応じるのですが、他の授業や会議、診療などで離れるため、常に教員室や研究室に居るとは限りません。

そこで、学生の方々の来訪に備えて教員室や研究室で待機し、相談に応じるのに都合の良い時間帯を「オフィスアワー」として、教員ごとに設定しており、その詳細はホームページから参照できます。

（オフィスアワー <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/officehour-3.html>）

諸規程について

規程については、医学系研究科HPに掲載していますので、そちらを参照してください。

その他、留意事項

(1) メールについて

学生課からの連絡事項は、学生用のメールアドレスへメールを送信しますので、1日1回はメールを確認してください。

※学生用のメールアドレスは、学籍番号@edu.cc.saga-u.ac.jpです。

(2) 授業料免除と奨学金について

授業料免除・奨学金を希望する場合は、学生課総務担当で申請の手続きを行ってください。

また、授業料免除・奨学金に関する情報は、学生課前の掲示板に掲示しますので、必ず確認してください。

(3) 住所届について

住所届は、大学院オリエンテーション終了後、大学院教育担当に提出してください。なお、住所届提出後に、住所が変更した場合も、住所変更届を学生課大学院教育担当に提出してください。

(4) 駐車許可証の交付について

自家用車により通学する場合は、学生課総務担当で「駐車許可証」の交付手続きを行ってください。
(原則として大学までの距離が2km以上の場合に限る)

(5) 学籍異動について

在学中、様々な事情により学籍の異動（休学・復学・退学・改姓等）が生じる場合は、異動希望日の1か月前までに学生課大学院教育担当に届け出てください。

研究指導計画書 (研究実施経過報告書)

平成 年 月 日

医学系研究科・修士課程 看護学専攻
(研究・教育者コース)
学籍番号 _____

氏 名 _____ 印 _____		主指導教員名 _____ 印 _____		副指導教員名 _____ 印 _____	
研 究 指 導 計 画		実 施 経 過 ・ 実 績 報 告			
年次	履修予定授業科目 (時間)	研 究 指 導 * 計 画	研究実施経過報告 (研究指導計画に沿って, 進捗状況, 実績, 成果等を記載)	指導教員のコメント (学生の取組み状況, 指導内容, 指導計画の変更等を記載)	
1 年 次	前 期				
	後 期				
2 年 次	前 期				
	後 期				

*指導は主指導教員の指揮と研究グループ等教員の役割分担により, 組織的に行う。

指導計画書 (実施経過報告書)

平成 年 月 日

医学系研究科・修士課程 看護学専攻
(専門看護師コース)

学籍番号

氏 名 _____ 印 _____

主指導教員名 _____ 印 _____

副指導教員名 _____ 印 _____

指導計画		実施経過・実績報告	
指 導	画	実施経過報告 (指導計画に沿って、進捗状況、実績、 成果等を記載)	指導教員のコメント (学生の取組み状況、指導内容、 指導計画の変更等を記載)
年次	履修予定授業科目(時間)		
1 年 次	前 期		
	後 期		
2 年 次	前 期		
	後 期		

*指導は主指導教員の指揮と専門科目担当教員の役割分担により、組織的に行う。

実施経過・実績報告は、
各年次終了時（3月中旬～3月下旬）
に担当係にて回収・確認を行います（電子
版）ので、指導教員と相談の上、随時作成し
てください。

実施経過・実績報告は、
各年次終了時（3月中旬～3月下旬）
に担当係にて回収・確認を行います（電子
版）ので、指導教員と相談の上、随時作成し
てください。

專攻

万
番
籍
字

氏名

名 員 教 導 指 主

11

豐田

11

研究指導計画		実施経過・実績報告	
研究指導計画	研究指導*計画	研究実施経過報告 (研究指導計画に沿って、進捗状況、実績、成果等を記載)	指導教員のコメント (学生の取り組み状況、指導内容、指導計画の変更等を記載)
年次	履修予定授業科目(時間)	研究指導*計画	指導教員のコメント (学生の取り組み状況、指導内容、指導計画の変更等を記載)
前期	学生主作成	指導教員主作成	指導教員主作成
後期	学生主作成	指導教員主作成	指導教員主作成
1 年 次	看護倫理 (30) 看護教育論 (30) 看護機能形態学特論 (16) 老年看護学特論 (16) 地域看護学特論 (16) 在宅看護学特論 (16) 国際看護学特論 (16) 精神看護学特論 (16) 看護学研究法演習 (32)	5) 看護学研究法演習や抄読会における討論を通して、研究戦略の設計、論述、論旨の展開等に関する指導。 6) 研究テーマの焦点化とそれに沿った研究戦略の設計・実施に関する指導 7) 研究計画書の作成に関する助言指導。 8) 構想発表会の開催。 9) 予備調査実施に関する指導。 10) 関連学会・研究会などに参加させ、当該分野の視野を広げさせる。 11) 論文中間報告会・学位論文審査会に参加させ、学位論文作成・審査までのプロセスについて学ばせる。	1) 学生の希望 2) 研究テーマについて承認し、助言を行った。 3) 研究テーマに関連する文献収集を促した。 4) 看護学研究法演習での検討を通して、先行研究のまとめとテーマの焦点化を指導した。 5) 文献レビューがほぼ終了したので、研究テーマの焦点化を図るよう指導した。 6) 焦点化された研究テーマについて研究計画書の作成を指導し、構想発表会を通して、更に修正を加えさせた。 7) 予備調査の実施結果を検討し、研究内容に反映させるよう指導した。 8) 学会に参加を促し、最新レポートの関連研究に触れ、情報交換の機会を持つよう指示した。

2 年 次	前 期	看護教育方法論 (16) 実践課題実習 (90) 看護学特別研究 (180)	12) 予備調査の結果に基づき研究計画修正についての指導助言。 13) 上記 5) 6) を継続 14) 倫理審査委員会審査の申請に関する指導。 15) 調査・実験等の実地指導。 16) 調査・実験等データの解析と解釈に関する指導。 17) 研究結果のまとめ方と考察、プレゼンテーションについての指導。 18) 関連学会・研究会等で成果を発表させ、他研究者との討論を通して、見識と技量を磨かせる。 19) TA として教育・研究に参画させ、当該分野の理解と技能を深めさせる。 20) 上記 16) 17) を継続実施。 21) 論文中間発表会での他者からの意見も参考にして、論文作成の準備と作成に関する具体的な指導。 22) 論文の素稿作成。 23) 論文最終稿作成。 24) 論文投稿に係る具体的指導。 25) 学位論文審査に係る具体的な指導。	12) 予備調査の結果分析を通して、研究内容を吟味し、研究計画の修正、確認を行った。 13) 倫理委員会に申請し、承認を得た。 14) 研究協力機関に協力を依頼し、研究計画書を提示し、説明・同意を得た。 15) 研究計画に沿って本調査に着手した。 16) これまでの結果を整理し、●●学会で発表した。 17) TA として教育・研究に参画し、●●●分野の理解が深まった。	8) 研究計画を具体化し、順調に実施している。 9) データの分析方法について、看護統計学演習の授業を再度、聴講するよう助言した。 10) これまでの結果を●●研究会で発表するよう指示した。 11) 結果のまとめ方を指導した。
	後 期	看護学特別研究 (180)	20) 論文中間報告会で報告し「●●●●●」について助言を受けた。 19) 上記 18) の助言を参考に、「●●●●●」の検討を行った。 20) データの整備を進めるとともに、論文の素稿作成に着手した。 21) 論文最終稿を作成した。	12) 修士論文の作成状況を確認し、修正を繰り返すよう指導した。 13) 学位論文および関係書類の提出・確認	

それぞれの履修期間で作成してください。
(※長期履修の場合、休学の場合は気をつけてください。
休学期間是在学期間ではないため、休学中は履修・研究はできません。) 詳しくは担当係へご相談ください。

学位論文を申請する時、完成版を併せて提出してください。(電子版と紙(押印されたもの))

コースナンバリング

【修士課程看護学専攻】

区分		授業科目	コースナンバリング
必修科目	教育研究者・	看護学研究法演習	4 492 x 512
		看護学特別研究	4 492 x 512
	看護専門 師	課題研究	4 492 s 512
共通選択必修科目		看護理論	4 492 x 512
		看護倫理	4 492 x 512
		看護研究概論	4 492 x 512
		看護教育論	4 492 x 512
		看護管理	4 492 x 512
		コンサルテーション論	4 492 x 512
専門選択必修科目Ⅰ		看護援助学特論	4 492 x 512
		看護機能形態学特論	4 491 x 512
		急性期看護学特論	4 492 x 512
		慢性看護論	4 492 x 512
		母性看護学特論	4 492 x 512
		小児看護学特論	4 492 x 512
		母子看護展開論	4 492 x 512
		老年看護学特論	4 492 x 512
		地域看護学特論	4 492 x 512
		在宅看護学特論	4 492 x 512
		国際看護学特論	4 492 x 512
		精神看護学特論	4 492 x 512
		看護統計学演習	4 492 x 512
		看護教育方法論	4 492 x 512
		がん看護学特論	4 492 x 512
		生体構造観察法	4 491 x 512
		実践課題実習	4 492 x 512
専門選択必修科目Ⅱ	慢性看護	慢性看護対象論	4 492 s 512
		慢性看護方法論Ⅰ	4 492 s 512
		慢性看護方法論Ⅱ	4 492 s 512
		慢性看護展開論	4 492 s 512
		慢性看護援助論Ⅰ	4 492 s 512
		慢性看護援助論Ⅱ	4 492 s 512
		慢性看護学実習Ⅰ	4 492 s 512
		慢性看護学実習Ⅱ	4 492 s 512

1. 専門看護師コースの授業科目は、「Certified Nurse Specialist」の附番する。

Ⅲ 授業科目の学習指針等

(シラバス)

シラバスとは

シラバス [syllabus] は、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定など授業の概要を書き示したもので、この学習要項では「授業科目の学習指針等」として掲載してあります。

各授業科目は、医学系研究科の教育目的・目標に沿って年次ごとに開講、配置されていますが、その教育課程における個々の授業科目の位置付け（開講目的）や学習内容・到達目標等をシラバスで明示することにより、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達すべきかを知る学習指針として、重要な役割を果たすものです。

シラバスに記載されている項目の説明

- 【教 科 主 任】 各授業科目の担当責任者で、教科主任の下に講義・実習等の編成、担当者の配置ならびに試験の実施と成績判定が行われます。
- 【G. I. O. (General Instructional Objective) : 一般学習目標】 各学科の教育課程における当該授業科目の位置付け（開講目的）を示すとともに、この授業により何ができるようになるか、（すなわち、この授業の学習がなぜ重要なのか、それによって学習者のニーズがどのように満たされるか）の総括的な目標が掲げられています。
- 【講義・実習項目】 授業科目を構成する講義・実習等の項目と、それぞれを担当する教員名が示されています。
- 【S. B. O. (Specific Behavioral Objective) : 個別行動目標】 当該授業科目の一般学習目標 (G. I. O.) を達成するためには、どのようなことができればよいのか、具体的な行動の表現で個別の学習目標が示されています。
- 【評価の方法と基準】 当該授業科目の成績評価の方法と、成績判定の基準が示されています。
- 【履 修 上 の 注 意】 各授業科目を履修する上での心構え、注意等が示されています。
- 【テ キ ス ト 等】 当該授業に必要な参考書を、次の区分に分けて紹介してあります。
- 1) テキスト：教科書として用いるもので、必ず手に入れておく必要があるもの。
 - 2) 指定図書：重要な参考書として利用頻度が高く、手に入れておくことが望ましいもの。これについては、原則的に附属図書館医学分館に配架されています。
 - 3) 参 考 書：上記以外の参考書として挙げられています。
- 【日 程 表】 当該授業科目の講義・実習等および試験の日程、担当者とともに、講義項目のキーワードが示されています。講義を受ける際の準備や自己学習などに活用してください。

注：医学系研究科のシラバスは、ホームページにも掲載してあるので、利用してください。

看護学研究法演習（必修2単位）

教科主任：各指導教員

開講期間：1年次 通年

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

修士課程看護学専攻の目的に沿って、自立して研究を行うのに必要な研究デザインや研究戦略（課題の抽出・設定、仮説・立証計略の立案、方策・方法の考案、手順・計画設計など）の理論を学び、自らが立案する素養を身につける。

2. 授業項目

（担当者）

(1) 論文読解演習

（各指導教員および当該研究グループ教員）

主指導教員の研究グループごとに論文読解演習を行い、読解を担当し発表する。

(2) 研究設計演習

（各指導教員および当該研究グループ教員）

主指導教員の研究グループごとに研究の設計、遂行等に関する検討会（セミナー）を行い、各自の研究について討論する。

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

(1) 論文読解演習

- 1) 欧文論文を読解し、論文内容の要旨を説明できる。
- 2) 論文著者の立場になって、論旨の展開を説明できる。

(2) 研究設計演習

- 1) 各自の研究テーマに沿って、研究デザインや研究戦略を立案できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

論文読解演習や検討会（セミナー）の学習状況等で評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

上記評価結果を開示する。希望者は各指導教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

特になし。

6. 参考書等

特になし。

7. 授業日程

論文読解演習日程および研究設計演習日程

主指導教員の研究グループごとに開催されるため、主指導教員と日程を打合せること。

課題研究（必修4単位）

教科主任：各指導教員

開講期間：2年次 通年

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

修士課程看護学専攻専門看護師コースの目的に沿って、高度な実践能力の開発に向けた研究課題を明確にし、研究を遂行するために必要な方法等を学び、自ら研究を行う素養を身につける。

2. 授業項目

（担当者）

- (1) 課題探求実習 （各指導教員および専門科目教員）
地域や臨床現場における看護実践を通して、高度な実践能力の開発に向けた研究課題を探求する。
- (2) 研究設計演習 （各指導教員および専門科目教員）
主指導教員および専門科目教員と共に研究の設計、遂行等に関する検討会（セミナー）を行い、各自の研究について討論する。
- (3) 研究実習
各自が研究を実践する過程で直面する様々な問題に対して、解決方法を見出すための助言・指導等を行う。

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 課題探求実習
 - 1) 地域や臨床現場における専門的な実践を通して、検討課題を説明できる。
 - 2) 検討課題の中から、実践能力の開発につながる課題を検討できる。
- (2) 研究設計演習
 - 1) 各自の課題に沿って、研究計画を立案できる。
- (3) 研究実習
 - 1) 各自がデザインした研究を開始するための実験・調査等の準備ができる。
 - 2) 計画した実験、調査等を遂行できる。
 - 3) 実験・調査等のデータの解析と解釈ができる。
 - 4) 実験・調査等のデータをまとめることができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
実習や演習、検討会（セミナー）の学習状況等による総合評価を行う。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
上記評価結果を開示する。希望者は各指導教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

特になし。

6. 参考書等

特になし。

7. 授業日程

指導教員と相談の上、研究実習時間を設定すること。

看護学特別研究（必修12単位）

教科主任：各指導教員

開講期間：1・2年次 通年

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

各自の研究テーマに沿って、研究を遂行するために必要な能力、方法等を研究の実践を通して学び、自立して研究を行う素養を身につける

2. 授業項目

（担当者）

(1) 研究実習

（各指導教員および当該研究グループ教員）

各自が研究を実践する過程で直面する様々な問題に対して、解決方法を見出すための助言・指導等を毎週4時間程度行う。

(2) 学会等実習（適宜）

（各指導教員および当該研究グループ教員）

関連学会や研究会等に参加させ、研究に対する広い視野と深い見識を養うとともに、プレゼンテーション等の技量を訓練する。

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

(1) 研究実習

- 1) 各自がデザインした研究を開始するための実験、調査等の準備ができる。
- 2) 計画した実験、調査等を遂行し、必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。
- 3) 実験、調査等データの解析と解釈が適切にできる。
- 4) 学会発表あるいは論文としてデータをまとめることができる。
- 5) 論文の原稿作成、投稿、発表までの過程を遂行できる。

(2) 学会等実習

- 1) 関連分野の様々な研究動向を理解し、各自の研究に活用できる。
- 2) 他者の研究発表を理解し、適切に質疑討論できる。
- 3) 自己の研究を明快に発表し、質問等に対して適切に応答できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

研究実習等の学習状況にて評価する。

(2) 評価基準

上記の授業または相当する学習内容を修めていること。研究指導計画書（研究実施経過報告書）を主指導教員に提出。

(3) 評価結果の開示

希望者は主指導教員へ問合せをすること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

研究実習は、各自の論文研究を具体的に実行するための時間ではなく、研究遂行に必要な能力を養うためのもので、各自の積極的な取り組みが必要である。

6. 参考書等

特になし。

7. 授業日程

指導教員と相談の上、研究実習時間を設定する。

看護理論（共通選択必修2単位）

教科主任：長 家 智 子

開講期間：1・2年次 前学期 月曜1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

合理的で、卓越した看護実践の基盤となる理論・概念の基本的な構造や特徴、発達段階を学ぶとともに、それぞれの理論の実践における活用の現状と課題について分析・検討することにより、諸理論・概念の看護実践・教育・研究への活用の意義と応用可能性を明確化する。

看護理論や概念の看護実践・教育への活用・研究による検証を通して、既存の理論を発展させる、あるいは新たな理論を探究し、看護学の学問的体系化に寄与できる能力を養う。

2. 学習項目

（担当者）

(1) 看護理論・実践・研究の環状的性質	統合基礎看護学講座	長家 智子
(2) 看護理論発表過程と歴史的変遷	統合基礎看護学講座	長家 智子
(3) 看護諸理論の概要 ニーズ論・対人関係論・システム論・適応論等	統合基礎看護学講座	長家 智子
(4) 看護実践における看護理論・概念の現状と課題 オレム看護論	生涯発達看護学講座	古賀 明美
(5) 看護実践における看護理論・概念の現状と課題 小児に関連する理論	生涯発達看護学講座	鈴木智恵子
(6) 中範囲理論 ストレス・コーピング、危機理論、発達課題論	統合基礎看護学講座	藤野 成美

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 看護理論の変遷を概観するとともに、看護理論の基本的な成り立ちや構造について理解を深める。
- (2) 主要理論の批判的分析を通して、各理論の特徴や実践における応用可能性、その限界について理解を深め、実践・教育・研究において理論を活用することの意義と課題を考えることができる。
- (3) 理論の実践への適応を通じて患者理解や看護介入の在り方を検討することができる。
- (4) 看護実践への看護理論・概念活用の現状と課題を踏まえ、理論・概念の実践における検証方法や発展に向けた取り組みの方向性を考察できる。
- (5) 小児期の主要な発達理論を通して子どもを理解し、子どもが健康な生活を送れるようにセルフケア理論との統合ができる。

4. 評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への出席やグループワークへの参加の状況、及びレポート提出等により総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は以下の基準により行う。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

5. 履修上の注意

- (1) 一般的な注意事項
主体的に問題意識を持ち、自己学習をベースにした積極的なディスカッション等を通して、視野を広げ知識や考察力を高める。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業日程に沿った受講ができない場合は、授業開始時までには教科主任・長家（内線2532）まで連絡し、相談すること。

6. 参考書等

- ・看護理論家とその業績 第3版 都留伸子監訳 医学書院 2004 ￥6,912
- ・看護学原論 看護の本質的理解と創造性を育むために 高橋照子編 南江堂 2009 ￥2,700

7. 日程表

No.	月日	時限	講義テーマ	担当者
1	4/9	1	理論・概念の看護における意義看護諸理論の概要 (ニーズ論・対人関係論・システム論・適応論等)	長家 智子
2・3	4/16	1・2	看護理論発表過程と歴史的変遷 看護理論と実践，研究の今後 演習についての説明・担当決定 看護実践における看護理論・概念の現状と課題 ペプロー看護論の概要	長家 智子
4	4/23	1	看護実践における看護理論・概念の現状と課題 オレム看護理論の概要	古賀 明美
5・6	5/7	1・2	演習：看護論のまとめ	長家 智子
7・8	5/14	3・4	看護実践における看護理論・概念の現状と課題 小児に関連する理論	鈴木智恵子
9・10	5/21	3・4	看護実践における看護理論・概念の現状と課題 小児に関連する理論 発表と討議	鈴木智恵子
11・12	5/28	1・2	看護実践における看護理論・概念の現状と課題 オレム看護理論 発表と討議	古賀 明美
13・14	<u>6/14</u> (木)	3・4	中範囲理論 (ストレス・コーピング，危機理論，発達課題論)	藤野 成美
15	6/18	1	看護実践における看護理論・概念の現状と課題 ペプロー看護理論 発表と討議 まとめ	長家 智子

看護倫理（共通選択必修2単位）

教科主任：藤野 成 美

開講期間：1・2年次 後学期 火曜3～5時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

倫理に関する原則的な理論や概念を学び、それらを基に看護における倫理規範や看護の道徳的基盤を探究する。

医療現場における倫理的ジレンマや、研究・教育に関する倫理的課題を倫理の理論や概念、方法論を基盤に分析し、倫理的課題への創造的解決方法について看護の視点から考察・探究する。

倫理的課題に対して適切に判断し、介入できる能力を養うとともに、専門看護師としての果たすべき責務や役割を探究する。

2. 学習項目

（担当者）

(1) 医療従事者の職業倫理綱要	医 学 科	坂本麻衣子
(2) 自己決定権, インフォームド・コンセント	〃	〃
(3) 研究・調査に関わる倫理的課題と対処	統合基礎看護学	藤野 成美
(4) 倫理的課題に対する専門看護師の介入の実際, 倫理的コンサルテーション	佐賀大学附属病院看護部	田中まゆこ
(5) 小児・母性看護領域における倫理的課題と対処	生涯発達看護学	鈴木智恵子
(6) 成人・老年看護領域における倫理的課題と対処	生涯発達看護学	室屋 和子
(7) 精神看護領域における倫理的課題と対処	統合基礎看護学	藤野 成美
(8) 看護管理領域における倫理的課題と対処	生涯発達看護学	中野 理佳

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 倫理に関する原則的な理論や概念について説明することができる。
- (2) 医療を取り巻く最新のトピックスやその動向について概観し、看護倫理の視点から分析、説明することができる。
- (3) 倫理理論や概念を用いて、医療現場における倫理的ジレンマや、研究・教育に関する倫理的課題を分析し、倫理的課題への対応について考察することができる。
- (4) 臨床の現場で遭遇する倫理的葛藤について、個人・組織それぞれの関係性や立場を考慮して解決策を検討し、調整するといった専門看護師としての役割が理解できる。
- (5) 看護における倫理規範や看護の道徳的基盤を探究する姿勢を獲得できる。
- (6) 研究協力者へのインフォームド・コンセントとディセプション、被検者の利益／不利益の平等性、研究上のトラブルについて説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席状況、自己学習への取り組み状況、学習目標の到達状況、課題発表・レポートによる結果を基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義の日時、内容、準備等については、担当教員の指示を確認する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は下記の日程表どおりに開催されます。止むを得ない事情で出席できない場合は、代替の学習手段・課題について、講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

- ・サラ・フライ著 看護実践の倫理第2版 倫理的意思決定のためのガイド 日本看護協会出版会 2005
- ・和田仁孝・中西淑美著 医療メデュケーション コンフリクト・マネジメントへのナラティブ・アプローチ シーニュ 2011. ¥3,980
- ・安藤寿康・安藤典明（編）事例に学ぶ心理学者のための研究倫理 ナカニシヤ出版
- ・神田橋條治著 発想の般跡 岩崎学術出版社
- ・ヴァン・デン・ベルク著（早坂泰次郎・上野轟訳）病床の心理学 現代社
- ・山内桂子・山内隆久著 医療事故 朝日新聞社
- ・Jonsen AR/赤林 朗 他 監訳 臨床倫理学 第5版 新興医学出版社 2006. ¥3,465

7. 日程表

No	月 日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	10月30日	3	医療従事者の職業倫理綱要，ニュルンベルク倫理綱要，医の倫理のジュネーブ会議概要，ヘルシンキ宣言など	坂 本	医学部附属地域医療科学教育研究センター 地域包括医療教育部門
2	10月30日	4	自己決定権，インフォームド・コンセント，患者と医療従事者の関係	坂 本	〃
3・4・5	11月 6日	3・4・5	臨床倫理の4分割法・倫理的ジレンマ 精神看護領域における倫理的課題とその介入の実際，倫理原則に基づく事例分析 研究・調査に関わる倫理的課題と対処	藤 野	統合基礎看護学講座
6	11月20日	3	専門看護師の役割と介入の実際 倫理的コンサルテーションと調整の実際 看護師が行う倫理的コンサルテーションの意義と課題，専門看護師の責任と役割	田 中	佐賀大学附属病院 専門看護師
7	11月20日	4	成人・老年看護領域における倫理的諸問題	室 屋	生涯発達看護学講座
8	11月20日	5	母子領域におけるアドボカシーとインフォームド・コンセント，インフォームド・アセント	鈴 木	〃
9・10	12月 4日	3・4	専門看護師の役割と介入の実際 事例を用い，分析・介入・調整・組織変革等のプロセスの実際を学ぶ	田 中	佐賀大学附属病院 専門看護師
11	12月 4日	5	母子領域における倫理的課題の検討	鈴 木	生涯発達看護学講座
12・13	12月11日	3・4	成人・老年看護領域における倫理的課題とその介入 (事例検討：学生が実際に経験した事例に対して看護理論を適応・分析し，患者理解や看護介入を検討する)	室 屋	生涯発達看護学講座
14・15	12月18日	3・4	看護管理領域における倫理的課題とその介入の実際 組織と倫理的課題・労働環境や雇用関係など組織的な課題と倫理・スタッフの倫理的感受性と対処能力向上への支援 臨床研究・調査に関する倫理指針と対応 患者選択や説明，研究方法の選択，結果の公表やプライバシーの保護	中 野	〃

※講義の日時については，担当教員に確認する。

看護研究概論（共通選択必修2単位）

教科主任：佐藤 珠 美

開講期間：前学期 木曜 2～4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

看護の向上を図るために必要な研究の方法について学ぶ。基本的な研究過程および方法論に関する知識を体系的に学習する。この過程を通して、研究と看護実践との関係を理解し、研究の意義と役割について考察する。

2. 学習項目

		(担当者)
(1) EBMを用いた臨床疑問の解決法	生涯発達看護学	佐藤 珠美
(2) 研究の種類と特徴	〃	熊谷 有記
	〃	室屋 和子
	〃	田渕 康子
(3) 文献検索・演習	附属図書館	正岡美奈子
	〃	疋田 恵介
(4) 研究倫理	生涯発達看護学	佐藤 珠美
(5) 研究論文クリティーク	〃	佐藤 珠美
	〃	田渕 康子
	〃	室屋 和子
	〃	熊谷 有記

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 看護における研究の役割について述べることができる。
- (2) 文献を効果的に検索し、批判的に検討ができる。
- (3) 研究課題に対応した研究デザイン、研究方法について説明できる。
- (4) 研究データの収集と分析方法について説明できる。
- (5) エビデンスを探究し、臨床実践に応用する方法が理解できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への出席、学習課題への取り組み等の状況、レポートの結果を基に総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題及び出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意及び担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
授業の形式は、講義・演習のほか、グループワークによる学習成果の発表および討議による授業形態をとるので、履修者の主体的な学習を通して知識や考察を深めることが要求される。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
講義については日程表の通りに実施される。やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指導を受けること。
- (3) 事前課題
・文献検索では、和文・欧文の検索をします。日本語、英語キーワードを3つずつ準備し、科目責任者に5月14日までにメール送信する。

- ・医学部医の倫理に関する規程（申請書様式を含む）を医学部HPからダウンロードし、精読の上、授業時持参ください。http://www.med.saga-u.ac.jp/viewnews.php?newsid=32
- ・クリティーク論文（学科誌、原著）を6月7日（木）までに2部ずつ科目責任者に提出する。
- ・個別学習目標(1)～(4)の達成に向けて、No.1～11授業に対応し更に学びを深めたことをレポートにまとめ、7月12日授業開始時科目担当者に提出ください。

6. 参考書等

- (1) 看護における研究，南裕子編，日本看護協会出版会，2008.
- (2) 看護研究第2版 原理と方法，D. F.ボーリット & C.T. ベック著，近藤潤子監訳，医学書院，2010
- (3) 看護研究 Step by Step，黒田裕子著，医学書院，2012
- (4) 研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法，John W. Creswel，操華子・森岡崇訳，日本看護協会出版会，2007.
- (5) よくわかる看護研究論文のクリティーク，山川みやえ，牧本清子編著，日本看護協会出版会，2013.
- (6) エビデンスに基づく看護実践のためのシステマティックレビュー，牧本清子著，日本看護協会出版会，2013.
- (7) すぐわかる統計用語の基礎知識，石村貞夫，アレン・デスモンド，劉チェン，東京図書，2016.
他適宜，紹介する。

7. 日程表

No.	月 日	時限	講義テーマ	担当者	所 属
1	4月19日（木）	3	EBM の 5 つのステップ	佐 藤	生涯発達看護学
2	4月26日（木）	3	研究の種類と特徴 記述的研究，相関研究 実験研究，準実験研究 質的研究（インタビュー法を含む）	熊 谷	
3		4		田 渕	
4	5月10日（木）	3		室 屋	
5		4			
6	5月17日（木）	2	文献検索（和文・欧文）・演習	正 岡 正 田	附属図書館
7	5月24日（木）	3			
8	5月31日（木）	3			
9	6月 7 日（木）	3	倫理指針，倫理審査委員会，倫理申請	佐 藤	生涯発達看護学
10	6月28日（木）	3	研究論文クリティーク（グループワーク）	田 渕	生涯発達看護学
11		4			
12	7月12日（木）	3	研究論文クリティーク（個別発表） 量的研究2本，質的研究1本 ※発表形式は担当者より指示する	佐 藤 熊 谷 田 渕 室 屋	生涯発達看護学
13		4			
14	7月26日（木）	3			
15		4			

※文献検索では，実際に和文・欧文の検索をしますので，日本語，英語キーワードを準備してください。

看護教育論（共通選択必修2単位）

教科主任：長 家 智 子

開講期間：1・2年次 後学期 月曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

多様化するヘルスケアニーズに対応した質の高い看護ケアの提供と開発を促進するために、専門職として看護者が果たすべき教育的役割や機能を理解する。

系統的教育活動の展開方法（教育・学習理論に基づいて）を学び、さまざまな対象への効果的な教育を立案・実施できる能力を育成する。また、看護実践力の向上を目指した継続教育（キャリア開発、現任教育）システムのあり方を探求する。

生涯学習の観点から看護教育の現状と課題を明確化するとともに、変革者として制度的な整備も視野に入れた看護生涯学習システムの構築を検討する。

2. 講義項目

（担当者）

(1) 看護基礎教育の現状と課題	統合基礎看護学講座	長家 智子
(2) 看護継続教育（卒後教育と現任教育）の現状と課題生涯学習と看護教育	〃	長家 智子
認定看護師・専門看護師の臨床における教育的役割と機能	福西会病院CNS&CN	高木 良重
(3) 継続教育に関わる諸理論（教育・学習理論）	統合基礎看護学講座	古島 智恵
(4) 学習ニーズと看護教育方法・評価	〃	長家 智子
(5) 看護師教育の現状と課題、看護師に求められる実践能力を育成するための教育方法	統合基礎看護学講座	藤野 成美
(6) 看護継続教育と専門看護師の教育的機能 キャリア開発と看護生涯学習に対する組織的支援	看護管理室	藤満 幸子
(7) カンファレンスにおける教育的意義	統合基礎看護学講座	藤野 成美

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 生涯学習の観点から看護における継続教育の必要性について考察できる。
- (2) 今日健康問題、ヘルスニーズの特徴、看護の質などの観点から継続教育（キャリア開発、現任教育）の現状と課題を検討することができる。
- (3) 看護実践の改善と向上をめざす専門看護師として果たすべき教育的役割や機能を考察できる。
- (4) 教育・学習理論を基盤とした教授－学習方略について説明できる。
- (5) キャリア開発に関する諸理論について説明できる。
- (6) さまざまな対象（患者及び家族、スタッフ、管理者等）に対する効果的な教育のあり方について、教育・学習理論に立脚した教育プログラムを立案できる。
- (7) キャリア開発に対する組織的支援方法について現状と課題を検討し、新たな継続教育システムのあり方について提案できる。
- (8) 変革者として、看護生涯学習システムの構築について考察できる。
- (9) 看護生涯学習システムの構築にむけ、看護教育制度や法整備について現状と課題を検討し、看護基礎教育から続く生涯教育の発展的方向性を考察できる。

4. 評価の方法と基準

- (1) 評価方法
出席状況、レポート、グループワークおよびプレゼンテーションにより総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題及び出題の意図は事前に開示しているが、評価について閲覧を希望する者は担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意及び担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

グループワークは院生自らが主体的に学習する授業形式であるため、受講生全員が出席することを前提としている。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

開講日時に受講できない場合は、後期の授業開始前に教科主任に相談すること。

6. 参考書等

- (1) わかりやすい看護教育制度 第2版資料集 廣川書店 1995 ¥3,296
- (2) 看護学教育Ⅱ 日本看護系大学協議会広報・出版委員会編 日本看護協会出版会 2005 ¥3,150
- (3) 看護教育におけるグループ学習のすすめ方 Deborah L Ulrich, Kellie J. Glendon著 高島尚美訳医学書院 2002 ¥1,890
- (4) 看護教育学研究 舟島なをみ著 医学書院 2002 ¥3,360
- (5) 院内教育プログラムの立案・実施・評価 舟島なをみ著 医学書院 2007 ¥3,360

7. 日程表

No	月日	時限	講義テーマ	担当者
1・2	10/15	1・2	教育学とは、看護教育と看護学教育、看護基礎教育と継続教育、看護教育制度の変遷、看護と教育的機能、看護教育課程	長 家
3・4	10/25	3・4	看護師教育の現状と課題、看護師に求められる実践能力を育成するための教育方法、カンファレンスにおける教育的意義	藤 野
5・6	10/29	1・2	看護継続教育（卒後教育と現任教育）の現状と課題、生涯学習と看護教育、看護生涯学習システムの今後：看護教育制度と法整備のありかたについて	長 家 古 島
7・8	11/12	1・2	看護継続教育（キャリア開発・現任教育）	藤 満
9・10	11/26	1・2	グループワーク：看護実践能力向上のための院内教育プログラムの立案・実施・評価について	藤 満
11	12/1 (土)	2	認定看護師・専門看護師の臨床における教育的役割と機能（患者・家族・スタッフ・管理者等）、キャリア開発と看護生涯学習に対する組織的支援と専門看護師看護継続教育の基盤となる教育・学習理論（動機づけ、内発と外発、自律、スキルと意欲・感性、メタ認知など）、教育ニーズの把握と教授方略・評価 認定看護師と専門看護師の違い	高 木
12・13	12/3	1・2	グループワーク：看護実践能力向上のための院内教育プログラムの立案・実施・評価について	長 家
14・15	12/10	3・4	課題についてのプレゼンテーション	藤満・長家

看護管理（共通選択必修2単位）

教科主任：村 田 尚 恵

開講期間：1・2年次 後学期 木曜 1・2限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

看護管理の基盤となる諸理論を理解し、看護管理者あるいは専門看護師として組織運営および看護管理を実践するための知識と実践能力を養う。

2. 学習項目

（担当者）

(1) 看護管理概論	統合基礎看護学講座	村田 尚恵
(2) 看護における医療安全	佐賀大学病院	山田みゆき
(3) 看護組織論 組織理念、組織形態、組織原則、職務規程、職位と機能	佐賀大学病院	藤満 幸子
(4) 看護におけるマネジメント 市場サービスと医療サービス ケアマネジメント、サービスマネジメント	生涯発達看護学講座	中野 理佳
(5) 看護業務 看護業務、看護業務指針、看護水準	統合基礎看護学講座	村田 尚恵
(6) 看護における人材資源活用論 人材資源の活用、人材育成、リーダーシップ論	〃	〃
(7) 看護管理分野の研究課題と実践	〃	〃
(8) 看護管理における課題と具体的解決	〃	〃
(9) 看護管理者と専門看護師の協働	〃	〃

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 看護における管理の特徴を理解するために、関連する概念・理論を用いて分析・検討し、効果的な看護管理のあり方を明確にする。同時に、看護管理上の問題点と解決策を見出すことができる。
- (2) 地域・在宅・医療施設など多様な看護実践の場における看護管理の実際（看護管理行動）および課題を述べることができる。
- (3) 保健医療福祉行政の現状を捉え、専門看護師として変革者に求められる役割を認識する。また、拡大する看護サービスの新たな提供のあり方を述べることができる。
- (4) 専門看護師として、保健医療福祉行政に携わる人々との連携・調整・協働を行うために必要な知識や態度を述べることができる。
- (5) 組織変革における専門看護師の役割を明確にする。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への参加状況、課題に関するプレゼンテーションの内容、討議への参加状況、最終レポートの内容などにより総合的に評価する。評価は、プレゼンテーションを行い、最終レポートを期日内に提出することで、受けることができる。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題意図を開示する。閲覧を希望者は、電子メールで教科主任に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

- ・ 初回の講義時間に、取り組む課題を明らかにする。
- ・ 課題についてプレゼンテーションを行い、皆との討議によって内容の理解を深める。
- ・ プレゼンターは、事前に使用する資料を担当教員および受講生に配付する。終了後、指定した日時までに討議内容をふまえたレポートを提出する。
- ・ 教員からの連絡事項は、掲示板を活用するので注意しておくこと。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

- ・ 臨床現場における看護管理上の問題を明らかにして授業にのぞみ、学期終了後には解決の示唆を得るようにする。また、看護職の未経験者に対して話題提供者として機能する。
- ・ 欠席した場合は、レポート等他の方法で実施し評価する。

6. 参考書等

看護管理学学習テキスト、1巻～8巻および別巻、日本看護協会出版会（必携とはしない）
課題によってはテキストを指示することがある。

7. 日程表

No	月 日	時限	講義テーマ	担当者
1	10 月 4 日	1	看護管理概論	村 田
2	10 月 4 日	2	看護における医療安全	山 田
3・4	10 月 11 日	1・2	看護におけるマネジメント 市場サービスと医療サービス ケアマネジメント、サービスマネジメント	中 野
5・6	10 月 18 日	1・2	看護業務 看護業務、看護業務指針、看護水準 看護における人材資源活用論 人材資源の活用、人材育成、リーダーシップ論	村 田
7・8	10 月 25 日	1・2	看護組織論 組織理念、組織形態、組織原則、職務規程、 職位と機能	藤 満
9・10	11 月 1 日	1・2	看護管理分野の研究課題と実践(講義・演習)	村 田
11・12	11 月 8 日	1・2	看護管理における課題と具体的解決(演習)	村 田
13・14	11 月 15 日	1.2	看護管理における課題と具体的解決(演習)	村 田
15	11 月 22 日	1	看護管理者と専門看護師の協働(全体討議)	村 田

コンサルテーション論（共通選択必修2単位）

教科主任：中 野 理 佳

開講期間：1・2年次 前学期 月曜 2～5時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

コンサルテーションの基本概念を踏まえつつ、専門看護師としてコンサルテーションを実践するために必要な理論や役割を学習する。コンサルテーションの3つのタイプ（①クライアントの問題、②コンサルティの問題、③組織の問題）についてプロセスの展開を理解し、事例分析を通してコンサルタントとしての実践能力を養う。

また、組織におけるコンサルテーションの現状と自己の課題を整理するとともに、高度実践者や専門看護師として今後の活動の方向性を理解する。

2. 学習項目

		(担当者)
(1) コンサルテーション	生涯発達看護学	中野 理佳
(2) コンサルタント	〃	〃
(3) コンサルテーションのタイプとプロセス	附属病院看護部	永渕 美樹
	〃	田中まゆこ
	生涯発達看護学	中野 理佳
(4) コンサルテーションの実際	附属病院看護部	永渕 美樹
	〃	田中まゆこ
(5) コンサルテーションの実践に向けた自己の課題	生涯発達看護学	中野 理佳

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) コンサルテーションの概念および基本的方法と原則について説明することができる。
- (2) コンサルテーションの実践モデル、コンサルタントの役割、個人もしくは組織を対象としたコンサルテーションのプロセスを理解する。
- (3) コンサルテーションの具体的な展開方法を理解する。
- (4) 専門看護師の活動を通してコンサルテーションの意義と成果、実践方法に関する理解を深める。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への出席および参加状況、学習課題への取り組み状況、レポートの結果を基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

① 上記の講義および演習に2/3以上出席していること。

② レポートの結果が、一定水準以上であること。

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義および演習には各自の積極的な取り組みを必要とする。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
やむを得ない事情で出席できない場合は、事前に相談すること。

6. 参考書等

- (1) Patricia R.Underwood著, 勝原裕美子訳 (1995) : コンサルテーションの概要－コンサルタントの立場から, インターナショナルナーシングレビュー, 18(5):4-12.
- (2) Schein Edgar H.著, 稲葉元吉他訳 (2012) : プロセス・コンサルテーション, 白桃出版.
- (3) 岩田健太郎 (2010) : コンサルテーションスキル, 南江堂
- (4) 野末聖香編 (2004) : リエゾン精神看護－患者ケアとナース支援のために, 医歯薬出版.

7. 日程表

No.	月 日	時限	項 目	担当者	講義概要
1・2	6月4日	3・4	コンサルテーションとは	中 野	コンサルテーションの歴史と概念 コンサルテーションモデル コンサルテーションのプロセス
3・4	6月11日	2・3	コンサルタントとは	中 野	コンサルタントの役割 コンサルティとコンサルタント関係 の展開 コンサルタントとしての専門看護師 の役割
5・6	6月18日	3・4	コンサルテーションの課題： クライアントの問題	永 洵	教材事例を用いたコンサルテーショ ンのプロセスの展開
7・8	6月25日	2・3	コンサルテーションの課題： コンサルティの問題	田 中	教材事例を用いたコンサルテーショ ンのプロセスの展開
9・10	7月9日	4・5	コンサルテーションの課題： 組織の問題	中 野	教材事例を用いたコンサルテーショ ンのプロセスの展開
11	7月23日	3	コンサルテーションの実際： クライアント中心	永 洵	事例検討
12	7月23日	4	コンサルテーションの課題： 組織の問題	中 野	組織へのコンサルテーションに必要な プレゼンテーションの技術
13	7月30日	3	コンサルテーションの実際： コンサルティ中心	田 中	事例検討
14	7月30日	4	コンサルテーションの実際： 組織中心	中 野	事例検討
15	8月6日	3	まとめ	中 野	コンサルテーションの実践へ向けた 自己の課題

講義の場所は、5F カンファレンスルーム。場所を変更する場合は、後日連絡する。

看護援助学特論（共通選択必修1単位）

教科主任：長 家 智 子

開講期間：1・2年次 後学期 月曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

看護ケアの基盤になる理論および基礎的看護技術について理解を深め、看護研究領域における課題を考察する。

2. 学習項目

（担当者）

(1) 看護援助学について	統合基礎看護学講座	長家 智子
(2) 看護援助学の研究領域における課題の考察	統合基礎看護学講座	長家 智子
(3) 課題と具体的解決についてのディスカッション	統合基礎看護学講座	長家 智子
	〃	古島 智恵

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 看護実践の基盤となる哲学，倫理，理論および技術が広範囲に渡っていることを理解する。
- (2) 看護援助学領域における課題を各自で見つけ，その課題に関係する先行文献を整理することによって課題についての理解を深める。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業の出席やグループワークへの参加の状況，およびレポート提出等により，その結果を基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は，個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

申し出により評価の対象となった内容については開示する。希望者は，成績発表後1月程度の期間内に，オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

主体的に問題意識を持ち，自己学習をベースにした積極的なディスカッション等を通して視野を広げ，知識や考えを深めていく。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

日程に沿った受講ができない場合は，授業開始までに教科主任まで連絡し，相談をすること。

6. 参考書等

特になし。

7. 日程表

No.	月日	曜日	時限	講義テーマ	担当者
1	10/22	月	1	看護援助学について，文献レビューについて，看護援助学の研究領域における課題の考察について	長 家
2			2	看護援助学の研究領域における課題の考察について自己学習	
3・4	11/5	月	1・2	まとめ方等についてのディスカッション	長 家
5・6	11/19	月	1・2	発表・討議 1	長家・古島
7・8	12/10	月	1・2	発表・討議 2	長家・古島

看護機能形態学特論（共通選択必修1単位）

教科主任：河 野 史
担 当 者：河 野 史
柿 原 奈 保 子

開講期間：1・2年次 後学期 金曜 3～4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

看護を実施するためには、様々な身体機能の変化をもたらす成因を考察することが大切である。その基礎となる、正常な構造と産生物質・機能との対応を、特に組織・細胞レベルで理解し、また、そのアプローチのための方法を学習する。

2. 学習項目

- ・消化・吸収のしくみ
- ・ガス交換のしくみ
- ・尿産生のしくみ
- ・自律神経の働き
- ・細胞・組織の正常な構造・機能とその観察法
- ・顕微鏡実習

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- ・身体各部に見られる機能がどのような構造と対応しているのかを説明できる。
- ・特定の構成要素や産生物質の検出方法を説明できる。
- ・人体の組織標本を顕微鏡により観察し、成書に記載されている所見との対応を確認し、その特徴を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業・実習への出席や参加状況から、その結果を基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

受講希望者は履修届提出前に教科主任・河野（5302室、内線2531）まで必ず連絡すること。DVDを用いた自己学習が可能。

顕微鏡実習は必ず参加すること。事前学習が必要である。また、図譜などの持参が望ましい。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

顕微鏡実習については、職場等と日程調整の上、必ず出席すること。

6. 参考書等

特になし。

7. 日程表

No.	月 日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	10 月 5 日	3	消化・吸収のしくみ	河野 史	統合基礎看護学講座
2	〃	4	ガス交換のしくみ	〃	〃
3	10 月 12 日	3	尿産生のしくみ	〃	〃
4	〃	4	自律神経の働き	〃	〃
5	10 月 19 日	3	細胞・組織の正常な構造とその観察法	〃	〃
6	〃	4	〃	〃	〃
7	10 月 26 日	3	顕微鏡実習	〃	〃
8	〃	4	〃	〃	〃

講義は原則大学院講義室1（2425 室）で行う。

※顕微鏡実習は医学科基礎実習棟2F 第2実習室で行う。

急性期看護学特論（専門選択必修1単位）

教科主任：古賀 明 美

開講期間：隔年開講 ※平成30年度未開講

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

健康状態の急激な変化（突発的な事故や重篤な疾病発症，病期の活動期，手術直後の急性期）などによってクリティカルケアが必要とされる患者および家族の理解を深め，看護援助に活用できる理論を学習し，看護実践のあり方について探究する。

2. 学習項目

（担当者）

- | | | |
|------------------------------|---------|-------|
| (1) 急性期看護学領域における研究の動向 | 生涯発達看護学 | 古賀 明美 |
| (2) 急性期看護学領域に関する理論と看護への応用 | 〃 | 〃 |
| 1) 危機理論と家族に対するニーズアセスメント | | |
| 2) クリティカルケア看護 | | |
| 重症患者の苦痛の緩和，倫理的な課題，終末期ケアと意思決定 | | |

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 急性期看護学領域における研究動向の概要を述べることができる。
- (2) 急性期看護学領域に関する理論を理解し，看護への応用について検討することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への参加状況および課題発表・レポートの結果を基に総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は，個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義の日時，内容，準備等については，担当教員の指示を確認する。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
各講義は下記の日程表どおりに開催されます。止むを得ない事情で出席できない場合は，代替の学習手段・課題について，講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

必要に応じて紹介する。

7. 日程表

No.	講義テーマ	担当者	所 属
1	急性期看護領域における研究の動向	古賀 明美	生涯発達看護学
2	危機理論と家族に対するニーズアセスメント	〃	〃
3	クリティカルケア看護：重症患者の安楽	〃	〃
4	クリティカルケア看護： 〃	〃	〃
5	クリティカルケア看護：重症患者のモニタリング	〃	〃
6	クリティカルケア看護：倫理的な課題	〃	〃
7	クリティカルケア看護：終末期ケアと意思決定	〃	〃
8	クリティカルケア看護：終末期ケアと意思決定	〃	〃

慢性看護論（専門選択必修2単位）

教科主任：田 渕 康 子

開講期間：1年次 前学期（4～6月）火曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

慢性病や慢性病をもつ人を取り巻く社会の特性を踏まえ、患者と家族の反応や療養行動について理解を深め、看護援助に活用できる理論や概念について修得する。さらに、慢性病看護を発展させる看護研究について、分析・評価を通してその活用を探究する。

2. 学習項目

（担当者）

- | | | |
|--------------------------|---------------------------|-------|
| (1) 慢性病の理解と特性 | 生涯発達看護学 | 田渕 康子 |
| (2) 慢性病者を支える医療システム | 内 科 学 | 安西 慶三 |
| (3) 慢性病者と家族の反応・行動の理解 | 生涯発達看護学 | 田渕 康子 |
| (4) 病みの軌跡 | 生涯発達看護学 | 古賀 明美 |
| (5) 障害受容過程，エンパワーメント | 生涯発達看護学 | 熊谷 有記 |
| (6) 病気の不確かさ，健康信念モデル，自己効力 | | |
| (7) 慢性病者の看護に活用できる理論と適用 | 医療法人社団慈恵会北須磨訪問看護・リハビリセンター | 藤田 愛 |

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 慢性病について理解し、慢性病をもつ人と家族が抱える問題について述べることができる。
- (2) 慢性病者を支える循環型医療システムについて説明することができる。
- (3) 慢性病をもつ人と家族の反応・行動の理解に役立つ諸理論や概念について述べることができる。
- (4) ミシエルの病気の不確かさ理論を慢性看護実践に活用する方法を説明することができる。
- (5) 慢性病看護に関する看護研究の分析と評価を通して、その活用方法について述べることができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への参加状況，課題発表・レポート，これらの結果をもとに総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の修得状況に着目して、次の基準により行う。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義の日時，内容，準備等については、担当教員の指示を確認する。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
各講義は下記の日程表どおりに開催されます。止むを得ない事情で出席できない場合は代替の学習手段・課題について、講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

- (1) 厚生省健康政策局研究開発振興課医療技術情報推進室：わかりやすいEBM講座，厚生科学研究所，2005，3,240円
- (2) アン・W.ワジナー：アウトカム・マネジメント，日本看護協会出版会，2003，3,990円
- (3) Bandura, Albert：Self-Efficacy in Changing Societies, Cambridge University Press, UNITED KINGDOM. 5,331円
- (4) Lazarus, Richard S, Folkman, S：Stress, Appraisal, and Coping, Springer Publishing Co, Inc, UNITED STATES. 9,369円
- (5) 森山美知子：新しい慢性疾患ケアモデル，中央法規出版，2007，3,456円
- (6) Mishel, M.H.: Reconceptualization of the Uncertainty in Illness Theory, IMAGE, 22 (4) , 256-262, 1990
- (7) 加藤司：対人ストレスコーピングハンドブックー人間関係のストレスにどう立ち向かうか，ナカニシヤ出版，2008，2,160円
- (8) 野川道子：看護実践に活かす中範囲理論（第2版），メヂカルフレンド社，2016，4,536円
- (9) 佐藤栄子：中範囲理論入門・事例を通してやさしく学ぶ，日経研出版，2009，3,780円
- (10) 東めぐみ：進化する慢性病看護・不確かさのなかにある病いのプロセスとともに歩む，看護の科学社，2010，2,592円

7. 日程表

No.	月 日	時 限	講義テーマ	担当者	所 属
1	4月 10日	2	慢性病の理解と特性 慢性病者を支える家族の健康と生活上の課題	田渕 康子	生涯発達看護学
2	4月 17日	1	慢性病をもつ人の反応・行動の理解に活用できる 理論・概念① 病みの軌跡理論	古賀 明美	〃
3	4月 17日	2	慢性病をもつ人の反応・行動の理解や看護介入に 活用できる理論	田渕 康子	〃
4	4月 23日	4	慢性病者を支援する専門的役割	藤田 愛	北須磨訪問看護・ リハビリセンター
5	4月 23日	5	慢性病者に対する慢性疾患専門看護師の看護実践		
6	4月 24日	3	慢性病者を支える医療システム①	安西 慶三	内科学
7	4月 24日	4	慢性病者を支える医療システム②	〃	〃
8	5月 15日	1	慢性病をもつ人の反応・行動の理解に活用できる 理論・概念① コーピング	田渕 康子	生涯発達看護学
9	5月 15日	2	慢性病をもつ人の反応・行動の理解に活用できる 理論・概念② SOC	〃	〃
10	5月 22日	1	慢性病をもつ人の反応・行動の理解に活用できる 理論・概念③ 自己効力	田渕 康子	〃
11	5月 22日	2	慢性病をもつ人の反応・行動の理解に活用できる 理論・概念④ 健康信念モデル	〃	〃
12	5月 29日	1	慢性病をもつ人の反応・行動の理解に活用できる 理論・概念⑤ 病気の不確かさ	熊谷 有記	〃
13	5月 29日	2	慢性病をもつ人の反応・行動の理解に活用できる 理論・概念⑥ 変化ステージモデル	〃	〃
14	6月 5日	1	慢性病をもつ人の反応・行動の理解に活用できる 理論・概念⑦ エンパワーメント	田渕 康子	〃
15	6月 5日	2	慢性病をもつ人の反応・行動の理解に活用できる 理論・概念⑧ アンドロロジー	〃	〃

※講義室は 4階カンファレンスルーム。場所を変更する場合は後日連絡する。

母性看護学特論（専門選択必修1単位）

教科主任：佐藤 珠 美

開講期間：1・2年次 前学期 木曜 4・5時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

周産期および女性のライフサイクル各期に特有な発達課題および健康問題を身体的、心理・社会的関連から考察し、これらの問題を解決するために必要な理論、看護実践、研究方法について文献を用いて探究する。

2. 学習項目

		(担当者)
(1) 女性の発達課題と健康課題	生涯発達看護学	佐藤 珠美
(2) 女性の健康支援に必要な理論	〃	〃
(3) 女性の健康支援の実際	〃	〃
(4) 女性の健康と研究	〃	〃

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 女性の健康課題について生涯発達、リプロダクティブヘルスライツ、well-beingの視点から理解する。
- (2) 女性の健康支援に必要な理論について説明・記述できる。
- (3) 地域における女性の健康支援の実際について情報収集と課題の明確化を行い、対策について説明、記述できる。
- (4) 女性の健康に関する研究の動向を分析し、看護職の役割と専門性について追究する。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席状況や発表、レポートの結果を基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

演習では課題に対する文献検索・検討の結果をもとに進めるため、学生の主体的な学習と発表のための準備が整っていることが要求される。クラスでの討議をより充実したものとするため、事前に教員に発表内容を提出し、指導を受けること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

講義については日程表の通りに実施される。やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指示を受けること。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし。

(2) 参考書

講義テーマに関連した文献等をその都度紹介する。

7. 日程表

No.	月 日	時 限	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	5 月 24 日(木)	4	女性の発達課題と健康課題	佐 藤	生涯発達看護学
2		5	女性の健康支援に必要な理論		
3	6 月 7 日(木)	4	地域における女性の健康支援の実際		
4		5			
5	6 月 21 日(木)	4	女性の健康に関する研究 研究論文のクリティークと 実践への応用の検討		
6		5			
7	7 月 19 日(木)	4			
8		5			

小児看護学特論（専門選択必修1単位）

教科主任：鈴木 智恵子

開講期間：1・2年次 前学期 木曜 4・5時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

成長発達過程にある子どもと家族を理解し、より質の高い看護ケアを実践するために必要な理論、システム、支援方法を学ぶ。さらに、事例を通して多角的な観点から検証し、実践への応用と小児看護の専門性を考察する。

2. 講義項目

- (1) 世界および日本の子ども観の変遷と発達理論の研究史
- (2) 子どもの権利条約と子どもの権利を守る看護
- (3) 子どもと臓器移植法
- (4) 現代社会における子どもの生育環境と健康問題

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 子ども観の由来を分析し、子どもの真実の姿とその相違について考察する。
- (2) 子どもの権利を擁護する専門職としての倫理的基盤となる知識を学ぶ。
- (3) 現代社会における子どもの環境と健康問題の現状を知り、子どもへの看護について考察する。
- (4) デイバートを通じて、自己の意見を相手に伝える技術を学ぶ。

4. 評価の方法と基準

- (1) 評価方法
出席状況および課題への取り組み、プレゼンテーション、討議の成果を合わせて総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行う。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

やむを得ない事由により出席できない場合は、事前に相談すること。

6. 参考書等

テーマに応じた文献等を紹介する。

7. 日程表

No	月 日（曜）	時限	講 義 テ ー マ	担当者	備考（教室等）
1	4 月 12 日(木)	4	世界および日本の子ども観	鈴 木	小児看護学 研究室
2	4 月 12 日(木)	5	発達理論の研究史		
3	5 月 17 日(木)	4	発達理論の概要		
4	5 月 17 日(木)	5	子どもの権利条約と小児看護の現状・課題		
5	5 月 31 日(木)	4	インフォームド・アセント		
6	5 月 31 日(木)	5	臓器移植法の現状と課題		
7	7 月 5 日(木)	4	現代社会における子どもの生育環境と健康問題・ 今後の課題		
8	7 月 5 日(木)	5			

母子看護展開論（専門選択必修1単位）

教科主任：佐藤 珠 美

開講期間：前学期 木曜 4・5時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

母子の健康問題に対して最良のケアを実践するために、また母子看護教育の実践に必要なEBP (evidence based practice)の手法を修得する。

2. 学習項目

（担当者）

母子看護および母子看護教育におけるEBPの実践

生涯発達看護学

佐藤 珠美

〃

鈴木智恵子

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 母子が抱える問題・疑問を明確にすることができる。
- (2) 上記問題に対し、適切な文献を選択し、吟味し、評価することができる。
- (3) 選択した課題に対してEBPのプロセスを用いて検討した事項を説明・記述することができる。
- (4) 母子の健康問題に対して現在最も有効な看護援助について説明・記述することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

出席、学習課題への取り組み状況、レポートの結果を基に総合的に評価する。

- (2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

グループワークによる学習形態をとるため、主体的な学習を通して知識や考察を深めることが要求される。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

講義日程は受講者に通知する。やむを得ない事情で出席できない場合は、事前に相談し、代替の履修方法の指示を受けること。

6. 参考書等

- (1) 教科書

なし。

- (2) 参考書

講義テーマに関連した文献等をその都度紹介する。

7. 日程表

No.	月 日	時限	講義テーマ	担当者	所 属
1	8月9日(木)	4	母子看護/教育が抱える問題・疑問	佐 藤	生涯発達 看護学講座
2		5		鈴 木	
3	8月23日(木)	4	EBP の5つのステップの実践	佐 藤	
4		5		鈴 木	
5	9月6日(木)	4	中間発表・修正	佐 藤	
6		5		鈴 木	
7	9月20日(木)	4	全体発表・討議	佐 藤	
8		5		鈴 木	

老年看護学特論（専門選択必修1単位）

教科主任：田 淵 康 子

開講期間：1年次 後学期 火曜 3・4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

加齢による心身の変化の特性を理解し、高齢者およびその家族の健康と生活を支援する看護について学習する。特に、疾病や障害をもつ高齢者のQOLを維持・向上する看護の機能やケアシステムについての知識を習得する。

2. 学習項目

（担当者）

(1) 老いと看護・介護	生涯発達看護学	田淵 康子
(2) 認知症の高齢者と家族	〃	室屋 和子
(3) 死生観		
(4) 認知症高齢者の看護	ケアコートゆうあい	市丸 徳美

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 人が老いることと、老いの過程で経験する変化を説明できる。
- (2) 認知症の高齢者や家族の特徴を説明できる。
- (3) 疾病や障害をもつ高齢者やその家族が持つ、多様な死生観について説明できる。
- (4) 認知症高齢者のパーソンセンタードケアに基づいた援助方法を説明することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

授業への参加状況、課題発表・レポート、これらの結果をもとに総合的に評価する。

- (2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の修得状況に着目して、次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

講義の日時・内容・準備等については、担当教員の指示を確認する。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は日程表のとおり開催されます。やむを得ない事情で出席できない場合は、代替の学習手段・課題について、講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

- (1) イヴ・ジネストほか：umanitude（ユマニチュード），トライアリスト東京，2014，2,700円.
- (2) 米沢慧：自然死への道 朝日新聞出版 2011.
- (3) Spilker：Quality of life and pharmacoeconomics in clinical trials 2nds, 1996.
- (4) Snowdon/藤井留美訳：100歳の美しい脳 DHC 2004.

7. 日程表

No.	月 日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	10月 2日(火)	3	パーソンセンタードケア	市丸 徳美	ケアコートゆうあい
2	10月 2日(火)	4	〃	〃	〃
3	10月 9日(火)	3	老いと看護・介護	田渕 康子 室屋 和子	生涯発達看護学
4	10月 9日(火)	4	〃	〃	〃
5	10月16日(火)	3	〃	〃	〃
6	10月16日(火)	4	〃	〃	〃
7	10月23日(火)	3	〃	〃	〃
8	10月23日(火)	4	〃	〃	〃

※講義室は4階カンファレンスルーム。場所を変更する場合は後日連絡する。

地域看護学特論（専門選択必修1単位）

教科主任：有 吉 浩 美

開講期間：1・2年次 後学期 月曜 3～4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

地域の動向を理解し、地域における看護活動を実践展開するための理論と方法を習得する。また、これからの地域社会における看護学のあり方についても考える。

2. 学習項目

（担当者）

(1) 地域看護学の研究領域・課題	生涯発達看護学	有吉 浩美
(2) 地域看護学領域における研究手法	生涯発達看護学	有吉 浩美
(3) コミュニティとカウンセリング	統合基礎看護学	村久保雅孝
(4) 自殺対策	統合基礎看護学	村久保雅孝

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 地域看護学の研究領域・課題
地域看護の対象の特性・健康問題を明らかにし、研究の方法について理解できる。
- (2) 地域看護学領域における研究手法
文献の抄読を実施できるとともに、文献の評価について説明できる。
- (3) コミュニティとカウンセリング
地域における心理臨床的援助の展開について説明できる。
- (4) 自殺対策
我が国の現状とその対策について説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
講義および演習の出席状況と提出されたレポートの結果で評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行う。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
① 上記の講義および演習に2/3以上出席していること。
② レポートの結果が、一定水準以上であること。
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成31年2月15日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義および演習には各自の積極的な取り組みを必要とする。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
授業日程に沿った受講ができない場合は、授業開始前までに教科主任である有吉へメールで連絡すること。

6. 参考書等

特になし。

講義において資料等を配付予定。

7. 日程表

初回の講義開始時に変更等について連絡する。

No.	月 日 (曜) 時限	講義テーマ	担当者	キ ー ワ ー ド
1	11 月 12 日 (月) 3	地域看護学領域における研究手法	有 吉	文献の抄読, 文献の評価
2	11 月 12 日 (月) 4	地域看護学領域における研究手法	有 吉	文献の抄読, 文献の評価
3	11 月 19 日 (月) 3	スクールカウンセリング	村久保	地域における心理臨床的援助 スクールカウンセリング, 学校不応, 教師と家族への援助
4	11 月 19 日 (月) 4	産業カウンセリング	村久保	産業カウンセリング, うつ病, ストレス, 業務管理と精神保健
5	11 月 26 日 (月) 3	地域看護学領域における研究手法	有 吉	公衆衛生に関する学会誌, 論文提供, 抄録, 投稿
6	11 月 26 日 (月) 4	地域看護学領域における研究手法	有 吉	公衆衛生に関する学会誌, 論文提供, 抄録, 投稿
7	12 月 3 日 (月) 3	自殺対策	村久保	自殺
8	12 月 3 日 (月) 4	自殺対策	村久保	自殺

※ 講義の場所は, 6F の 5609 室で実施する。

在宅看護学特論（専門選択必修1単位）

教科主任：福 山 由 美

開講期間：1・2年次 後学期 月曜 3・4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

在宅看護の調査研究をする上で影響をうける保健医療福祉制度を理解するとともに、在宅看護研究の現状と課題について学ぶ。

2. 学習項目

（担当者）

(1) 在宅看護に関する保健医療福祉制度	統合基礎看護学	福山 由美
(2) 在宅看護研究で使用されている諸理論、尺度	〃	〃
(3) 在宅看護研究の現状と課題	〃	〃

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 在宅看護に関する保健医療福祉制度について説明できる。
- (2) 在宅看護研究で使用されている諸理論の発展状況、各尺度の信頼性と妥当性について知る。
- (3) 看護職に求められる在宅看護研究の現状と課題について考察する。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
講義および演習の参加状況（30%）とレポート（70%）による総合評価とする。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
成績評価について閲覧を希望する者は、本科目の結果発表後2週間以内に電子メールで教科主任に申し出ること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義および演習へは、各自積極的な姿勢で取り組むこと。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
止むを得ない理由にて欠席する場合には、事前に教科主任に相談すること。

6. 参考書等

- (1) 第5版ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 2015年
- (2) A Long-Term Care Leader's Guide to High Performance: Doing Better Together Health Professions Press, Inc. 2018.
- (3) 第2版公衆衛生がみえる 医療情報科学研究所 2015年
- (4) 7th edition CHRONIC ILLNESS-Impact and Intervention- Pamala D. Larsen 2009年

7. 日程表

No.	月 日	時 限	講 義 テ ー マ	担 当 者	所 属
1	10/15	3	在宅ケアに関する保健医療福祉制度(1)	福 山	統合基礎看護学
2	10/15	4	在宅ケアに関する保健医療福祉制度(2)	〃	〃
3	10/22	3	在宅看護研究で使用されている諸理論, 尺度(1)	〃	〃
4	10/22	4	在宅看護研究で使用されている諸理論, 尺度(2)	〃	〃
5	10/29	3	在宅ケア研究の現状と課題(1) 演習	〃	〃
6	10/29	4	在宅ケア研究の現状と課題(2) 演習	〃	〃
7	11/5	3	在宅ケア研究の現状と課題(3) 発表・討議	〃	〃
8	11/5	4	在宅ケア研究の現状と課題(4) 発表・討議	〃	〃

国際看護学特論（専門選択必修1単位）

教科主任：新 地 浩 一

開講期間：1・2年次 前学期 夏季集中講義

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

国際保健および国際看護の動向を理解し、海外における看護活動を実践展開するための理論と方法を習得する。また、これからの国際化社会における看護学のあり方についても考える。

2. 学習項目

（担当者）

- | | | |
|---------------------|---------|-------|
| (1) 国際看護学の研究領域・課題 | 統合基礎看護学 | 新地 浩一 |
| (2) 国際看護学領域における研究手法 | 〃 | 〃 |

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 国際看護学の研究領域・課題
国際看護学の対象の特性・健康問題を明らかにし、研究の方法について理解できる。
国際緊急医療援助活動に関する問題について説明できる。
- (2) 国際看護学領域における研究手法
文献の抄読を実施できるとともに、文献の評価について説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
講義および演習の出席状況（50%）と提出されたレポート（50%）の結果で評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して、次の基準により行う。実習への2/3以上の参加及び、提出されたレポートの評価により単位の認定と評価を実施する。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
① 上記の講義および演習に2/3以上出席していること。
② レポートの結果が、一定水準以上であること。
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成31年2月15日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義および演習には各自の積極的な取り組みを必要とする。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
社会人学生については、一部の講義は課題付与によるレポートの提出で実施する。詳細な事項は、初回の講義で説明予定である。初回の講義に出席できない場合は、担当教員のメールアドレス宛に連絡すること。夏季集中講義を行うので、なるべく講義に参加することが望ましい。

6. 参考書等

特になし（講義において資料を配付予定）。

7. 日程表

No.	月日（曜） 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	8月25日（土） 1	国際看護学の研究領域・課題 国際緊急援助活動（総論）	新 地	研究領域・課題，国際看護，災害看護 国際看護活動の実際（長期・短期）
2	8月25日（土） 2	国際緊急援助活動のDIG(1) 演習の課題付与	新 地	図上演習，国際看護，害看護，災害医療
3	8月25日（土） 3	国際緊急援助活動のDIG(2) グループでの演習	新 地	図上演習，国際看護，災害看護，災害医療
4	8月25日（土） 4	国際緊急援助活動のDIG(3) グループでの演習	新 地	図上演習，国際看護，災害看護，災害医療
5	8月26日（日） 1	国際緊急援助活動のDIG(4) グループごとの発表(1)	新 地	図上演習，国際看護，災害看護，災害医療
6	8月26日（日） 2	国際緊急援助活動のDIG(5) グループごとの発表(2)	新 地	図上演習，国際看護，災害看護，災害医療
7	8月26日（日） 3	国際看護学領域における研究手法	新 地	文献の抄読，Presentaion
8	8月26日（日） 4	国際看護学領域における研究手法	新 地	図上演習の結果の発表，討議，まとめ

※DIG: Disaster Imagination Game（災害時を想定した図上演習）

※No.2～6に関しては，実際に発生した大規模災害をモデルとして，国際緊急援助隊の医療スタッフとして海外に派遣されるという想定で図上演習を実施する。グループ演習であるので，なるべく出席すること（社会人学生は，課題レポート等で実施予定）。

※講義の場所は，5FのCR4で実施する。

精神看護学特論（専門選択必修1単位）

教科主任：藤 野 成 美

開講期間：1年 後期 木曜 3・4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

現代の複雑化したストレス社会において、あらゆる心の健康状態にある人々を理解し、精神的健康を支援する看護について学習する。特に、精神障害者とその家族の生活や意志決定を支え、主体的な健康生活を志向するケアのあり方について考える。

2. 学習項目

- (1) 精神保健福祉の動向と精神保健福祉システムと看護者の役割
- (2) 精神の健康に関する基礎知識および対象者の心理・社会的問題と精神症状におけるアセスメント
- (3) 精神看護学領域で活用されている理論
- (4) 精神看護学領域に関連した概念分析

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 精神保健福祉の動向と精神保健に関する基礎知識および対象者の心理・社会的問題と精神症状におけるアセスメントについて理解することができる。
- (2) 精神看護学領域で活用されている理論について理解することができる。
- (3) 精神看護学領域に関連した概念分析を行い、考察することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法：授業の出席状況、自己学習への取組状況、学習目標の到達状況等について、毎回の授業及びディスカッション等（必要に応じたレポート課題）を通して判定し、総合的に評価する。
- (2) 評価基準：医学系研究科の評価基準に基づきレポート評点C以上を合格とする。

5. 履修上の注意

- (1) 一般的な履修上の注意：特になし。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意：止むを得ない事情で出席できない場合には、講義担当者に事前連絡・相談を行い、代替の学習手段（学習課題レポートの指示、自己学習法、学習内容に関する質問等の方法など）について指示・指導を受けること。

6. 参考書等

- (1) 教科書 なし。
- (2) 参考書 必要に応じて紹介する。

7. 日程表

No.	月 日	時限	講義テーマ	担当者	所 属
1	10月4日	3	精神保健福祉の動向 精神保健福祉システムと看護者の役割	藤 野	統合基礎看護学
2	10月4日	4	精神健康に関する基礎知識および対象者の心理・社会的問題と精神症状におけるアセスメント	〃	〃
3	10月11日	3	精神看護学領域で活用されている理論①	〃	〃
4	10月11日	4	精神看護学領域で活用されている理論②	〃	〃
5	11月29日	1	精神看護学領域に関連した概念分析①	〃	〃
6	11月29日	2	精神看護学領域に関連した概念分析②	〃	〃
7	11月29日	3	精神看護学領域に関連した概念分析③	〃	〃
8	11月29日	4	精神看護学領域に関連した概念分析④	〃	〃

看護統計学演習（専門選択必修1単位）

教科主任：川 口 淳

開講期間：前期 金曜 3・4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

看護学分野において求められるさまざまな統計学的手法の理論的基礎と応用について理解し、具体的なサンプルデータと統計解析ソフトウェアを用いたコンピュータ実習により、看護学研究に必要な統計解析の基礎的な技術を習得する。この学習を通して、各自の研究計画に対応した適切な分析方法が選択でき、適用できるようになる。

2. 学習項目

- (1) 統計学的解析について
- (2) データの要約，図示
- (3) 検定と信頼区間
- (4) 相関，回帰分析
- (5) 重回帰分析，ロジスティック回帰分析
- (6) 因子分析
- (7) パソコン演習
- (8) データ解析

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 看護研究における統計学的手法の必要性が説明できる。
- (2) 看護統計学に広く応用されている統計解析手法について理解し，説明できる。
- (3) 統計学的視点を反映した調査用紙の作成ができる。
- (4) 統計解析ソフトウェアを用いて実際のデータを解析することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への出席状況，学習課題への取り組み状況およびレポートなどにより総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は，個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
希望する者は結果発表後1月程度の期間内に電子メールで教科主任に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
パソコンを使用した演習を主に行う。教科書や参考書を参考に一度ソフトウェア（エクセル，JMP，SPSSなど）を使用しておくこと。主体的な学習を通して知識や考察を深めること。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
講義については日程表の通りに実施される。やむを得ない事情で出席できない場合は，事前連絡・

相談を行い、代替の履修方法について指示を受けること。長期履修の選択者については、研究テーマや研究計画のある程度定まった2年次以降の受講が望ましい。

6. 参考書等

(1) 教科書

- JMPによる医療系データ分析, 内田 治, 平野 綾子, 石野 祐三子, 東京図書, 3,500円程度

(2) 参考書

- SPSSで学ぶ医療系データ解析（最新版）, 対馬 栄輝, 東京図書, 3,500円程度
- SPSSで学ぶ医療系多変量データ解析（最新版）, 対馬 栄輝, 東京図書, 3,500円程度
- ここから学ぼう！図解医療統計, 柳澤尚武, 西崎祐史（著）代田浩之（監修）, 総合医学社, 3,000円程度
- 統計分析のここが知りたい, 石井秀宗, 文光堂, 2,700円程度

7. 日程表

番号	月 日	時 間	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1-2	8月17日(金)	3, 4	統計学的解析について, データの要約, 図示, 検定と信頼区間, 群間比較 (t 検定, カイ二乗検定, フィッシャーの直接確率検定, ノンパラメトリック検定), パソコン演習	川口 淳	地域医療科学 教育研究 センター
3-4	8月24日(金)	3, 4	相関, 回帰分析, 重回帰分析, ロジスティック回帰分析, パソコン演習		
5-6	8月31日(金)	3, 4	データ解析 (結果表の作成, 解釈)		
7-8	9月21日(金)	3, 4	因子分析, パソコン演習		

講義は、PC 実習室で実施する。

看護教育方法論（専門選択必修1単位）

教科主任：村 田 尚 恵

開講期間：2年次 前学期 月曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

看護教育の基本的な教育内容および方法やシステムづくりについて学ぶ。

2. 学習項目

- (1) 看護教育方法論・カリキュラム
- (2) 看護授業展開方法
- (3) 看護授業展開演習

（担当者）

統合基礎看護学講座	長家 智子
統合基礎看護学講座	村田 尚恵
統合基礎看護学講座	村田 尚恵

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 看護の理論と方法について説明する。
- (2) 看護教育の全体構造および各論を学習し、教育活動を展開するための基礎的知識・技術を習得する。
- (3) 学部が開講される講義に参加観察し、授業設計、準備、評価の一連の過程に参加する。
- (4) 模擬授業を展開し、対象者の能力の向上を目指す教育の在り方を述べる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法：出席状況およびプレゼンテーション、レポートにより総合的に評価する。
- (2) 評価基準：成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
主体的に問題意識を持ち、自己学習をベースにした積極的なディスカッション等を通して視野を広げ、知識や考えを広めていく。
受講人数により、講義・演習の内容および日程を変更する場合がある。
- (2) 学習効果を考え、看護教育論を受講していることを本科目の受講条件とする。
- (3) 社会人学生に対する履修上の注意
講義については日程表の通りに実施される。やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指導を受けること。

6. 参考書等 特になし。

7. 日程表

番号	月 日	コマ	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	5 月 7 日	3	看護教育の方法、カリキュラム作成	長 家
2	6 月 4 日	1	看護の授業展開	村 田
3・4	7 月 2 日	1・2	看護基礎教育、継続教育による対象・目的・方法（演習）	村 田
5・6	8 月 6 日	1・2	授業案作成演習	村 田
7・8	9 月 3 日	1・2	模擬授業の実施と評価と修正（演習）	村田・長家

がん看護学特論（専門選択必修1単位）

教科主任：熊谷有記

開講期間：1・2年次 前学期

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

最新のがん医療・看護の現状に対する認識を深め、がんと共に生きる患者および家族の理解とケアに関する理論を学習し、がん患者の病期に応じた看護実践のあり方について探究する。また、がん患者の事例に基づいて、包括的なアセスメントと問題の解決に向けた専門的な看護支援のあり方について修得する。

2. 講義項目

		(担当者)
(1) がん医療・看護に関する動向と課題		
1) 最新のがん医療・看護の動向	生涯発達看護学	熊谷 有記
2) がんの発生メカニズム・疫学	消化器外科学	古賀 靖大
3) 化学療法と看護	薬剤部	木村早希子
4) 放射線治療と看護	放射線医学	入江 裕之
(2) がん看護に関する理論と看護への応用		
1) 意思決定支援	生涯発達看護学	田淵 康子
2) 緩和ケア, advance care planning	〃	熊谷 有記
3) 家族ケア	〃	〃
(3) がん患者の事例に基づいた包括的なアセスメントと専門的な看護支援	看護部	田中まゆこ

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) がん医療・看護学の領域における最新の動向と課題の概要を述べることができる。
- (2) がん看護に関する理論や概念を理解し、看護実践のあり方について述べるができる。
- (3) がん患者の事例に基づいて、包括的なアセスメントと問題の解決に向けた専門的な看護支援のあり方について検討することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への出席や学習への取り組み状況、レポートの結果を基に総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
講義への3分の2以上の出席を合格最低基準とする。
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 止むを得ない理由により出席できない時は、事前に担当教員に相談すること。
- (2) その他演習の方法については授業初日に説明する。
- (3) 講義・演習は4階5409で行う。

6. 参考書等

必要に応じて紹介する。

7. 日 程 表

No.	月 日	曜日	時 限	担 当	講義テーマ
1	6 月 12 日	火	3	熊谷 有記	Introduction, 最新のがん医療・看護の動向
2	6 月 19 日	火	4	古賀 靖大	がん発生のメカニズム・疫学・外科手術
3	6 月 25 日	月	4	木村早希子	化学療法と看護
4	7 月 3 日	火	3	入江 裕之	放射線治療と看護
5	7 月 10 日	火	3	熊谷 有記	緩和ケア, advance care planning
6	7 月 17 日	火	3	田渕 康子	意思決定支援
7	7 月 24 日	火	3	熊谷 有記	家族ケア
8	7 月 31 日	火	3	田中まゆこ	がん患者の事例に基づいた包括的アセスメントと専門的看護支援

生 体 構 造 観 察 法 （専門選択必修2単位）

教科主任：河 野 史
担 当 者：河 野 史
柿 原 奈 保 子

開講期間：1・2年次（4～7月以外） 空き時間に行う

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

細胞・組織を観察するための方法の理論と基礎技術を学修する。特に、細胞・組織が産生する物質を化学的に証明する方法を通して、それを実践・応用することで、生命現象との関連性を理解する能力を身につける。

2. 学習項目

- (1) 光顕顕微鏡・電子顕微鏡の理論と応用
- (2) 顕微鏡観察試料作成の理論と方法
- (3) 顕微鏡像の記録と画像処理
- (4) 顕微鏡像の解説と解析

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 各種顕微鏡の基本理論と特性を理解し、観察目的に合わせて応用できる。
- (2) 各種顕微鏡観察法に応じた試料作成の理論と方法を理解し、目的の標本を作製できる。
- (3) 顕微鏡像の記録と画像処理の方法を習得し、実行できる。
- (4) 観察像を適切に解説・解析し、生命現象と関連づけることができる。
- (5) 得られた結果や、そこから導かれた考察をまとめたプレゼンテーションができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
演習への取り組み状況、理論と実技の習得状況、およびその結果を基に総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
評価結果、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、評価結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワーなどの時間帯を利用して教科主任を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
受講希望者は履修届提出前に教科主任・河野（5302室、内線2531）まで必ず連絡すること。
本授業科目の履修は「看護機能形態学特論」の受講者が望ましい。
授業は使用する機材の都合から教科主任の研究室等で行う。実施時期、実施方法、観察対象などを教科主任と事前に打ち合わせ、当該研究室の規律を遵守すること。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
社会人学生で通学に制約がある場合は、教科主任との事前相談を綿密に行っておくこと。

6. 参考書等

必要に応じて紹介する。

7. 授業日程

基本的には、個別授業方式により2週間程度の期間に集中して行うが、教科主任と相談の上、少人数による実施、あるいは期間を分散しての実施も可能。

実践課題実習（専門選択必修2単位）

教科主任：各指導教員

開講期間：1・2年次 通年

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

修士課程看護学専攻の各分野における専門的实践に関連した課題について、実習を通して学ぶ。課題に対する問題意識を明確化し、理論的思考や課題解明への探究的態度を修得する。自らが導き出した課題実習の成果をこれまで学修してきた諸理論と統合し、柔軟で創造的な実践活動ができるよう、専門的実践能力の向上を図る。

2. 授業項目

（担当者）

（1）実践課題実習

（各指導教員および当該研究グループ教員）

個々の実践課題に関する検討を行い、実習計画を立案し、担当者の指導のもとに実習する。
各自の実習成果を有機的に統合する。

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- （1）各自の実践課題について適切な実習内容が計画できる。
- （2）立案した実習計画を展開し実習目的が到達できる。
- （3）実習成果の要旨が説明できる。
- （4）実習成果を今後の実践活動に反映できる。

4. 成績評価の方法と基準

（1）評価方法

実習計画書・レポートおよび実習における学習状況等で評価する。

（2）評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

（3）評価結果の開示

上記評価結果を開示する。

希望者は各指導教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

（1）一般的な履修上の注意

実習に出席し、レポートを提出すること。

（2）社会人学生に対する履修上の注意

各主指導教員に事前相談を行い、指示・指導を受ける。

6. 参考書等 特になし。

7. 授業日程 主指導教員の研究グループごとに開催される。主指導教員と日程を打合わせること。

慢性看護対象論（専門選択必修2単位）

教科主任：古賀明美

開講期間：1年次 前学期（4～6月）火曜 3・4時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

慢性病をもつ人と家族の生活状況や療養法への取組みについて、適切にアセスメントする方法を学ぶ。
また、質の高い生活を目指した支援をするための専門的な看護援助を修得する。

2. 学習項目

（担当者）

- | | | |
|--|---------------------------|-------|
| (1) 慢性病者の病いの語りと病みの軌跡を用いたアセスメント | 生涯発達看護学 | 古賀 明美 |
| (2) 慢性病者の生活と療養法への取組みのアセスメント
（スティグマ，ヘルス・ローカス・オブ・コントロール，レジリエンス） | | |
| (3) 慢性病者のセルフケアのアセスメントと看護援助 | | |
| (4) 慢性病者及び家族のアセスメントと看護援助
（家族発達理論，家族システム理論，家族ストレス対処理論） | 統合基礎看護学 | 福山 由美 |
| (5) 慢性病者のおよび家族の質の高い生活を目指した支援技術
（療養法の方向付け，自己決定支援，アドボカシー，社会生活の調整） | 医療法人社団慈恵会北須磨訪問看護・リハビリセンター | 藤田 愛 |

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 慢性病者の病いの語りと病みの軌跡について説明することができる。
- (2) 慢性病者の生活と療養法への取組みについて，理論を基礎にしたアセスメントの方法を説明することができる。
- (3) 慢性病者のセルフケアに働きかける援助について説明することができる。
- (4) 慢性病者の家族のアセスメントと家族の援助に活用できる理論について説明することができる。
- (5) 慢性病者および家族の質の高い生活を目指した支援技術を検討することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業への参加状況および課題発表・レポートの結果を基に総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は，個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義の日時，内容，準備等については，担当教員の指示を確認する。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
各講義は下記の日程表どおりに開催されます。止むを得ない事情で出席できない場合は，代替の学習手段・課題について，講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

- (1) Ilene Morof Lubkin他/黒江ゆり子翻訳：クロニックイルネスー人と病いの新たなかわり，医学書院，2007. 7,344円
- (2) Pierre Woog/黒江ゆり子他翻訳：慢性疾患の病みの軌跡ーコービンとストラウスによる看護モデル，医学書院，1995. 2,916円
- (3) Anselm L.Strauss/南裕子監訳：慢性疾患を生きる ケアとクオリティ・ライフの接点，医学書院，2001. 3,780円

- (4) 鈴木和子他：家族看護学－理論と実践 第4版，日本看護協会出版会，2012. 3,456円
- (5) 野口裕二：ナラティブ・アプローチ，勁草書房，2009. 2,940円
- (6) やまだようこ：人生と病いの語り（質的心理学講座），東京大学出版会，2008. 3,780円
- (7) 野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論，メヂカルフレンド社，2016. 4,536円
- (8) Patricia Benner・Judith Wrubel/難波卓志訳：現象学的人間論と看護，医学書院，1999. 4,968円
- (9) Patricia Benner/井部俊子訳：ベナー看護論－初心者から達人へ，医学書院，2005. 3,990円
- (10) Patricia Benner/井上智子訳：ベナー看護ケアの臨床知－行動しつつ考えること，医学書院，2012. 6,372円
- (11) Patricia Benner/早野ZITO真佐子訳：ベナー 看護実践における専門性: 達人になるための思考と行動，医学書院，2015. 6,048円
- (12) Richard S. Lazarus/本明寛他訳：ストレスの心理学，実務教育社，2010. 5,437円

7. 日程表

No.	月 日	時 限	講義テーマ	担当者	所 属
1	4月10日	3	慢性病者の包括的なアセスメント	古賀 明美	生涯発達看護学
2	4月10日	4	慢性病者のセルフケアのアセスメント（セルフケア理論）	〃	〃
3	4月17日	3	慢性病者の病いの語りと病みの軌跡を用いたアセスメント	〃	〃
4	4月17日	4	慢性病者の家族のアセスメント （家族発達論，家族アセスメント理論）	福山 由美	統合基礎看護学
5	4月24日	1	慢性病者及び家族の質の高い生活を目指した支援技術 1	藤田 愛	医療法人社団慈恵会 北須磨訪問看護・ リハビリセンター
6	4月24日	2	慢性病者及び家族の質の高い生活を目指した支援技術 2	〃	〃
7	5月 8日	3	慢性病者のセルフケアの援助	古賀 明美	生涯発達看護学
8	5月 8日	4	慢性病者及び家族の援助 （家族ストレス対処理論，家族システム理論）	福山 由美	統合基礎看護学
9	5月15日	3	慢性病者の生活と療養法への取組みのアセスメント（スティグマ）	古賀 明美	生涯発達看護学
10	5月15日	4	慢性病者の生活と療養法への取組みのアセスメント（ヘルス・ローカス・オブ・コントロール：HLC，レジリエンス）	〃	〃
11	5月22日	3	慢性病者及び家族のナラティブ・アプローチによる支援技術 1	〃	〃
12	5月22日	4	慢性病者及び家族のナラティブ・アプローチによる支援技術 2	〃	〃
13	5月29日	3	慢性病者及び家族のナラティブ・アプローチによる支援技術 3	〃	〃
14	6月 5日	3	慢性病者の生活と療養法への取組みの包括的なアセスメント 1	〃	〃
15	6月 5日	4	慢性病者の生活と療養法への取組みの包括的なアセスメント 2	〃	〃

※講義室は4階，5409号室。場所を変更する場合は後日連絡する。

慢性看護方法論Ⅰ（専門選択必修1単位）

教科主任：熊谷有記

開講期間：1年次 前学期（6～7月）

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

慢性病をもつ人と家族を支える保健医療福祉の政策・制度について学び、慢性病患者特性を踏まえた社会資源の活用や退院調整、在宅支援体制を探究するとともに、新たな方策を創造する能力を培う。

2. 学習項目

（担当者）

- | | | |
|----------------------------------|---------------|-------|
| (1) 慢性病患者と家族を支援する保健医療制度の概要 | 生涯発達看護学 | 熊谷 有記 |
| (2) 慢性病患者に適用される医療・福祉の制度や体制の現状と課題 | 〃 | 〃 |
| (3) 慢性病の保健医療福祉行政の実際と今後の政策 | 大分県立看護科学大学 | 赤星 琴美 |
| (4) 慢性病患者と家族の退院調整と在宅支援体制 | 佐賀リハビリテーション病院 | 森田 博文 |
| (5) 慢性病患者と家族を支援する社会資源の活用 | 生涯発達看護学 | 熊谷 有記 |

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 慢性病患者と家族を支援する保健医療制度の概要について説明することができる。
- (2) 慢性病患者に適用される医療・福祉の制度や体制の現状と課題について説明することができる。
- (3) 慢性病の保健医療福祉行政の実際と今後の政策について説明することができる。
- (4) 慢性病患者と家族の退院調整と在宅支援体制について説明することができる。
- (5) 慢性病患者と家族を支援する社会資源の活用について新たな方策を提案することができる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への参加状況および課題発表・レポートの結果を基に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。

秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義の日時、内容、準備等については、担当教員の指示を確認する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

止むを得ない事情で出席できない場合は、事前に教科主任に相談すること。

6. 参考書等

- (1) 森山美知子編著：新しい慢性疾患ケアモデル デイジーズマネジメントとナーシングケースマネジメント 中央法規出版，2007. 3,456円
- (2) NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会編集：医療福祉総合ガイドブック2018年度版，医学書院，2018.
- (3) 佐川英雄編集：「月刊福祉」100年記念増刊号 現代の社会福祉 100の論点，全国社会福祉協議会，2012. 2,160円
- (4) 数間恵子編集：外来看護パーフェクト，看護の科学社，2013. 3,240円
- (5) 宇都宮宏子編，山田雅子編．看護がつながる在宅療養移行支援－病院・在宅の患者像別看護ケアのマネジメント．2014. 2,700円
- (6) 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2017/2018，2017. 2,500円
- (7) アン・W. ワジナー (著), Anne W. Wojner (原著), 井部 俊子(日本語版監修)：アウトカム・マネジメントー科学的ヘルスケア改善システムの臨床実践への応用 日本看護協会出版，2003. 4,104円

7. 日程表

No	月 日	コマ	講義テーマ	担当者	所 属
1	6 月 11 日	4	慢性病者と家族を支援する保健医療福祉制度の変遷と概要	赤星 琴美	大分県立看護科学大学
2	6 月 11 日	5	慢性病の保健医療福祉行政の実際と今後の政策	〃	〃
3	6 月 12 日	1	慢性病の保健医療福祉行政における安全対策	〃	〃
4	6 月 19 日	1	慢性病者の退院調整と地域における支援組織	森田 博文	佐賀リハビリテーション病院
5	6 月 26 日	3	慢性病者に適用される医療・福祉の制度や体制の現状と課題の明確化	熊谷 有記	生涯発達看護学
6	7 月 3 日	1	慢性病者と家族の在宅介護資源とセルフヘルプグループ形成支援	〃	〃
7	7 月 10 日	1	社会資源の活用について事例を用いた新たな方策の検討 1	森田 博文	佐賀リハビリテーション病院
8	7 月 17 日	1	社会資源の活用について事例を用いた新たな方策の検討 2	熊谷 有記	生涯発達看護学

※ 講義室は4階，5409号室。場所を変更する場合は後日連絡する。

慢性看護方法論Ⅱ（専門選択必修1単位）

教科主任：田 渕 康 子

開講期間：1年次 前学期（6～7月） 火曜 2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

慢性病をもつ人と家族の身体・心理・社会的側面を含めた包括的なアセスメント方法について、適切に評価する技術を学ぶ。

2. 学習項目

（担当者）

- | | | |
|--|--------------|-------|
| (1) 慢性病者の生活障害と包括的アセスメント | 生涯発達看護学 | 田渕 康子 |
| (2) 慢性病の症状とフィジカルアセスメント
（慢性的な呼吸・循環障害のある人，急性増悪や再燃のアセスメント） | 肝臓・糖尿病・内分泌内科 | 井上佳奈子 |
| | 卒後臨床研修センター | 吉田 和代 |
| | 介護老人保健施設 水郷苑 | 大田 明英 |
| (3) 慢性病者と家族の心理・社会的アセスメント | 生涯発達看護学 | 室屋 和子 |

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 慢性病者の生活障害と包括的アセスメントの目的・方法について説明することができる。
- (2) 慢性病者の主な症状とフィジカルアセスメントの方法について説明し，実践することができる。
- (3) 慢性病者と家族の心理・社会的アセスメントの方法を説明することができる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への参加状況，課題発表・レポート，これらの結果をもとに総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は，個別行動目標の修得状況に着目して，次の基準により行う。

秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義の日時，内容，準備等については，担当教員の指示を確認する。

身体的ヘルスアセスメントにおいては，講義および人体モデルや事例を用いた演習を行う。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は下記の日程表どおりに開催されます。止むを得ない事情で出席できない場合は，代替の学習手段・課題について，講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

- (1) 池上直己他：臨床のためのQOL評価ハンドブック，医学書院，2001，3,024円
- (2) 岩谷力ほか：障害と活動の測定・評価ハンドブック・機能からQOLまで，南江堂，2015，6,048円
- (3) 藤井美和：死生学とQOL，関西学院大学出版会，2015，3,456円
- (4) 日野原重明ほか：看護に活かすQOL評価，中山書店，2003，4,440円
- (5) 萬代隆監修：QOL評価法マニュアル，インターメディカ，2004，7,350円
- (6) パブリックヘルスリサーチセンター：ストレススケールガイドブック，実務教育出版，2010，8,400円
- (7) 佐藤憲明監修：疾患・状況・看護場面別フィジカルアセスメントディシジョン，学研メディカル秀潤社，2015，3,024円
- (8) 医療情報科学研究所（編）：フィジカルアセスメントがみえる，2015，3,456円
- (9) 掘洋道：心理測定尺度集Ⅰ，サイエンス社，2001，2,916円
- (10) 掘洋道：心理測定尺度集Ⅱ，サイエンス社，2001，3,888円
- (11) 掘洋道：心理測定尺度集Ⅲ，サイエンス社，2001，3,672円
- (12) 掘洋道：心理測定尺度集Ⅳ，サイエンス社，2007，3,456円
- (13) 掘洋道：心理測定尺度集Ⅱ，サイエンス社，2011，3,402円
- (14) 掘洋道：心理測定尺度集Ⅲ，サイエンス社，2011，3,348円
- (15) コーエン・シェルドンほか：ソーシャルサポートの測定と介入，2005，6,912円
- (16) 今尾真弓：慢性疾患患者のモーニング・ワークのプロセス—思春期・青年期から中年期の心理・社会的影響に注目して，ナカニシヤ出版，2016，5,400円
- (17) 久田満ほか：看護に活かす心理尺度—その選び方・使い方—，ナカニシヤ出版，2015，1,944円

7. 日程表

番号	月 日	時 限	講義テーマ	担当者	所 属
1	6 月 19 日	2	慢性病者の生活障害と包括的アセスメント	田渕 康子	生涯発達看護学
2	6 月 26 日	1	慢性的な呼吸・循環障害のある人のフィジカルアセスメント①	吉田 和代	卒後臨床研修センター
3	6 月 26 日	2	慢性的な呼吸・循環障害のある人のフィジカルアセスメント②	田渕 康子	生涯発達看護学
4	7 月 3 日	4	慢性病の急性増悪や再燃のアセスメント（糖尿病）	井上佳奈子 田渕 康子	内科学 生涯発達看護学
5	7 月 10 日	4	慢性病の急性増悪や再燃のアセスメント（高齢者）	大田 明英 田渕 康子	水郷苑 生涯発達看護学
6	7 月 17 日	2	慢性病者と家族の心理面のアセスメント（負担感，抑うつ，ADL，QOL）	室屋 和子	生涯発達看護学
7	7 月 24 日	2	慢性病者と家族の社会面のアセスメント（ソーシャルサポート，社会資源）	〃	〃
8	7 月 31 日	2	総合アセスメント（事例への適用）	田渕 康子	〃

※講義室は5階，5512号室。場所を変更する場合は後日連絡する。

慢性看護展開論（専門選択必修2単位）

教科主任：古賀 明 美

開講期間：2年 前期（4月～6月） 木曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

慢性病をもつ人と家族が多様な局面における変化に対応し、治療環境や療養生活の継続を支援する地域のシステム作りについて探求する。

2. 学習項目

（担当者）

- | | | |
|---------------------------------------|-------------|-------|
| (1) 慢性病者の生活の質の評価 | 生涯発達看護学 | 古賀 明美 |
| (2) 慢性病者とその家族を取り巻く治療環境および地域社会支援の現状と課題 | | |
| ・ 疾病の早期発見と相談・治療へのアクセスおよび継続フォロー | | |
| ・ 治療の継続と地域医療連携システム | | |
| ・ 職場における健康管理 | | |
| ・ 地域社会支援システム | | |
| (3) 慢性病者とその家族の療養生活の質の向上を目指すための方策の探究 | | |
| ・ 専門職および関連部門との連携によるチームアプローチ | | |
| ・ 専門職および関連部門との連携を強化するためのコミュニケーション | | |
| ・ 既存の地域医療連携システムを促進するためのネットワーキング | | |
| ・ 生活の質を高めるためのケースカンファレンス | | |
| (4) 治療の継続・療養生活を維持するための方策の探究 | | |
| (5) 慢性病者のケアの連携と専門看護師の役割 | 佐賀大学附属病院看護部 | 永渕 美樹 |

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- 慢性病者の療養生活の質を適切に評価することができる。
- 慢性病者とその家族の治療環境および地域社会支援の現状を評価することができる。
- 慢性病者とその家族の治療環境整備のための方策を導き出すことができる。

4. 成績評価の方法と基準

- 評価方法
授業への参加状況および課題発表・レポートの結果を基に総合的に評価する。
- 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- 一般的な履修上の注意
講義の日時、内容、準備等については、担当教員の指示を確認する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は下記の日程表どおりに開催されます。止むを得ない事情で出席できない場合は、代替の学習手段・課題について、講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

- (1) ヘルスカウンセリング学会：カウンセリング医療と健康，金子書房，4,830円
- (2) Nancy I. Whitman他，安酸史子訳：ナースのための患者教育と健康教育，医学書院，3,990円
- (3) 安酸史子：糖尿病患者のセルフマネジメント教育 エンパワメントと自己効力，メディカ出版，2,940円

7. 日程表

No.	月 日	時限	講義テーマ	担当者	所 属
1	4 月 12 日	1	慢性病者の生活の質の評価 QOL の概念と測定方法	古賀 明美	生涯発達看護学
2	4 月 12 日	2	慢性病者とその家族を取り巻く治療環境および地域 社会支援の現状と課題 ・ 疾病の早期発見と相談・治療へのアクセスおよび 継続フォロー ・ 治療の継続と地域医療連携システム ・ 職場における健康管理 ・ 地域社会支援システム	〃	〃
3	4 月 19 日	1		〃	〃
4	4 月 19 日	2		〃	〃
5	4 月 26 日	1		〃	〃
6	4 月 26 日	2		〃	〃
7	5 月 10 日	1	慢性病者とその家族の療養生活の質の向上を目指す ための方策の探究 ・ チームアプローチ ・ コミュニケーション ・ ネットワーキング ・ ケースカンファレンス	〃	〃
8	5 月 10 日	2		〃	〃
9	5 月 17 日	1		〃	〃
10	5 月 17 日	3		〃	〃
11	5 月 24 日	1	治療の継続・療養生活を維持するための方策の 探究	〃	〃
12	5 月 24 日	2		〃	〃
13	5 月 31 日	1	慢性病者のケアの連携と専門看護師の役割	永渕 美樹	佐賀大学医学部 附属病院看護部
14	5 月 31 日	2		〃	〃
15	6 月 7 日	1	治療環境整備と地域社会支援に向けた専門看護師の あり方	古賀 明美	生涯発達看護学

※講義室は 4 階，5409 号室。場所を変更する場合は後日連絡する。

慢性看護援助論Ⅰ（専門選択必修2単位）

教科主任：田 淵 康 子

開講期間：1年次 後学期（10～1月） 火曜日 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

慢性病をもつ人と家族が、発病から死に至るまでの様々に変化する病期に対応し、その人の身体的・心理社会的な対処能力を高め、慢性病と共に生活するために必要な看護支援について修得する。

2. 学習項目

（担当者）

- | | | |
|------------------------------------|---------------|--------|
| (1) 特徴的な慢性病の発病期および不安定期を支える支援技術 | 生涯発達看護学 | 田淵 康子 |
| ・慢性病の早期発見と発症時の身体、心理、社会的支援 | 〃 | 古賀 明美 |
| ・急性増悪期、重大なイベント（災害を含む）時の心身の把握とケアの実際 | 長崎大学病院 | 井川 幸子 |
| ・慢性病者のターミナル期の把握とケアの実際 | ひらまつ在宅療養支援診療所 | 鐘ヶ江寿美子 |
| (2) 長期的に生活の安定を支える支援技術 | 佐賀大学附属病院看護部 | 永淵 美樹 |
| ・慢性病と社会生活の「折り合い」をつける支援 | 生涯発達看護学 | 田淵 康子 |
| ・療養上の意思決定を支える支援 | 佐賀大学附属病院看護部 | 田中まゆこ |
| ・症状マネジメントに関する支援（補完代替療法） | 医療法人清和会長田病院 | 池田 緑 |
| ・機能低下や合併症予防に対する支援 | | |
| (3) 慢性病者の生活の質の評価 | 生涯発達看護学 | 古賀 明美 |

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- 特徴的な慢性疾患の発症期および不安定期の支援技術について説明することができる。
- 長期的に生活の安定を支える支援技術について説明することができる。
- 慢性疼痛の増悪予防、対症療法、薬物療法、生活管理について、症状マネジメントを用いて説明することができる。
- 慢性病者の病期に対応した看護支援を探究することができる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への参加状況、課題発表・レポート、これらの結果をもとに総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、個別行動目標の修得状況に着目して、次の基準により行う。

秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義の日時、内容、準備等については、担当教員の指示を確認する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は下記の日程表どおりに開催されます。止むを得ない事情で出席できない場合は、代替の学習手段・課題について、講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

- (1) Sharon Morgillo Freeman, Arthur Freeman編 白石裕子監訳：看護実践における認知行動療法，星和書店，2008，5,880円
- (2) シャーロット・イリオパウロス他：補完代替療法 現代医療の治療効果を高める，産調出版，2006，3,465円

7. 日程表

番号	月 日	時 限	講義テーマ	担当者	所 属
1	10月2日	1	慢性病者の身体，心理・社会的側面からの健康状態の把握	田渕 康子	生涯発達看護学
2	10月2日	2	慢性病の早期発見と発症時の身体，心理，社会的支援（糖尿病）	古賀 明美	〃
3	10月9日	1	急性増悪期，重大なイベント時の心身の把握とケアの実際（慢性心不全）	井川 幸子	長崎大学病院
4	10月9日	2	慢性病者のターミナル期の把握とケアの実際（慢性心不全）	井川 幸子	〃
5	10月12日	1	慢性病者のターミナル期の把握とケアの実際（緩和ケア）①	鐘ヶ江寿美子	ひらまつ在宅療養支援診療所
6	10月12日	2	慢性病者のターミナル期の把握とケアの実際（緩和ケア）②	〃	〃
7	10月16日	2	療養上の意思決定を支える支援	永渕 美樹	医学部附属病院
8	10月30日	1	療養上の意思決定を支える支援①事例での展開	〃	〃
9	10月30日	2	療養上の意思決定を支える支援②事例での展開	〃	〃
10	11月6日	1	症状マネジメント（シンプトンマネジメント）	田中まゆこ	医学部附属病院
11	11月6日	2	変化する病期に応じた看護支援について事例を用いた検討①	田渕 康子	生涯発達看護学
12	11月20日	1	症状マネジメント事例での展開①	田中まゆこ	医学部附属病院
13	11月20日	2	症状マネジメント事例での展開②	〃	〃
14	1月18日	4	補完代替療法①	池田 緑	医療法人清和会長田病院
15	1月18日	5	補完代替療法②	〃	〃

※ 講義室は5階，5512号室。場所を変更する場合は後日連絡する。

慢性看護援助論Ⅱ（専門選択必修2単位）

教科主任：古賀明美

開講期間：1年次 後学期（11～1月） 火曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

複雑で解決困難な問題をもつ慢性病者や家族について、多角的な視点でアセスメントする方法を演習を通して学ぶ。また、その人が自らの力で質の高い生活を営めるような高度な看護援助について検討し、支援結果を理論的方法に基づき評価する能力を修得する。

2. 学習項目

- | | |
|--|----------------------------------|
| (1) 複雑で解決困難な問題を抱える慢性病者と家族の包括的アセスメント | (担当者) |
| 国立病院機構大牟田病院
生涯発達看護学
ク
佐賀大学医学部附属病院 | 田中亜由美
田渕 康子
古賀 明美
永渕 美樹 |
| (2) 高度な実践を提供するための専門的支援技術 | |
| ・倫理的問題と調整 | 生涯発達看護学 田渕 康子 |
| ・コンサルテーションと調整 | 国立病院機構大牟田病院 田中亜由美 |
| | 佐賀大学医学部附属病院 永渕 美樹 |
| ・看護スタッフの教育 | 生涯発達看護学 古賀 明美 |
| (3) 在宅や職場における専門的支援技術 | 重工記念長崎病院 横堀 裕美 |
| | 生涯発達看護学 熊谷 有記 |
| (4) 療養生活管理における専門的支援技術 | 佐賀大学医学部附属病院 藤井 純子 |

3. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- 複雑で解決困難な問題を抱える慢性病者と家族について、包括的なアセスメントをすることができる。
- 複雑な問題をもつ慢性病者の事例に基づいて、包括的なアセスメントと問題の解決に向けた看護方法を検討することができる。
- 看護集団全体の支援能力を高めるためのスタッフ教育やコンサルテーション能力および倫理的な課題を解決する方法を説明することができる。
- 慢性病者と家族の在宅や職場における療養生活を支援する専門的な支援技術について説明することができる。
- 専門的な看護援助の介入成果を適切に評価する方法について検討することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- 評価方法
授業への参加状況および課題発表・レポートの結果を基に総合的に評価する。
- 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行います。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下
- 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- 一般的な履修上の注意
講義の日時、内容、準備等については、担当教員の指示を確認する。
- 社会人学生に対する履修上の注意
各講義は下記の日程表どおりに開催されます。止むを得ない事情で出席できない場合は、代替の学習手段・課題について、講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

- (1) Christopher S.Frings/木村聡訳：医療スタッフのためのセルフマネジメント，医歯薬出版，2009. 2,310円
- (2) 松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎－生活習慣病を中心に，医歯薬出版，2002. 1,890円
- (3) Edgar H. Schein/稲葉元吉，尾川丈一訳：プロセス・コンサルテーション－援助関係を築くこと，白桃書房，2011. 4,000円
- (4) 嶋佐由美監修：家族エンパワーメントをもたらす看護実践，へるす出版，2011. 5,800円
- (5) 井部俊子他：専門看護師の思考と実践，医学書院，2015. 3,780円
- (6) Patricia Benner/早野ZITO真佐子訳：ベナー ナースを育てる，医学書院，2013. 4,200円

7. 日程表

No.	月 日	時 限	講義テーマ	担当者	所 属
1	11 月 13 日	2	慢性病が日常生活へ及ぼす影響	古賀 明美	生涯発達看護学
2	11 月 27 日	1	複雑な問題をもつ慢性病患者と家族の包括的アセスメント 実践事例の分析と介入（調整）	田中亜由美	独立行政法人 国立病院機構 大牟田病院
3	11 月 27 日	2	〃	〃	〃
4	12 月 4 日	1	複雑な問題をもつ慢性病患者と家族の包括的アセスメント 実践事例の分析と介入（倫理）	田淵 康子	生涯発達看護学
5	12 月 4 日	2	〃	〃	〃
6	12 月 11 日	1	複雑な問題をもつ慢性病患者と家族の包括的アセスメント 実践事例の分析と介入（コンサルテーション）	永淵 美樹	佐賀大学医学部 附属病院
7	12 月 11 日	2	〃	〃	〃
8	12 月 18 日	1	慢性病患者への職場における専門的支援技術	横堀 裕美	重工記念長崎病院
9	12 月 18 日	2	〃	〃	〃
10	12 月 25 日	1	慢性病患者と家族の在宅における専門的支援技術	熊谷 有記	生涯発達看護学
11	12 月 25 日	2	〃	〃	〃
12	平成 31 年 1 月 8 日	1	看護実践能力のアセスメントと看護スタッフの教育	古賀 明美	生涯発達看護学
13	1 月 8 日	2	〃	〃	〃
14	1 月 15 日	1	療養生活管理における専門的支援技術 （フットケア）	藤井 純子	佐賀大学医学部 附属病院
15	1 月 15 日	2	〃	〃	〃

※講義室は 4 階，5409 号室。場所を変更する場合は後日連絡する。

慢性看護学実習Ⅰ（専門選択必修2単位）

教科主任：古賀 明 美

開講期間：1～2年次（90時間）

（担当者）

生涯発達看護学講座 古賀 明美

〃 田淵 康子

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

慢性看護実践を専門とする看護師の所属する施設において、専門看護師の実践活動を学び、慢性病をもつ人とその家族に対する専門看護師としての役割と機能を探求する。

2. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- （1） 高度な看護実践を学び、専門看護師の活動内容の実際（外来・病棟）を知る。
- （2） 専門看護師の役割である教育・相談役割・倫理・連携調整について、実際の活動の中から検討することができる。
- （3） 専門看護師の実践活動を通して、自己の課題を明らかにする。

3. 実習方法

- （1） 実習場所
専門看護師が所属する病院の外来及び病棟。
- （2） 実習期間
1年次後学期～2年次前学期の期間に必要とする単位数を満たす実習を指定された実習場において実施する。
- （3） 実習内容
共通科目及び専門科目で学んだことを基盤に主体的な実習を行う。実習で習得した内容をレポートにまとめる。

4. 成績評価の方法と基準

- （1） 評価方法
実習への取り組み、事例発表、課題レポートによる総合評価を行う。
- （2） 評価基準
成績の評価は、次の基準により行う。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

慢性看護学実習Ⅱ（専門選択必修2単位）

教科主任：古賀 明 美

開講期間：1～2年次（実習180時間）

（担当者）

生涯発達看護学講座 古賀 明美
〃 田渕 康子

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

慢性病をもつ人が療養する生活の場（病棟・外来・地域）で高度な実践を提供すると共に、教育、相談、連携調整、研究、倫理的問題の解決の試みを行い、慢性専門看護師としての能力を養う。

2. 個別行動目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 慢性病者が療養する生活の場（病棟・外来・地域）で、複雑で解決困難な問題を抱える患者及び家族に対して高度な看護を実践することができる。（実践）
- (2) 慢性病者と家族の援助方法について、看護スタッフや他職種、看護学生などを対象に教育的機能を実践することができる。（教育）
- (3) 看護職者を含むケア提供者に対して、相談役割を実践することができる。（相談）
- (4) 慢性病者とその家族に必要なケアを提供するために、保健医療福祉に携わる人々との連携や調整をすることができる。（調整）
- (5) 臨床における倫理的な問題について、解決に向けた関係者間での倫理的調整を行うことができる。（倫理）
- (6) 専門看護師として、総合的に組織や人に働きかけていく方法を実践することができる。（実践）
- (7) 指導者やスタッフと共に事例検討を行い、専門的知識・技術の向上を図るための考察を行うことができる。（研究）

3. 実習方法

- (1) 実習場所
佐賀大学医学部附属病院、その他、実習課題により決定する。
- (2) 実習期間
1年次後学期～2年次通年の期間に必要とする単位数を満たす実習を実施する。
- (3) 実習内容
共通科目及び専門科目で学んだことを統合し、実習Ⅰで明らかにした自己の課題を達成するため、臨床指導者および指導教員のスーパービジョンの下で実施する。また、複雑な問題を抱える慢性病者を複数受け持ち、実習で習得した専門看護師の役割内容を評価し、実習指導者・スタッフ・指導教員を交えて看護実践に関する発表を行うとともにレポートにまとめる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
実習への取り組み、事例発表、課題レポートによる総合評価を行う。
- (2) 評価基準
成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して次の基準により行う。
秀 100～90点 優 89～80点 良 79～70点 可 69～60点 不可 59点以下

講座等研究室概要

分子生命科学講座 分子遺伝学・エピジェネティクス分野

1. 研究・教育スタッフ

副島 英伸（教授），東元 健（助教）

2. 研究テーマ

(1) ゲノム刷り込み（ゲノムインプリンティング）

ゲノム刷り込み（ゲノムインプリンティング）はヒトを含む哺乳動物の発生に不可欠であり，刷り込み異常により先天異常や癌などのさまざまな疾患が発症する。ゲノム刷り込みの生物学的役割を明らかにするために，ゲノム構造，分子機構の観点からアプローチする。

(2) がんのエピジェネティクス

DNA修復酵素遺伝子や腫瘍抑制遺伝子などのがん関連遺伝子の癌におけるエピジェネティックな変化の分子機構と遺伝子発現との関連を解析し，発癌・癌進展のメカニズムを解明する。

(3) エピジェネティクス関連疾患の解析

エピジェネティクスの異常によって生じるさまざまな疾患や形質について分子遺伝学的に解析する。

(4) クロマチンの生化学

エピジェネティクスにおいて，ヒストン化学修飾はDNAメチル化と双璧をなす重要な因子である。ヒストン修飾酵素の生化学的解析を行い，遺伝子発現における機能および個体発生・疾患発症に及ぼす影響を解析する。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

分子生物学，細胞生物学，分子遺伝学，人類遺伝学，生化学，エピジェネティクスなどの知識と，分子生物学の研究に必要な能力

(2) 技術

DNA・RNA抽出，PCR法，サザンブロット，ノーザンブロット，ライブラリースクリーニング，クローニング，シーケンシング，遺伝子改変技術，レポータージーンアッセイ，DNAメチル化解析技術，タンパク精製，免疫沈降法，ウエスタンブロット，細胞培養技術，研究用マウス飼育，遺伝子関連データベースの検索・解析

4. 指導方針・目標

医学を背景にした分子遺伝学的研究を自ら立案し，遂行・発展させる能力を養うことを目標とする。基本的に個人指導。グループ全員によるセミナーを通して包括的にサポートする。

5. 問い合わせ・連絡先

副島教授：soejimah@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2260（内線 2260）

部屋番号 2305

研究室：TEL直通 0952-34-2264（内線 2264）

分子生命科学講座 分子医化学分野

1. 研究・教育スタッフ

出原 賢治（教授），布村 聡（准教授），南里 康弘（助教）

2. 研究テーマ

(1) サイトカインの細胞内でのシグナル伝達機構

生理活性物質であるサイトカイン，特にインターロイキン4（IL-4），IL-13の細胞内でのシグナル伝達機構の解明を目指している。シグナル伝達機構に関与している分子の同定，シグナル伝達分子間でのタンパク質－タンパク質あるいはタンパク質－DNA相互作用の様式などの解析を行っている。

(2) アレルギー疾患の発症機序の解明

気管支喘息，アトピー性皮膚炎，アレルギー性鼻炎といったアレルギー疾患の発症機序の解明を目指している。特にアレルギー疾患の発症に重要なIL-4，IL-13の関与を中心に遺伝子，タンパク質，細胞，モデル動物などを用いて統合的に解析を行っている。上皮細胞などの非免疫系細胞，あるいはリンパ球などの免疫系細胞に対するこれらのサイトカインの生物活性の解明と，その生理学的意義を細胞レベルあるいは動物レベルで解析を行っている。

(3) 炎症性疾患の発症機序の解明

炎症機序には，さまざまな免疫反応が関わっているが，それとともに免疫細胞と構成細胞との相互作用が重要となっている。間質性肺炎，COPD，動脈硬化などの種々の炎症疾患を対象として，その基礎となっている免疫反応と構成細胞との相互作用を解明し，これらの疾患の発症機序の解明につなげることを目指している。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

分子生物学的，細胞生物学的，生化学的，免疫学的知識

(2) 技術

DNA操作，細胞培養，細胞への遺伝子導入，タンパク質の発現とその精製，タンパク質検出解析，抗体作製，モデル動物を用いた解析

4. 指導方針・目標

セミナーあるいはディスカッションを通じて論理的思考を身につけさせるとともに，与えられたテーマに対して多面的な取り組みを行えるよう指導を行う。

5. 問い合わせ・連絡先

出原教授：kizuhara@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2261（内線 2261）

部屋番号 2331

研究室：TEL直通 0952-34-2269（内線 2269）

F A X 0952-34-2058

分子生命科学講座 細胞生物学分野

1. 研究・教育スタッフ

池田 義孝（教授），井原 秀之（准教授），岡田 貴裕（助教），伊東 利津（教務員）

2. 研究テーマ

(1) 糖タンパク質アスパラギン結合型糖鎖の生合成

細胞のゴルジ装置内における糖鎖のアセンブリを明らかにし，細胞のタイプや組織特異的な生合成調節機構を解析する。糖鎖生合成経路のエンジニアリングによる糖鎖改変組換え糖タンパク質の発現を行う。

(2) 糖転移酵素の活性調節機構

糖転移酵素の活性がタンパク質レベルでどのように制御されているかを解析する。

(3) 抗酸化酵素ペルオキシレドキシンの酵素学的解析と生物学的機能

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識

生化学・細胞生物学全般，糖鎖生物学，酵素学，速度論など

(2) 技術

タンパク質の分離精製法，組み換えタンパク質の発現，速度論的解析，化学修飾，糖鎖構造解析，論文作成など

4. 指導方針・目標

個々の進路に応じた柔軟な指導を行うが，生化学・分子生物学的な研究を遂行するのに必要な基礎的知識および実験手法を身につけてもらうことを最低限の目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

池田教授：yikeda@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2190（内線 2190）

部屋番号 2265

研究室：TEL直通 0952-34-2195（内線 2195）

分子生命科学講座 免疫学分野

1. 研究・教育スタッフ

吉田 裕樹（教授），三宅 靖延（准教授），三田村 文香（助教），倉田 里穂（助教）

2. 研究テーマ

(1) サイトカインによるリンパ球分化制御機構の解明とその治療応用

病原体の排除や癌に対する免疫に重要な免疫反応を誘導するサイトカインの役割やシグナル伝達経路を解析し、疾患との関連を探索。特に、炎症抑制作用を持つインターロイキン27の役割やシグナル伝達機構を明らかにし、このサイトカインを用いた炎症性疾患の新しい治療法の確立を目指す。

(2) 病原体を認識する免疫受容体の探索と機能解析

免疫細胞は、様々な受容体により感染病原体を認識することで免疫応答を引き起こす。新たな病原体認識受容体を探索して、その機能解析を行うことにより、感染病原体に対する生体防御機構を明らかにし、さらには治療標的としての可能性を探索。

(3) アポトーシスの分子機構の解析

有害な細胞や遺伝子に障害を受けた細胞は、アポトーシス(計画細胞死)と呼ばれる細胞死によって除去される。Apaf1は内因性アポトーシス誘導経路に必須のアダプター分子である。この分子の役割を解析していくことにより、アポトーシスの分子機構を解析し、個体発生や生体の恒常性の維持におけるアポトーシスの役割を探索。また、ネクロプトーシスなどの新しい細胞死との相互関係を探索。

(4) 寄生原虫の特異的代謝経路の解析

寄生性の原虫（赤痢アメーバ，リーシュマニア，トリパノソーマなど）が示す生物現象を分子レベルで解析する。特に宿主への寄生適応に着目，上記の原虫のマウス感染モデルを用いて宿主と原虫の相互作用を解明することを目指す。

3. 習得可能な知識・技術

- ・分子生物学，細胞生物学，免疫学の知識
- ・DNA操作，細胞培養，蛋白質の発現・解析などの生化学的解析技術，マウスを用いた感染実験などの個体レベルでの免疫学的技術。フローサイトメトリーなどの細胞免疫学的技術など。

4. 指導方針・目標

論文セミナーやグループディスカッションを通じて，研究遂行における論理的・科学的思考力を身に付ける事を目標とする。また，与えられたテーマに対して，自ら計画立案し，ディスカッションやデータ発表などを通じて研究を遂行・発展する能力を身に付ける事を目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

吉田教授：yoshidah@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2290（内線 2290）

部屋番号 2411

研究室：TEL直通 0952-34-2294（内線 2294）

生体構造機能学講座 解剖学・人類学分野

1. 研究・教育スタッフ

倉岡 晃夫（教授），菊池 泰弘（講師），川久保 善智（助教），柴田 健太郎（助手）

2. 研究テーマ

人体の構造・機能・進化を明らかにするため，以下のテーマについて研究を行っている。

(1) 人類進化の解明

アフリカが起源とされるヒトおよびヒトの祖先型動物の進化を解明するため，中新世類人猿を中心に霊長類化石の復元を目指す。

(2) 現生霊長類の機能形態学的解析

霊長類の筋骨格系における形態と機能のマクロ的な関係を解明するために，様々な歩行様式をする霊長類種の体肢を対象に，コンパクトCTを用いて霊長類標本を撮像しコンピュータ上で三次元再構築することで，バイオメカニカルな比較分析を行う。

(3) 日本人頭蓋の地域差と時代変化

日本列島や周辺地域から出土した古人骨の形態分析を通して，日本人の地域差や時代変化を明らかにし，それらを引き起こしてきた要因の解明を目指す。

(4) 解剖体を用いた臨床解剖学的研究

人体計測・バリエーションの分析，医用材料のフィッティング，新手術法の基礎データ収集など

3. 習得可能な知識・技術

- ・肉眼解剖学，臨床解剖学，自然人類学，霊長類学の知識
- ・解剖技術，骨標本作製，形態計測法（三次元計測器など），コンパクトCT（定量的X線断層撮影装置），三次元再構築技法，古人骨復元技術，人骨鑑定法（年齢推定，性別判定，身長推定）など

4. 指導方針・目標

将来的に研究を遂行・発展させるのに必要な標本作製，データ解析，論文作成，プレゼンテーション法などを習得させつつ，並行して肉眼解剖学担当講座のスタッフとして即戦力となる人材養成を行うことを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

倉岡教授：kura@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2220（内線 2220）

部屋番号 2105

生体構造機能学講座 組織・神経解剖学分野

1. 研究・教育スタッフ

城戸 瑞穂（教授），村田 祐造（准教授），西山 めぐみ（助手），本田 裕子（教務員）
河野 史（統合基礎看護学，看護機能形態学分野 教授）

2. 研究テーマ

身体は多様な細胞が集まり組織が形作られ，多彩な機能が発揮される。研究対象を分子－細胞－組織－器官－個体と選択しながら，形が織りなす生命現象を明らかにすることを目的としている。

特に最近のメカノバイオロジーの進展に伴い，機械あるいは温度刺激感受性のイオンチャネルを標的としながら，生理機能および病態解明を目指している。

(1) 皮膚・粘膜の感覚とその生理機能

皮膚角化細胞や粘膜上皮細胞が，温度感受性あるいは物理機械刺激感受性のイオンチャネルを介して，環境変化に応じた上皮の代謝調節を行い，創傷治癒や病態などに関わることを明らかにする。

(2) アレルギー疾患と感覚異常との関連機構

アトピー性皮膚炎や喘息などのアレルギー疾患の患者は増加傾向にあり大きな課題である。感覚過敏がQOLを大きく低下させるだけでなく，悪化につながっていることに着目し，末梢神経と炎症に焦点を当て解明を目指す。

(3) ペプチドホルモンによる糖代謝調節

ペプチドホルモンが糖尿病など糖代謝調節に関わる新たな機構を明らかにし，病態の理解につなげる。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

分子細胞生物学，組織学，神経解剖学，実験小動物解剖学，発生学などの知識と，これらの形態学的研究に必要な能力

(2) 技術

最近の顕微鏡技術進展を利とした高精細ライブイメージング技術

その他，基本的な研究技術として，実験用小動物の取扱，モデル動物作製，神経解剖学的解析法，免疫組織化学法，in situ hybridization法，電子顕微鏡（透過型・走査型）観察技術，各種光線顕微鏡（蛍光，位相差，微分干渉，暗視野等）観察及び解析，分子生物学的解析など

4. 指導方針・目標

研究の遂行に必要な基盤となる技術を身につけ，自ら課題を選択し，発展させることを目標とする。マンツーマンを主とし，セミナーやグループ討論を通じて包括的に指導する。

5. 問い合わせ・連絡先

城戸教授：kido@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2221（内線 2221）

部屋番号 2109

研究室：TEL直通 0952-34-2226（内線 2226）

生体機能構造学講座 器官・細胞生理学分野

1. 研究・教育スタッフ

塩谷 孝夫（助教）

2. 研究テーマ

心臓は、きわめて精巧に作られた血液のポンプである。その正常拍動をつかさどる興奮と収縮の分子メカニズムと、病態における機能破綻のメカニズムの解明をめざして、以下のテーマについて研究を進めている。

(1) 心筋細胞内カルシウム動態制御機構の解明

動物心臓から単離した心筋細胞をもちいて、イオンチャネルやイオントランスポーターによる、細胞内カルシウム動態制御のメカニズムをさぐる。細胞の機能を、パッチクランプ法やカルシウムイメージングをもちいて、定量的に記録・解析する。得られた結果を、コンピューターシミュレーションをもちいて、数理モデルに統合的に再構成する。これにより、心臓の興奮と収縮の分子メカニズムを、定量的に解明する。

(2) カルシウム動態異常にともなう不整脈発生機序の解明

マウス疾患モデルを用いて、心筋症や心不全にともなう心筋細胞内カルシウム動態異常と、それが誘発する心室性不整脈の発生メカニズムをさぐる。パッチクランプ法・カルシウムイメージングによる機能解析や、分子生物学的手法による遺伝子・タンパクの発現解析をもちいて、心臓の機能破綻のメカニズムを解明する

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

心臓の生理学と病態生理学の知識、興奮性膜の生物物理学、電気生理学実験、細胞内カルシウム動態、コンピューターに関する知識を習得できる。また、科学的な思考の能力、実験とデータ解析の能力、ドキュメンテーションの能力、英語によるコミュニケーションの能力を習得できる。

(2) 技術

パッチクランプ法の技術、カルシウムイメージングと画像データ解析、電気生理データ解析、動物心臓からの心筋細胞の単離、培養細胞発現系、コンピュータープログラミング、電子回路の設計と製作、分子生物学的手法の技術を習得できる。

4. 指導方針・目標

個々の興味にあった研究テーマを選定し、実験の計画と実施を通じて、研究の方法論と科学的思考力のトレーニングを指導する。また、論文セミナーとデータ発表・ディスカッションを通じて、研究のビジョン、論理的なコミュニケーション、ドキュメンテーションの能力、および英語の能力を指導する。指導においては、研究に情熱と夢をもって取りくむ姿勢と、真に独創的な研究を遂行する能力を涵養することを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

塩谷 助教：shioya@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2274（内線 2274）

部屋番号 2309

研究室：TEL直通 0952-34-2277（内線 2277）

生体構造機能学講座 神経生理学分野

1. 研究・教育スタッフ

藤田 亜美（准教授）

2. 研究テーマ

神経と神経のつなぎ目であるシナプスにおける神経伝達物質を介した情報伝達（シナプス伝達）や神経線維における活動電位の伝導が生体内外の化学物質によりどのように修飾されるのかを、特に痛み情報の伝達に注目して明らかにしようとしている。

(1) 脊髄後角における痛み情報伝達の修飾メカニズムの解明

痛み情報伝達の制御に関わる脊髄後角のシナプスに焦点を当て、内因性および外因性の生理活性物質がシナプス伝達をどのように修飾するのかを調べている。すなわち、ラットから作製した脊髄横断スライス標本の脊髄後角第II層（膠様質）のニューロンにパッチクランプ法を適用している。様々な生理活性物質を作用させた時に膠様質ニューロンに生じる電気的な応答を記録・解析し、これらの物質が脊髄後角における痛み情報伝達をどのように修飾するのかの解明を目指している。

(2) 末梢神経における活動電位の伝導に及ぼす種々の化学物質の作用の解析

痛みなどの感覚情報は神経線維を活動電位として伝わる。そこで、殿様蛙から作製した坐骨神経にair gap法を適応して複合活動電位を記録し、様々な化学物質により活動電位の伝導がどのような影響を受けるのかを解析する。化合物の構造とその作用との相関を検討することで、新たな局所麻酔薬などの創薬に役立つ情報を得ることを目指している。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

神経生理学の基礎知識、疼痛や鎮痛に関する基礎医学的な知識、電気生理学的な実験により得られるデータの解釈に必要な能力

(2) 技術

ラット脊髄から横断スライス標本を作製する技術、パッチクランプ法によるニューロンの電気的な応答の記録・解析法、殿様蛙から坐骨神経標本を作製する技術、air gap法を用いた複合活動電位の記録・解析法

4. 指導方針・目標

研究テーマに関連する最新の学術論文の抄読、欧米で広く読まれている神経生理学分野の教科書の輪読、各自の実験データの発表・検討などを定期的に行っており、互いに啓発しあいながら勉強や研究に取り組めるようにサポートしている。自分で研究計画を立て、周囲とのディスカッションや関連文献の渉猟を通じて創意工夫しながら研究を発展させる能力の獲得を目標としている。

5. 問い合わせ・連絡先

藤田准教授：fujitat@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2271（内線 2271）

部屋番号 2315

研究室：TEL直通 0952-34-2276（内線 2276）

生体構造機能学講座 薬理学分野

1. 研究・教育スタッフ

寺本 憲功（教授），鬼頭 佳彦（准教授），窪田 寿彦（助教），山本 格士（助教）

2. 研究テーマ

『形態あるモノは機能を成し，機能あるモノは形態を成す』という基礎科学系の基本的思考に立脚し，電気生理学的手法やライブイメージングを主とした機能的解析法を基盤とし，さらに分子生物学的手法，遺伝子改変マウスおよび形態学的手法を積極的に導入し，統合した分子薬理学的見地から下記の研究テーマを展開している。

(1) 低侵襲性薬物送達法を用いた新規治療法の開発

ナノ気泡と超音波を組み合わせた新規薬物送達法（ソノポレーション法）にて核酸医薬，遺伝子およびタンパク質等の外来物質を宿主細胞に低侵襲的に導入し，様々な病態の改善を目指した新規治療法の確立を行っている。

(2) 薬理学的現象の可視化

共焦点顕微鏡，TIRF顕微鏡および膜透過性蛍光指示薬を駆使し，解像度の優れた画像解析を行い，細胞レベルでの薬物反応を可視化し，新たな分子薬理学の展開を目指している。

(3) イオンチャネルの制御機序の解明

様々な電気生理学的手法を用いてイオンチャネルの分子レベルでのチャネル開閉機序に関する機能的解析を行っている。さらに様々なイオンチャネル遺伝子を欠損したマウスを用い，野性型マウスの結果と比較し，ノックアウトした遺伝子からコードされるチャネルタンパク質の有無にてその生理学的役割について詳細に解析している。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

将来，独立した研究者になるため，指導教員とのディスカッションを通し，研究を遂行する能力，研究を持続する能力および自己問題解決能力を鍛え，個人の潜在的な優れた能力を引き出す。

(2) 技術

機能的（電気生理学的手法・画像解析），分子生物学および形態学的手法を修得させ，研究を統合的に進める。実験技法は日進月歩であり，必要な手法がある場合は国内外に出向させ，その修得に努める。

4. 指導方針・目標

一人一人の大学院生の知的興味を尊重し，個人の能力に合わせた研究目標を設定し，指導教員との1対1による個別研究指導を行う（『個の能力を重視した研究指導』）。また同時に『世界』に通じる研究者やリサーチマインドを有した臨床医を育成することを目標としている（『世界水準の知の育成』）。

5. 問い合わせ・連絡先

寺本教授：noritera@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-3626（内線 3626）

部屋番号 2278（院生・臨床研究棟 2階）

講座URL <http://www.pharmacology.med.saga-u.ac.jp>

病因病態科学講座 臨床病態病理学分野

1. 研究・教育スタッフ

戸田 修二（教授），青木 茂久（准教授），山本 美保子（助教），その他大学院生等

2. 研究テーマ

病理学は、細胞、組織構造を基盤にして、疾病の診断を実践するとともに、疾病の発症機構を研究する学問です。病理診断や病理解剖の実践（臨床病理）を通して、癌などの確定診断や疾病の治療方針、予後予測の決定、新しい疾患概念の提唱に重要な分野です。さらに、分子細胞生物学的手法や動物実験を用いて、臨床各科や臨床病理学で得られた現象のメカニズムを解明することを目指す分野です（実験病理）。

当教室は、臨床病理を実践し、それにより得られた知見を基盤にして、疾病の発病機構を研究しております。生命は不思議に満ちており、人体は宇宙空間そのもののような気がします。人体という広大な世界を旅する人材を希望します。我々と、一緒に旅してみませんか？ 旅人候補者は、是非、下記の連絡先に、アクセスしてください。素人大歓迎です！現在の研究テーマを記載しますが、当教室は何か面白いことがあれば、何でもトライする方針です。

- (1) 脂肪組織ワールドの構築と肥満関連疾患の発病・病態機構の解明（生体恒常性・メタボリック症候群・癌・老化、当教室の前教授 杉原 甫が世界で初めて成熟脂肪細胞の培養法を開発した）
- (2) 細胞間（上皮・間葉系細胞）および細胞－細胞外基質相互作用と疾病の発病・病態機構の解析
- (3) 癌細胞、癌幹細胞の増殖・浸潤・転移機構の解明とその臨床応用
- (4) 組織再生機構の解明（ES細胞を含む）とその再生医療への応用
- (5) 外科病理材料を用いた脱パラフィン切片による疾患特異的固定化微小環境の臨床病理学的研究
- (6) 気相－液相界面の分子細胞生物学とその臨床応用
- (7) Radiation-induced bystander effect
- (8) 何かおもしろいこと！

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力

細胞・組織学，臨床病理学，培養学，構造生物学，分子細胞生物学，学会発表・論文作成

- (2) 技術

病理解剖法，細胞・組織解析法，組織化学，免疫組織化学，in situ hybridization，組織培養法，電子顕微鏡（透過型，走査型），real-time RT-PCR，cDNA microarray，Western blot，ELISA

4. 指導方針・目標

自由な討論と自発性を尊重し、独立して、研究計画を立案し、仮説検証、学会発表、論文作成ができるようにする。寛容で、豊かな研究を行い、人として、研究者として視野を広めるために、海外留学を推奨している（多くの大学院生が在学中や学位取得後に、米国などに留学している）。

5. 問い合わせ・連絡先

戸田教授：todas@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2233（内線 2233）

部屋番号 2115

研究室：TEL直通 0952-34-2238（内線 2238）

病因病態科学講座 診断病理学分野

1. 研究・教育スタッフ

相島 慎一（教授），甲斐 敬太（病理部准教授），高瀬 ゆかり（助教），増田 正憲（助教）ほか

2. 研究テーマ

病理学的側面から臨床医学に貢献することを目的として、ヒトの組織を対象とした組織形態観察を基盤に、分子病理学的手法を用いて疾病の発生機序や進展機序を解明することに主眼をおき、以下のテーマについて研究を行っている。

(1) 消化器がんの発生と進展における分子生物学的研究

- A 胃，大腸腫瘍における細胞分化と悪性度に関する研究
- B 肝・胆・膵腫瘍の発育・進展メカニズムに関する，受容体蛋白およびシグナル伝達遺伝子の発現解析
- C 前駆病変と早期癌を区別する病理学的手法の開発
- D 化学療法後の病理学的治療効果判定に関する研究

(2) 炎症性疾患の病的変化の研究

- A 肝炎（ウイルス性，自己免疫性，脂肪性）における炎症の種類，程度，分布と時空間的变化の研究
- B 血管炎をきたす疾患の鑑別診断に有効な遺伝子の同定

(3) 外科病理診断および病理解剖を通じて，疾患の病態を理解し臨床医学の発展に貢献する。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

人体の解剖，遺伝子発現と免疫組織化学，組織形態に基づく病理組織診断能力

(2) 技術

光学顕微鏡用標本作成および観察技術，多重免疫染色を含む組織化学法，超微形態観察法，凍結・永久標本からの遺伝子抽出と解析，ISH，PCR，Microarrayなどの分子生物学的解析法

(3) 病理実践

日常の病理診断能力を身に付けるとともに，病理診断業務の高度な知識・能力が要求される術中迅速診断に習熟できる。

(4) 資格

診断病理学分野では人体病理を中心に研究を行っているので，研究修了後は「医学博士」取得のみならず，「病理専門医」および「細胞診専門医」の受験資格を得ることができる。

4. 指導方針・目標

自立して研究を遂行させるために必要な基本的な知識と技術に加え，より発展させていく応用力も身に付ける。指導は講座全員で指導する体制で，国内・国外で学会発表を行い，英文原著論文を一流雑誌へ投稿することで病理学の発展に貢献する。

5. 問い合わせ・連絡先

相島教授：saish@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2230

部屋番号 2215

病因病態科学講座 微生物学分野

1. 研究・教育スタッフ

宮本 比呂志（教授），久木田 明子（准教授），菖蒲池 健夫（助教）

2. 研究テーマ

(1) レジオネラの病原性発現機構の解明

レジオネラは、グラム陰性の桿菌でエアロゾル感染によりヒトに急性肺炎（在郷軍人病）やインフルエンザ様の熱性疾患（ポンティアック熱）を惹起する病原性を持っている。空調冷却塔水や衛生管理の悪い循環式の温浴施設などが感染源となり、ビルや温浴施設の利用者にレジオネラ肺炎が集団発生する。本菌が病原性を発揮する上で最も重要な性質は生体防御の第一線で働くマクロファージの殺菌に抵抗して増殖することである。本菌がどのようにマクロファージの殺菌機構からエスケープして増殖するのかについて、菌側の遺伝子（Icm/Dot）と宿主側の遺伝子Lgnlの両側から解析を行っている。

(2) MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の除菌法の開発

ブドウ球菌は医療従事者を介して易感染性宿主へ院内感染を起こす病因菌の一つとして重要な菌である。バイオフィルム（生物膜）を形成するメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）はカテーテルやドレーンなどの人工機材を生体内に装着する医療行為の大きな障害となっているのが現状である。現在、銀イオンを用いて本菌を除菌する方法を開発中である。

(3) 破骨細胞の分化機能調節に関する研究

破骨細胞はマクロファージに近縁の細胞で骨を壊す働きを持っている。培養細胞や疾患動物を用いて、破骨細胞の分化や機能に関わる因子およびその分子機構を明らかにする。また本研究室においてクローニングにより単離した、破骨細胞の分化機能調節に関わる新規の遺伝子（転写制御因子（OCZF）など）の機能解析を行っている。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

微生物学・免疫学・細胞生物学・生化学および分子生物学などの基本的な知識の学習，最近の論文（cell, nature, scienceなど）の発表と問題発見・問題解決などを討論する能力を養う。

(2) 技術

細菌の培養と殺菌活性の測定，マクロファージの分離，骨芽細胞，骨髄細胞etcの初代培養，株細胞の細胞培養，顕微鏡観察技術，免疫染色法，FACS，骨吸収アッセイ，電子顕微鏡（走査型），蛋白質の解析（SDS電気泳動，Western），遺伝子の発現解析法（RT-PCR，Northern）培養細胞への遺伝子導入，遺伝子発現細胞株の樹立，DNAやRNAの調製，組み換え遺伝子の作製，遺伝子のクローニング，遺伝子の塩基配列の解析，PCR，Southernなどの分子生物学的技術などを習得する。

4. 指導方針・目標

自発的に自ら疑問を提出し，その疑問を科学的な実験手法を用いて解決しようとする研究者の能力を伸ばすための援助をすることを指導の基本方針としている。

5. 問い合わせ・連絡先

宮本教授：miyamo@cc.saga-u.ac.jp

ホームページ：<http://www.microbio.med.saga-u.ac.jp/biodefense/>

TEL直通 0952-34-2245（内線 2245）

部屋番号 2212（基礎研究棟 2 階）

事務室：TEL直通 0952-34-2253（内線 2253）

社会医学講座 環境医学分野

1. 研究・教育スタッフ

市場 正良（教授），松本 明子（講師）

2. 研究テーマ

環境化学物質の体内動態や暴露量と健康影響との量－反応（影響）関係を明らかにするために、以下のテーマについて、主に分析化学的手法を用いて研究を行っている。

(1) 環境保健，産業保健に関する研究

物理的，化学的，生物学的環境を定量的に評価するための評価指標の確立に関する研究。

生活環境や労働環境において使用される主な化学物質が体内に取り込まれた場合，どのような生体変化が現れるかを解析するための研究。住宅の温熱環境と健康に関する研究。

(2) 環境発がんのリスク評価に関する研究

タバコ煙や排ガス中に含まれる発がん性の化学物質による体内暴露量や影響の程度を明らかにし，発がんの予知・予防を目指した研究。

(3) 生物学的モニタリングに関する研究

有機溶剤や鉛などの化学物質が体内に取り込まれた場合，血液や尿などの生体試料を分析して，その体内暴露量を推定するための評価手法の確立。

(4) 遺伝子多型による量影響関係の個体差に関する研究

環境化学物質暴露と健康影響の関係にどのような個体差があるのかを検討するための，モデル動物，もしくは疫学研究。

(5) 生活習慣病のバイオマーカーに関する研究

慢性炎症，ストレス，がんなどのバイオマーカーを探索し疫学研究に応用する。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

ヒトの健康と環境（特に化学的環境要因）との関わりを科学的に解明するために必要な知識と，それを予防医学に活かすための能力。

(2) 技術

化学物質の環境中濃度や体内に取り込まれた際の生体変化を血液や尿などの生体試料を用いて定量的に評価するために必要な各種の分析技術（機器分析や一般的な分子生物学技術など）や統計的解析技術。

4. 指導方針・目標

私たちが精力的に取り組んでいる研究に参画し，その研究の発展に寄与できるように個別的・集团的指導を行い，その成果を「予防原則」即ち，予防医学の発展に活かすことを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

市場 教授：ichiba@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2283（内線 2283）

部屋番号 2409

研究室：TEL直通 0952-34-2289（内線 2289）

社会医学講座 予防医学分野

1. 研究・教育スタッフ

田中 恵太郎（教授）、原 めぐみ（准教授）、西田 裕一郎（講師（特定））、島ノ江 千里（助教）

2. 研究テーマ

癌や生活習慣病の危険因子・防御因子の解明と予防対策の確立を目標とした疫学的研究と関連する実験的研究（遺伝子多型の解析など）を行っている。

(1) 日本多施設共同コホート研究（J-MICC Studyジェイミックスタディ）

生活習慣（飲酒・喫煙・食習慣・運動など）と遺伝的素因（遺伝子多型）が相互的にがんなどの生活習慣病の発生に及ぼす影響の検討、佐賀市で約1万2千人、全国で約10万人を20年間にわたって追跡するコホート研究。

(2) 肝臓の危険因子と予防対策に関する研究

環境要因（肝炎ウイルス・飲酒・喫煙など）と宿主要因（候補遺伝子多型など）が相互的に肝臓癌に及ぼす影響の検討。佐賀県における肝臓癌対策の評価と支援に関する研究。

(3) 身体活動と生活習慣病（肥満症・糖尿病・高脂血症・高血圧症など）に関する研究

生活習慣病に対する運動療法に関する研究、身体活動の効果を左右する候補遺伝子多型の解析、高齢者の寝たきり予防のための運動処方と実践プログラムの作成。

(4) 各種ワクチンの有効性評価に関する研究

インフルエンザやDTaP、ロタウイルスワクチンなど、各種ワクチン接種による免疫原性ならびに有効性に関する研究。

(5) 精神ストレスと生活習慣病（肥満症・糖尿病・心血管疾患など）に関する研究

生活習慣病に対する精神ストレスの影響の検討、精神ストレスの生活習慣病リスクを予測するバイオマーカーの探索。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

疫学、公衆衛生学、統計学などの知識と予防医学的研究に必要な能力。

(2) 技術

疫学研究の企画と実施、調査票の作成、統計解析パッケージ（SASなど）によるデータ解析、遺伝子多型の解析、肥満・身体活動量の評価、運動負荷試験、生活習慣病に対する運動療法と食事療法、健康づくり支援プログラムの作成と実践。

4. 指導方針・目標

健康問題に対して多面的な角度から柔軟にアプローチできる能力を習得する事を目標とし、各教員が分担して、それぞれの得意とする分野から指導を行う。

5. 問い合わせ・連絡先

田中教授：tanakake@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2280（内線 2280）

部屋番号 2407

研究室：TEL直通 0952-34-2287（内線 2287）

地域包括医療教育部門 認知神経心理学分野

1. 研究・教育スタッフ

堀川 悦夫（教授）

2. 研究テーマ

支援を必要とする人の視点から様々な手法による支援を評価することは、その方向性や支援内容の良否を判断する上で重要である。人間の判断や評価など主観的な現象をいかに研究していくかという問題は、基礎的な研究課題であるが、応用・実践的場面での適用も求められるため、認知神経科学・認知神経心理学、脳科学などの関連諸領域からなる学際的アプローチが必要である。

当分野においては、実験室での精密な測定から、地域医療における活動に及ぶ幅広い分野で研究を行っている。また、本学大学病院各診療科や関連病院等そして地域と連携した新しい視点で、各種支援手法の開発と実証データに基づいた支援（Evidence Based Support）のための研究を進めている。

*主な研究テーマ

- (1) 認知機能に及ぼす加齢の効果の検証
- (2) 認知機能測定法の開発
- (3) 高齢者・障害者のためのモビリティ（移動行動）の維持向上
- (4) 易転倒性評価法および交通事故防止に関する研究開発と応用
- (5) 介護負担とポジティブゲインに関する研究
- (6) 福祉機器の評価法の開発
- (7) 移動体計測手法による交通バリアフリー推進研究
- (8) 脳機能研究の成果に基づくコミュニケーションエイドの開発
- (9) モバイル計測を用いた糖尿病患者における治療継続動機づけ研究

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 支援を必要とする人々の認知神経心理学的研究法一般
- (2) 歩行や生活動作の解析手法
- (3) 加齢に伴う心身の変化に関する医学的基礎知識
- (4) 人間工学的視点からの福祉用具の開発・研究
- (5) 脳機能を指標とした非言語的コミュニケーション支援

4. 指導方針・目標

基礎的研究と応用研究の両方の視点から研究とその指導を行う。多面的なアプローチを行っているため、広範囲な分野との共同研究が行われている。真に役に立つ生活支援の標準化・体系化を目指している。

5. 問い合わせ・連絡先

堀川 教授：ethori@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2141（内線 2141）

部屋番号 1208

研 究 室：TEL直通 0952-34-2141

地域包括医療教育部門 健康行動学分野

1. 研究・教育スタッフ

山津 幸司（准教授）

2. 研究テーマ

健康行動学は、運動、食、喫煙、飲酒、睡眠等の健康行動とヘルスアウトカムとの関係を明らかにする研究、健康行動の変容のための介入研究、健康行動の変容に影響する要因を明らかにする研究に大別される。本研究分野では、人のあらゆる行動を研究対象とし、特定の個人や集団の問題を解決するのに役立つ研究を推進します。行動科学、運動心理学、公衆衛生学、社会疫学等を融合した学際的アプローチを学び、研究に役立てます。医療機関での研究のみならず、地域、職域、学校等のフィールドを対象とし、予防医学だけでなく、疾病の治療を補完する研究も推進します。

*これまでの主な研究テーマ

- (1) 情報通信技術（ICT、IoT等）を活用した遠隔行動変容プログラムに関する研究
- (2) 勤労者を対象としたスマートフォンを用いたライフスタイル変容プログラムに関する研究
- (3) 地域在住高齢者の認知機能低下・フレイル・介護予防のための健康支援プログラムに関する研究
- (4) 2型糖尿病の重症化予防を目指した医療（通院治療）と生活習慣変容の連携に関する研究
- (5) 運動行動と座位行動の社会疫学研究および介入研究
- (6) 健康行動、体力と認知機能（学業成績等）の社会疫学研究

*今後推進したい研究テーマ

- (7) がん予防に貢献する運動行動支援・健康支援に関する研究
- (8) がん治療・再発予防に役立つ運動行動支援・健康支援に関する研究
- (9) 高齢者の受療キャパシティを高める医療と連携した健康支援に関する研究

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 問題行動に即した行動療法の展開の方法
- (2) 対象者の特性に応じたテーラーメイド型行動変容プログラムの開発法
- (3) 行動疫学的研究法一般

4. 指導方針・目標

研究目的に応じて、健康行動とヘルスアウトカムに関する観察疫学研究から、情報通信技術と行動科学的手法を活用した介入研究のそれぞれの利点を考慮し指導を行う。また、既存の枠組みにとらわれず、新分野との共同研究を通じて役に立つ健康支援方法論の標準化・体系化を目指す。

5. 問い合わせ・連絡先

山津准教授：kyamatsu@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-28-8302（内線 8302）

部屋番号 教育学部5号館3階308（本庄キャンパス）

研究室：TEL直通 0952-28-8302

地域包括医療教育部門 医療教育学分野

1. 研究・教育スタッフ

小田 康友（教授）

2. 研究テーマ

医療従事者の習得すべき基本的能力を知識や技能，態度の視点から特定し，臨床研修プログラム，医療従事者プログラムに効果的に応用する方法を研究し，教育教材開発を行っている。また，医学教育の世界標準化の動きに合わせ，具体的には次のテーマを研究している。

- (1) 新入生への早期付き添い実習の効果の研究
- (2) PBL，TBL学習が臨床実習へ及ぼす影響に関する研究
- (3) シミュレーター学習導入と学生の意欲に関する研究
- (4) PBL，TBL学習，病棟実習における視的教材の効果に関する研究
- (5) PBL学習：ハワイ大学との比較研究
- (6) 地域医療機関との教育機器の共有に関する研究

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力
医療コミュニケーション論
- (2) 技術

4. 指導方針・目標

医療教育の実際を把握するため，現在の医療教育に対する学生の生の評価を収集する。問題立脚型学習法（PBL），TBL（team based learning），診療参加型臨床実習などの新しい教育方法の評価を実践を通して行う。また，さまざまな課題を地域の医療関連機関との共同，協力を基盤として行い，その成果を地域に発信する。

5. 問い合わせ・連絡先

小田教授：oday@cc.saga-u.ac.jp
 TEL直通 0952-34-2247
 地域医療科学教育研究センター
 事務室：TEL直通 0952-34-2180

地域包括医療教育部門 生物統計学・生物情報学分野

1. 研究・教育スタッフ

川口 淳（教授）

2. 研究テーマ

所属する研究室や進路などを決める際に、自分だけの考えで答えを出さずに、いろんな人の意見や情報を参考にしていますか？このように、多くの情報を集めて統合し判断を行うといったプロセスは、既にして、統計学の基本を行っています。統計学はエクセルなどに記録されたデータ（測定値）から判断・評価の手助けとなる数値を算出するための解析方法を発展する学問です。医学領域においても統計学に基づく解析が必要とされており、生物統計学として国際的に研究が盛んな分野の一つとなっています。

本研究室では統計学及び情報学に基づく医学データ解析法の研究を行います。データから客観的な判断材料を導いたり、有用な情報を取り出したりするために、デザイン、集積、解析の過程において、どのような工夫が良いのかを探求します。特に近年は遺伝子データや脳画像データなどのように測定技術の発展によりさまざまな現象が数値化され、これまで目には見えなかった病気の原因や状態を評価できるようになってきました。このようなデータは今後も増える事が見込みがある一方で、情報が豊富すぎるが故に既存の方法では解析する事ができない事もありますので、そのための新しい方法が求められてきます。このような背景のもと、統計学を基盤にして、さらには情報学も組み込んだ新しい解析方法を開発することを研究テーマとして、解析者の立場から新規的、包括的な研究を行い生命情報の解明や生命科学の発展に寄与することを目指します。

3. 習得可能な知識・技術

- ・ 統計学の理論全般、医学領域における統計学的解析法の知識・技術
- ・ 臨床試験におけるデザイン、データ解析法
- ・ 計算機及び解析ソフトウェア（R, SAS, SPSS, JMPなど）を駆使した解析技術、データシミュレーション技術
- ・ 機械学習法などの先進的なデータ解析技術、ビッグデータを解析できる技術、データサイエンス分野での研究
- ・ 脳画像解析法、ニューロインフォマティクス、バイオインフォマティクス、多種データの融合解析

4. 指導方針・目標

実際の臨床研究データに既存の方法を適用して、解析上の問題を提起し効率的な解析方法を見いだしながら、既存の方法を組み合わせ、さらには新規の解析法の開発を行い、有効なデータ解析法を提案する事を目標に指導していきます。統計学は数学的な側面もありますが、それぞれのバックグラウンドに合わせて、その専門知識を必要とせずソフトウェアを駆使した斬新な解析方法を提案できるような指導もします。興味のある方には数理統計学的な研究も指導します。

5. 問い合わせ・連絡先

川口淳教授：akawa@cc.saga-u.ac.jp

地域医療科学教育研究センター

TEL直通 0952-34-2202

地域包括医療教育部門 医用統計物理学分野

1. 研究・教育スタッフ

富永 広貴（准教授）

2. 研究テーマ

生体は非平衡開放系であり、統計物理、数学分野で研究開発されてきた非線形科学の方法論を適用することができる事はよく知られている。我々の研究室は、物理学、統計学、情報科学の手法を駆使し、脈波、心電図、脳波などの複雑な生体時系列データに対しては、非線形非平衡科学の基礎理論を用いた解析手法の開発を行っている。脈波解析の応用として最適な運動強度の指標と言われる無酸素性代謝閾値(AT)の非侵襲的検出法の開発にも取り組んでいる。また、血管、血流などの生体構成物に対しては、弾性体理論、流体力学の基礎理論を適用した研究を行っている。

詳細は、以下、箇条書きにて記す。

- (1) 生体に限らず様々な非線形非平衡現象を捉えるための、大きな揺らぎを捉える大偏差統計や非線形項を射影して有用な情報を取り出す射影演算子法などの理論的な研究
- (2) 理論に基づく統計計算を効率よく行うためのGPGPUなどの並列処理計算法の開発
- (3) 生体時系列の取得と(1), (2)を駆使した解析
- (4) 無酸素性代謝閾値の非侵襲的検出法の開発
- (5) 頸部圧迫と動脈の閉塞に関して、径に沿った一様な圧迫を力学理論で解明

3. 習得可能な知識・技術

非線形科学の基礎的な知識、統計学の基礎的な知識、物理学の基礎的な知識、コンピュータプログラミング、GPGPUなどを使用した並列処理計算手法、医学において見られる非線形時系列データの統計物理的な解析手法、無酸素性代謝閾値に関する運動生理学的知見など自らの興味に応じて取得できる。

4. 指導方針・目標

興味のあるテーマを自ら選んで、自立的に学習、情報収集し研究できる能力を培うことを目標とする。具体的には、データの取得、解析、理論モデル構築、コンピュータシミュレーションによる解析などを行い、それらの解析法の理論的な学習を通して、科学的思考法を学ぶ。

5. 問い合わせ・連絡先

富永准教授：hirotaka@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2193（内線 2193）

部屋番号 1308

研究室：TEL直通 0952-34-2193（内線 2193）

内科学講座 膠原病・リウマチ内科学分野

1. 研究・教育スタッフ

多田 芳史（准教授）ほか

2. 研究テーマ

全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、血管炎などの自己免疫疾患の発症メカニズムおよび病態の解析を主要なテーマとし、患者リンパ球を用いた実験と疾患モデルマウスを用いた実験を行っている。

(1) 自己免疫疾患患者B細胞のToll like receptor (TLR) , RP105分子に関する研究

患者B細胞、形質細胞等におけるTLRファミリーの発現および機能についての解析、および治療への応用を目的とする。SLEやIgG4関連疾患を対象とする。

(2) 血管炎モデルマウスの研究

マウスに肉芽腫を誘導し、自己抗体（抗ミエロペルオキシダーゼ抗体）の作用を検討する。肺病変や腎炎について解析を行う。

(3) 関節リウマチにおける生物製剤治療とリンパ球サブセットの解析

生物製剤治療による患者T細胞サブセットの変化を解析し、作用メカニズムを明らかにする。

(4) 全身性エリテマトーデス患者における大腿骨頭壊死症の予防に関する臨床研究

(5) 成人スチル病に関する臨床研究および、TLRの作用に関する研究

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

基礎および臨床に関連した免疫学の知識、自己免疫疾患の発症機構、小動物の解剖・生理学

(2) 技術

フローサイトメトリーによる解析（細胞表面マーカー解析、細胞内サイトカイン解析、細胞分裂解析、アポトーシス解析、ビーズアッセイ法によるサイトカイン測定など）、細胞培養、ELISA法、マウスの取扱（免疫法、採血、注射、解剖など）、遺伝子解析（PCR, real-time PCRなど）、組織学的解析（各種染色、蛍光抗体法）など

4. 指導方針・目標

基礎的な免疫学を疾患の解析に応用できるように、臨床と基礎とを関連づけながら研究を行っていき、最終的には治療への応用を目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

多田 芳史 : taday@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2350（内線 2350）

研究室 : TEL直通 0952-34-2367（内線 2367）

内科学講座 呼吸器内科学分野

1. 研究・教育スタッフ

荒金 尚子（准教授）ほか

2. 研究テーマ

- 呼吸器悪性腫瘍に対する分子生物学的研究
EGF受容体の変異に代表されるような肺がん・進展にかかわる分子生物学的な機序を解明するとともに、その知識、技術の臨床応用を行い、肺がん治療のテーラーメイド化に資する。
- 気管支喘息の難治化機序についての臨床的解析
Th17を介する炎症系がどのように喘息病態に関与しているのかを検討し、それをコントロールするための方策を探る。
- 慢性閉塞性肺疾患患者予後改善のための臨床的取り組み
佐賀県のコンパクトさを生かし、早期発見と早期治療介入のための地域連携医療モデルを形成する。患者の身体能力、自己管理能力やQuality of lifeの維持・向上を指標とし、その成果を科学的評価し、全国に先駆けた慢性呼吸器疾患管理モデルの確立を目指す。

3. 習得可能な知識・技術

呼吸器病学全般についての基礎的知識および臨床的知識を学ぶことができる。疾患が多彩で多臓器にまたがることが多いという呼吸器内科学の特性を生かし、普遍的な臨床診断学や臨床推論についての技術を修得することが可能である。

医療施設の連携の在り方や構築についての考え方、パスの運用、その効率の評価法、呼吸器リハビリテーションに用いる評価の実施と解釈について、知識・技能を修得することができる。

実験技術としては実験用動物を用いたin vivo実験と培養細胞を用いたin vitroの実験に関する技術を得ることが可能であり、生理的、生化学的、病理学的、分子生物学的なアプローチ法を学ぶことが可能である。

4. 指導方針・目標

自身の興味があるテーマにそって、課題を設定する。それぞれのテーマごとのセミナー・ミーティングに参加し、研究・教育スタッフとの討議を毎週反復し、課題を解決するために必要な短期目標を定め、段階的に思考の形成と課題達成を推進する。

5. 問い合わせ・連絡先

荒金准教授：sueokan@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-342-2356（内線 2356）

研究室：TEL直通 0952-342-2369（内線 2369）

内科学講座 神経内科学分野

1. 研究・教育スタッフ

原 英夫（教授），薬師寺 祐介（講師），江里口 誠（助教），田中 淳（助教），
鈴山 耕平（助教）

2. 研究テーマ

神経難病（パーキンソン病，筋萎縮側索硬化症，多発性硬化症，重症筋無力症など）や認知症（アルツハイマー病，レビー小体型認知症など）および脳血管障害の発症メカニズムや病態の解析を主要なテーマとし，以下の研究を行っている。

- (1) アルツハイマー病の免疫療法（ワクチン開発）と早期診断法の開発
- (2) HTLV-I関連脊髄症の新規バイオマーカーの検索と病因細胞を標的とする治療法の開発
- (3) 傍腫瘍性関連脳炎の臨床および免疫組織学的検討
- (4) 家族性プリオン病の発症修飾遺伝子の解析
- (5) 筋萎縮側索硬化症の在宅ケア
- (6) 脳卒中患者と健康人におけるsmall vessel diseaseの臨床的意義についての検討
- (7) 脳出血における髄液アミロイドベータ蛋白の解析
- (8) 脳微小出血と認知機能の相関

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識

基礎および臨床に関連した神経解剖，神経免疫学，神経生理学の知識

- (2) 技術

神経系細胞培養，遺伝子解析（遺伝子発現，クローニング，PCR，逆転写PCRなど），ELISA法，マウスの実験（免疫法，採血，注射，解剖など），組織学的解析（各種染色，蛍光抗体法）など

4. 指導方針・目標

神経解剖を基礎として，免疫，生理，遺伝子などを学び，エビデンスを基にした臨床研究を行っている。

5. 問い合わせ・連絡先

原 英夫：hihara@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2358（内線 2358）

部屋番号 2449

神経内科事務室 2448

TEL直通 0952-34-2363（内線 2363）

内科学講座 血液・腫瘍内科学分野

1. 研究・教育スタッフ

木村 晋也（教授），小島 研介（准教授），荒金 尚子（准教授），安藤 寿彦（講師），久保田 寧（講師），小宮 一利（助教），中村 朝美（助教）

2. 研究テーマ

- (1) 新規分子標的薬の開発
 - a) 新規ユビキリン1阻害剤の開発（木村）
 - b) 抗がん剤としてのシクロデキストリンの開発（久保田）
 - c) p53を標的とした新規薬剤の開発（小島）
- (2) がん幹細胞およびそのニッチとなる微小環境の解析
 - a) 白血病p53による白血病微小環境の変調（小島）
 - b) 破骨細胞および低酸素環境が白血病幹細胞に及ぼす影響（木村，久保田）
 - c) 新規幹細胞同定マーカーの探索（久保田）
 - d) 腫瘍間質に発現する分子を標的とした非小細胞肺がんの効果予測因子の開発（荒金，小宮）
- (3) 新規遺伝子解析方法の開発（荒金，中村）
 - a) 血漿遊離DNAを用いた肺癌の遺伝子診断（荒金，中村）
 - b) 血液悪性腫瘍の全自動遺伝子解析装置の開発（木村）
- (4) 造血幹細胞移植におけるGVHDの機序解明とその予防・治療方法の開発
 - a) MEK阻害剤を用いた移植後GVHDの選択的抑制と感染・腫瘍免疫の温存法の確立
 - b) 移植後新規GVHDバイオマーカーの探索
- (5) ABL阻害剤の臨床研究（木村，小島）

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力
臨床医学を学ぶために必要な基礎化学の基本的な知識・能力を身につける。具体的には，分子生物学，細胞生物学，生化学などの知識と，分子生物学的研究に必要な能力を学ぶ。
- (2) 技術
DNA・RNA抽出，PCR法，サザンブロット，ライブラリースクリーニング，クローニング，シーケンシング，遺伝子改変技術，フローサイトメトリー，タンパク精製，免疫沈降法，ウエスタンブロット，細胞培養技術，研究用マウス飼育，遺伝子，関連データベースの検索・解析

4. 指導方針・目標

世界に通じる研究者を作る。研究内容は，ハイインパクトな英文一流誌に出す。大学院修了後，希望者は積極的に留学に行かせる。

5. 問い合わせ・連絡先

木村教授：shkimu@cc.saga-u.ac.jp
 TEL直通 0952-34-2353
 部屋番号 臨床研究棟4階 2436
 研究室直通：0952-34-2366

内科学講座 皮膚科学分野

1. 研究・教育スタッフ

成澤 寛（教授），井上 卓也（准教授）ほか

2. 研究テーマ

(1) 皮膚の感覚受容のメカニズムを研究

毛嚢および毛盤におけるメルケル細胞の機能および特性について走査型および透過型電子顕微鏡を用いて研究を行う。

(2) 毛嚢に分布するランゲルハンス細胞の機能解析

毛嚢ランゲルハンス細胞の表面マーカーをフローサイトメトリーを用いて比較検討する。

(3) 皮膚腫瘍の病理組織学的研究

未だ分類や病理発生が明確でない皮膚付属腫瘍，特に皮膚脂腺系腫瘍や外毛根鞘癌の組織診断基準を作成して明瞭な分類を行い，組織発生の研究を行う。また基底細胞癌の病理組織学的研究について取り組む予定である。ポリオスウィルスによる発癌機序が判明したメルケル細胞癌についても研究を行う。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

皮膚の構造と機能，皮膚感覚の機序，皮膚の発生学，アレルギー性皮膚疾患の病態，皮膚病理組織学などの知識

(2) 技術

走査型・透過型電子顕微鏡，免疫組織化学法，細胞培養法，光学顕微鏡の観察法，顕微鏡撮影技術

4. 指導方針・目標

基本的手技の取得のための実技指導をマンツーマンで指導する。定期的にこまめにミーティングを行い研究の進捗状況をチェックする。

5. 問い合わせ・連絡先

成澤 教授：narisawa@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2352（内線 2352）

部屋番号 2440

研 究 室：TEL直通 0952-34-2368（内線 2368）

内科学講座 消化器内科学分野

1. 研究・教育スタッフ

藤本 一眞（教授）ほか

2. 研究テーマ

内科学の中でも消化器疾患を中心に臨床研究を行っている。特に以下のテーマについて重点的に取り組んでいる。

(1) 消化器疾患における内視鏡治療の妥当性の検討

前向き研究やコホート研究を実施することで現在施行されている内視鏡的治療を中心とする治療法の妥当性を検討する。

(2) 消化管粘膜細胞の培養系の確立

培養系で用いられている細胞株は癌由来のものが多く。当研究室では培養細胞を用いて粘膜の再構築を試み、実験に応用している。

(3) 中枢神経系の消化管機能におよぼす影響

中枢神経系の消化管におよぼす影響は消化管の運動や消化管ホルモンの分泌を中心になされてきた。当研究室では中枢神経系の消化管粘膜の増殖能におよぼす影響を明らかにしている。

(4) 消化器と生活習慣病との関連の検討

生活習慣病に対する消化管の関与に関する研究を行っている。脂質吸収と生活習慣、脂質摂取と大腸発癌等が中心的テーマである。

3. 習得可能な知識・技術

消化器病学の基礎的知識および臨床的知識、計画とデータの処理、科学論文の書き方、等を学ぶことが可能である。臨床データのまとめ方を学ぶとともに、実験技術としては、生理的、生化学的、病理学的、分子生物学的なアプローチ法を学ぶことが可能である。

4. 指導方針・目標

3～4年間の間にふたつのテーマに取り組んでもらう。最初のテーマは担当教員の考えた予め結果の予想可能なものであり、実験結果をまとめて科学論文にする段階で知識をより確実なものにする。結果は国内外の学会で積極的に発表させる。ふたつ目のテーマは最初のテーマで得た知識や技術を応用して、なるべく自分でテーマを考え実行する。ふたつの論文を完成させることで科学者としての基礎的な知識と科学論文を書くための基本的な知識を習得する。

5. 問い合わせ・連絡先

藤本教授：fujimotk@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2351（内線 2351）

部屋番号 2438

研究室：TEL直通 0952-34-2361（内線 2361）

内 科 学 講 座 肝 臓 ・ 糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科 分 野

1. 研究・教育スタッフ

安西 慶三（教授），江口 有一郎（肝疾患医療支援学講座教授），
尾崎 岩太（保健管理センター准教授） ほか

2. 研究テーマ

糖尿病，内分泌，肝臓疾患の各分野および其々の疾患を合併している非アルコール性脂肪性肝疾患/非アルコール性脂肪肝炎(NAFLD/NASH)の研究を中心に臨床および基礎研究を行っている。特に糖尿病および肝疾患については「地域ICT(information and communication technology)を利活用した広域連携事業」を佐賀県全体で展開し，疫学および介入研究に取り組んでいる。

- (1) ヒューマンネットワーク・IT（技術情報）を活用した糖尿病の進展抑制に関する臨床研究
- (2) ヒューマンネットワーク・IT（技術情報）を活用した肝疾患の進展抑制に関する臨床研究
- (3) 糖尿病と感染症，特に高血糖と白血球機能の関連に関する臨床および基礎研究
- (4) 肝疾患患者における食後高血糖と動脈硬化の臨床研究
- (5) NASH発癌モデルとしてSTAMマウスを使用したNASHの発症機序，インクレチン製剤の肝線維化・発癌抑制効果およびNASHと性ホルモンの影響についての基礎研究
- (6) 細胞外マトリックスの硬度変化とIFNシグナルの関連性についての基礎研究

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識

糖尿病・内分泌・肝疾患の基礎的知識および臨床的知識を学ぶ。臨床的には疫学研究および介入試験を行うため地域医療システム，地域医療情報システム，統計学に関する知識を修得する。また培養細胞およびマウスを用いた実験に関する分子生物学的，病理学的なアプローチ法を学ぶ。

(2) 技術

地域連携構築の企画と実施，地域医療情報データベース設計技術，統計解析技術，ネットワーク管理技術，細胞培養，遺伝子解析（PCR, real-time PCR, マイクロアレイ），組織学的解析（各種染色，レーザーマイクロダイゼクションなど），ELISA法，マウスの実験（採血，注射，解剖など）

4. 指導方針・目標

糖尿病・内分泌・肝疾患を代謝ネットワークの視点から学び，教育スタッフと臨床応用可能なテーマを中心に決定し3年間で実験結果をまとめ論文および国内外の学会で積極的に報告する。研究に当たっては大学内外との共同研究を推進している。

5. 問い合わせ・連絡先

安 西 教 授：akeizo@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2357（内線 2357）

部屋番号 2443

研 究 室：TEL直通 0952-34-2362（内線 2362）

内科学講座 循環器内科学分野

1. 研究・教育スタッフ

野出 孝一（教授），挽地 裕（准教授），小松 愛子（講師）

2. 研究テーマ

- (1) プラーク不安定化，再狭窄の分子機構の解明
- (2) 動脈硬化症の発症，進展の新たな予測マーカーの開発
- (3) 危険因子に対する早期介入と新たな動脈硬化治療薬の開発
- (4) 心筋リモデリングの分子機構解明とそのマーカーの開発
- (5) 生活習慣病の観点からとらえた不整脈
- (6) 脳梗塞の発症予測マーカーの開発
- (7) 多施設臨床共同研究の推進
- (8) 血管内皮細胞障害の分子機構
- (9) 血管内皮細胞新生・再生の分子機構
- (10) 心血管病モデルを用いた循環器疾患治療薬の作用機序の解明
- (11) 体内時計分子メカニズムの分子細胞生物学的研究

3. 習得可能な知識・技術

- (1) ELISA, EIA, EPLCなどにより血中マーカーの測定
- (2) フローサイトメトリーによる細胞膜表面抗原，細胞内サイトカインの検出
- (3) 細胞培養
- (4) 各種遺伝子操作（PCR，ダイレクトシーケンス，レポーター遺伝子アッセイ，etc）および分子生物学的手法一般
- (5) 冠動脈造影，血管内超音波法定量解析評価法
- (6) 血管内皮機能評価（血流依存性血管拡張反応：FMD）
- (7) 蛋白精製，電気泳動法等の蛋白学
- (8) 免疫組織染色，蛍光抗体法
- (9) 遺伝子組み換え技術を含む遺伝子工学
- (10) 病態モデル動物の作成
- (11) 分子生物学の基礎的知識・技術全般
- (12) 細胞生物学の基礎的知識・技術全般
- (13) 生化学の基礎的知識・基礎的技術
- (14) 動物操作の基礎的知識・基礎的技術
- (15) 体内時計研究全般の知識・技術

4. 指導方針・目標

- (1) 実際の臨床の現場を見ながら，そこで要求されていることを知り，どんなことを解明していく必要があるのかを臨床医とともに考えて研究をすすめていく
- (2) 教員，院生，実験助手の枠をこえ，互いにアイデアを出し合い，研究プロジェクトを立てていく
- (3) テーマ設定・研究計画・実験計画のサポート
- (4) 基礎医学・生物学者養成のサポート
- (5) 研究成果の臨床応用へ向けた企業等との共同研究の展開
- (6) 実験技術の確実な習得
- (7) 特許につながる研究をめざす
- (8) 将来研究を必ず臨床の現場に還元させる
- (9) 研究成果の国内・国際学会での発表
- (10) 研究成果の英文国際誌への発表

5. 問い合わせ・連絡先

野出教授：node@cc.saga-u.ac.jp
 TEL直通 0952-34-2364（内線 2364）
 部屋番号 2455
 研究室：TEL直通 0952-34-2364（内線 2364）

内 科 学 講 座 腎 臓 内 科 学 分 野

1. 研究・教育スタッフ

池田 裕次（准教授），宮園 素明（講師），福田 誠（助教）

2. 研究テーマ

(1) リン代謝障害による慢性腎臓病進行機序の研究

慢性腎臓病の進行抑制にFGF23/KlothoシステムによるビタミンD代謝調節機構が関わる役割を、動物実験モデルにて検証を行う。

(2) 急性腎不全モデルにおける水素ガスの有用性の検討

水素分子は活性酸素種の中で最も反応性の高いヒドロキシラジカルを選択的に還元し、細胞を酸化ストレスから防御することから、虚血における臓器障害からの保護効果が期待される。虚血再灌流による急性腎不全ラットモデルに対して水素ガスを投与することにより腎保護効果ならびに機序の解明についての検討を行う。

(3) 急性腎不全における近位尿細管Klothoの役割 共同研究

虚血再灌流による急性腎不全モデルにおいて近位尿細管レベルにおけるKlothoの役割を近位尿細管Klothoノックアウトマウスを用い検討を行う。

(4) 慢性腎臓病進展抑制のための、制限ではないインセンティブのある食事生活指導の追及

慢性腎臓病進展抑制のために、従来の制限という概念を脱却し、新たな豊かさを感じる実行可能な食事生活指導を他施設とも連携して構築し、その有用性の前向きな検証を行う。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識

基礎および臨床に関連した腎臓解剖、腎臓生理学の知識。

(2) 技術

実験用動物を用いたin vivoの実験と培養細胞を用いたin vitroにおける実験技術の習得。病態モデルの作成、顕微鏡操作観察撮影技術（光学顕微鏡，蛍光顕微鏡），培養技術（初代培養，継代培養，三次元細胞培養），組織あるいは培養細胞からのRNA抽出ならびにcDNA合成，リアルタイムPCRの基礎原理からデータ解析。

臨床研究とデータ解析の手法。

4. 指導方針・目標

腎臓病学全般における基礎ならびに臨床的知識を学習し，さらに研究ならびに実践の場での応用が可能な技術の習得を目指す。また，自身の疑問あるいは興味あるテーマを設定し，推論から解決に向けたアプローチを行い，実験計画の作成，実験データ処理，医学論文の書き方を習得する。定期的にリサーチミーティングを行い，研究結果の進捗状況を把握する。

5. 問い合わせ・連絡先

池田准教授：ikedayuu@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2370（内線 2370）

研 究 室：TEL直通 0952-34-2370（内線 2370）

一般・消化器外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

能城 浩和（教授）ほか

2. 研究テーマ

癌を主要研究テーマとして、癌の予後因子の解析から、増殖、浸潤、転移などの進展機構を分子生物学的に明らかにしつつ、特定分子を標的とした新たな治療の開発および制癌剤の耐性機構の分子生物学的解析から合理的な化学療法確立をめざしている。サブテーマとして、三次元画像解析による手術シミュレーション構築や鏡視下手術など低侵襲治療の生体反応に対する影響なども行っている。

(1) 抗癌剤感受性マーカーのジェネテック・エピジェネテック解析を基盤とした抗癌剤個別化治療
抗癌剤への感受性は、患者間で異なっている。教室では、癌細胞のDNA修復・細胞周期制御遺伝子がDNAメチル化により発現を喪失し抗癌剤感受性を増強させること、さらに抗癌剤の細胞内代謝に関わる酵素群の発現量が抗癌剤効果と強い関連があることを明らかにしている。これらの基礎データをもとに患者個々に有効な抗癌剤を選択する個別化抗癌剤治療の実現を目指す。

(2) 癌の微小環境と分子標的治療

固形癌の特徴である腫瘍内低酸素による癌の形質変化（悪性度の増強、抗癌剤耐性獲得）を解析し、関連遺伝子の検索と制御機構を研究することにより分子標的治療薬開発の可能性を探る。

(3) 抗癌剤増強効果をもたらす新薬の開発

(4) 肝臓三次元画像ソフトによる手術シミュレーションの構築

(5) 生体侵襲反応における低侵襲手術の評価

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

腫瘍学、癌の分子生物学、解剖学、病理学、外科学の知識、医学研究へのモチベーション、特性解析から仮説立案、モデル構築、結果からの考察という一連の研究を遂行する能力、医療の限界とbreak-through pointを見極める能力

(2) 技術

二次元、三次元細胞培養、初代培養、株細胞樹立、顕微鏡操作撮影技術（光学、位相差、蛍光、電子）、免疫組織染色、RI解析、in situ hybridization、マイクロダイセクション、ヌードマウス移植、DNA、RNA解析、アレイ解析、遺伝子導入技術、薬剤感受性試験、小動物実験、三次元画像解析

4. 指導方針・目標

教員は医学博士を原則としている。ほとんどが分子生物学的解析研究経験者であるため、臨床に則したtranslational researchをめざしている。研究室長のもと、通常2～4名程度の臨床大学院生と研究生が研究活動に専念している。従って、多年次の複数の専門を異にする指導が得られ、アットホームな研究環境がある。

5. 問い合わせ・連絡先

能城教授：noshiro@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2331（内線 2331）

部屋番号 307

研究室：TEL直通 0952-34-2349（内線 2349）

泌尿器科学講座

1. 研究・教育スタッフ

野口 満（教授），東武 昇平（講師），有働 和馬（講師），南里 麻己（助教），
柿木 寛明（助教）

2. 研究テーマ

疾患の病態解明および治療への貢献をテーマに基礎研究，臨床研究を行っている。

- (1) 脂肪細胞と各種尿路生殖器細胞との相関についての研究：メタボリック症候群を含め，脂肪細胞が正常尿路細胞および癌細胞の増殖に与える影響に関する研究
- (2) 筋層非浸潤性膀胱腫瘍の再発と排尿障害の関連解析（臨床研究）
- (3) 腎虚血再灌流での組織障害・リモデリング抑制の研究
- (4) 排尿機能に関する研究：GAP Junctionを介した膀胱内シグナル伝達の解析および低収縮膀胱に対するコリン作動薬の研究
- (5) 排尿障害とうつ病との関連研究（疫学研究および臨床研究）
- (6) 小児における尿流動態の解析
- (7) 性ホルモンと骨盤臓器脱との関連解析

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力：細胞生物学，泌尿生殖器臓器の解剖・機能，分子遺伝子学
- (2) 技術：腎酵素化学的分析法，細胞培養技術，細胞再構築技術，病理学的手技，蛋白，遺伝子レベルでの解析など

4. 指導方針・目標

自分の疑問に対して，解決に向けたアプローチ，問題点を列挙し整理していく論理的な思考ができる研究者を育てる。研究の成果実績主義に陥ることなく，自然科学事象に対して真摯な態度で臨み，真実にたどり着くことができる研究者を育成する。

5. 問い合わせ・連絡先

野口教授：nogman@cc.saga-u.ac.jp
TEL直通 0952-34-2327
部屋番号 2344
研究室：TEL直通 0952-34-2344

脳神経外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

阿部 竜也（教授），増岡 淳（准教授）ほか

2. 研究テーマ

- (1) 微小外科解剖に基づく手術アプローチの開発
解剖が大変複雑な脳の手術を行うため，研究室で手術用顕微鏡下に死体標本を用いて研究する。
- (2) 脳腫瘍における遺伝子発現解析と治療法の開発
グリオーマ培養細胞および臨床サンプルの遺伝子解析を行う。
Methylation-specific PCRなどによる脳腫瘍関連遺伝子の転写制御機構の解明を行う。
脳腫瘍幹細胞をターゲットとした新規治療法の開発を行う。
- (3) 脳腫瘍，脳血管障害，小児脳神経外科疾患における画像診断と治療法の検討
頭部MRIおよびCT-angiogramを用いて，神経機能の局在診断や錐体路，視覚路などの同定や静脈解剖を解析する。3次元モデルを用いて手術法について検討する。
- (4) 脳血管障害の研究
脳血管障害に関与する遺伝子の発現を検討し，治療法について検討する。

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力
脳の構造および働きに関する知識と，中枢神経系疾患に関する理解，最先端の解析法
- (2) 技術
手術用顕微鏡の操作とそれを用いた直径1mmの血管吻合などのマイクロサージャリーのテクニック，組織培養，マウス・ラットを用いた実験，パラフィン切片の作製，電顕資料の作成と観察，免疫組織化学，分子生物学的実験

4. 指導方針・目標

各人が希望するテーマを優先させて，研究・教育をおこなう。神経解剖，組織培養，動物実験，免疫組織化学・電顕，分子生物学的実験，画像診断・解析などの中から，自由に選択して研究できる。

5. 問い合わせ・連絡先

阿部教授：abet@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2330

部屋番号 2348

研究室：TEL直通 0952-34-2346（内線 2346）

胸部・心臓血管外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

西田 誉浩（教授）ほか

2. 研究テーマ

(1) 医工連携による再生医療の研究

心臓・血管・気管・心臓弁などの臓器に対し、新しい細胞工学技術を駆使して再生する、いわゆる再生医療への貢献を目指しています。現在、ヒト細胞のみにて構築される小口径人工血管の臨床応用をめざした研究が展開中です。

(2) 人工心肺装置・補助循環装置・人工心臓の研究

人工心肺装置は心臓大血管手術において、心臓と肺の働きを代行します。また心臓移植への橋渡しとしての補助人工心臓の使用経験をもとに人工心臓の管理法や新しい人工心臓の開発につながる研究をおこなっています。

(3) 脊髄麻痺防止のための研究

当院では、脊髄を栄養する動脈を術前にCTで同定する独自の方法を開発しており、その同定率はほぼ100%です。このような方法を駆使して大動脈手術に合併する脊髄麻痺の予防のための研究を積極的に行っています。

(4) 低侵襲手術の研究

胸腔鏡を用いた肺外科手術（VATS：Video Assisted Thoracic Surgery）や経カテーテル的大動脈弁挿入術（TAVI：Trans-cathetic aortic valve implantation）を行っています。

(5) 重症心不全に対する治療法に関する研究

心臓移植や人工心臓に引き続く次世代の治療法として期待されている、再生医療による重症心不全治療の開発に取り組みます。

(6) 気管再建に関する研究

気管ステントに関する知見を応用発展し、新たな気管再建法の開発に取り組んでいます。

(7) 心臓内視鏡による正常弁動態生理、弁形成術式、自己弁温存大動脈基部置換術式の研究

手術中に心臓弁を内視鏡で観察し機能評価を行う方法を開発しており、臨床で弁形成術に応用しています。

(8) 心臓の虚血再灌流障害を軽減するための研究

開心術において、避けられない心臓の虚血再灌流障害を軽減するための基礎および臨床研究を行っています。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力：心臓の解剖生理、循環動態生理、心筋虚血再灌流障害と炎症反応のメカニズム、生体医用工学、呼吸病態生理

(2) 技術：動物実験手術手技、麻酔法、無菌手術操作、人工心肺装置操作法、心機能測定法、臓器灌流法、走査電子顕微鏡

4. 指導方針・目標

臨床応用を常に念頭におき、かつ研究者本人の自主性を尊重した指導を行います。

5. 問い合わせ・連絡先

西田 誉浩：cvsl@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2345

整形外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

馬渡 正明（教授），園畑 素樹（准教授），北島 将（講師），
井手 衆哉（人工関節学講座准教授），森本 忠嗣（講師），河野 俊介（助教），長嶺 里美（助教），
田島 智徳（助教），前田 和政（助教），松村 陽介（助教），泉 政寛（助教）

2. 研究テーマ

「思いやりのある効率的で質の高い医療を理念とし、そのための教育と研究を行う」という理念のもと、関節外科分野の基礎研究を行っている。臨床応用を前提とした基礎研究に重きを置いている。

- (1) 抗菌作用を有した人工関節材料の開発。人工関節へのbone-in-growthを促進するハイドロキシアパタイトに銀を溶射する技術を開発し、新しい人工関節素材を開発した。この新しい素材の抗菌性、生体安全性などをin vitro, in vivoの両面から検証し、一部では実用化が得られた。さらに多くの応用を目指して、研究を続けている。
- (2) 3次元動作解析。これまでの関節外科における術前後の評価は、診察による機能評価、患者立脚型QOL調査が主に行われてきた。3次元動作解析装置（Vicon®）を使用し、より精密な病態ならびに術後回復過程の評価方法の確立を目指している。
- (3) 新しい人工関節の開発。人工関節のインプラントデザインは欧米の生活様式に合わせたものであり、和式生活には必ずしも適応していない。特に、人工膝関節では正座が困難であることが問題となる。深屈曲可能な人工膝関節の開発を、FEM（有限要素法）、CAD（computer aided design）解析などによりシミュレーションを行っている。さらに、プロトタイプのインプラントを作成して新鮮死体標本をもちいて実験を行い、実用化を目指している。
- (4) 臨床研究。運動器疾患における慢性疼痛・周術期疼痛に関する臨床的研究。人工股関節のインプラント設置位置と可動域の関連についての研究。人工膝関節、人工股関節手術における手術支援装置の開発。

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 小動物を用いた基礎実験の基本手技
- (2) 運動器疾患に対する多面的評価方法の習得
- (3) バイオメカニクスの理解と基礎・臨床実験手技
- (4) 基礎・臨床研究のデザイン能力

4. 指導方針・目標

良い臨床家となるための見識を身に着けるために研究指導を行います。必要に応じて、他学部、他大学、企業とも連携して研究遂行をバックアップします。

5. 問い合わせ・連絡先

馬 渡 教 授 : mawatam@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2326

部 屋 番 号 2337

TEL直通 0952-34-2343 (整形外科教室)

形成外科

1. 研究・教育スタッフ

上村 哲司（診療教授），楊井 哲（助教），渡邊 英孝（助教）

2. 研究テーマ

(1) 創傷治癒および足病変の血流と血管解剖

足部の創傷治療において血流の評価とそれに基づいた治療方針の決定は必須である。従来の画像検査では評価不能な足部の微小血管解剖を研究することにより創傷治癒における血流の新たな評価法を確立する。

(2) マイクロサージャリートレーニングシステムの開発

形成外科の代表的手技であるマイクロスージャリーはこれまで個人の力量によって手技のバラつきが見られたが、マイクロスージャリートレーニングにおける画一的かつ段階的な教育システムを確立し優れたマイクロスージャンを養成する。

(3) 下肢救済医学の確立

下肢の高位切断は患者のADLを大きく低下させる。それを回避するのが「下肢救済医学」であるが、合併症も多く画一的な治療では対応が難しい。豊富な臨床症例を生かしたさまざまな臨床研究を通じて下肢救済の治療アルゴリズムを確立する。

(4) 新たな糖尿病足病変の診断，治療，予防学の確立

現在アジアで急増する糖尿病の合併症である糖尿病足病変に対して，複数の診療科，学部が連携した「糖尿病足病変予防戦略研究所」を設立し中心的役割を果たしている。研究所を通じて糖尿病足病変に対してさまざまなアプローチから臨床研究を行うことで，予防医学的観点からの糖尿病足病変治療の展開を目指している。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識

臨床に関連した足部を含めた微小血管解剖，創傷治癒学に関する基礎知識，臨床研究計画とデータの処理，学会発表，科学論文作成について学ぶことが可能である。

(2) 技術

慢性創傷の評価診察方法の習得，手術顕微鏡の操作とマイクロスージャリーの手技の習得

4. 指導方針・目標

臨床の足病変（潰瘍，壊疽）の創傷治癒学を課題にして，その基礎研究を行い臨床に反映する。創傷のスペシャリストとして基礎・臨床研究を遂行する広い見識と応用力を習得させる。

5. 問い合わせ・連絡先

上村 哲司： uemurat@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 0952-34-2460

医局部屋番号 2330

リハビリテーション科

1. 研究・教育スタッフ

浅見 豊子（診療教授）ほか

2. 研究テーマ

身心機能の低下に対するリハビリテーション医療を行う上で必要な診断あるいは障害評価の方法，治療などの確立・開発のために，身心機能の分析や解析，機械工学技術などの手法を用いたリハビリテーション医学の研究を行っている。メインテーマとしては以下のものがある。

- (1) 義肢・装具をはじめとした補装具の研究や開発
- (2) リハビリテーションに関わる評価およびシステムの研究や開発
- (3) ロボットリハビリテーションに関する工学部など他分野との共同研究および臨床応用

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力

各疾患の基礎医学・リハビリテーション医学および関連分野の知識とリハビリテーション医学研究に必要な能力

- (2) 技術

リハビリテーション医学的診察法や障害評価法，理学療法技術，作業療法技術，言語聴覚療法技術，義肢装具等療法技術

4. 指導方針・目標

将来的にリハビリテーション医学の臨床研究を遂行・発展させるための基盤を身につけることを目標としている。指導においては，リハビリテーション医療で重要なチームアプローチの一環として，医師のみならずリハビリテーションに関わる他職種による指導も取り入れている。

5. 問い合わせ・連絡先

浅見診療教授：asamit@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-3630（内線 3630）

部 屋 リハビリテーション科

診 察 室：TEL直通 0952-34-3285（内線 3285）

放射線医学講座

1. 研究・教育スタッフ

入江 裕之（教授），水口 昌伸（准教授）ほか

2. 研究テーマ

疾患の画像診断，インターベンショナル・ラジオロジー（画像ガイド下治療），放射線治療等の臨床的研究を行うとともに，装置，器具，薬剤，検査法，画像処理法および診断法，治療法について，医用工学，画像工学，情報工学的見地から研究を行っている。

- (1) X線写真・CT・MRI・超音波・シンチグラム・PET-CTによる腫瘍の質的診断とステージング
- (2) X線写真・CT・MRI・超音波・シンチグラムによる炎症性疾患の質的診断
- (3) CT・MRI・超音波・シンチグラムによる血流，臓器虚血，臓器機能の診断
- (4) CT・MRI・超音波・シンチグラムによる血管，骨軟部，臓器微小病変の立体的診断
- (5) 画像診断の集団検診への応用
- (6) 脳動脈瘤，喀血，肝臓癌，子宮筋腫等に対する動脈塞栓療法，動注化学療法
- (7) 経皮的血行再建術，特に大動脈瘤のステント・グラフト治療
- (8) 頭頸部腫瘍，その他に対する立体放射線照射療法を含む集学的治療
- (9) 婦人科癌，その他に対する小線源放射線療法を含む集学的治療
- (10) 医用電子画像情報の臨床応用，保管・転送，その他の活用法

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力
 - ・一般解剖学，画像解剖学，機能解剖学に関する知識
 - ・造影剤，放射性医薬品の代謝経路，臨床応用法に関する知識
 - ・画像診断機器の原理，医用工学的知識，情報工学的知識
 - ・放射線の発生，物質・生体との相互作用に関する知識
- (2) 技術
 - ・画像診断機器操作，画像処理，画像診断
 - ・放射線治療機器操作，線量計算，放射線治療計画

4. 指導方針・目標

- ・スモール・グループ，あるいは一対一による指導
- ・研究心を持った臨床家，臨床に即した研究者の養成

5. 問い合わせ・連絡先

入江教授：irie@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2305

部屋番号 2138

研究室：TEL直通 0952-34-2309

F A X 0952-34-2016

精神医学講座

1. 研究・教育スタッフ

門司 晃（教授），溝口 義人（准教授），立石 洋（助教）

2. 研究テーマ

- (1) 伊万里市黒川町における高齢者の精神的健康に関する長期疫学研究
抑うつ・不安などの精神機能および認知機能の生物学的指標（バイオマーカー）としての唾液中ノルアドレナリン代謝産物およびコルチゾール濃度，その他，血清BDNF，proBDNF，オキシトシン，炎症性サイトカインなどの妥当性の検討
- (2) 精神科で用いる薬剤（抗うつ薬，認知症治療薬など）の作用機序解明（培養ミクログリア細胞を用いたin vitro系の実験）
- (3) 経頭蓋磁気刺激法（rTMS）による難治性うつ病の治療についての臨床研究
- (4) 知的障害者の自閉症傾向とオキシトシンを始めとするバイオマーカーとの関連についての研究

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力
情動に関与する神経解剖学，神経化学，精神薬理学，各種心理テスト施行能力
- (2) 技術
ELISA法による各種バイオマーカーの定量，ミクログリア細胞の培養技術及び細胞内カルシウムイオン濃度測定，フローサイトメトリーによる定量，高速液体クロマトグラフィー及びガスクロマト質量分析計による低分子化合物の定量分析

4. 指導方針・目標

将来的に行動科学分野の研究を遂行・発展させるのに必要な，知識と技能基盤を身につけることを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

門 司 教 授：amonji@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2300

部屋番号 2134

研 究 室：TEL直通 0952-34-2304

産科婦人科学講座

1. 研究・教育スタッフ

横山 正俊（教授），中尾 佳史（准教授）

2. 研究テーマ

婦人科癌，中でも子宮頸癌の発癌から治療に至る一連の研究を行っている。

- (1) ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）による発癌過程における分子生物学的変化の検索
- (2) 発癌過程における癌抑制遺伝子，喫煙の関与の解明
- (3) 緑茶カテキン（EGCG）による子宮頸癌治療の可能性の検討
- (4) 子宮頸部異形成患者からのHPV検出と型の同定およびその追跡調査による癌化のリスク因子の解明
- (5) 若年子宮頸癌患者とHPVおよびリスク因子の検討
- (6) 子宮頸部胃型腺癌の臨床病理学的検討
- (7) 子宮頸がん検診におけるHPV検査の意義

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力

婦人科腫瘍関係では，子宮頸癌の発癌機構の理解，婦人科腫瘍の細胞診所見および病理組織像の理解

- (2) 技術

婦人科腫瘍関係では，婦人科細胞診断技術の習得，コルポスコピー診断の習得，組織培養技術の習得，分子生物学的手法の習得

4. 指導方針・目標

各専門分野の担当教員による指導から基本的知識・技術を修得し，自らの発想をもとにした研究へ発展させる基礎を培うとともに，女性を対象としたデータ収集を通じてインフォームドコンセントに基づいた臨床研究の進め方を体験することを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

佐賀大学医学部産科婦人科学講座：TEL 0952-34-2319

FAX 0952-34-2057

小児科学講座

1. 研究・教育スタッフ

松尾 宗明（教授）ほか

2. 研究テーマ

小児科学講座は小児の幅広い疾患の病態に対応するためにいくつかの研究グループにわかれて診療および研究活動をしている。その中で代表的なものを紹介する。

- (1) 神経筋疾患グループは痙攣性疾患，神経筋疾患，発達障害などの病態を明らかにし，治療法を開発することを研究テーマとし，疾患特異的iPS細胞を用いたもやもや病の研究，熱性痙攣の病態解析，代謝性神経疾患の病態解析と治療法の開発，神経線維腫症の中樞神経合併症に関する研究，中枢神経感染症における脂質メディエーターの役割の解析等の研究を行っている。
- (2) 循環器グループでは川崎病を研究のメインテーマにおいて日々の研究を行っている。具体的には，
1) 川崎病急性期の特異的炎症マーカーの同定，2) 川崎病とYersinia Pseudotuberculosis感染との関連の検討などの研究を行っている。また，学校検診にかかわっていることもあり，小児成人病についての疫学研究も行っている。
- (3) 腎グループは，分子遺伝学講座との共同研究で先天性疾患のエピジェネティックな解析研究，抗FactorH抗体を有する疾患の解析，正常小児の排尿機能に関する研究などを行っている。
- (4) 血液・腫瘍グループは乳児白血病の病態解析とその治療法の確立，臍帯血幹細胞の体外増殖法の確立と応用，自己免疫疾患におけるT細胞機能解析などを研究テーマとし，骨髓末梢血の形態診断法，flow cytometryをもちいた細胞解析法，遺伝子解析法を駆使した小児の血液，腫瘍性疾患の形態，マーカー，遺伝子解析を含む診断，および血液学研究の基礎技術を習得することを目標としている。
- (5) 消化器・肝・代謝グループは，ピロリ菌感染と各種病態との関連，腸内細菌叢の変化などに関する研究を行っている。

3. 習得可能な知識・技術

臨床研究を行っていくうえで必要な基礎医学の知識，細胞・分子生物学的手法，疫学研究・統計手法。

4. 指導方針・目標

自身の興味があるテーマにそって，課題を設定する。それぞれのテーマごとのセミナー・ミーティングに参加し，研究・教育スタッフとの討議を毎週反復し，課題を解決するために必要な短期目標を定め，段階的に思考の形成と課題達成を推進する。

5. 問い合わせ・連絡先

松尾教授：matsuo@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2311（内線 2311）

部屋番号 2231

研究室：TEL直通 0952-34-2314（内線 2314）

眼 科 学 講 座

1. 研究・教育スタッフ

江内田 寛（教授），中尾 功（講師），石川 慎一郎（講師）ほか

2. 研究テーマ

トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）を念頭にした日々または将来の臨床につながる研究開発（シーズ開発）の実践を目標に，共同研究を基盤に研究を遂行・指導する。

(1) 眼科診断機器（眼底酸素飽和度測定装置）の開発

新しい眼底（網膜）の機能解析のための医療機器を拠点AROの支援のもと，工学系学部および企業との共同研究により創生する。開発された機器については医学部附属病院にて臨床試験を実施し，ライセンスアウトを含めた実用化を目指す。

(2) 眼科手術器機の開発

眼科手術に用いる器機やデバイス開発を企業との共同研究により行い，臨床試験を通してその評価・改良を行い，最終的な実用化を目指す。

(3) 眼科手術用補助剤の新たな可能性の探究

自主開発し現在医師主導治験を実施している薬剤に関し，基礎教室との共同研究等を通し神経保護の可能性など新たな薬理作用を含む可能性を検証する。

(4) 病理学教室との共同研究

角膜の新規培養モデルの構築など

(5) AIを用いた新たな眼科診断システムの構築

メディカル・イノベーション研究所ならびに企業と共同で，深層学習を基盤にした新たな眼科領域の診断システムを創生する。

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

- ・臨床試験の実施のための知識と能力，トランスレーショナルリサーチの実践によるシーズ開発のしくみと理解
- ・倫理委員会申請を含む臨床研究の方法の習得
- ・知財構築と論文作成方法
- ・基礎教室との共同研究による眼組織学，生化学，分子生物学的研究に必要な基礎的能力

(2) 技術

- ・非臨床試験，特に安全性試験を念頭にした免疫組織化学法，培養細胞における細胞障害性試験，分子生物学的手法
- ・臨床研究および臨床試験に必要なレギュレトリーサイエンスの概念を含み開発研究実施全般についての技術を習得する

4. 指導方針・目標

臨床医としての経験と発想を重視し，眼科領域における様々な開発研究を通し，トランスレーショナルリサーチの実践を行うことで問題解決実現をはかる。

5. 問い合わせ・連絡先

江内田教授：enaida@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2380（内線 2380）

部屋番号 2509

眼科医局：TEL直通 0952-34-2384（内線 2384）

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

倉富 勇一郎（教授），島津 倫太郎（准教授），鈴木 久美子（助教），門司 幹男（助教），
山内 盛泰（助教），斎藤 真貴子（助教），嶋崎 絵里子（助教）

2. 研究テーマ

〈基礎的研究〉

(1) 頭頸部癌の浸潤・転移に関する研究

基底膜タンパクであるラミニンの頭頸部癌組織における発現と癌の浸潤・転移との関連についての
免疫組織化学的，生化学的研究

(2) 胃酸逆流による耳鼻咽喉科疾患の病態解明に関する研究

手術的に作成した胃酸逆流動物（ラット）モデルを用いて，耳鼻咽喉領域に生じる様々な病態を解
明する研究

(3) 頭頸部癌に対する腫瘍溶解性ウイルス療法導入のための研究

頭頸部癌治療に免疫療法を導入することを目指し，腫瘍溶解性ウイルス治療の有効性を検討する

〈臨床的研究〉

(1) 頭頸部悪性腫瘍に対する集学的治療

Chemoradiation, IVR（Interventional Radiology）治療導入による臓器温存治療の臨床解析，頭頸
部外科手術手技の研究，分子標的薬の抗腫瘍効果に関する研究

(2) 嚥下障害患者の動的解析と治療

VF（video fluorography），VE（video endoscopy）による嚥下動態の解析とその外科的治療およ
び嚥下訓練法の研究

(3) 味覚障害に関する研究

頭頸部癌の治療等により生じる味覚障害の評価法の確立と，味覚障害に対する有効な治療法開発を
目指した研究

(4) アレルギー性鼻炎の組織学的研究

アレルギー性鼻炎患者の外科的治療の検討，抗アレルギー剤投与による鼻粘膜の組織学的変化につ
いての研究

(5) 頭頸部癌に対する予後予測バイオマーカーに関する研究

頭頸部癌の治療方針決定の根拠となる新たなバイオマーカーを探索する

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

耳鼻咽喉科に関する解剖学，病理学および一般臨床知識，特に咽喉頭の神経機能解剖学・生理学，
喉頭腫瘍学，組織培養法

(2) 技術

実験動物ならびにヒト摘出標本の取り扱い（切り出し・固定法・包埋・染色法・観察），各種顕微
鏡観察技術，免疫組織化学法，細胞培養法ならびにコラーゲンゲル三次元培養法，基本的分子生物学
の手技

4. 指導方針・目標

当該研究を遂行するのに必要な最低限の基礎的技量を身につけさせる。加えて、臨床講座として将来的に臨床にも役立つ幅の広い見識と応用力を習得させる。基礎的および臨床的研究には各分野の専門の教官が直接の指導にあたり、教授がこれを統括し目標を達成させる。

5. 問い合わせ・連絡先

倉 富 教 授：kuratomy@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2375（内線 2375）

部屋番号 516

耳鼻科医局：TEL直通 0952-34-2379（内線 2379）

歯科口腔外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

山下 佳雄（教授），檀上 敦（准教授），下平 大治（助教），合島 怜央奈（助教）

2. 研究テーマ

顎口腔領域の様々な疾患の診断や治療，機能回復に関する基礎研究ならびに臨床的研究を行っている。

(1) 顎口腔機能分析

顎口腔領域の腫瘍等を切除した患者，顎変形症患者，歯科インプラントを行った患者などの顎口腔機能の評価を様々な測定機器を使用して行い，機能の向上を図る。

(2) 顎顔面補綴治療に関する研究

顎顔面領域に発生する腫瘍や外傷などによって生じる欠損を顎義歯やエプテラゼを使用して治療するが，その治療法の向上に関する研究

(3) ヒト頭蓋骨の3次元計測と形態分析

ヒトの頭蓋骨をレーザースキャナーを用いて3次元計測し，形態学的に分析する。

(4) コンピューターを使った顎矯正手術シミュレーションシステムの開発

顎矯正手術患者の顔面形態と骨形態の変化に関する形態的，力学的，統計学的に分析する。

(5) 歯科口腔外科手術のためのオプティカルトラッキングシステムの開発

ナビゲーション手術を行うための歯科口腔外科用デバイスの開発

(6) 歯ならびに歯周組織の再生に関する基礎研究

歯の象牙質の再生をはじめとする歯や歯周組織に関する幹細胞の同定と培養法の確立

(7) 口腔癌に対する新規治療法の開発に関する研究

大気圧プラズマを用いた新規口腔癌治療法の開発のための基礎研究

3. 習得可能な知識・技術

(1) 知識・能力

歯科学，特に口腔外科に関する知識と診断や治療に関する技術を理解できる能力を養い，研究に応用できるようにする。

(2) 技術

顎顔面写真撮影技術，顎口腔機能検査機器（筋電図，咬合力，咀嚼能率，顎運動），実験用小動物の取扱，実験手術および解剖技術，細胞単離培養技術，顕微鏡観察用標本作成技術（特に非脱灰研磨標本），免疫組織化学法，各種光線顕微鏡（蛍光，位相差，微分干渉，暗視野等）観察技術，顕微鏡写真撮影技術，統計学的処理方法，骨形態の計測法，レーザースキャナーを用いた非接触3次元計測法，ネットワークシステムの構築技術，3次元形態の比較分析法，3次元形態の統計学的分析法，3次元形態シミュレーション技術，コンピューター画像処理，オプティカルトラッキング法など

4. 指導方針・目標

将来的に研究を遂行・発展させるのに必要な基盤を身につけることを目標とする。他大学や企業のエンジニアと共同して行うシステム開発の手法について習得する。

5. 問い合わせ・連絡先

山下教授：yamashy2@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2395（内線 2395）

研究室：TEL直通 0952-34-2397（内線 2397）

麻 酔 ・ 蘇 生 学 講 座

1. 研究・教育スタッフ

坂口 嘉郎（教授），平川 奈緒美（准教授），高松 千洋（准教授），上村 聡子（講師），
笹栗 智子（助教），石川 亜佐子（助教），濱田 献（助教），谷川 義則（助教），
三浦 大輔（助教）

2. 研究テーマ

(1) インターロイキン（IL）-27およびMINCLEが痛みに及ぼす影響

様々な免疫関連物質が痛みに影響を及ぼすことが報告される中，抗炎症作用を持つサイトカインであるインターロイキン（IL）-27に着目し，IL-27と痛みの関係について研究を行っている。これまでの研究からIL-27ノックアウトマウスは生来痛みに敏感であり，神経障害性疼痛モデルにおいては更に痛みを感じやすくなることが明らかになった。現在，分子生命科学講座免疫学分野および生体構造機能学講座神経生理学分野，解剖人類学分野との共同研究を行い，行動生理学，生化学，電気生理学，免疫組織学など多方面からのアプローチにより，そのメカニズム解明を目指している。

(2) 神経障害性疼痛，複合性局所疼痛症候群の発症機序と新しい治療法に関する臨床研究

神経障害性疼痛やその類縁疾患である複合性局所疼痛症候群の発症機序に $\alpha 2$ アドレナリン受容体の関与およびTNF α が関与しているかどうかについてヒトでの臨床研究を行っている。臨床研究倫理審査委員会の承認のもとに患者の治療に $\alpha 2$ アドレナリン受容体作動薬や抗TNF α 抗体製剤を使用し，その有効性について疼痛の評価及び血液中カテコラミンやサイトカインの変化に関して研究を行っている。

(3) 術後痛に関する臨床研究

人工膝関節置換術後の術後鎮痛管理としての持続大腿神経ブロックの効果をはじめとした術後鎮痛管理に関して，主に超音波ガイド下末梢神経ブロックの有用性について研究を行っている。

(4) 周術期の血液凝固機構に関する臨床研究

侵襲の大きい心臓大血管周術期における血液凝固異常の病態についてROTEMを用いて解明する。

(5) 腹臥位鏡視下食道切除術における呼吸管理に関する臨床研究

腹臥位鏡視下食道切除術の呼吸メカニクス変化を解析し，至適な駆動圧およびPEEP値を検討する。

(6) 小児頭低位腹腔鏡麻酔中の気管チューブ管理に関する臨床研究

小児頭低位腹腔鏡麻酔中にはカフなし気管チューブでチューブリークが減少することを明らかにした。カフつきチューブにおける至適なカフ圧管理について検討する。

(7) 修正電撃療法の麻酔管理に関する臨床研究

修正電撃療法中の心臓自律神経活動と循環変動の関連，脳波周波数解析と刺激効果の関係について検討する。

(8) 厚生労働科学研究「慢性の痛み対策事業」の多施設共同研究である「難治性疼痛および慢性痛に対する学際的治療の多面的評価」に関する臨床研究

他施設と協力して疼痛外来を受診した患者に対し従来の臨床診療で用いられている疼痛，健康関連QOL，抑うつ，ADL 他に関する問診について，初診時および初診3ヵ月後の結果を後ろ向きに比較検討し，介入効果を多面的に定量化する。

3. 習得可能な知識・技術

麻酔生理学，疼痛制御機構

神経生理学，行動生理学，電気生理学，免疫組織化学

統計学

4. 指導方針・目標

生理学的，組織学的に周術期の病態，麻酔薬の生理学，疼痛制御機構を研究し，臨床へ応用することができることを目標とする。臨床上の疑問を大切に，仮説を科学的に証明する研究手法を身につける。

5. 問い合わせ・連絡先

麻酔・蘇生学

准教授 平川奈緒美：hirakan@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2321

救急医学講座・先進外傷医療学講座（寄附講座）

1. 研究・教育スタッフ

阪本 雄一郎（救急医学講座教授），井上 聡（先進外傷治療学講座教授），
岩村 高志（救急医学講座准教授），永嶋 太（高度救命救急センター副センター長）

2. 研究テーマ

救急医学分野のみならず外科外傷，腫瘍学における臨床および基礎研究を行っている。

(1) 敗血症治療研究の分子生物学的アプローチ

敗血症に伴う，播種性血管内凝固症や多臓器不全には様々な炎症性サイトカインなどのメディエーターの臓器に対する直接的，間接的な関与が知られている。現段階では透析などにより膜でこれらをトラップし除去する手法が一般的であるが効果や予後にばらつきがある。分子生物学的に抗体や低分子化合物などを用いて，既知のメディエーターやカスケードのブロックを試みる。同時に，敗血症やショック状態に関与する新たな分子やシグナル伝達系の研究を行う。

(2) 敗血症治療に対する治療法の効果判定のために豚やラットを用いた動物実験を効率的に行っている。

実験効率をあげる為に研究協力機関である酪農学園大学および鹿児島大学獣医学部との共同研究も行っており，特に豚の重症敗血症モデルは作成済みである。

(3) 交通事故による生体反応に関する実験を日本大学工学部，理工学部との共同実験によって行っており，共同開発した豚シートベルト外傷モデルや頭部外傷モデルを独自に開発した実験器で行っている。

(4) 癌の脳転移に対する治療開発

癌患者の90%は転移によって死亡する。すなわち，転移をコントロールできれば癌患者の予後は劇的に改善する。しかしながら，主要臓器への遠隔転移は全身病であり，その治療は非常に困難である。中でも脳転移は最も治療が難しい病態である。なぜなら，血液脳関門（BBB）の存在のためにほとんどの薬剤は脳を通過できない。我々は米国Cedars-Sinai Medical Center Nanomedicine Research Centerとの共同研究により，リンゴ酸ポリマーを使ってBBBを通過し腫瘍選択的に集積する新たな薬剤開発に携わる。

これにより，癌の治療のみならず，脳の代謝性の疾患や，酵素欠損症に対する補充療法などの新しい治療の確立が期待できる。

3. 習得可能な知識・技術

救急疾患を中心とした急性期の病態や治療，さらには腫瘍学や分子生物学まで網羅した包括的な基礎的および臨床的知識の習得ができる。基礎実験を計画し実験データの解析処理，物事の論理的解釈能力，科学論文（殊に英文）の書き方等を学ぶことが可能である。技術としては小動物から大動物までの動物の扱い方と，静脈注射，カテーテル挿入，各種検体採取などの一般的な手技，in vitroの実験に関する各種技術を（Western Blot, ELISA, PCR, Q-PCR, Flow Cytometryなど）習得できる。

4. 問い合わせ・連絡先

救命救急センター医師控室：TEL直通 0952-34-3160

国際医療学講座 国際医療・臨床感染症学分野

1. 研究・教育スタッフ

青木 洋介（附属病院感染制御部の診療スタッフが加わる）

2. 研究テーマ

医療関連感染症の診断と治療に関する研究

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 臨床推論を行う力
- (2) 感染症の診断および治療の質向上を目的とする臨床研究の手法
- (3) 診断の定量的確率を定める臨床疫学的研究手法

4. 指導方針・目標

指導方針：実臨床の質改善に直結する命題を研究対象とする

目標：感染症診療の指導および臨床研究を遂行することのできる人材を育成する

5. 問い合わせ・連絡先

青木洋介：aokiy3@cc.saga-u.ac.jp
(内線 2184)

総合分析実験センター 生物資源開発部門 (実験動物学，発生工学分野)

1. 研究・教育スタッフ

北嶋 修司（准教授），松久 葉一（助教）

2. 研究テーマ

当部門では，発生工学，生殖工学といった手法を用いて，ヒト疾患モデル動物としての遺伝子改変ウサギの開発に関する研究を中心に行っています。疾患モデル動物とは，「人の病気と同一，もしくは類似の病態を持った動物」であり，医学研究において，病態解明，診断法の確立，治療法の開発といった研究に非常に重要な役割を果たしています。特に，ウサギはヒトと脂質代謝系が類似していることから脂質代謝異常，動脈硬化の研究分野でその有用性が注目されています。当部門では，これまでに作出した遺伝子改変ウサギを用いて，実際に動脈硬化や肥満といった生活習慣病の病態解析などの研究に寄与してきました。近年では，遺伝子改変ウサギの開発だけでなく，これら遺伝子改変ウサギを研究資源として保存するために，ウサギ精子や胚による凍結保存に関する研究も行っています。

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 実験動物学，発生工学および生殖工学に関する知識
- (2) 実験動物の取扱い，ウサギ精子および胚の操作法，遺伝子解析技術，タンパク解析技術

4. 指導方針・目標

動物福祉に配慮した実験動物の取扱いならびに法律，規則等に則った動物実験を理解し，疾患モデル動物開発のための発生工学，生殖工学的手法等を習得する。

5. 問い合わせ・連絡先

北嶋准教授：kitajims@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2430（内線 2430）

部屋番号 総合分析実験センター

生物資源開発部門

（動物実験施設）2階教員室1

事務室：TEL直通 0952-34-2431（内線 2431）

総合診療部・地域医療支援学講座（寄附講座）

1. 研究・教育スタッフ

総合診療部：山下 秀一（教授），多胡 雅毅（講師），大串 昭彦（助教），香月 尚子（助教）

地域医療支援学講座：杉岡 隆（教授），坂西 雄太（講師）

2. 研究テーマ

- (1) 症状・身体所見の有用性についての臨床疫学的研究
初診外来患者腹痛部位と診断の関連
救急外来受診患者の主訴と検査施行率，コンサルト率，入院率
- (2) 疾患の重症化や発症予測因子についての研究
横紋筋融解症の重症化と入院時の多汗
神経性食思不振症再栄養時における低リン血症と入院時血圧，血清カリウム，肝機能障害
外来初診患者の腹痛の持続時間と入院率
院内転倒リスクを評価する手段と評価後の予防介入に関する研究
水電解質・酸塩基平衡異常に関する臨床疫学研究
- (3) 医学教育とその効果に関する研究
医学科6年生に対する地域医療実習による教育効果に関する研究
English for Medical Purpose（EMP）の課外講座が学生の医学英語学習に与える影響
研修医の救急外来における急性腹症ガイドライン遵守についての研究
- (4) 病院総合診療医の役割を科学する
二次医療機関における総合診療医の役割～非総合診療医との比較
大学病院と二次医療機関の診療疾患の比較
- (5) 地域包括ケアシステムに関する研究
入院患者の社会的孤立と死亡及び再入院との関連
在宅医療・在宅看護が死亡及び再入院に与える影響
IoTを用いた在宅見守りシステムに関する研究

3. 習得可能な知識・技術

- (1) 知識・能力
総合医療学（臨床疫学，保健医療行動科学，診断学，公衆衛生学，予防医学，医療社会学，老年医学，医療安全学，医療情報学），総合診療学（地域包括医療（プライマリ・ケア），家庭医療，一般内科学，医療の安全と質の向上），医学教育学（教育社会学，英語教育学），研究デザインと統計解析に関する基本知識（記述統計学，多変量解析）
- (2) 技術
研究実践法，成果発信法，批判的論文解釈法，社会調査法，成人教育技法，統計解析法

4. 指導方針・目標

個人の関心を尊重し，テーマ選択や研究を行う。海外での調査・研究活動も積極的に奨励する。

5. 問い合わせ・連絡先

総合診療部医局事務：研究支援棟3階

TEL直通 0952-34-3238

統合基礎看護学講座

1. 研究・教育スタッフ

看護機能形態学領域 河野 史（教授），柿原 奈保子（助教）

基礎看護学領域 長家 智子（教授），村田 尚恵（准教授），古島 智恵（講師（特定）），
坂 美奈子（助教），平原 直子（助教）

2. 研究テーマ

看護機能形態学

主たる研究分野

- ・中枢神経における自律神経回路の形態機能学的研究
- ・内臓を支配する神経の形態機能学的研究
- ・乳幼児期の脳の形成・成熟不全に対するサポートに関する機能形態学的研究
- ・メディカルアラモ効果のエビデンス構築のための形態機能学的研究

看護援助学

主たる研究分野

- ・看護学基礎教育における教育教材開発に関する研究
- ・患者教育へのIT教材の活用に関する研究
- ・看護基礎教育におけるコミュニケーション能力形成方法に関する研究
- ・看護過程と看護診断の教育に関する研究
- ・看護技術教育に関する研究
- ・継続教育，卒後教育に関する研究
- ・新卒看護師の職場適応に関する研究
- ・臨地実習における教育方法に関する研究
- ・看護実践と倫理的課題に関する研究
- ・看護技術の効果・開発についての研究
- ・看護教員の授業における思考過程の研究

3. 習得可能な知識・技術

各人の研究テーマに沿って，先行文献のクリティークおよび分析方法を習得する。先行研究を参考に科学研究論文としてまとめてゆく過程を習得する。

細胞・組織学，神経解剖学，実験小動物解剖学などの知識，形態学的研究に必要な能力，実験用小動物の取扱・実験手術・解剖技術，神経軸索トレース法，免疫組織化学法，顕微鏡用標本作成・観察技術（蛍光，暗視野，透過型電子顕微鏡など），顕微鏡写真撮影技術，コンピューター画像処理・解析技術など

4. 指導方針・目標

看護の基礎的研究テーマにおいて，看護学の発展に寄与出来るような研究能力を身につける。

6. 問い合わせ・連絡先

看護機能形態学領域 河野 史教授：kawanoh@cc.saga-u.ac.jpTEL&FAX直通 0952-34-2531（内線 2531）
部屋番号 5302基礎看護学領域 長家 智子教授：tomoshs@cc.saga-u.ac.jpTEL&FAX直通 0952-34-2532（内線 2532）
部屋番号 5304村田尚恵准教授：murana@cc.saga-u.ac.jpTEL&FAX直通 0952-34-2533（内線 2533）
部屋番号 5306

統合基礎看護学講座

1. 研究・教育スタッフ

国際保健看護学領域	新地 浩一（教授）
精神看護学領域	藤野 成美（教授），藤本 裕二（講師）
在宅看護学領域	福山 由美（准教授）
臨床心理学領域	村久保 雅孝（准教授）

2. 研究テーマ

- (1) 国際緊急医療援助活動に関する研究
- (2) 災害医療・国際保健に関する研究
- (3) 精神看護に関する研究
- (4) 地域における介護予防のための生活支援事業の検討に関する研究
- (5) 在宅ケアマネジメントに関する研究
- (6) 介護保険制度に関する研究
- (7) カウンセリングないし心理療法に関する実践的研究
- (8) 在宅医療・看護に関する研究

3. 習得可能な知識・技術

それぞれの研究テーマに沿って、先行研究を参考に科学研究論文としてまとめてゆく過程を習得する。

4. 指導方針・目標

公衆衛生を基盤とした少子高齢化や国際化社会における看護学の発展に寄与できるよう、研究手法を身につける。

6. 問い合わせ・連絡先

国際保健看護学領域に関しては、

新地 浩一 教授：shinchik@cc.saga-u.ac.jp
TEL直通 0952-34-2564（内線 2564）
部屋番号 5606

精神看護学領域に関しては、

藤野 成美 教授：fujinon@cc.saga-u.ac.jp
TEL直通 0952-34-2560（内線 2560）
部屋番号 5303

在宅看護学領域に関しては、

福山由美准教授：yumifuku@cc.saga-u.ac.jp
TEL直通 0952-34-2562（内線 2562）
部屋番号 5301

臨床心理学領域に関しては、

村久保雅孝准教授：murakubo@cc.saga-u.ac.jp
TEL直通 0952-34-2508（内線 2508）
部屋番号 5604

生涯発達看護学講座 成人・老年看護学

1. 研究・教育スタッフ

急性期看護学領域 古賀 明美（教授），川久保 愛（助教）
慢性期看護学領域 熊谷 有記（准教授），武富 由美子（講師），浅田 有希（助教）
老年看護学領域 田渕 康子（教授），室屋 和子（准教授），松永 由理子（助教）

2. 研究テーマ

成人期にある患者の療養生活とケアについて，また疾病予防の観点から対象者の価値観や信念，生活習慣，生活体験に着目したテーマについて研究を行っている。さらに，要介護高齢者の看護ケアについて研究を行っている。

- (1) 人工関節患者および要介護高齢者のQOLに関する研究（田渕・松永）
- (2) 糖尿病の自己管理に関する研究
 - ・受診中断中にある糖尿病患者の療養生活および治療の認識（古賀）
 - ・糖尿病コーディネート看護師を活用した地域医療連携の構築に関する研究（古賀）
- (3) 高齢者に対する補完代替療法に関する研究（田渕）
- (4) 高齢者の睡眠に関する研究（田渕）
- (5) 終末期がん患者および家族のQOLに関する研究（熊谷）
- (6) 配偶者と死別した男性高齢者の適応過程（室屋）
- (7) がん患者遺族の心的外傷後成長に関する研究（武富）

3. 習得可能な知識・技術

研究・教育者コースでは，成人期・老年期にある患者および家族を多角的に理解し支援するための看護に関する理論と実践を探究することを目的として，①関連する種々の問題を解決するための研究方法を習得する，②国内外の研究論文を毎週定期的に抄読することにより，看護における最先端の研究内容を把握できるようになるとともに，科学的な視点で論文を批評できる，③各研究テーマにそって的確に研究を遂行し，結果をもとに正しく科学論文を作成する能力の習得を目指す。また，専門看護師コースでは，慢性看護学分野において高度な看護実践を行い，包括的な看護支援や環境整備を自ら行うとともに専門看護師に必要な教育・相談・調整・倫理調整できる能力を身につける。

4. 指導方針・目標

看護は実践する科学であるという前提のもとに，教育・研究の指導を行っている。特に研究面においては，研究の面白さを知り，意欲的に研究を実践するための基礎能力を養うことを目標としている。また，個々の院生の興味・関心を高めるために，研究テーマの選択と方法においてはできるだけ自主性を持たせるようにしている。成人・老年看護学は，教員全体による研究検討会を定期的に行うことによって個々の研究体制を支援しており，指導教授による個別で密な研究指導と相まって，世界に発信できるような一流の研究を行える研究環境（指導体制）作りを目指している。各分野，教員ごとに研究の対象者や対象疾患，テーマは異なるが，共通しているのは，①成果が看護の実践に還元できる，②現在の看護学に即した内容であること（updateなものであること），③世界的なレベルであり得ること，の観点で研究テーマを設定していることである。

5. 問い合わせ・連絡先

古賀明美教授：kogaake@cc.saga-u.ac.jp
TEL直通 0952-34-2561
部屋番号 5401

熊谷有記准教授：kumagaiy@cc.saga-u.ac.jp
TEL直通 0952-34-2544
部屋番号 5406

田渕康子教授：ytabuchi@cc.saga-u.ac.jp
TEL直通 0952-34-2543
部屋番号 5405

室屋和子准教授：kazumuro@cc.saga-u.ac.jp
TEL直通 0952-34-2545
部屋番号 5407

生涯発達看護学講座 母性看護学・助産学分野

1. 研究・教育スタッフ

佐藤 珠美（教授），中野 理佳（准教授），中河 亜希（助教），榊原 愛（助教）

2. 研究テーマ

生涯を通じた女性の健康支援，母性看護学・助産学教育の研究に関する研究に取り組んでいます。

(1) 女性の健康に関する研究

- ・更年期女性のQOLに関する研究（佐藤）

(2) 周産期ケアに関する研究

- ・妊婦の不安に関する研究（佐藤）
- ・妊産褥婦の排尿ケアに関する研究（佐藤）
- ・産後・育児期の女性の心身の不調に関する研究（佐藤）
- ・流産・死産後の女性とその家族のグリーフケアに関する研究（佐藤）
- ・産後女性の腱鞘炎に関する研究（佐藤・中野・中河・榊原）
- ・周産期の女性とスポーツ/運動プログラム（榊原）
- ・育児に対する自信を高める看護（中河）

(3) 母性看護学・助産学教育に関する研究

- ・e-learningを活用した実習オリエンテーション（榊原・中河・中野・佐藤）
- ・分娩介助実習の学びを促進させるガイド兼評価表の開発（中野・中河・榊原・佐藤）

3. 習得可能な知識・技術

生涯を通じた女性の健康問題，周産期女性の健康問題，母性看護学・助産学教育に関する問題を多角的に理解し，解決するための理論と技術を修得する。

4. 指導方針・目標

看護研究は看護実践や看護教育の質を高めるために不可欠なものです。研究を通じて看護実践や教育の場に還元できるような研究を目指します。

研究では，大学院生の主体性と自主性をできる限り尊重するとともに，主指導教員，副指導教員からなる複数指導体制の下で大学院生の指導を行います。

6. 問い合わせ・連絡先

佐藤珠美 教授：tsatoh@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2550

部屋番号 5504

生涯発達看護学講座 小児看護学領域

1. 研究・教育スタッフ

鈴木 智恵子（教授），大坪 美由紀（助教）

2. 研究テーマ

全ての子どもと家族を対象とし，その発達過程で生じる健康問題の解決のために必要な援助方法を教育・研究に取り組んでいます。

(1) 子どもと家族に関する研究

- ・慢性疾患をもつ子どもと家族への援助（鈴木）
- ・子どもの食生活と親のヘルスリテラシーに関する研究（鈴木）
- ・看護学生によるアトピー性皮膚炎を予防するためのスキンケアに関する研究（鈴木）
- ・保育所看護職者における研究（大坪）
- ・小児保健に関する研究（大坪）

(2) 遺伝看護（鈴木）

(3) 小児看護学教育に関する研究（鈴木，大坪）

3. 習得可能な知識・技術

小児看護学では，子どもの健康や発達の状況や社会との関係などを理解し，保健医療チームのメンバーとして，子どもと家族の健康増進ができる実践的な小児看護の役割と機能について追及し，問題解決できる理論と技術を修得する。

4. 指導方針・目標

看護研究は看護実践や看護教育の質を向上するために必要です。研究を通じて看護実践や看護教育にも生かすことができる研究を行っていきます。

研究では，大学院生の主体性，自主性を可能な限り尊重するとともに，指導教員を中心とした個別的な指導を行う。

6. 問い合わせ・連絡先

鈴木智恵子 教授：chiekosu@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2555（内線 2555）

部屋番号 5507

生涯発達看護学講座 公衆衛生看護学領域

1. 研究・教育スタッフ

有吉 浩美（教授）

2. 研究テーマ

- (1) 公衆衛生看護に関する研究
- (2) 職場におけるメンタルヘルスに関する研究
- (3) 働く人々の健康に関する研究

3. 習得可能な知識・技術

それぞれの研究テーマに沿って、先行研究を参考に科学研究論文としてまとめてゆく過程を習得する。

4. 指導方針・目標

公衆衛生を基盤とした少子高齢化や国際化社会における看護学の発展に寄与できるよう、実践に役立つ研究手法を身につける。

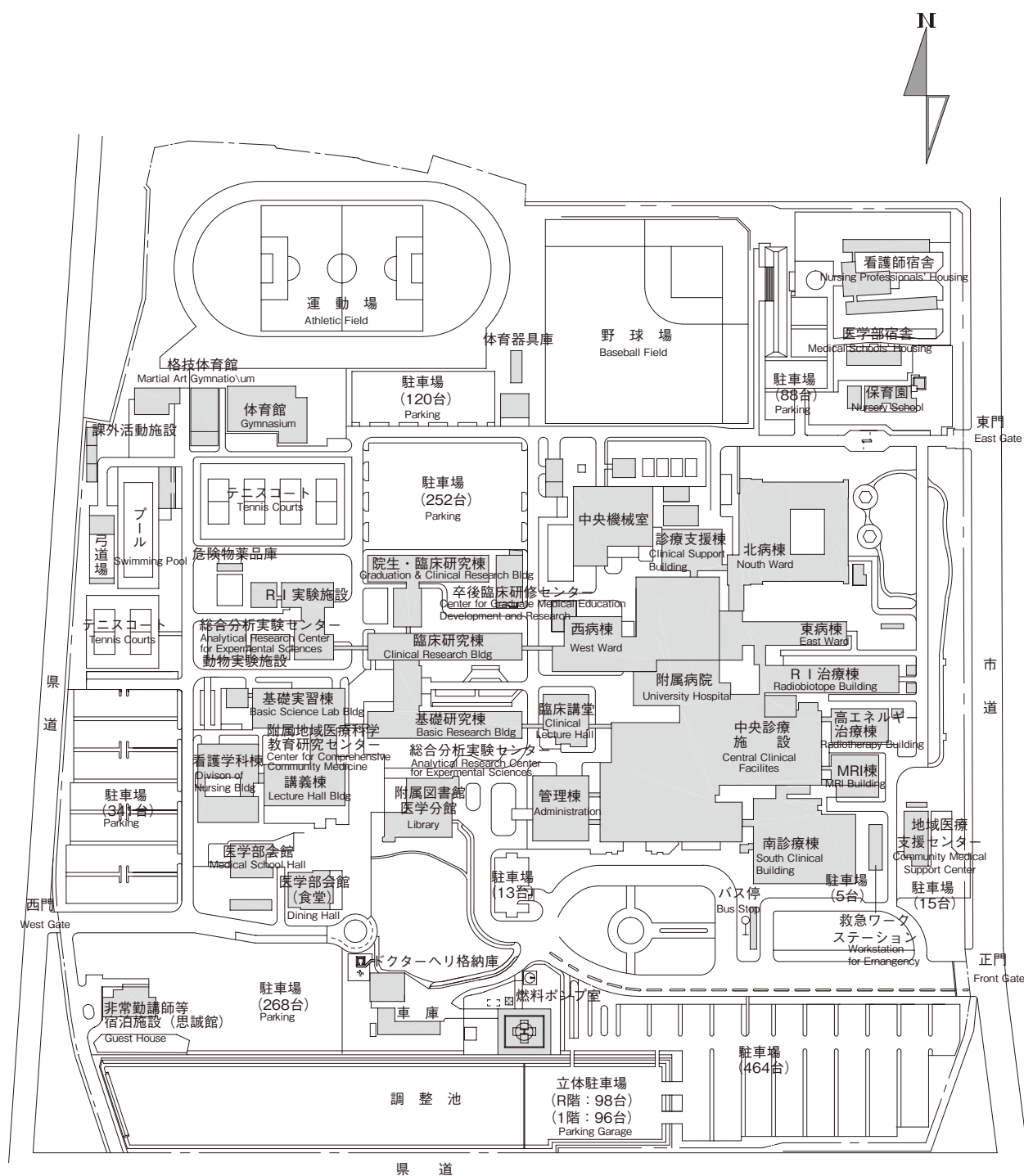
6. 問い合わせ・連絡先

有吉浩美教授：ariyoshi@cc.saga-u.ac.jp

TEL直通 0952-34-2563（内線 2563）

部屋番号 5603

VII 佐賀大学医学部建物配置図



院生棟，臨床研究棟，基礎研究棟平面図



分子生命科学

院生棟

分子生命科学

分子生命科学

総合診療部

精神医学

精神医学

放射線医学

臨床研究棟

精神医学

放射線医学

生体構造機能学

病因病態科学

基礎研究棟

生体構造機能学

病因病態科学

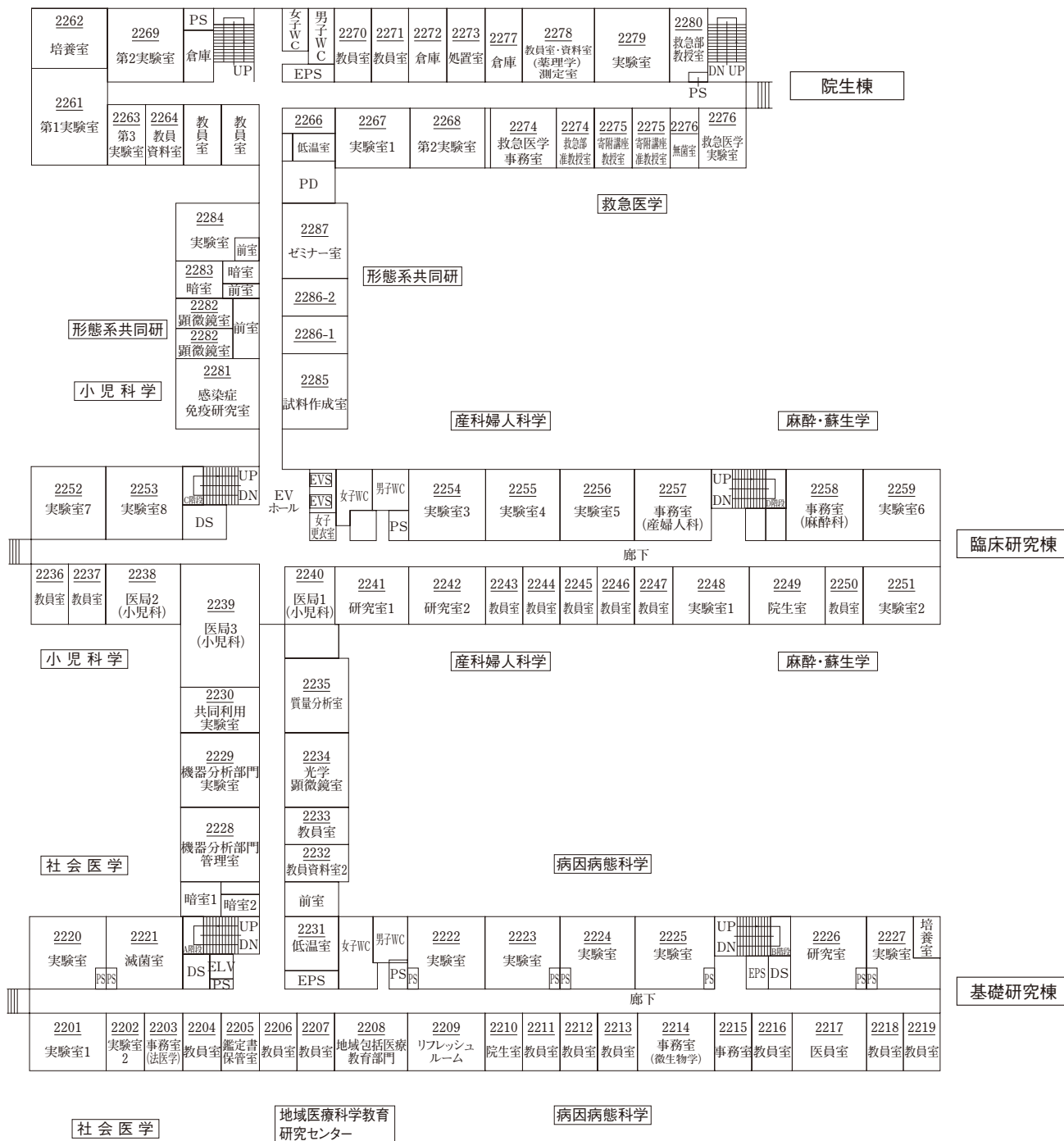
1 階

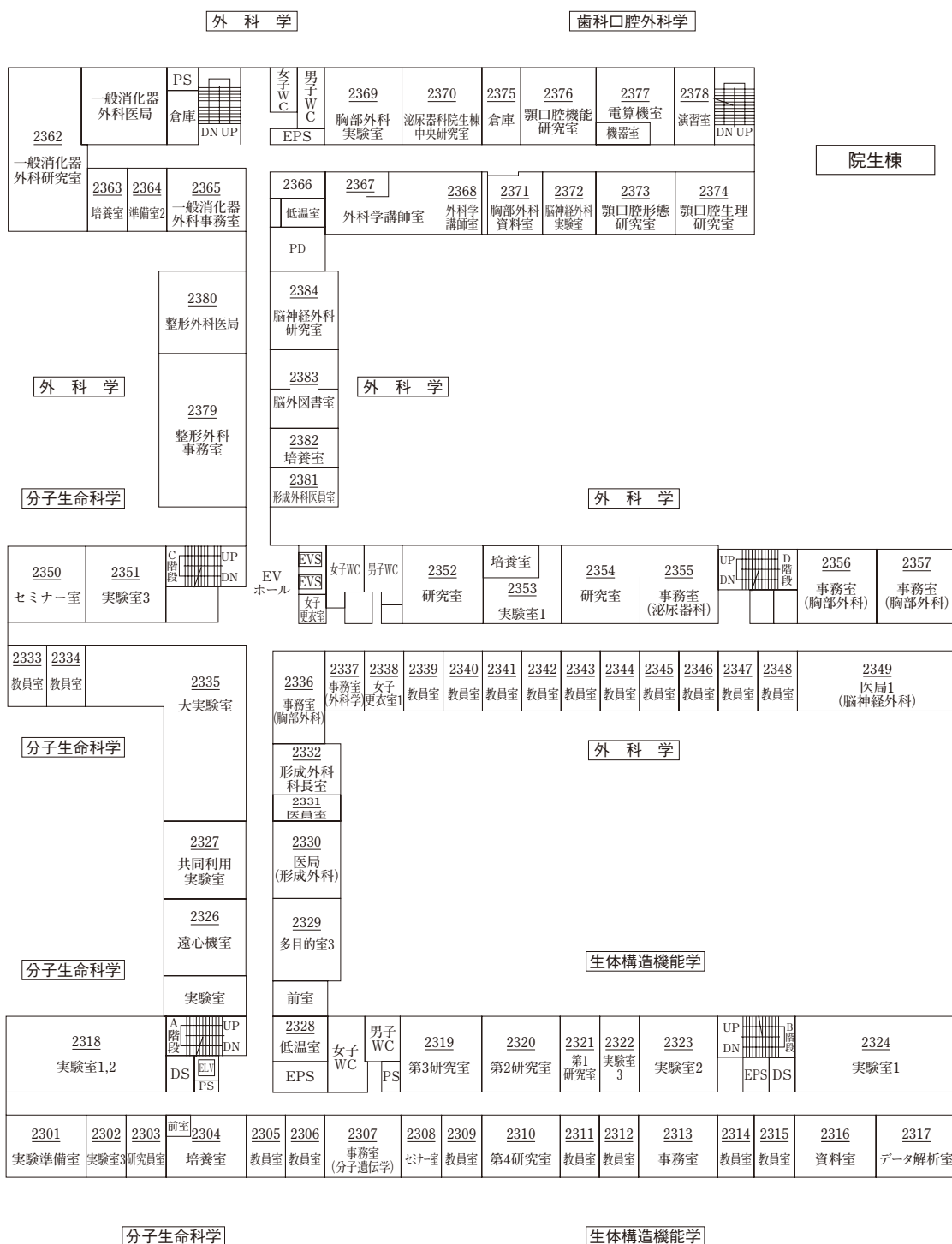


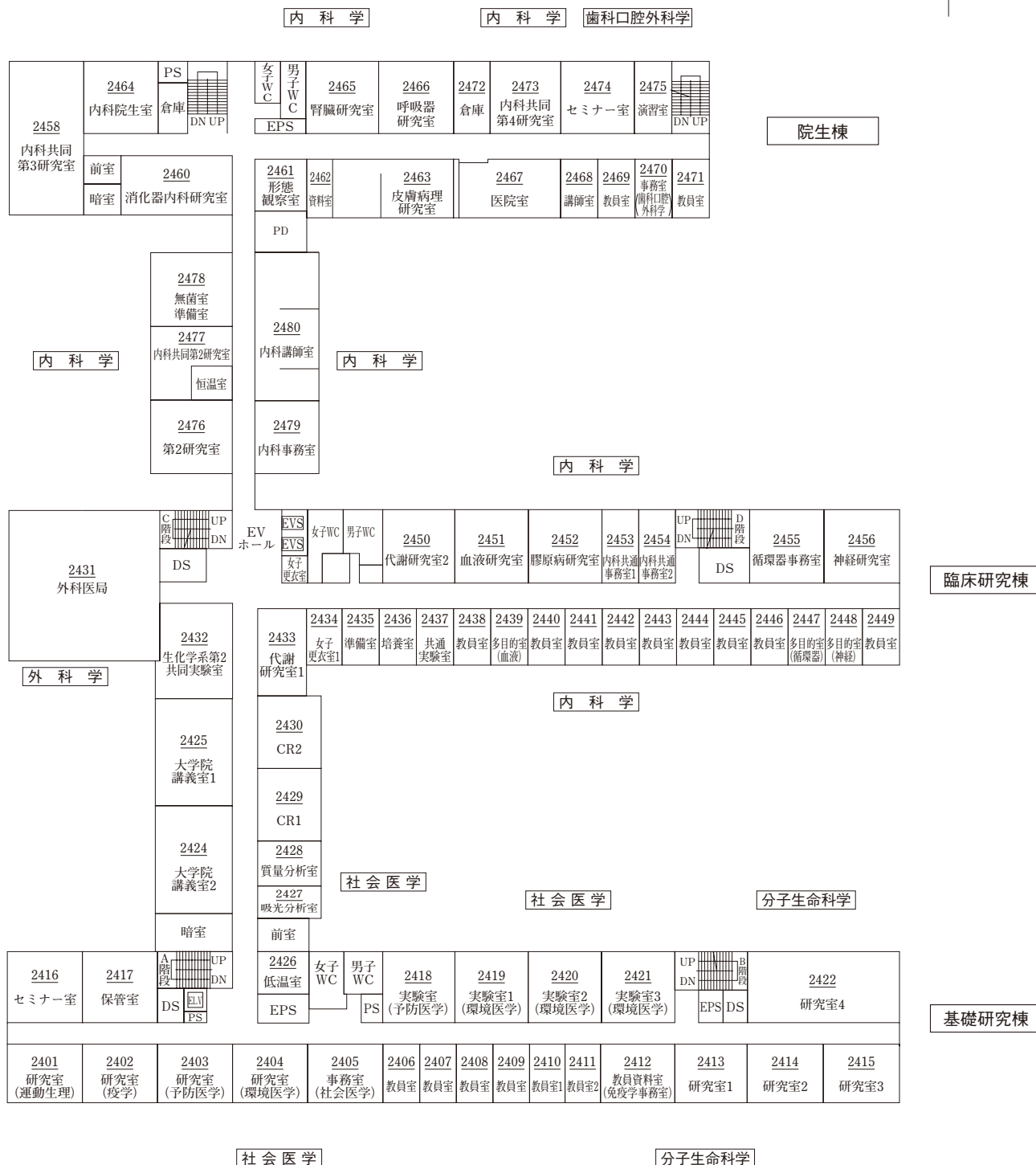
分子生命科学

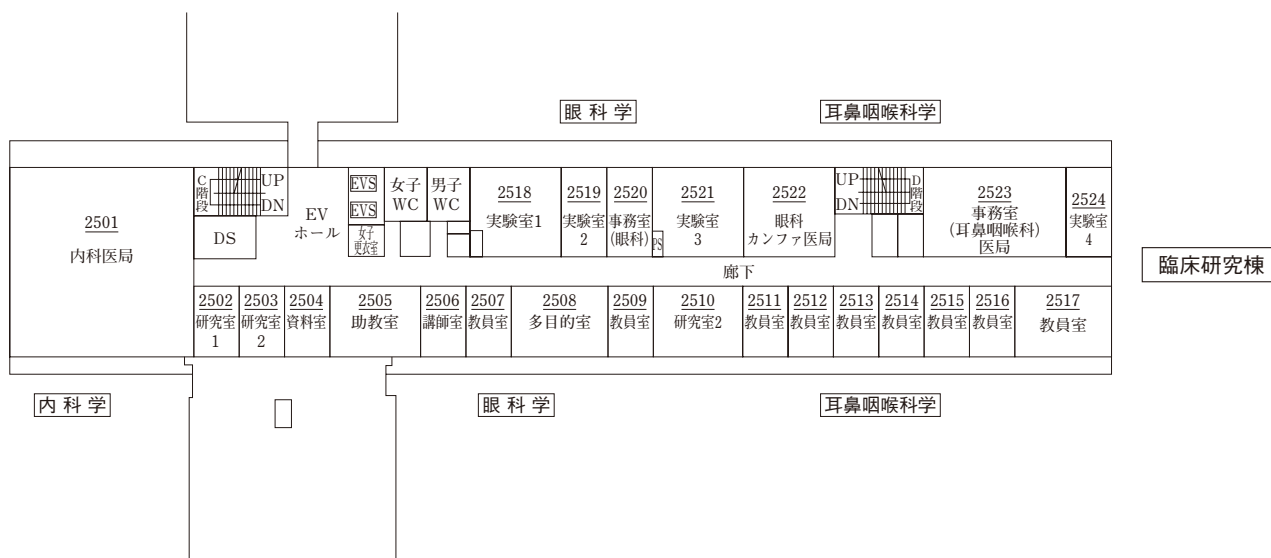
生体構造機能学

救急医学



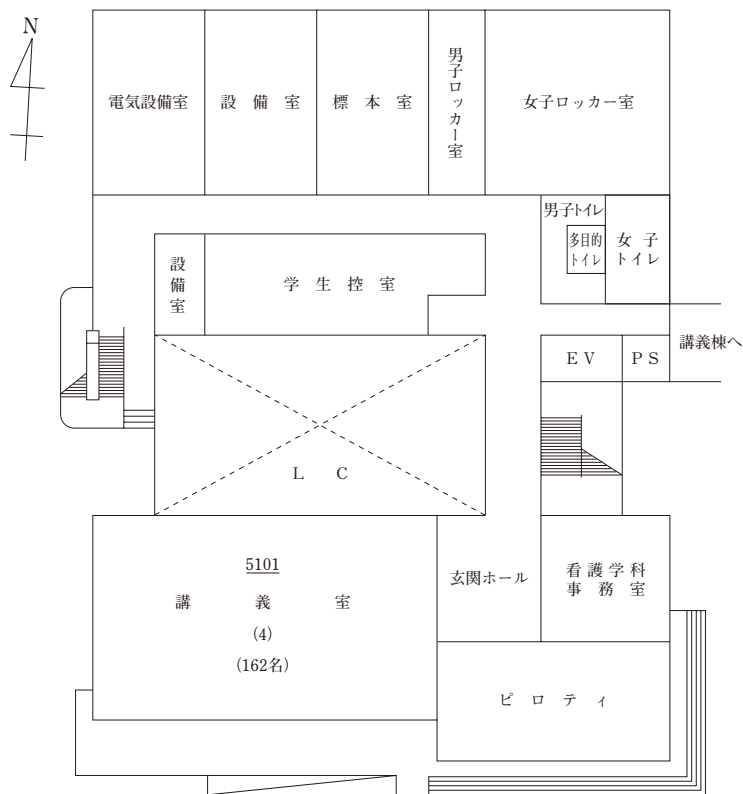




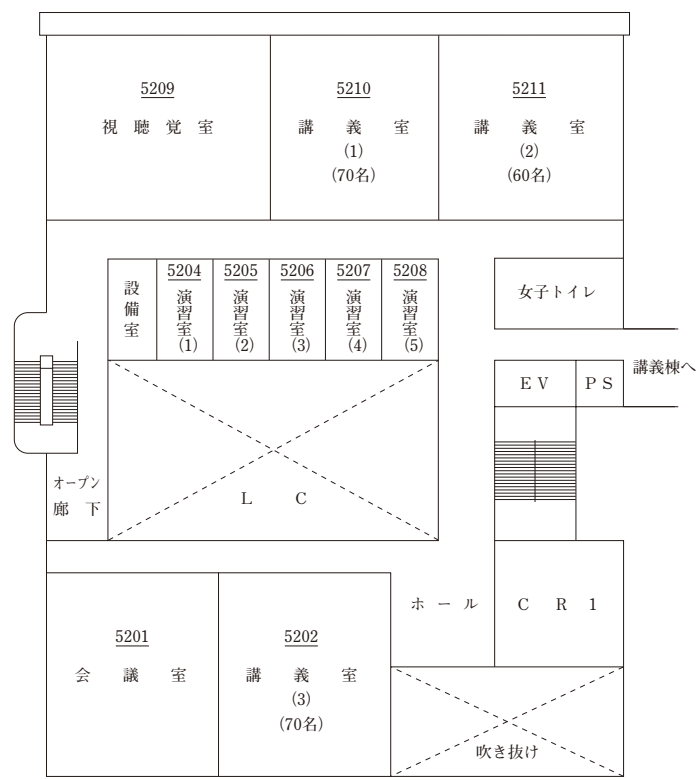


5階

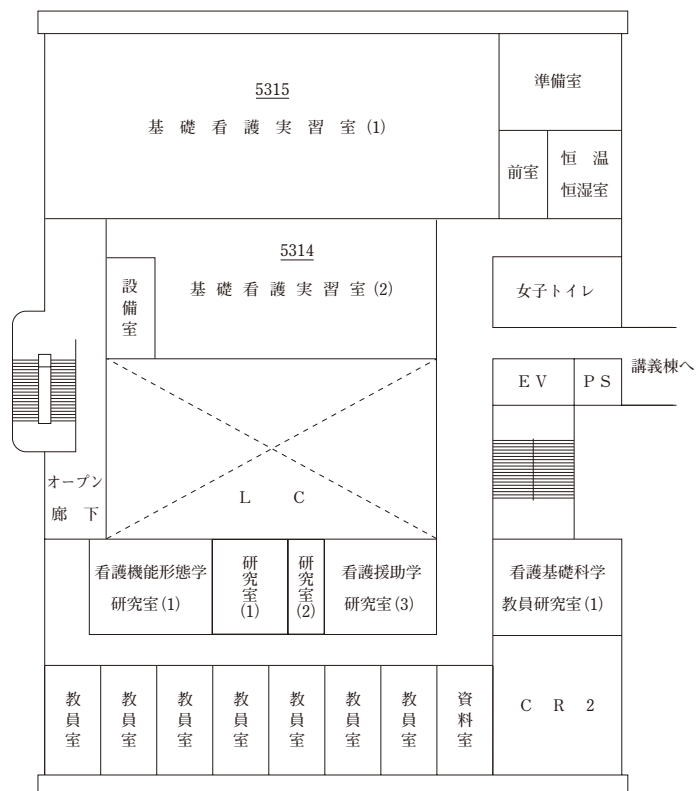
看護学科棟平面図



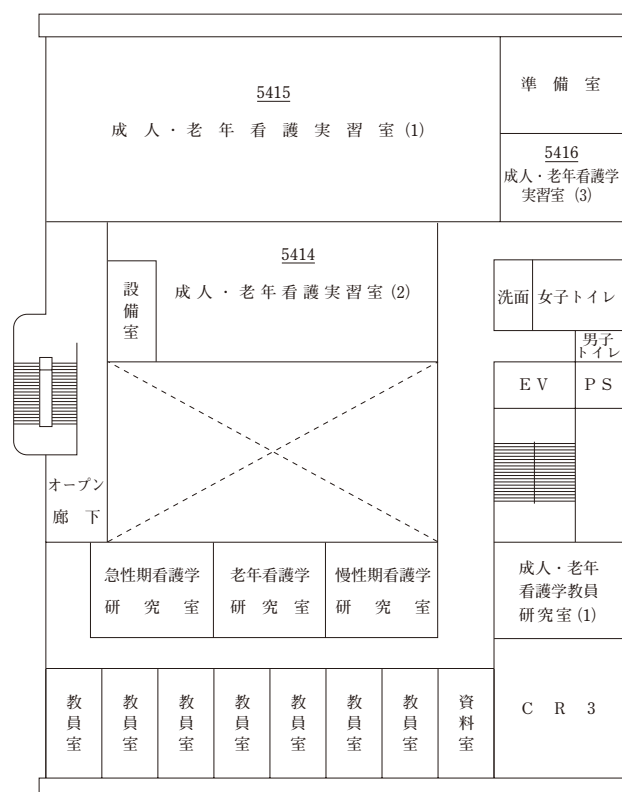
1階



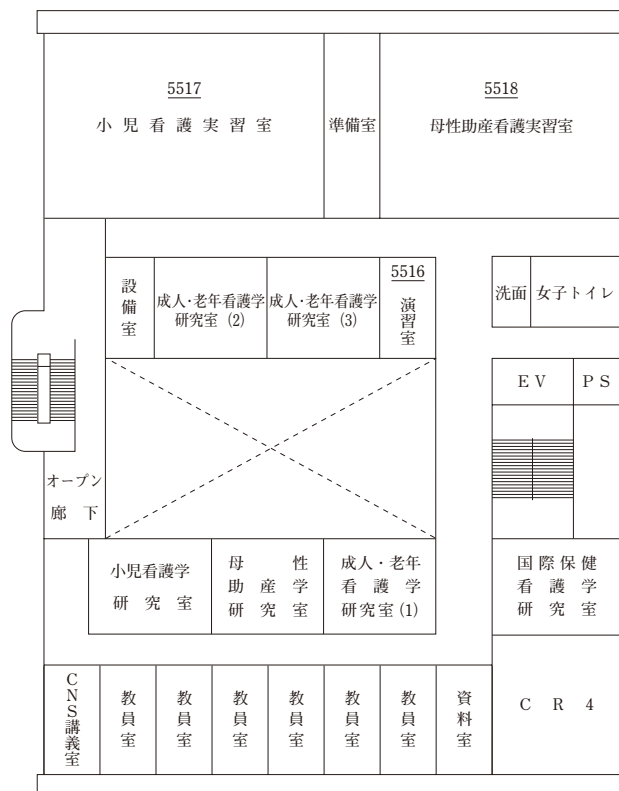
2階



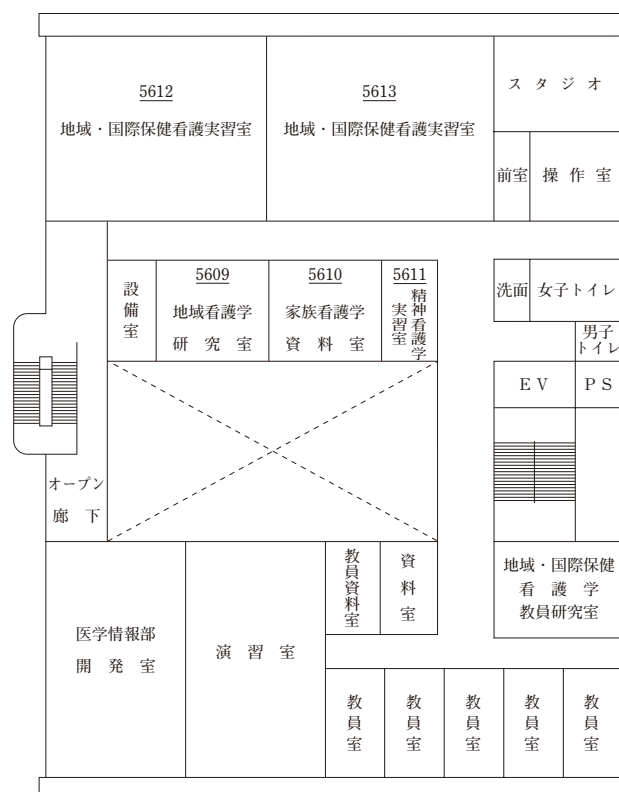
3階



4階

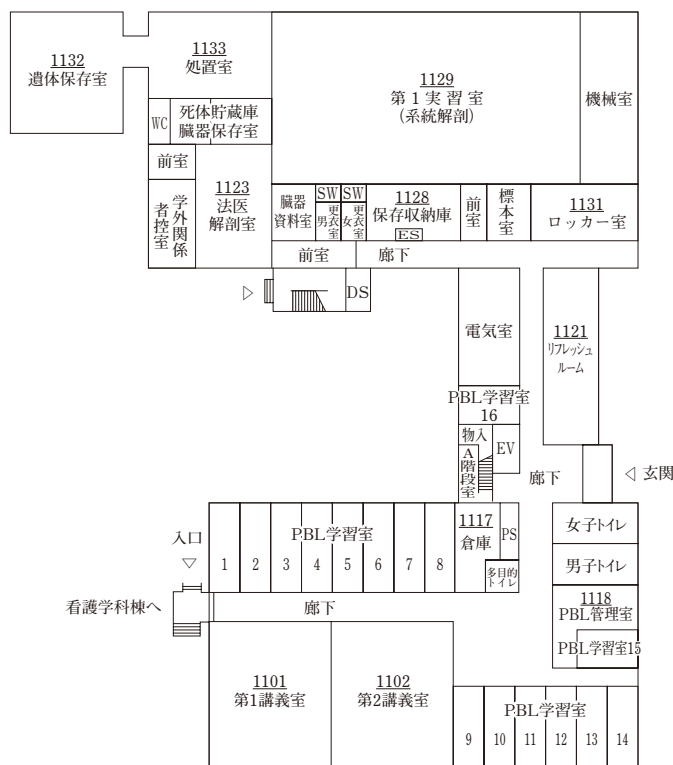


5階

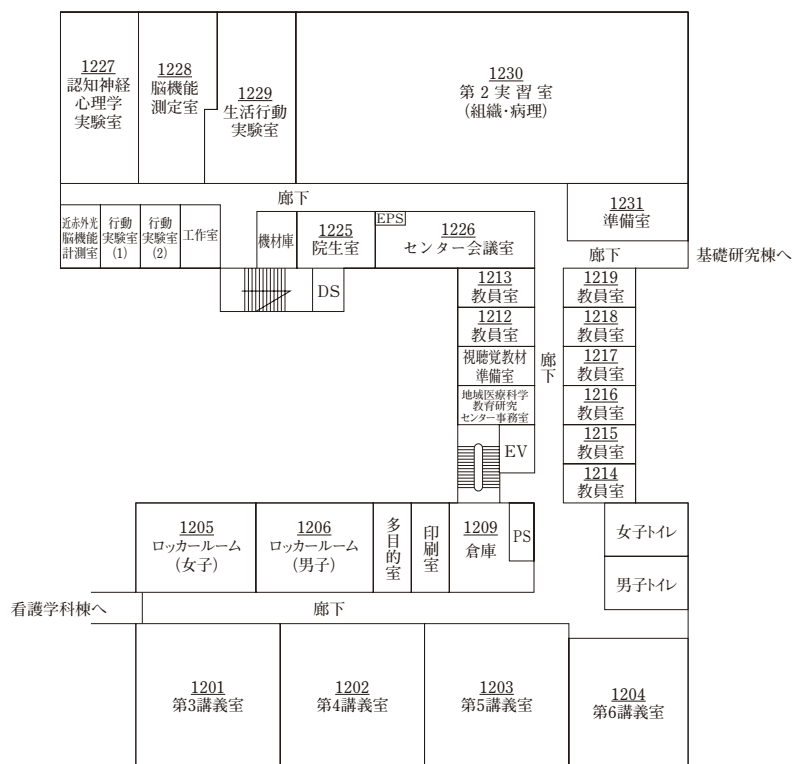


6階

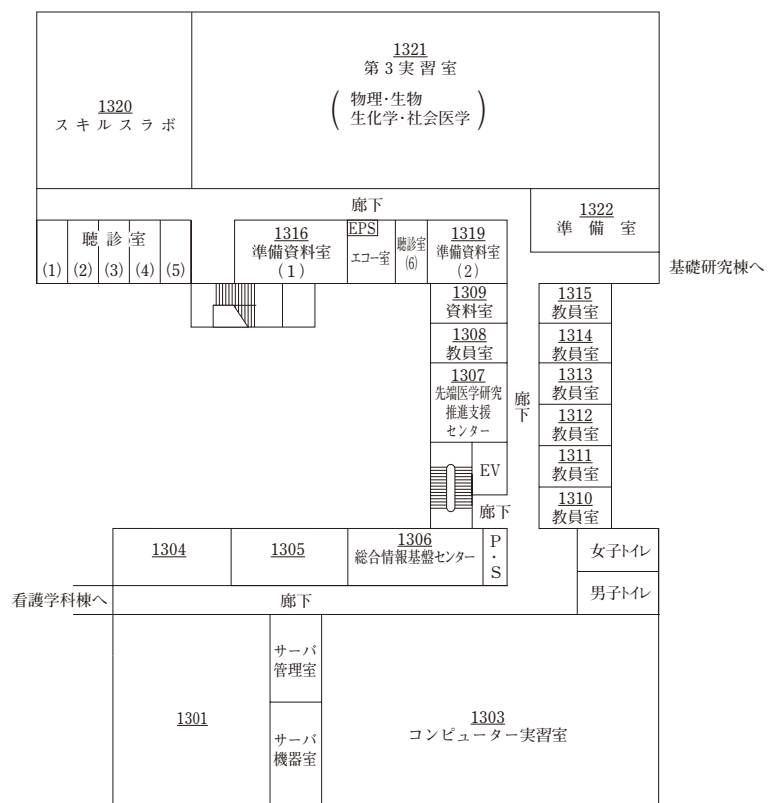
講義棟平面図



1 階

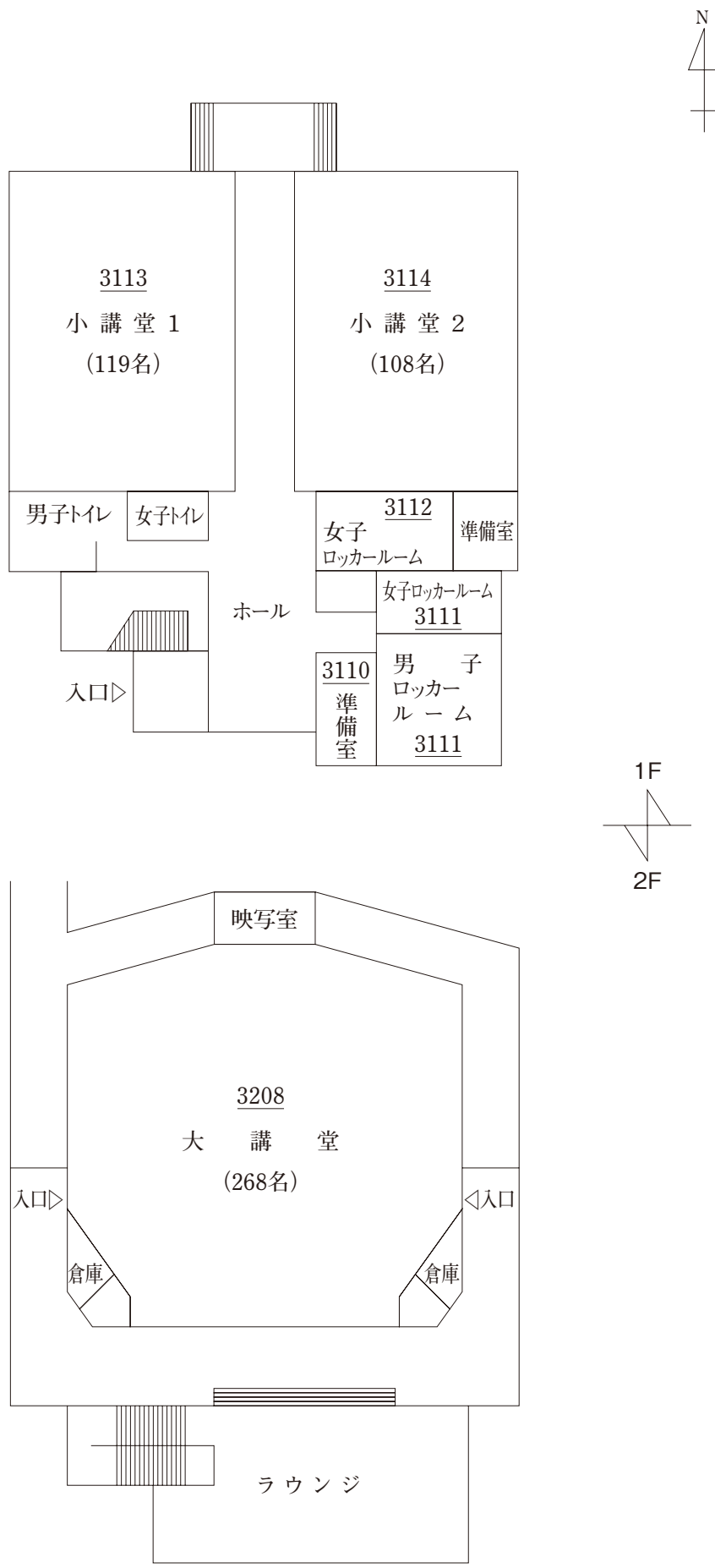


2 階

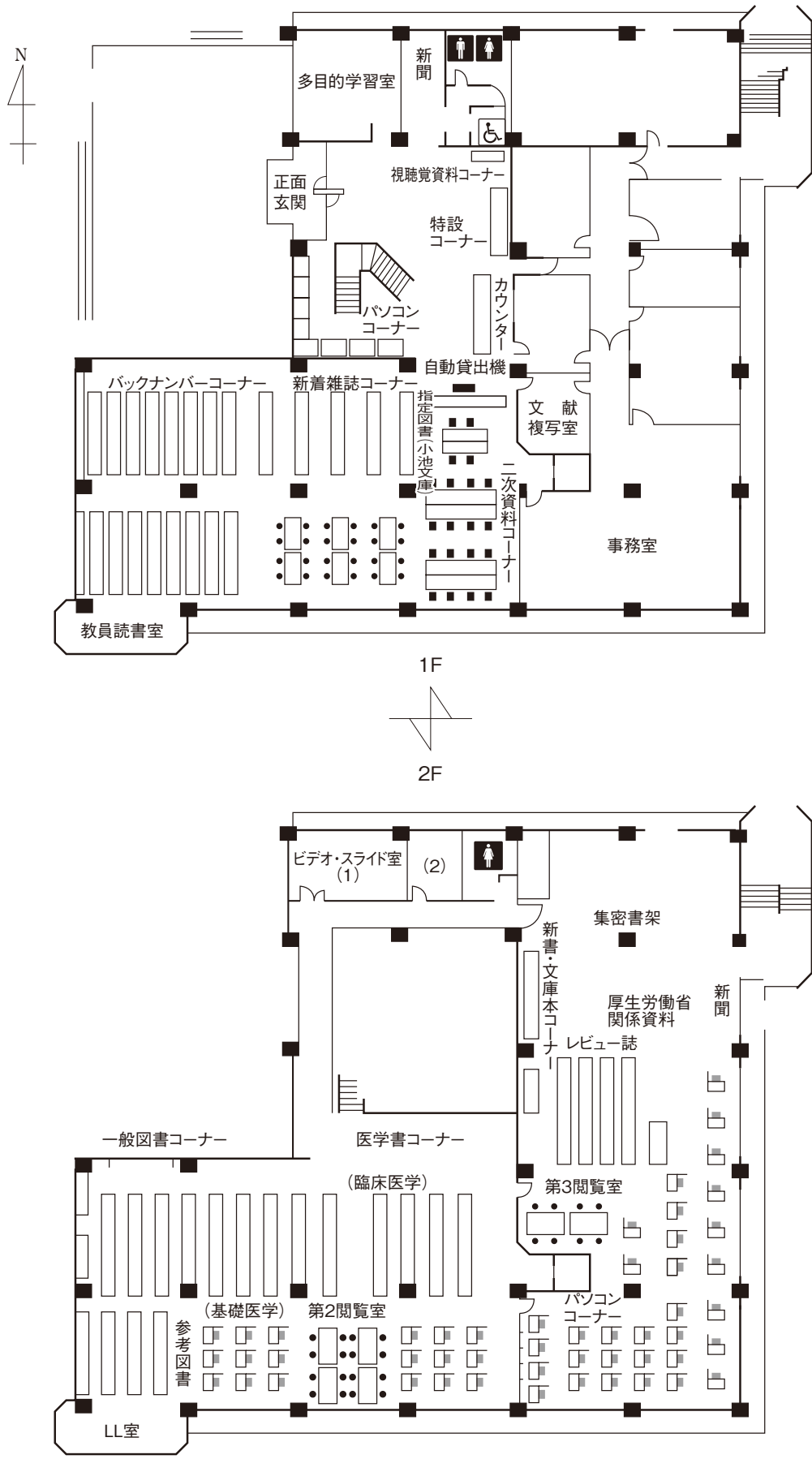


3階

臨床講堂平面図



附属図書館医学分館平面図





～ 医学系研究科についての情報はこちらから ～

佐賀大学大学院医学系研究科HP

<http://www.gsmed.saga-u.ac.jp/index.html>

～ 医学系研究科担当係への連絡はこちらへ ～

佐賀大学医学部学生課大学院教育担当メールアドレス

gkseii@mail.admin.saga-u.ac.jp

～ 成績・取得単位等の確認はこちらへ ～

教務システム (Live Campus Any-One Portal)

<https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/portalUI/html/shibbolethStart.htm>
